阿南常一君

都市研究會常務幹事
東京市麹町區會議員

君は大分縣士族先考善三郎氏の長男にして、明治十八年五月二十二日を以て生誕す。

夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上、明治四十五年明治大學法科を卒業するや東京市役所に職を奉じ、後ち官途を辭して日本新聞通信界の權威東京通信社に入りて健筆を揮ひ、大正六年獨力都市研究會を創立其の常務幹事に就任、現に其の職にありて常に都市の研究に專念、同會より發行する月刊雜誌「都市研究」は今や全日本各都市民に愛讀研究せらるゝ最高機關たり。

君尙ほ都市研究家として知らるゝのみならず、東京府市區制に參劃して貢献すること甚大、現に麹町區會議員として區制に盡瘁すること尠からず。

趣味に狩獵、乘馬あり、社交に厚く永樂倶樂部、丸ノ内倶樂部各會員たり。

夫人久美子との間に博君、善夫君、專君、常雄君及び忍子、京子、俊子、綾子等あり、現に東京市麹町區中六番町三十番地に住す。電話九段六三〇番

天野犀治郎君

辯護士　特許辨理士

我が法曹界の重鎭天野犀治郎君は山梨縣の名望家故天野團右衞門氏の四男にして、明治十三年四月二日を以て生る。

夙に鄕校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、研鑽大いに努めし効空しからず明治卅七年明治大學法科を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて財團法人商工會大阪支部主任として聘せられ恪勤能く同會の爲めに精勵すること十余年、更に同會東京本部詰を命ぜられ在ること四年、大正七年辭して獨力以て酒醬油商を經營主宰し後ち日向木材株式會社創立事務所に入りて、同支配人として能く同社創立事務に孜々としてこれ勤めしが、たゞ〳〵彼の大震火災に遭遇して不幸同社の創立を見るに至らずして退社せり。

斯くて大正十三年日夕余暇を以て法律の研究に專念たりし結果一度日比谷春龍門に其の成敗を決せんと幾千の若武者と鬪ひて見事勝利の榮冠を贏ち得て一躍帝都法曹界の人となり、今や斯界の耆宿として社會に信望厚く其の一般法律事務を處理する懇切叮寧なると明快なる裁斷振りは世人の能く知悉するところ、宜なる哉君の門を潛つて事件を依頼する者踵を接するの盛況なりとは。

夫人捨子は福井縣の人石塚七左衞門氏の令妹にして良妻賢母の聞え高く、其の間に長男朝光君あり、現に東京市京橋區竹河岸十二號地に住し、電話京橋五三九四番たり。

安藤浩君

紅葉館(株)社長
日蓮生命保險株式會社取締役

君は山梨縣の人安藤重稙氏の令弟にして、嘉永四年十一月を以て生る。

幼にして碩儒四明の門に入り、後ち甲府徽典館に學び同十年第三國立銀行に入り、翌年横濱支店長に榮轉す。

然して明治十五年川崎第百銀行の前身たる川崎銀行支配人に聘せられ漸次同行營業部長、顧問役、取締役等を歷勤し、現時は前掲の外商業倉庫、東京倉庫、北海道鐵道各株式會社取締役並に日本火災保險、常磐生命保險各株式會社監査役として我が財界に令名あり。

夫人こう子は東京府の人大西榮之甫氏の長女にして君との間に浩一君、復藏君三郎君、浩四郎君及びなか子、さく子等あり、現に東京市小石川區原町十三番地に住す。電話小石川二〇七八番

有賀長博君

有賀長博事務所主
大日本人造大理石(株)專務取締役
有工社(會)代表社員

君は東京府の人故有賀長雄氏の長男にして、明治二十四年三月十一日を以て生誕す。

大正六年京都帝國大學工科大學土木科を優秀の成績を以て卒業せる新進の工學士、卒業するや直ちに熊本電氣株式會社の技師に聘せられ、同八年二月富士水力電氣株式會社に轉じ同社建設課に精勤、其の技術の優秀なるを以て鳴らせしも、大器固より之に甘んぜず、即ち大正十二年獨力有工社を創立、翌年之を合資會社となし自ら同社代表社員として内外の社務を鞅掌するに至れり。

先是大正十二年十一月匿名組合日興商會理事に任じ、尙ほ大正十三年大日本人造大理石株式會社を創立して同社專務取締役に就任、翌年八月更に八丈島電業株式會社を創立同社々長たりしが現時は前掲諸職の外日興商會理事、信託株式會社大信社囑託等として令名あり。

惟ふに君や性極めて豪放「雷樣」の如き疾風迅雷的の人なりと雖も其の熱情やたつぶり、弱きを援け强きを碎く親分肌の武士的精神の所有者、而も終始誠實奮鬪を以て萬事に當る精力絶倫の人なり。

其の余暇を以て繪畫、骨董を愛好し、圍碁に耽り、謠曲、洋樂を吟ずる等以て其の人と爲りを知るべく、神道を奉じては君の精神の修養を怠たらず、社交に厚きは京大土木學會、土木學會、電氣協會建築資料協會等に各會員たるを見ても知るべし。

夫人道子は德島縣士族都鄕角太郎氏の長女にして大阪府女子師範學校の出身たり、現に東京市小石川區茗荷谷町五十七番地に住す。電話小石川二三七八番

青木鏡太郎君

落語家　雷門助六
研成協會々長

君は東京府の出身にして、明治十六年九月二十二日を以て生る。

夙に東都落語界に投じ、現に號を雷門助六と稱し斯界に雷名あり。

東京市四谷區花園町二十七番地に住す

青木周太郎君

東京衛生興業株式會社支配人

本邦實業界の新進として、今や其の前途を囑望せらるゝを前掲會社支配人青木周太郎君となす。

君は廣島縣の人青木鐵吉氏の四男にして、明治二十年十一月八日を以て同縣二見郡布野村に生る。

夙に穎才の聞え高く、廣島縣立中學校を卒業するや青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、研鑽琢磨の結果法政大學を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて身を東都實業界に投じ、東洋信託株式會社に入り同社支配人として敏腕を振ひしも同社が無盡法令により解散するや獨力以て宮内省御用達食料品の原料商を營みて商勢を斯界に張りしも、感ずる所ありてか幾何もなくして同店を閉鎖し、大正十一年株式金融業青木事務所を設立し主に株式に關する金融業に從事せしも、大正十三年五月斯業閉鎖するや從來より關係ありし前掲東京衛生興業株式會社に轉じ、爾來、同社支配人として活躍大いに勉め、今や同社内外の重鎮として令名あり。

夫人清子は東京府の人柴田千穂氏の二女にして其の間に二女ありてシン子及び志奈子と呼ぶ。

事務所を日本橋區北新堀河岸二十七號に有し電話茅場町三六五番現に東京市外高田町高田一六〇四番地に住す。

淺野一男君

正五位勳三等　在郷海軍主計大佐
侯爵淺野長勲家令

君は廣島縣士族淺野嘉吉氏の長男にして、明治八年七月十七日を以て廣島市水主町に生る。

明治三十一年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに三井銀行に入りしが、仝廿三年海軍小主計に任ぜられ、爾來、累進して主計大佐に陞進す。

斯くて後ち官途を辭して淺野侯爵家に入り、同家々令として知らる。

趣味に謠曲あり、又妙なりといふ、夫人をハル子と呼び其の間に英男君、及び萬喜子、富貴子、富佐子、彰子等あり、現に東京市本郷區向ヶ岡彌生町三番地に住す。電話小石川四一六九番

天生目藤四郎君

天生目病院長
東京府下大森町醫、同町學校醫

東都刀圭界に名醫少なくなしと雖も現下の社會に於て其の醫德人格兼ね備はり常に真診善療を以て患者に接するのみならず、出でゝは町醫、學校醫として一般町民の畏敬尊信の標的たるを我が天生目藤四郎君となす。

君は福島縣の豪農大内藤右衛門氏の五男にして、明治十三年三月四日を以て生れ後ち叔父天生目清一氏の養嗣子となる養父清一氏は同縣下の名望家にして、濱田村長として村治に盡瘁すること實に二十余年其の功績尠少ならざりしといふ。

君は夙に醫家たるの大志を抱いて上京明治卅四年東京濟生學舍を卒業するや直ちに醫術檢定試驗に登第す。

斯くて翌年福島縣立病院に勤務し、越えて同三十七年臺灣に航し同地の公醫として精勤三年、而して三十九年十月帝都に歸り、現在の地をトして開業一般診療に從事せり。

君は一般醫術に通ずるも就中、内科、外科、小兒科等に造詣深く、今や斯界の專門醫として知られ、而も君の恬淡快達なる資性は幾多患者の歡び走つて其の診を乞ふ、蓋し君の今日の大を成す所以なりと謂ふべし。

夫人をよし子と稱す、現に東京市外大森町一四八五番地に住す。電話大森三六六番

阿曾沼均君

正六位　鐵道技師
東京鐵道局新橋保線事務所長

君は和歌山縣士族阿曾沼章一郎氏の長男にして、明治二十二年八月二日を以て生る。

大正四年九州帝國大學工科大學土木科を卒業するや直ちに官途に投じ、鐵道省に職を奉じ、同省保線課に勤務、大正十四年十二月獨逸及び瑞西兩國に留學を命ぜられ大正十四年十二月歸朝す。

斯くて引き續き同省へ勤務、大正十三年十月東京鐵道局新橋保線事務所長に榮轉し以て現在に及ぶ。

運動に趣味を有し、學士會、土木學會鐵道協會各會員たり。

夫人壽々子は鵜飼賢一氏の長女にして其の間に紀君、愛子、京子等あり、現に東京市芝公園宮舍に住す、電話芝三〇八七番

天野源七君

小間物化粧品問屋近江屋店主

國産化粧品として全國に普きのみならず、波浪を越えて遠く海外に其の販路を及ぼし聲價頓に擧れる彼の「ヘチマコロン」並に「ヘチマクリーム」の本舗として識られる近江屋の當主天野源七君は明治三十九年一月を以て東京市日本橋區に出生、先代源七氏の愛孫にして嚴父を故天野幾三郎氏、慈母をゆき子刀自となし其の長男なり、亦天野磯五郎、同國三郎兩氏の養甥に當り大正元年八月若冠にして家督を相續し同時に幼名義治郎を改めて先代を襲名せり。

抑々當近江屋の創始は遡ること二百五十有余年前、彼の元祿年間より昭和の今日迄連綿たる老舗にして漸次其の業礎を牢固たらしめて現時の盛運を招來せり。

君は夙に中央商業學校に學を修め、之れを卒へるや祖業を繼承して店務を鞅掌す、君は極めて惠まれたる天稟の資性に加ふるに篤實にして溫厚、自らなる瑞玲玉の如き長者の風格あり、年齒未だ大いに春秋に富むを以て益々麗質を琢磨せば我が實業界に稗益を齎すところ尠からざるべしと世評大いに其の前途に對して囑望す。

近江屋は其の店舗を東京市日本橋區横山町一ノ一六に置き、多數の店員は全員和衷協同して欣然各々の管掌に携り以て克く當代の若き主人を補佐して店務に當れるを見る、如何に店主の德望篤きかを窺ふに足るべし。

君は母堂ゆき子刀自に孝養至らざるなし、現に東京市小石川區原町一六番地に住す。電話小石川一四八三番

赤石右一君

大阪商船(株)横濱支店長

君は群馬縣の人赤石林次氏の二男にして、明治十五年五月十二日を以て同縣佐波郡茂呂村に生る。

明治三十八年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以て卒業するや直ちに大阪商船株式會社に入社し、爾來、同社香港、アルゼンチン、加州、名古屋各支店等を歴勤、大正十年ペノスアイレス出張所長に擧げられ、同十五年横濱支店長に榮轉以て現在に及ぶ。

趣味に庭球あり、社交に厚く如水會々員たり。

夫人田鶴子は群馬縣の人角田久吉氏の二女にして其の間に亮次君、三郎君及びウタ子、百合子等あり、現に横濱市青木町東輕井澤一八五七番地に住す。電話本局四〇一六番

荒川新吾君

小石川自動車商會主
東京自動車組合評議員

君は福岡縣下酒造家として知らるゝ荒川鹿次郎氏の二男にして、明治二十五年七月五日を以て同縣朝倉郡に生る。

夙に鄕校を卒ふるや大志を抱き大正元年も將に暮れなん十二月奮然起つて上京直ちに赤坂溜池ガレーヂに入社、爾來、日本自動車、梁瀬自動車、三菱本社自動車部等を歴勤、大正四年三菱本社の社命を受けて長崎なる三菱造船所に轉勤す。

斯くて同社の發展に貢献すること數年大正九年二月同社を辭して獨立を志し、即ち既設小石川自動車商會を買収して君の個人經營となし、以來、至誠奮闘以て斯業に從事せしかば、業運年と共に加はり、今や使用車數十余臺を擁し、本店、荒川自動車支店、全修繕工場等を持つて東都同業界に錚々の名あり。

尙ほ東京自動車組合設立當初より第八支部の副支部長、全幹事を勤め且つ同評員等を以て同業界に重きをなす。

夫人ミサ子は長崎縣の人松山彌熊氏の長女にして其の間に一女あり、趣味として生花を能くし、寫眞藝術に堪能なるが如し。

現に東京市小石川區白山前町一二〇番地に住す。電話小石川二一六六番

淺石惠八君

衆議院議員
立憲政友會德島縣支部長

溫い花咲く四國の山々が、太平洋の碧海に區切られて、ポツカリ浮いた四國山脈の下、德島縣は那賀郡坂野村に、吾が政界の長老淺石惠八君は、元治元年二月を以て孤々の聲をあげたのである。

君の生家は代々農を以て相つぐ土地の素封家にして、其の長男と生れし君、又一農家の主人として終るべきものを、人生は意志の力である、運命は開拓である政界の長老吾が淺石惠八君の人生は全く國を思ふ……唯一の意志の力であつた

然して今や立憲政友會德島縣支部長としての確固たる地位を植え付けて前途洋々たるはこれ人生に於ける意志の力、運命の開拓である。

君は十七八才の折、既に政治に目覺め演壇に立つて熱辯を振はれ、斯くして二十四才の折には君の鬼才は村民の認める處となり、坂野村々長に就任す。

爾來、村會、郡會、縣會議員として努力さるゝ處甚大、こゝに德島縣出衆議院議員として當選すること二回に及ぶ。

君は全く政治を以て生命となし、年少十七八才の頃より、現在の老齡に至るまで、唯專心國を思ふ赤心の終始である、吾人は淺石惠八君をして、現下政界に於ける熱情の人よと叫ぶに、敢えて其の聲を惜しむものでない。

夫人をタメノ子と稱す、現に德島縣那賀郡坂野村に住す。

新井猪太郎君

朝日自動車合資會社長

復興帝都の輪業界に朝日自動車の代表者として將又東京自動車組合の重鎭として聲名あるを我が新井猪太郎君となす。

君は埼玉縣の名望家にして長く村長を勤めし新井晋八郎氏の長男にして、現に同縣下吉田村郵便局長として知らるゝ新井周平氏の令兄に當り、明治十三年十一月を以て生る。

夙に鄕校を卒ふるや蠶業學校に學び同校を優秀の成績を以て卒業するや直ちに同校に教鞭を執りしも、感ずるところありて教職を擲つて上京、東都實業界に投じ、大正七年八月相互自動車株式會社を設立して業界に活躍せしも、同十年之を解散す。

然して昭和二年十一月朝日自動車合資會社を設立して其の代表社員に任じ、熱誠以て東都業界に活躍せしかば斯界の信望頓に擧り今や同社の擁する自動車十余臺、斯界の白眉を以て目せられ前途益々多望なり。

夫人タカ子との間に幸一君、晋八郎君及びあさ子、とり子等あり、現に東京市芝區露月町四番地に住す。電話芝一九一九番

淺木兵一君

六十九銀行東京支店長

君は岡山縣の出身にして、夙に實業界に投じて敏腕を振ひ現に六十九銀行東京支店長として知らる。

現に東京市芝區白金三光町一ノ三十三番地に住す。電話高輪七〇八〇番

安達堅造君

正五位勳四等　陸軍予備役軍航空兵大佐
民間航空事業家
合資會社三扇商會出資社員

烈々燃ゆるが如き意氣を抱藏せる堂々の偉軀を提げて、社會淨化の促進に挺身しつゝある吾が安達堅造君は、素と維れ劍把を握つて英姿颯爽、三軍を叱咤せし偉丈夫なりと雖、現時野にありて勇猛不退に精進しつゝある快男子にして、明治十四年六月を以て東京市に於て出生、嚴父安達重固氏の次子に當り後ち分れて一家を創立せり。

君や文字通り栴檀にして香しく、夙に穎才、國家の干城たらんと志し東京高等師範學校附屬中學校を卒ふるや、陸軍士官學校に入學し之れを卒業して明治三十五年陸軍歩兵少尉に任官、爾來、累進して大正十二年歩兵中佐に陞り、同十四年兵科を轉じて航空兵中佐となれり、此の間臺灣守備軍、臨時朝鮮派遣隊、濱松聯隊區各副官、陸軍航空本部員等を歷補するあり、次いで同十二年九月關東戒嚴司令部航空課長となりしも後ち官を辭し、帝國飛行協會審査員に推され、現に之れに關與して本邦民間航空事業に貢献するところ尠少ならず。

君は先是昭和二年航空輸送事業視察の目的を以て自費にて歐洲に航し、殆ど飛行機に據りて全歐各地を翔破し、其の鵬程實に一萬五千粁、斯くて具さに研鑽を重ねるありて歸朝するや本邦航空界に極めて有意義なる報告を齎し、其の功績の特筆すべきものあり。

現時傍ら令甥稻波三千穬君其の代表社員たる合資會社三扇商會に勞資を頒ちて同社の業務を支援す、而して同社事業の主体たる「リベル」と呼稱する眼鏡硝子の曇止め藥劑並に自動車、自轉車の泥除け器「スプレッシャー」は何れも君が航空事業に對する蘊蓄の副產物にして如何に發明的才能豐かなるかを認識するに足るべし。

君は平素實業界のみならず、一般社會が純正の羈絆を逸脫して現時蹇に汚醜見るに堪えざるものあるを慨し、社會の合理的進化に貢献せんとの熱烈なる觀念よりして、睡眠五時間の精力主義を以て奮鬪に亞ぐに奮鬪の生活を爲しつゝあり、蓋し君が果敢剛毅の資性の一面を卜知するに難からざると同時に邦家の爲め洵に慶祝すべき存在と謂はざるを得ず。

好漢幸ひ加餐、以て其の健美の巨軀より迸る英氣もて、世の不合理の功を粉碎せられよかし。

君は曩に「世界航空の現勢」並に「國際航空法及び私法の研究」の著書を公刊し學界を稗益すること多大なりき。

夫人トク子は東京府の人吉見氏の女にして其の間に剛正君及び從子、靖子あり

現に東京市外落合町下落合八〇一番地に住す。電話牛込五三一九番

秋元正一郎君

秋元運送店主
東京自動車組合評議員

抑々人間愛の念厚き處に國家愛あり、世界愛あり、市井に居住する吾人は又其の居住する町を愛せざるべからず。

愛よし、されど盲目なる愛は之れを避けよ、眞に町愛の念は是れ自治制に關する識見なかるべからず。

吾が秋元正一郎君は眞に鄕愛の念に富む稀に見る人材にして、君は明治三十一年二月二十八日東京府下上大崎町に生る年少より家業たる運送業に從事し大正七年十一月獨立開業す。

斯くて大正十二年の關東大震災には當局を補佐して盡力すること甚大、大崎町長より感謝狀を贈られ、翌十三年自動車部を設け、現時は地理的に惠まれたる目黑驛前に於て堂々の陣容を張り斯界に令名あり。

先是大正十二年大崎町安全組合の役員に就任して以來同町自治に盡瘁すること甚大、再び大崎町長より感謝狀を贈らる而して全年四月同區制敷かるゝや同組合を解散し、同時に第三區一部長に推され現に前記の外東京自動車業組合評議員兼第五支部幹事、日東自動車組合聯合會評議員たり。

夫人チカ子との間に二男一女あり、現に東京市外大崎町六〇二番地に住す。電話高輪四五八七番

足立靖君

足立靖商店經營者

電氣工事請負並に電氣照明器具製造を營み斯界に令聞ある君が、大正九年東京市芝區田村町に獨力現業を開設以來、幾多の困厄を排して逐次業礎を固め、施工の堅妙と篤實なる營業方針を以て今や江湖に多大の賞讃を博しつゝありて業態日を追ふて殷盛に赴くを見るは、即ち君が奮鬪の如何を如實に物語るものと謂はざる可からず。

君は明治二十三年一月を以て鳥取縣西伯郡米子市に生る。故足立莽氏を父とし慈母を順子刀自となす、君は其の長男に當り、夙に鬱勃たる雄志を抱き笈を負ふて東上するや、故杉浦重剛翁の薫育に浴し日本中學校を卒へしは明治四十三年、然して電機事業の好望を察知して電機學校に入學、大いに學窓に黽勉して大正二年之れを卒ゆ。

先是大正元年より猪苗代水力電氣株式會社に勤務し同社發電所技手として實務に携るあり、同四年三菱合資會社に轉じ同社地所部技師の任にありて精勵せしが獨立の機運に會し同九年足立靖商店の號を以て斯業を開始し佶倨之れが經營に任じ遂に現時の隆昌を招來するに至れり。

君は資性極めて眞摯、劍道の達人を以て鳴らし又實生流謠曲に堪能なり、夫人艶子との間に一郎君、清君、宏君、毅君及び禎子等あり、現に東京市芝區田村町六番地に住す。電話芝一二五二番

相羽金松君

勳八等　相羽自動車商會主
東京自動車組合理事

東都自動車業界に新進の聞えありしを我が相羽自動車商會創設者相羽金松君となす。

君は東京府士族相羽宣孝氏の長男にして、明治二十七年四月二十九日を以て本郷に生る。

夙に學業を卒ふるや新興日本の實業界に名を成さんとの大志を抱き、先づ中西洋服店に入りて其の第一歩を踏み出し、同店に精勤すること五ヶ年、然るに年齢二十才の頃より本邦自動車界に志を立て即ち東京信託自動車部に轉じて專心斯業の研鑽に耽りしも、中途適齢甲種合格にて北海道騎兵第七聯隊に入隊、除隊上京するや、令兄と共に日新自動車商會を經營せり。

偶々大正七年歐洲の天地戰戈を交へ、我が國又聯盟國として遂に獨國に宣戰を布告するや君又航空隊附として征途に就き、硝煙彈雨の間に快戰大いに努め、戰終熄するや功により勳八等を授げらる。

斯くて大正八年三月現地をトして相羽自動車商會を創設、爾來、奮戰能く業務の發展に盡瘁して怠たらざりしかば、業勢月に年に加はり今や數臺の自動車と十數人の社員とを擁して堂々の陣容を斯界に張り、業況益々多望、不日東都業界に重きをなす又疑ひなりしも……恨むべしや天の配劑哉、天尚ほ君に命を與へざりしを。

偶々本書編纂中、君の訃報我が通信部に達するや、社同人は勿論關係者一同等しく只唖然たるのみ。

當年正に三十七歳、前途有爲の新進實業家、吾等は單に天命としてあきらむるに忍びず。

然りと雖も、君が三十七年の生涯は正に奮鬪の歴史であり、奉仕の史情であり しことを考ふるとき、徒らに悠々惰々として百年の長命を保つて無爲無能なるの徒輩に比し、是を人物史的に達觀して偉大なる業蹟なりと謂はざるべからず。

家族の悲しみ又如何ばかりならん、吾等は今とゝに君の奮鬪史の一端を記し以て哀悼の微意を表し、更に亡き御靈に對へんとするものなり。東京市淺草區千束町一三九番地電話淺草三八一番

青木一男君

從五位勳五等　大藏書記官
大藏大臣秘書官　同理財局國庫課長
兼大臣官房秘書課長

君は長野縣の人青木善藏氏の長男にして、明治二十二年十一月を以て生る。

大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに文官高等試驗に登第す。

斯くて身を官途に投じ、大藏屬として英國に出張し歸朝後大正九年專賣局參事補となり、爾來、大藏事務官兼書記官、大藏大臣官房秘書課長等を歴任し、昭和二年大藏書記官兼大藏大臣秘書官に任ぜられ現に其の他理財局國庫課長兼大藏大臣官房秘書課長として令名あり。

夫人千代子は實業家菊池武和氏の二女にして縣立神戸高等女學校の出身、其の間に俊男君及び照子あり。現に東京市外品川町北品川宿御殿山三一九番地に住す電話高輪七八〇二番

朝比奈貞英君

米國貿易會社東京支店參與

君は靜岡縣の人朝比奈勘四郎氏の六男にして、安政五年十月を以て生る。

夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し佛教哲理の研究を積み、更に歐米に渡つて研究し、後ち米國貿易會社に入り、同社機械部主任を經て東京支店參與に擧げられ以つて現在に及ぶ。

曩に日本トラスコン鋼材株式會社監査役たりしことあり、外語に長じ、海外の經濟狀況に精通する本邦貿易業界の恩人たり。

夫人ちか子は、埼玉縣の人田口金造氏の四女にして、其の間に貞一君、貞二君、貞世君、貞八郎君及び節子、操子等あり。

現に横濱市磯子根岸町八五番地電話本局二五五三番

阿部良夫君

理學士
北海タイムス(株)取締役社長

北海道に於ける操觚界に毅然として君臨する「日刊北海タイムス」は卽ち吾が阿部良夫君の統宰するところ、同社は素と先考故阿部字之八氏並に東武氏の創設經營に係り刻苦遂に今日の社礎を成せり。

君は故字之八氏の嫡男にして明治二十一年一月を以て札幌區に生誕せるが、幼にして穎才學を好み該地に於て小中學校を卒ゆるや東上、第一高等學校に學び、次いで東京帝國大學理科大學に入學し理論物理學科を專攻、明治四十五年七月優秀の好績を以て之れを卒業せり。

斯くて大正五年早稲田大學講師となり子弟薫育の聖務に携るところあり、同十一年十二月之れを辞し先考の遺業たる北海タイムス合資會社に入り同社理事たりしが、昭和四年一月之れが株式組織に革めらるゝや君は同社取締役社長に就任し以て現時に到りしなり。

君は人と爲り寔に學に篤く繁激なる社務を宰するの傍ら、其の專攻たる物理學を研究するを以て唯一の娯しみと爲せり君の蘊蓄礎つて曩に「相對性理論」其の他斯學に關する數種の著書を公にして所謂洛陽の紙價を高めたるは洽く世人の識るところたり。

家庭にはキヨ子夫人あり、高崎市の人山崎金四郎氏の次女にして高崎高等女學校出身の佳人、其の間に永子、節子、房子、敦子等あり。現に東京市外落合町下落合一六六三番地(電話牛込三九〇一番)及び札幌市に邸宅を有す。

栗田繁次郎君

合資會社栗田組代表社員

土木建築設計竝に監督施工請負業を營む君は、彼の關東大震災直後上掲栗田組

を帝都に興し、復興事業に携りて是れが進渉に君の努力の甚だ大なるものあり、現時近衛師團、陸軍造兵廠、陸軍工廠、專賣局、市役所等の各官公街の指命請負業者たるの他、一般民間の依囑に應じて業績詢に光彩を放てり。

君は明治廿一年三月廿四日を以て京都市下京區油小路に生る、故粟田市郎右衛門氏は君の嚴父にして其の六男に當れり而して同四十五年分れて一家を創立す。

君は明治四十年京都府立第二中學校を卒へるや直ちに實社會に乘り出し、大阪市森下組に入る、之れ君の斯業界に在る所以にして、玆に於て出精研究、大正十二年に至り其の建築部主任に累進し、後ち東上して業態の擴張を計り、次いで森下組出張所を創設、君は同所長となれり而して同十三年之れを辭去するや合資會社粟田組を設け、爾來其の代表社員として拮据經營に任ずるところあり、多年に亘る斯業の体驗に依り卓越せる技能と堅實なる營業方針を双翼となして復興途上の帝都に飛躍し、以て大いに其の鵬程を伸張するに到れり。

君は觀劇と音樂を以て趣味と爲し、家庭には兵庫縣渡岡梅吉氏の三女たる靜江夫人あり、令嗣昇君を其間に愛擁して清福なる一家を營めり、事務所及び現住所は東京市小石川區關口町六十八番地電話牛込四九二七番たり。

淺羽義夫君

理學士　慶應義塾大學醫學部教授

君は明治三十年八月廿一日を以つて東京市芝區に於て生誕、嚴父故淺羽義樹氏の嫡男に當る、先考は夙に實業界に在りて貢献するところあり、財界に其の名を喧傳せらる。

君は幼時既に儁秀にして小學校を卒ふるや、芝中學校、第一高等學校を經て東京帝國大學理科大學に入り化學科を專攻し大正十一年之れを出づ、

斯くて慶應義塾大學醫學部に入り同講師として有機的化學の研究に身を挺し現に孜々乎以て學事に黽勉しつゝあり、未だ特筆すべき功績なきも、年齒大いに春秋に富むを以て、過去現在の人に非ず、今日の研究礎つて蘊蓄を得ば他日學界への寄與多大ならん乎、吾人は其の將來を待望すること切なる者也。

君は人と爲り頗る溫厚、人に對するに謙柳にして些の街氣なし、蓋し令聞ある所以なり。

趣味寔に多樣、其の家庭には佳子夫人あり、東京の人草薙金七氏の二男にして跡見高等女學校出身の麗人、其の間に義勝君あり。現に東京市芝區愛宕町三ノ六（電話芝二〇八番）に居を有す。

青山嶽次郎君

講談師　典山

本邦講談界の泰斗として東西に其の名も高き斯界の恩人我が青山嶽次郎君は元治元年二月七日江戸は神田多町に於て生誕す。

夙に劇才群を拔き、幼少の頃より已に講談界に趣味を有し、年齒僅かに十四歳にして、三代目貞山師の門を叩いて其の弟子となり、年と共に其の天禀の才能は發揮せられ、明治四十五年典山と號して愈々斯界に大飛躍、義士傳、關ヶ原軍記、河内山宗俊等の如きは君の最も得意とするところ、今や全日本の講談界に其の名も高く、高弟には貞山、貞丈、貞吉、貞水等の新進を擁して正に元老の格たり。

夫人つね子との間に次郎君及び貞子、喜代子あり。現に東京市神田區元岩井町二十七番地に住す。電話浪花三七〇九番

阿曾菊藏君

太平洋海上火災保險（株）取締役

君は福岡縣の人にして明治七年九月を以て同縣伊達郡飯野村は於て生る、故阿曾玄益氏の三男に當り同三十六年分れて一家を創立せり。

君は幼にして穎才、夙に鄕校に學び後ち笈を負ひて東上、東京高等商業學校に入り孜々研鑽し同三十年之れを卒ふ、斯くて直ちに明治火災保險株式會社に入社せるが後ち日本火災保險株式會社に轉じ同社副支配人たり、然して大正八年に到り太平洋火災保險會社に再轉、同社取締役支配人に擧げられ現時上揭の重任に在りて社務を統卒す、趣味として圍碁を好み、又余暇あれば讀書に親む。

家庭には隆太郎君、喜代子、豐子、文子、次郎君、和夫君の子女を撫育す。二女友子は神奈川縣人田近忠良君に婚嫁せり。現住所は下谷區谷中初音町四ノ一九（電話下谷二六一三番）たり。

寺田淳平君

寺田合名會社長
鬼足袋工業（株）取締役會長

君は東京府の人先代淳平氏の長男にして、明治二十五年六月を以て生れ大正三年五月家督を相續し前名壯一を改めて襲名す。

夙に慶應義塾大學理材科を卒業するや實業界に投じ、現に前記の外大日本コール天紡績株式會社々長にして且つ東三織物、福田織布、遠州織機各株式會社の重役として名あり。

現に東京市小石川區武島町九番地に住す。電話小石川四五番

明智瀧朗君

三菱倉庫（株）東京支店支配人

抑々當明智家は彼の織田氏時代の人物明智光秀の後裔にして光秀の子乙壽丸母方の土岐姓を冒し後ち明田姓を名乘りしが君の祖父潔氏に至り明智姓に復せり。

君は東京の人、山階德次郎氏の二男に生れ明治十八年四月五日を以て同市日本橋區濱町に於て出生、同二十二年先考潔氏の家籍に入り後ち別れて一家を創立す

君は幼にして學を好み小學校を卒ゆるや商工中學校を經て慶應義塾大學に入學し理材科を專攻して同四十年之れを卒業せり。

斯くて直ちに三菱倉庫株式會社に入社し當初同社神戸支店に勤務し黽勉大いに

社業に精勵し、漸次累進して大正十三年同社東京支店支配人の重任に推され以て今日に到れり、此間支那に航し各地を巡遊せることあり。

君は夙に文學に趣味ありて大鬼郎のペンネームを以て曩に戯曲「光秀」其他の著を公にし所謂洛落の紙價を高めり。

家庭には婦人暉子あり、東京の人伊藤ミネ子刃自の長女にして東京高等女學校の出身、其間に一男一女を擁す。現住所は東京市麻布區宮村町四十二番地（電話青山六八七八番）に在り。

新井泰君

高砂土地(株)取締役社長

君は現籍を東京府に有し、埼玉縣の人新井太右衛門氏の長男にして、明治十九年六月を以て生る。

夙に東都實業界に投じ活躍大いに努め現に高砂土地株式會社取締役社長として令名あり。

夫人よし子は埼玉縣の人田沼幸三郎氏の長女にして其の間に五女あり。現に東京市牛込區市ヶ谷谷町四九番地に住す。

寺田春雄君

鬼足袋工業(株)社長
大日本コール天紡織(株)取締役

君は東京府の人寺田淳平氏の二男にして、明治三十二年三月十五日を以て生る

夙に早稲田大學を卒業後英國に留學し牛津大學及ロンドン大學に學び大正十四年歸朝するや直ちに鬼足袋工業株式會社副社長に任じ、現に同社々長にして傍ら大日本コール天紡織會社取締役たり。

趣味に寫眞、旅行あり、特に自動車の運轉に長じ甲種免許狀を有すといふ。

現に東京市外大森町谷島に住す。電話高輪一七三番

淺野總一郎君

實業家

本邦實業界の巨頭にして、淺野財閥の總裁たり、各種事業會社に社長又は重役を勤めて實業界に大勢力を有す。

現に東京市芝區田町五ノ十六番地に邸宅を有す。

有住榮之助君

アイデイアル防水布加工品業
有住商店經營者

君は埼玉縣の出身にして、明治十二年十月二十八日を以て同縣北足立郡鳩ヶ谷町に於て生る、嚴父を故有住佐兵衛氏と爲し其四男に當る。

當家は代々該地に於て織物製造販賣業を營み居りしが君又夙に祖業を承け明治四十一年の頃より之れに携れり、然して大正三年其業務を廢し翌年東上、同六年より獨立して防水布加工品の製造販賣を目的とする有住商店を創設し刻苦遂に今日の基礎を成すに到れり。

同店の營業品目はアイデアルコットン同シルク、同フエザーに依りて加工せるレインコート、運動服、帽子、ゲートル、汗襦袢、狩獵用チョッキ等にして何れも

君の新機軸的考案に依り實用新案の登錄を受けり又他にパレスコートあり、冬期は羅紗物及防寒防水具の既製品を取扱ひ全國百貨店、一流洋服洋品商を得意先として業態寔に殷盛を呈しつゝあり。

君は日露戰役に出征、其の功績に依り勳七等功七級を授けらる、狩獵を好くし又觀世流謠曲に堪能なり。

家庭にはひさ子夫人あり、淑德の聞え高く其の間に貞代子、節子、甲子郎君あり。店舗並に現住所は東京市京橋區銀座一丁目二十一番地（電話京橋七〇三三番）に在り。

天井國太郎君

東榮商會(株)專務取締役

東都財界の新進にして、奇才縱橫の士に我が株式會社東榮商會專務取締役天井國太郎君あり。

君は現籍を東京府に有し、靜岡縣の人天井竹五郎氏の三男にして、現に東京朝日新聞社會計課長天井勝平氏の令從弟に當り、明治二十三年十月二日を以て生る。

夙に鄕校を卒ふるや鴻圖を抱いて東上し、深川銀行に精勤すること十有五年、累進して同行支配人に擧げられ、大正十一年合資會社東榮商會を創立し、越えて同十二年株式組織に變更し同時に山梨財閥若尾鴻太郎氏を社長に推し、君は其の專務取締役として同社内外の社務を執掌し、後ち若尾社長辭任後は一切を引き受けて愈々敏腕鮮かに今や本邦各種保險會社代理店として東都斯界に重きをなし前途多事なるが如し。

趣味に書畫骨董、將棋あり、尙ほ俳句に長ずといふ。

夫人らく子は靜岡縣の人佐藤新三郎氏の息女にして其の間に達郎君及び郁子、直子あり。現に東京市深川區佐賀町一ノ二九番地に住す。電話本所四五七五番

荒木文平君

高岡銀行(株)監査役

抑々當荒木家は代々富山縣蠣波郡城端町に居住し農業倉庫を營み近鄕に鳴れる豪家にして、吾が荒木文平君は先代故文平氏の次男に當る、明治三十年五月五日を以て該地に孤々の聲げ和朔と謂ひしが大正十三年先考の逝去と共に其の家督を相續し同時に襲名せり。

然して同十五年蠣波銀行に入りて頭取に擧げられしが、昭和二年四月同行の高岡銀行に合併せらるゝや其監査役に就任現に其任に在り。

君は人物寔に温厚、圓滿有德の士にして典型的の紳士たり、年齒尙ほ幾多の春秋に富み將來活躍の光陰頗る豐かなるものあり、累代曩に地方開發に貢献あり、君又年壯の鋭氣を以て臨まば我が實業界への寄與寔に尠からざるべしと其の前途を待望さるゝところ多し。

君は洋畫に深き趣味を有し家庭には母堂あい子刃自を載きて信子夫人あり、大谷辰二郎氏の長女にして實踐高等女學校出身の佳人其の間に和夫君、歌子、文子、敏子あり。現住所は東京市外千駄ヶ谷町

原宿二八六番地（電話青山一〇八六番）なり。

阿部梧一君

横濱船渠（株）常務取締役

君は山口縣の人阿部準輔氏の五男にして、明治十四年十月一日を以て同縣山口町に生る。

明治三十七年東京帝國大學工科造船科を卒業するや日本郵船株式會社に入社し保線課長を經て船舶監督となり、大正十二年五月倫敦に出張を命ぜられ昭和二年一月歸朝、同年八月浦賀船渠株式會社常務取締役に就任以て現在に及ぶ。

趣味に謠曲、ゴルフあり、船舶協會、工政會、學士會各會員たり。

夫人ウメ子は故貴族院議員寺田榮氏の二女にして女子學習院の出身、其の間に文雄君及び敦子、靜子、好子、年子あり。現に東京市外代々木富ヶ谷一四五六番地に住す。

淺野良三君

大正活映（株）社長　東洋汽船（株）鶴見木工（株）各專務取締役

君は本邦實業界の恩人淺野總一郎氏の二男にして明治二十二年八月を以て生る。

現に前記の外淺野セメント、淺野造船所、淺野超高級セメント、庄川水力電氣、淺野同族各株式會社常務取締役にして且つ國際汽船、淺野物產、淺野小倉製鋼所、關東水力電氣、神奈川コークス、大日本鑛業、東京灣埋立、信越木材、千代田石油、富士製鋼、日本鑛業、邦樂座、大正製作各株式會社取締役、日本鐵道、朝鮮鐵山、淺野石材工業、帝國興業各株式會社監査役たり。

現に東京市芝區三田網町十番地に住す電話高輪二一五九番

青木清太郎君

横濱倉庫（株）監査役

人格的に吾人の推服禁ぜざる吾が青木清太郎君の人と爲りや如何、君の過半生の素描を試みて其片鱗を窺へば江州彦根の產にして明治四年五月を以て出生し該地に成育、舊彦根藩士故青木正次氏の嫡男にして母堂をつる子と謂へり。

幼にして學を好み夙に鄉黨を出て滋賀縣立中學校を卒ふるや笈を負ふて東上し東京英語學校を經て東京商大の前身たる東京高等商業學校に入學、明治二十九年優秀の成績を以て之れを卒業せり。

斯くて直ちに横濱正金銀行に入り、同行孟買支店、同本店に勤務し同三十七年上海支店支配人代理となり、同四十一年本店詰、翌四十二年桑港支店副支配人に任せられ大正二年歸朝し本店檢査課勤務翌三年布哇支店支配人等に歷任、同八年歸朝、同九年頭取席檢査役に推され同十三年之れを辭せり。

然して同年横濱倉庫株式會社常任監査役に擧げられ現時同社監査役の任に在り

君は上掲の如く正金銀行上海支店支配人代理たりし當時恰も日露戰役に會するや大いに才腕を發揮し爲替、資金運轉等

其他に機宜の處置を把り以て行務を圓滑ならしめて多大の貢献ありたり。

君は人格敦厚にして氣宇卓落の人、世に既に嘖々の令聞あり、園碁、寶生流謠曲、ゴルフ等に趣味を有し又眠鷗と号して俳句に秀づといふ。

家庭には恒子夫人あり、子爵松平頼安氏の長女にして渡邊高等女學校出身、其間に頼明君、正躬君、禮子、伴彦君、美邦君、澄子あり。現に東京市外荏原郡碑衾一四七三番地（電話高輪二三九二番）に住す。

荒木東一郎君

荒木能率研究所々長

現時前掲の職に在りて令聞寔に嘖々たる吾が荒木東一郎君は明治廿八年一月廿五日を以て東京市神田區に於て孤々の聲を擧ゞ、嚴父を故荒木寛大氏とし君は其長子に生る。

幼にして雋秀、夙に神尋常小學校、府立第一中學校を經て東京高等工業學校に入學し孜々として黽勉大いに勉め、其の學殖を深む、而して大正五年優秀の成績を以て該校應用化學科を卒業せり。

斯くて君は直ちに藤倉電線株式會社に入社し後ち同社研究部主任たりしが、大正八年農商務省實業練習生として北米に航しオハイオ州アクロン大學に入學し、「科學的管理法」に就いて專心研鑽を爲すところあり、次いで大正十一年之れを卒ふるや歐洲に渡りて具さに西歐各國の狀況を視察して大正十一年八月歸朝す。然して再び藤倉電線株式會社に入り同社顧問の任に在りしも翌十二年之れを辭し協調會產業能率研究所囑託となり、尋いで同年十二月前掲荒木能率研究所を創設し以て今日に到れり、此間星製藥、朝日スレート、日本製布、大江印刷の各會社能率顧問として將又日本大學及び慶應義塾大學內產業研究所講師たりしことあり、現時東京護謨工業、千代田機械製靴、淺野セメント、日本鋼管、東洋タイプライター、横濱船渠の各株式會社及び東京螺子製作所の能率顧問の任にあり。

君は曩に時事新報社が世界早廻り競爭の擧あるに際し東行選手に推され僅々三十三日を以て一周を了し世界的記錄を止むるの榮冠を攫ち得たり。

著書として「歐米巡り夢の旅」及び「三十三日世界一周（和英兩文）」あり、謠曲寶生流、洋樂、園碁、ボート等に趣味を有し、其家庭には俊子夫人あり、宮田高等女學校の出身にして其の間に敬子、信子あり。

現に事務所を東京市芝區芝公園、協調會館內（電芝一一三三番）に有し、東京市外幡ヶ谷四〇番地に住す。

手島重雄君

東京電氣株式會社主事

君は廣島縣の產にして明治二十一年十一月二十三日を以て同縣豊田郡長谷村字荻路に於て誕生、父を手島理助氏、母堂をいま子と稱す。

夙に實業界に志あり、廣島縣立忠海中

學校を卒ふるや直ちに笈を負ふて東上、慶應義塾大學に入學し理財科を專攻して同四十五年之を卒業せり。

斯くて直ちに一年志願兵として歩兵第四十一聯隊に入營せるが除隊後大正三年三月東京電氣株式會社に入社し恪勤精勵今日に及び現に同社主事たり。

然して此間東京出張所長、地方課長等を經て現在に至れるが、君は平素處世上に「質實剛健」を本旨とし又其業務上に就いては「共存共榮」を理想とすと謂ふ。

趣味廣汎なるも就中音樂、演藝を娯しみ又乘馬、スキー等の野外運動を好めり。

家庭には諄子夫人あり、其間に將太郎君、惟惠子、秀三君、龍彦君あり、次男雄二郎君は出でゝ若竹家の家籍に入る。現に東京市外調布町田園都市一〇六号に住す。

秋山高君

パチエラー・オヴ・ベタゴジー
合資會社巴商店代表社員

君は静岡縣の人にして明治八年三月十日を以て同縣田方郡中ノ郷安久に於て生誕す。

夙に鄕黌を出ずるや同二十七年の交米國に航し後ち紐育大學に入學、同三十九年之れを卒業しバチエラー・オヴ・ベタゴジーの學位を享く。

斯くて實業界の人と爲り當初ローチエスター市アドキンクラーク商會に入り恪勤すること三ヶ年にして同四十三年歸朝せり。

然して合資會社江副商店に入り同社支配人として其社業に精勤せるが、大正六年之を辭し農藝用殺虫劑其の他の輸入販賣業を開始せり、次で昭和二年一月合資會社巴商店を組織し同社代表社員となり現に其任に在りて拮据經營以て前掲の商品を米國より輸入し本邦全土並に滿州各地に之れが販路を有して業況順調に展開しつゝあり。

君は基督教を信じ余暇あれば讀書に親しむを唯一の娯しみとせり。

夫人を清子と謂ひ其間に透君外一男二女あり。

現に東京市赤坂區青山南町六丁目二十一番地に住し。巴商店を同市丸ノ内丸ビル内に置けり。

佐藤達次郎君

男爵　從五位　醫學博士
順天堂病院長

當家は先代進君より其の家名を擧ぐ、進君夙に蘭學を修め獨逸に留學し、歸朝後順天堂病院に入りて、專ら治療に從事せしが、後ち陸軍々醫總監に任ぜられ西南の役に際し大阪に出張し、臨時病院長となり尋いで西部檢閲監軍部長隨員、陸軍病院長等を歴任す。

然して後ち東大醫學部講師を命ぜられ明治二十一年醫學博士の學位を受け、爾來順天堂病院に力を盡し、明治四十年勳功に依り特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は福井縣の人河合貞輔君の二男にして明治元年十月を以つて生れ同二十九年先代進君の養嗣子となり、大正十年襲爵仰せ付けらる。明治二十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し、同三十八年醫學博士の學位を授けられ、現に順天堂病院長たる傍ら東京醫學專門學校長として知らる。

夫人操子は千葉縣の人大野傳兵衛君の長女たり、現に東京市外淀橋町柏木八九六番地に住し電話四谷六一五〇番なり。

酒井猪太郎君

日本動産火災保險會社副社長

君は大阪府の人酒井文兵衛君の五男にして明治十二年三月五日を以つて生れ、先代猪太郎君の養嗣子となる。夙に大阪商業學校を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、獨力魚類問屋を經營し傍ら大阪市會議員として市政に參與し、尚ほ日本動産火災保險株式會社の副社長たる外日本商事信託、淀川土地建物、朝日酒類各株式會社の重役にして且つ宮島組、京阪土地建物各株式會社監査役たり、曾つて大阪府會議員、大阪商業會議所議員たりしことあり。

夫人ぬい子は大阪府の人田淵玉藏君の養女にして君との間に二女ありて育子、房子と稱す、現に大阪市西區京町堀上通五丁目四十四番地に住し電話土佐堀三四六番たり。

佐々木文一君

勳四等　辯護士　衆議院議員
東北起業株式會社々長

君は岐阜縣の人佐々木喜左衛門君の長男にして、明治元年十二月十五日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや大志を抱いて東上し、苦節奮鬪、明治二十六年日本大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、大日本時計、硝子製造、日本水力電氣、内外裝飾、東京國債銀行各株式會社に關係し其の重役たりしが、現時は前掲會社々長たる外神中鐵道株式會社取締役にして尚ほ辯護士特許辨理士及び日本大學理事たり。

明治四十一年以來岐阜縣選出代議士として當選すること四回現に政友會に屬し其の令名高し、考古學人類學等の研究に趣味深しといふ。

夫人マキ子は東京府の人西村藤吉君の

二女にして神田橋高等女學校を卒業し其の間に公一君、元一君及び千鶴子、侯子晃子等あり、現に東京市麻布區我善坊町二五番地に住す。

坂本陶一君

旭コンクリート工業株式會社長
日本ヒューム・コンクリート會社專務取締役

其の昔、教育界にありては最高學府を歷任し、幾多學徒の勳陶に盡瘁して其の聲名を馳せ、今や新日本財界に躍進して稀代の敏腕家正五位勳六等坂本陶一君は東京府士族坂本章君の長男にして明治十二年八月二十一日を以つて生る。

明治三十七年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校專攻科を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに教育界に投じ、明治大學講師に任じ且つ京華商業學校幹事等を經て、明治三十九年山口高等商業學校教授を拜命し、明治四十二年學術研究の爲め英米獨へ留學し彼の地に留まること四ヶ年、大正元年造詣を深くして歸朝するや小樽高等商業學校教授に任せられ、君が溫蓄を傾注して學徒の勳陶に精勵すること八年有半なりき。

其の後感するところありて斷然教育界を退きて實業界に走り、聘に應じて內田汽船、內田造船所各株式會社常務取締役に就任せしも、後ち辭して獨力各種事業會社を興し、現に前記の要職にある外旭東コンクリート工業、日ノ出製線所各會社の重役にして、且つ日ノ出商工合資會社代表社員として今や我が財界に令名嘖々たり。

夫人雅子は福島縣士族二宮直躬君の長女にして福島縣立高等女學校を卒業し、君との間に一男一女ありて和敏君及び妙子と稱す、現に名古屋市東區主税町四ノ三番地に住し電話東五五九一番たり。

坂口昂君

文學博士　從四位勳三等
京都帝國大學文學部長

君は兵庫縣の人坂口彪君の令弟にして明治五年一月を以つて生る。明治三十年京都帝國大學文科大學史學科を卒業するや身を教育界に投じ、第三高等學校教授京都帝國大學文科大學助教授、同教授等を歷任し、現に京都帝國大學教授兼同部長たり、曾つて史學研究の爲め英獨佛各國に留學せしことあり。

夫人こう子は醫學博士菅之芳君の長女にして君との間に一男三女ありて芳久君及び遼子、英子と呼ぶ、現に京都市上京區廣道通二條南入に住す。

齋藤實君

子爵　從二位勳一等功二級
海軍大將

君は岩手縣水澤の人齋藤耕平君の長男にして、安政五年十月を以つて生る。明治六年兵學寮に入り同十五年海軍少尉に任じ同十七年米國へ差遣せられ、大正五年海軍大將に陞任す。其の間參謀本部海軍部出仕、侍從武官、富士和泉各艦副長常備艦隊參謀、秋津洲、嚴島各艦長、海軍省軍務局長、海軍次官、海軍總務長官海軍大臣等を歷任す。

然して明治三十九年海軍大臣に親任せられ大正三年大隈內閣成立に際し挂冠し後ち朝鮮總督に擧げられ、昭和二年四月第二次軍縮會議に日本代表として列席す彼の日露戰役の功に依り勳一等に叙し、功二級金鵄勳章を賜はり特旨を以つて華族に列し男爵を授けられ、大正十四年四月子爵に陞叙せらる。

夫人春子は子爵仁禮景嘉君の伯母君たり、現に邸宅を東京市四谷區仲町三ノ四四番地に有し電話四谷三一〇〇番たり。

坂田藤藏君

川崎燐寸株式會社監査役

君は新潟縣の人坂田庄松君の長男にして明治二十年十一月を以つて生れ、後ち先代勝藏君の死跡を相續し前名正藏を改稱す。曾つて越後綿布株式會社々長、坂田合名會社代表社員たりしが現時は株式會社越見銀行、同見附銀行等の取締役にして且つ川崎燐寸株式會社の監査役たり

夫人をスミ子と呼び新潟縣の人佐藤宏君の令姉にして其の間に一男三女ありて正和君及び悅子、峯子、藤江子等あり、現に新潟市南蒲原郡見附町に住す。

齋田文四郎君

常盤屋銀行社長

君は滋賀縣の人齋田廸君の長男にして明治十四年四月十七日を以つて生る。夙に滋賀縣八幡中學校を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、我が國庶民金融機關の不備なるを憂ひ同志と相謀り常盤屋合資會社を設立するに至る。

然して開業當時は殆んど其の存在をも認められざる有樣なりしが、君の堅忍不拔の奮鬪と着實溫厚なる人格とは能く社會の信望を博し、漸次發展の步調を辿り大正十四年十月銀行條令により株式會社常盤屋銀行に組織を變更し、君は其の社長の要職に就任してよく內外の社務を統掌したりしかば社運愈々擧り、今や斯界に其の令名を謳はるゝに至る、趣味として將棋あり。

夫人ひさ江子は三重縣の人齋田甚之輔君の長女たり、現に東京市京橋區入船町新富河岸一五番地に住し電話銀座七〇四七番なり。

西園寺八郎君

正四位勳三等
式部次長

君は故公爵毛利元德君の八男にして公爵毛利元昭君、子爵大村德敏君、男爵小早川四郎君、男爵毛利五郎君等の令弟に當り明治十四年四月を以つて生る。夙に內閣總理大臣祕書官、式部職庶務課長等に任ぜられ、現に式部官として式部次長の要職にあり。

家族は長男公一君を始めとして外に二男三女ありて不二男君、三郎君及び愛子春子、美代子と稱す、現に東京市麻布區飯倉片町七番地に住す。

佐々木秀司君

從四位勳四等
共濟生命保險會社常務取締役

其の昔、官海に遊泳しては明快なる頭腦と稀代の敏腕とに依つて縱横の才量を發揮し、期するありて一度野に下り實業界に投ずるや、才器喚擾、能く内外の事務を鞅掌して新進實業家の稱あるを我が佐々木秀司君となす。

君は福島縣の人佐々木一二君の二男にして、明治十三年十一月廿九日を以つて同縣田村郡宇山町に生る。夙に鄕校を卒ふるや第二高等學校を經て、東京帝國大學に進み、明治四十年優秀の成績を以つて法科大學獨法科を卒業し、同年高等文官試驗に應じて首尾よく登第し、職を官界に採りて警視廳警視に任ぜらる。

爾來四谷警察署長を振出しに栃木縣事務官、石川、群馬、新潟各縣警察部長等を經て山形、神奈川各縣内務部長に任じ、後ち拔擢せられて香川縣知事に任ぜられしが感ずるところありて大正十二年斷然官界を辭して野に下り、聘に應じて合名會社安田保善社に入り同社理事兼調査部長の要職に就任し、大正十四年選ばれて同じく安田系統たる共濟生命保險株式會社に轉じ、同社營業部長兼協議役たりしが間もなく擧げられて同社常務取締役に就任し以つて現在に至る。

尙ほ傍ら横濱棧橋倉庫株式會社監査役にして、今や我が財界一方の重鎭として知らる、社交に厚く趣味に富み閑日を各種新美術、新藝術品等の愛好に費し、又謠曲乘馬等に堪能なるが如し。

夫人むめ子は福島縣士族全田貞幹君の長女たり、現に東京市芝區三田小山町一番地に住し電話高輪四三一七番なり。

佐野善作君

法學博士　正四位勳三等
東京商科大學長

君は東京府の人佐野忠次郎君の長男にして、明治六年八月二十九日を以つて生る。夙に學に厚く順を追ふて普通教育を卒へ、明治二十八年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業し、直ちに聘せられて同校助教授に就任す。

然して明治三十年商業經濟學研究の爲め英米に留學を命ぜられ、同三十三年其の蘊蓄を積みて歸朝するや同教授に昇進し、幾多學徒の薫陶に盡瘁し明治四十二年更に獨逸に留學を命ぜられ、大正三年同校々長に擧げられ同十年同校が單科大學に昇格するや、同學長に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人きよ子との間に一彦君、英彦君、昌彦君、武彦君及び篤子等あり、現に東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町八三四番地に住し電話四谷一〇〇六番なり。

澤井要一君

從四位勳三等
第八高等學校教授

君は東京府の人宍戸鎰君の長男にして慶應三年五月を以つて生れ、後ち澤井よし子の養子となる。明治十六年外國語學校獨逸語科を卒業し更に專修學校に入りて法律經濟學を專攻せり。

然して明治三十九年獨逸語及び獨逸文學研究の爲め彼の地に留學し、歸朝するや宮内省御用掛、學習院助教授、司法省屬、陸軍大學教授兼學習院教授等を歷任し、從四位勳三等に叙せられ、現に第八高等學校教授として令名あり。

夫人錦子は靜岡縣の人淺香傳次郎君の令妹にして君との間に維一君、十六君及び花重子、よね子、乙女子等あり、現に名古屋市南區熱田町玉ノ井四十一番地に住す。

澤田敬義君

醫學博士
新潟醫科大學教授

君は岐阜縣の人澤田久平君の三男にして、明治六年十二月を以つて生る。夙に學に志し明治三十三年東京帝國大學醫科大學を卒業するや更に獨、墺、英の各國に留學し研鑽を積みて歸朝す。

然して歸朝するや新潟私立竹山病院醫員となり、明治四十三年新潟醫學專門學校教授に任じ、後ち同校昇格して大學となるや同學教授に任ぜられ、現に正五位勳四等高等官二等にして新潟醫科大學教授、同附屬病院長兼内科部長にして且つ普通試驗委員長として知らる。

夫人イヲ子は新潟縣の人竹山正男君の令妹にして君との間に敬一君、義夫君、達夫君、好子、桂子、房子、和子等あり現に新潟市營所通二番町に住す。

齊藤和太郎君

神中鐵道株式會社長

其の昔操觚界に活躍しては其の蘊蓄を傾倒して稀代の健筆を縱横に揮ひ、一度期するありて身を實業界に投ずるや其の天賦の敏腕を斯界に振展して世人を驚嘆せしめ、行くとして可ならざるなき氣骨隆々の士齊藤和太郎君は千葉縣士族和知季治君の長男にして、元治元年五月二十八日を以つて靜岡縣濱松市に生れ先代ヨイ子の養嗣子となる。

君幼にして穎悟神童の名あり、明治十四年千葉縣立中學校を卒業するや青雲の志を抱いて上京し、早稻田大學政治經濟科に入りて研鑽を積み、明治十七年優秀の成績を以つて同科を卒業し直ちに新聞界に身を投じ靜岡大務新聞、都新聞、房總新聞、函館每日新聞等の主筆として聘せられ、其の博大なる靈筆を揮つて社會教化と地方開發とに盡瘁せり。

偶々日本鐵道株式會社長曾我子爵に聘せられて其の下に文書課長兼祕書役を勤め、孜々として同社の發展に盡力したりしが同鐵道が國有に歸するや更に成田鐵道株式會社に入りて同社專務取締役の要職に就任し、愈々君の才幹と敏腕とを發揮して社運の發揚に盡瘁すること十有余年後ち同鐵道が政府に買收せらるゝや更に神奈川縣下に神中鐵道株式會社を創設し、自ら其の社長として能く内外の社務を鞅掌し、今や神中鐵道株式會社は資本

金を八百五十萬圓に增資し、既營業線十四哩の外更に十數哩を延長するの計畫を立て關東に於ける有數の鐵道となり、愈々前途を囑望せらるゝに至れり。

曾つては母校總長故早稻田侯の下に幾多學徒の指導に盡瘁せられ、今また同校評議員會長として令名高し、趣味として謠曲を能くし其の蘊蓄たる蓋し非凡なり且つ盆栽を愛好し斯道に關する尤物も多分に藏せらる、以つて君の人と爲りを察知するに難からざるなり。

夫人喜美世子は長州の漢學者笹田默介君の長女にして內助に厚く其の間に武夫君、文男君、孝夫君、秀夫君及び三千代子、友枝子、和子、房子等あり、現に東京市牛込區南町十四番地に住し電話牛込一三八七番なり。

櫻井寅之助君

從四位勳五等
日本ヒューム株式會社重役
コンクリート

曾つては最高學府に職を奉じて本邦教育界に盡瘁し、今や新興大日本の財界に飛躍して其の雌雄を決せんとする櫻井寅之助君は岐阜縣の人櫻井磯右衞門君の二男にして、明治三年八月五日を以つて同縣山縣郡保戸島村に生る。

夙に岐阜縣師範學校を卒ふるや直ちに東京高等師範學校に入學し、明治二十八年最優秀の成績を以つて同校を卒業し、更に進んで東京帝國大學工科大學化學科に學び、斯學の研鑽を積むこと數年後ち東京高等師範學校教授を拜命し、兼ねて同校生徒監及び幹事等を歷任し明治四十一年米澤高等工業學校教頭に任ぜられ、在職中工業教育視察研究の爲め歐米各國に留學を命ぜられ、滯留すること二ヶ年造詣を深くして歸朝す。

其の後ち感ずるところありて斷然教職を擲ち實業界に投じ、聘に應じて淺野セメント株式會社に入社し、大正十二年我が財界の巨星と目せられし故和田豐治、伊藤傳七兩氏の計畫になる四日市セメント株式會社の創立に參畫して敏腕を振ひ大正十四年十一月淺野系統たる日本ヒュームコンクリート株式會社の創立に盡瘁し、其の設立を見るや推されて同社重要の地位を占めて能く內外の社務を鞅掌し今や新日本財界の第一線に活躍して其の前途洋々たるものあり。

夫人むら子は岐阜縣の人小坂三十郎君の四女にして其の間に一女純子あり、婿養子勇太郎君は京大理科の出身にして目下慶應義塾大學醫科レントゲン科教授として新進の學理を說き錚々の名あり、現に東京市外大井町四七二六番地に住し電話大森六六八番たり。

齊藤虎五郎君

橫濱興信銀行專務取締役

勳六等齊藤虎五郎君は群馬縣の人齊藤松五郎君の四男にして、明治十一年七月二十八日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、明治三十八年東京帝國大學法科大學英法科を卒業して直ちに日本銀行に入り、國庫局に勤務せしが後ち大阪、函館、名古屋各支店を經て本店調査局長、營業局長代理等を歷勤せり。

偶々大正九年十二月橫濱興信銀行の創立せらるゝに際し、時の日銀總裁井上氏の推薦に依り同行に入り、同行專務取締役に就任し現に其の任にある外共益不動產株式會社取締役、橫濱復興信用組合副組長等の要職にあり、文學、歷史、觀劇政治等に趣味を有し、殊に和歌に堪能にして竹柏會同人として知らる。

夫人まつ子は長野縣の人鹽川仁助君の長女にして女子學習院を卒業し其の間に道雄君及び愛子、武子、千代子、菊子、信子等あり、現に東京市芝區白金猿町六一番地に住し電話高輪一九六五番なり。

澤野定七君

濟生信託株式會社長

君は兵庫縣の人澤野定七君の長男にして、明治八年十月を以つて生れ前名久吉を改稱す。現に神戶市會議員にして、且つ濟生信託株式會社々長及び神戶演劇株式會社專務取締役たる外株式會社日本商業銀行、日本毛糸紡績、山陽皮革、日本羽二重、神戶電氣製作所、日本米穀、神戶醋酸工業、日本製鐵各株式會社監査役として神戶財界に令名高し。

夫人あい子は京都府の人田中良之君の三女にして君との間に五男四女ありて定良君、彥三郎君、定雄君、道夫君及び靜枝子、久榮子、正榮子、澄榮子等なり、現に神戶市兵庫磯之町一五番地に住し電話本局五〇三番なり。

佐野會輔君

正五位勳三等功五級　陸軍主計監
陸軍經理學校長

當家は靜岡縣田方郡中鄕村中島に於ける累代の鄕士として知られし名家にして君は先代佐野彌七君の長男にして明治七年四月二十四日を以つて生る。

夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し明治三十五年東京帝國大學法科大學獨法科を優秀の成績を以つて卒業し、同三十七年陸軍二等主計に任じ、大正十三年陸軍主計監に陞進せり。爾來獨逸國駐在員陸軍省經理局員、第十五師團經理部長、第一師團經理部長等を歷任し、大正十五年三月陸軍經理學校長に榮補し以つて現在に及ぶ。

趣味廣く就中謠曲、大弓、撞球等に堪能なるが如し、夫人鎭子は東京府士族渡邊永年君の二女にして其の間に一郎君及び喜美子、芳子、信子、富士子、豐子、德子等あり、現に東京府豐多摩郡中野町桃園三三三〇番地に住し電話中野五六四四番たり。

佐藤英夫君

日本起重機會社專務取締役

君は長崎縣士族松尾義暉君の二男にして、明治十八年四月を以つて生れ後ち先代俊八郎君の養嗣子となる。夙に第五高等學校工學部を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に前記會社の專務取締役たる

外北海毛皮株式會社取締役にして且つ佐藤製作所、佐藤商會主として諸機械製作に專念たり、曩に黑板工業所支配人兼技師たりしことあり。

夫人婦美子との間に一男三女あり、現に東京市麻布區廣尾町五九番地に住す。

佐藤實君

鳳至銀行頭取
能登新聞社長
衆議院議員

夫れ、北陸青年の意氣や尊く、日本海の雄大なる流れを汲みし彼等青年の慨たる宛然燃えて烈火の如し。今や日比谷原頭一輪の明花と謳はれ、其の政論と其の熱辯とは、正に北陸青年を代表して恥ぢざる少壯政治家を我が憲政會代議士佐藤實君となす。

君は是等青年の意氣と決心とによりて擁立せられ、遂に敢然起つて馬を陣頭に進め「北陸青年の意氣と誇りは此の一戰にあり」の標語の下に、日本海上逆卷く怒濤を物ともせず、蹴つて飛ばして奮戰大いに努め、久しく政友會全盛、黃金時代の夢を破つて愈々憲政會の旗幟を宙天に翻がへして北陸青年の興望を擔ふに至り、今や中央政界の一異彩として其の令名や高し。

君は石川縣の人佐藤勝太郎君の長男にして、明治二十一年十月一日を以つて生る。夙に鄕里の七尾中學校を優秀の成績を以つて卒業するや笈を負ふて東上し、早大政治科に學び後ち歸鄕して穴水町長として町政に參與すること六ケ年、其の功績顯著なりしが後ち之を辭し、現に前記の諸職にある外七尾商工銀行取締役にして地方財界及び中央政界の重鎭として令名嘖々たり。

夫人をたつ子と稱し石川縣の人北濱亮太郎君の長女にして、石川縣立第二高等女學校を卒業し君との間に正直君、正也君及び芳子等あり、現に石川縣鳳至郡穴水に住し電話三五一番たり。

佐野利器君

工學博士　正五位勳四等
東京帝國大學工學部教授

我が學界の恩人就中建築學の泰斗として令名高き、佐野利器君は山形縣の人山口文吾君の令弟にして、明治十三年四月を以つて生れ後ち先代誠一郎君の養嗣子となる。

明治三十六年東京帝國大學工科大學建築科を卒業するや、更に大學院に入りて研鑽を積み、明治三十九年同學助教授に任ぜられ同四十三年建築學研究の爲め歐米に留學し造詣を深くして歸朝し、大正四年工學博士の學位を授與せらる。

然して大正七年東京帝國大學工學部教授に任ぜられ同十年宮內技師を兼任し、現に同大學工學部教授として令名高し、曾つて故中村是公君の東京市長時代に推されて、東京市建築局長事務囑託たりしことあり。

夫人ませ子との間に啓一君及び芳子、千代子、靜子、正子等あり、現に東京市小石川區駕籠町一六〇番地に住し電話小石川一五四七番なり。

坂仲輔君

藤田銀行監査役
藤田鑛業株式會社長

君は山口縣の人坂新一君の長男にして明治三年一月を以つて生る。夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業し、明治二十八年文官高等試驗に登第し後ち身を官界に投じ、爾來會計檢査院書記官兼檢査官補、內務大臣祕書官兼內務省參事官、愛知、神奈川各縣事務官、茨城、石川、新潟各縣知事等を歷任し從四位勳三等に叙せらる。

然して後ち感するところありて官界を辭して實業界に投じ、現に前記諸職にある傍ら大阪亞鉛鑛業、厚昌鑛業各株式會社の取締役にして且つ合名會社藤田組總理事として知らる。

夫人ツタ子は山口縣の人中尾熊助君の長女にして君との間に愛子、悅子及び熊子等あり、大阪市東區仁右衞門町五八番地に現住し電話南二六九一番なり。

實吉純郎君

醫學博士　正五位
高輪病院長

當家は現戶主子爵實吉安純君より其の家名を擧ぐ。安純君は舊鹿兒島藩士にして、夙に海軍々醫となり明治二十四年醫學博士の學位を授けられ、海軍々醫總監の榮職を歷任して後ち軍職を辭せり。其の間海軍々醫學校教授、同校長、海軍衞生會議長、中央衞生會長等を歷補し、彼の日露戰役の功に依り子爵を授けられ、現に貴族院議員たり。

君は子爵安純君の長男にして、明治十二年六月九日を以つて生る。明治四十年東京帝國大學醫科大學を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに東京慈惠會病院に勤務せしが、間もなく推されて高輪病院長となり現に其の任にありて、今や東都刀圭界に其の令名嘖々たり。

夫人あや子は福岡縣士族稻垣徹之進君の長女にして、君との間に純一君、安彥君、郁君、純彥君、隆君及びぬい子、てる子等あり、現に東京市麻布區東鳥居坂九番地に住し電話青山五八五九番たり。

齋藤浩介君

久原商事株式會社專務取締役

我が實業界の重鎭として令名嘖々たる齋藤浩介君は、大阪府の人齋藤幾太君の長男にして財界の巨頭久原房之助君の甥君に當り、明治十四年七月を以つて生る。

夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校に學び、明治三十七年優秀の成績を以つて同校を卒業するや直ちに實業界に投じ、活躍大いに努め現に久原商事株式會社專務取締役たる外大正海上火災保險、久原鑛業、鴻池銀行、北辰會各株式會社の重役として知らる。

夫人清子は島根縣士族堀藤十郎君の令姉にして其の間に茂君、健君、淳君、保君等あり、現に東京市四谷區傳馬町一ノ

四一番地に住し電話四谷三〇四〇番なり

左右田棟一君

左右田銀行專務取締役
都南貯蓄銀行頭取

横濱に於ける財界の巨星を左右田棟一君となす、君は愛媛縣の人鈴木禮作君の三男にして、明治九年四月十日を以つて生れ同三十七年神奈川縣の人左右田金作君の養子となる。

明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに實業界に入り、現に令兄喜一郎君を援けて左右田銀行專務取締役たる外都南貯蓄銀行頭取、大平生命保險、大平火災海上保險各株式會社々長にして且つ横濱商品倉庫株式會社重役として知らる。

夫人靜子は養父金作君の長女にして跡見高等女學校の卒業なり、君との間に長男武夫君、二男俊夫君及び長女智惠子、二女壽美子、四女秀子、五女峯子等あり現に横濱市南仲通一ノ二番地に住し電話五七三番なり。

酒井忠正君

伯爵　正五位
貴族院議員

當家は清和天皇の皇孫源經基の男雅樂頭酒井廣親の後なり、五代河内守重忠武州川越藩主となり後上州に移封し、更に播州姫路に移り爾來十數代を經て先代忠興君に至り明治十七年伯爵を授けらる。

現伯爵忠正君は伯爵阿部正直君の令弟にして明治二十六年六月を以つて生れ、後ち先代忠興君の養嗣子となり大正八年十月襲爵仰せ付けらる。

大正九年司法大臣秘書官に任ぜられ同十二年九月貴族院議員に互選せられて議政府に列し華冑界の新人として知らる、尚ほ東京府多額納稅者にして現に直接國稅四千六百四十余圓を納む、趣味として書畫、骨董あり、其の鑑識力非凡なるが如し。

夫人秋子は養父忠興君の長女にして學習院女學部の卒業たり、現に東京市小石川區原町一二番地に住し電話小石川五七九番なり。

佐々木隆興君

醫學博士　從六位
杏雲堂病院長

君は東京府の人佐々木東溟君の二男にして明治十一年五月五日を以つて生れ、同二十七年六月佐々木政吉君の養嗣子となる。

明治三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業するや、間もなく聘せられて京都帝國大學醫科大學教授に任じ、幾多學徒の教養に盡瘁したりしも後ち教職を辭して養父政吉君の經營に係る杏雲堂病院長として一般の診療に從事し、今や東都刀圭界に令名高し、先是明治四十五年醫學博士の學位を授與せらる。

夫人りき子は故貴族院議員渡邊廉吉君の三女にして其の間に洋興君及び貞子、京子、洛子、美都子等あり、現に東京府

下中野上ノ原八百十二番地に住し電話四谷一九三一番たり。

櫻井小太郎君

工學博士　正五位勳四等

君は舊金澤藩士櫻井梅室君の令孫たり梅室君は俳句に堪能なりしを以つて謳はれ、其嗣子能監君後を繼承して內務省、宮內省等に職を奉じ、內大臣秘書官、小松宮家別當の要職にありしが、明治三十一年病を得て沒す。

君は明治三年九月十一日を以つて生れ明治二十四年英國倫敦大學に於て建築學を專攻し、業を卒へて歸朝するや、海軍技師として呉、横須賀各鎭守府に勤務すること久しかりしが、大正元年三菱合資會社に入り地所部技師長に就任す。

然して大正十二年同社を辭して櫻井建築事務所を創立して其の經營に當り、現に東京丸ノ內ビルディング六階に於て一般建築事務に從事し東都有數なる建築士として知らる。先是大正四年工學博士の學位を授けらる、讀書、能樂、繪畫等に趣味を有すといふ。

夫人を範子と呼び子爵日野西光善君の四女にして華族女學校の卒業たり、現に東京市牛込區市ヶ谷仲町二一番地に住し電話牛込四一四五番なり。

坂本作平君

函館商業會議所副會頭
小川合名會社長

君は石川縣の人坂本市郎君の三男にして、明治八年四月を以つて生る。少壯の時代より函館に渡り、明治二十三年函館商業學校に學び、同二十六年半途にして學を廢し、遠く擇捉島に渡りて漁業に從事せり。

偶々主人小川彌四郎氏が露領ニコライスクに於て漁業を始むるや同地に赴き、露語研究の傍ら漁業監督の任に當り更に明治三十四年小川家の米穀問屋を創むるに際し選ばれて其の營業主任となり、同四十四年小川合名會社を組織するに當り樞要の地位を占め、後ち主人歿するや其の代表社員に擧げられ事業を繼承し以つて今日に及ぶ。

君又推されて函館商業會議所副會頭に選ばれ現に其の任にあり、且つ北海道多額納稅者にして、現に直接國稅二千三百四十余圓を納むといふ。

夫人をエイ子と呼び北海道の人富原ミネ子の長女たり、現に函館市幸町九番地に住し電話六四六番なり。

澤田正二郎君

藝術家　新國劇代表者

新興日本の產みし我が劇壇の新人澤田正二郎君は、滋賀縣の人澤田正弘君の二男にして、明治二十五年五月二十七日を以つて彼の天惠豐かなる琵琶湖畔に生る慈父賢母の限りなき愛情に加ふるに、彼の幽邃淡雅なる大自然は早くも君をして文藝の人たらしめ、年齒僅かに十七歲にして俳優を志して上京し、早稻田大學文科に入るや在學中已に坪內逍遙博士の經

營する文藝協會に入りて專心新劇の研究に身を委ね、更に故島村抱月師の藝術座に入り、且つ新時代劇協會の會員として演劇の研鑽を積むこと久し。

斯くて獨立の機運熟するや獨力新國劇を組織してその主宰者となり、君が多年の經驗と天禀の才幹とを發揮して劇壇に臨みしかば、忽ちにして名聲を博し、今や東洋劇壇の雄として前途を囑望せらるゝに至りぬ。「苦闘の跡」「折伏の日蓮」等の著書ありて何れも名著たるを失はず

現に東京市本所區向島洲崎町八九番地に住す。

齊藤眞徴君

正五位勳四等
鐵道省監督局長

君は岐阜縣士族國井清廉君の三男にして、明治十三年一月を以つて岐阜縣笠松に生れ同三十七年齊藤家を繼承せり。

夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し研鑽琢磨、明治三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し、更に大學院に入りて斯學を專攻し業成るや身を官界に投じ、帝國鐵道廳書記を拜命し爾來同廳參事、鐵道局參事、福島運諭事務所長、仙臺鐵道局運輸課長、鐵道省運輸局配車課長、鐵道監察官、札幌鐵道局長等を歷任し、大正十五年七月鐵道省監督局長に榮轉し以つて現在に及ぶ。

趣味として謠曲、弓術等あり何れも堪能なるが如し、夫人光子は岐阜縣の人吉田貫三君の三女にして其の間に敏彦君、明夫君、治夫君、達夫君及び不二子、敬子等あり、東京府荏原郡調布村下沼部五六番地に現住す。

左右田喜一郎君

法學博士
左右田銀行頭取

君は神奈川縣の人左右田金作君の長男にして、明治十四年二月を以つて生る。

曩に東京高等商業學校本科を卒業し、次いで同校專攻部銀行科に入り、明治三十七年同科を卒ふるや同年直ちに英國ケンブリッヂ大學に入り、翌年獨逸に留學してフライブルヒ大學に入り、經濟學特に貨幣論並に哲學を專攻し、更にテューリンゲン大學に於てドクトル、デル、スタートッ、ウイッセンシャフテンの學位を得て大正三年歸朝す。

大正五年法學博士の學位を受け現に前記銀行會社の頭取及び社長たる外横濱興信銀行、日興證券、大平火災海上保險、大平生命保險各株式會社の重役として知られ又推されて横濱商業會議所議員となり、尙ほ東京商科大學、京都帝國大學各講師として知らる、神奈川縣多額納稅者にして現に其の直接國稅壹萬七百餘圓を納むといふ。

夫人直子は伯爵上杉憲章君の令妹たり現に横濱市南仲通一ノ二番地に住し電話一四五番なり。

笹川種郎君

文學博士　著述家

君は舊幕臣笹川義潔君の長男にして明治三年八月七日を以つて生る。嚴父義潔君は內務省に職を奉じ大阪、愛知、岐阜三重、廣島、岡山各府縣廳を歷勤せし關係上君又父君に從ひて各地に轉住し、明治十八年愛知縣立中學校を卒業するや東京英語學校に學び、後ち第三高等學校を經て明治二十九年東京帝國大學文科大學歷史科を卒業す。

然して卒業後は毛利公爵家に入りて維新資料編纂に從事し二ヶ年の日子を費やして之を完成し、同三十四年栃木縣立宇都宮中學校長に任ぜられしも、後ち之を辭して三省堂發行の大日本百科辭典編纂に從事し、曩に明治大學、法政大學、專修大學等に教鞭を執り、又明治大學に職を奉じて同學商學部教授、高等豫科長等を歷勤せり。

君は號を臨風と稱し歷史に關する著書頗る多く、大正十三年文學博士の學位を授與せらる、音樂、旅行、觀劇等を好み江戸趣味讃美家の一人なりといふ。

夫人をとよ子と稱し君との間に二男一女あり義郎君、俊夫君及び雪子と呼ぶ、現に東京市本鄕區西片町一〇番地に住し電話小石川四五八一番なり。

佐藤三郎君

中外商業新報社取締役編輯局長

君は千葉縣の人佐藤小六君の三男にして、明治八年一月十三日を以つて生る。

夙に鄕校を卒ふるや靑雲の志を抱いて東上し、研鑽琢磨、明治三十三年東京專門學校政治科を優秀の成績を以つて卒業す

然して早稻田大學出版部に入りしも後ち東京朝日新聞社の聘に應じて同社記者となり、更に同四十一年中外商業新報社に轉じ爾來同社の發展に盡瘁すること甚大、累進して大正四年編輯局長に任じ同社取締役に擧げられ以つて現在に至る、傍ら傷害保險株式會社評議員たり。

夫人チヨ子は東京府士族秋本俊輔君の長女にして君との間に謙一君、謙二君、英三君及び悅子、町子等あり、現に東京市芝區二本榎町西二番地に住し電話高輪四九六番なり。

櫻井伊兵衞君

貴族院議員
群馬縣多額納稅者

君は群馬縣の人先代伊兵衞君の長男にして、明治二十年十一月を以つて生れ、明治二十九年十月家督を相續し前名德太郎を改めて襲名す。

當家は群馬縣多額納稅者として知られ現に直接國稅五千六百三十余圓を納む。現に貴族院議員として議政府に列する外上州銀行、大日本特許肥料、上州絹糸紡績、高崎板紙、七十四銀行、横濱興信銀行各株式會社の重役たり。

夫人ヨシ子は栃木縣の人川島藤左衞門君の令妹にして淑德の譽れ高し、現に群馬縣高崎本町三番地に住す。

柵瀬軍之佐君

勳四等　衆議院議員

君は岩手縣の人柵瀬信六郎君の三男にして、明治二年一月十四日を以つて岩手縣は西磐井郡中里村に生る。明治二十二年央央大學を卒業するや山梨日々新聞主幹、東京輿論新誌、東京毎日新聞等の記者たりしが同二十五年韓國に渡りて防穀令事件の眞相を調査し、歸朝後北國新聞を刊行し更に雜誌「精神」の編輯に從ひしが明治三十一年決然實業界に投ず。

爾來大倉組臺灣支店支配人となり更に臺灣に於ける各種事業會社に關係し朝鮮製莚、臺灣商工銀行、臺灣採籐、新竹電燈、帝國製糖、臺灣土地建物、臺灣製麻朝鮮紡績、北海道製糖、東洋硫黄、東印度起業、臺灣軌道、朝鮮製粉、臺灣製紙臺北鐵道、嘉義電燈、日本紡績工業、北海道殖産、新竹製糖、大平洋炭礦、臺灣貯蓄銀行、臺北輕鐵炭礦、日本電氣興業臺灣商事、木村商事、帝國紙器、電力企業、比律賓産業、滿洲製粉、立山電力、富士毛織、第一土地建物等三十餘會社の重役として我が財界に知らる。

曩に岩手縣郡部より推されて衆議院議員に當選すること前後數回、憲政會内閣の出現と共に商工政務次官に任命せられ昭和二年四月政友會内閣成るや之を辭し現に衆議院議員として院の内外に重きをなす。

夫人をみき子と呼び内助の譽れ高し、現に東京市四谷區大番町七七番地に住し電話四谷四四一〇番なり。

佐藤五百巖君

十五銀行常務取締役
國際信託株式會社取締役

君は舊水戸藩士佐藤奉君の長男にして明治五年九月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに實業界に投じ、十五銀行に入りて恪勤精勵、明治三十八年選拔せられて歐米銀行業視察に赴き歸朝するや同行副支配人に就任し、現に同行常務取締役にして且つ國際信託、泰昌銀行、帝國倉庫各株式會社の重役として知らる。

夫人とく子は神奈川縣の人江尻勝藏君の二女にして其の間に雄君、光弘君及びるり子、高子等あり、東京市外下澁谷一五一五番地に現住し電話高輪五五一二番たり。

佐々木耕雲君

共榮電機商會社長

君は福岡縣の人佐々木機紀君の二男にして、明治八年三月八日を以つて福岡縣築土郡唐原村に生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、日本法律學校に入りて研鑽を積み後ち實業界に志し、東京電氣株式會社に入社して同社販賣課長、出張所長等を經て參事に擧げられ、恪勤精勵同社の發展に盡瘁すること實に二十有余年の久しきに及びぬ。

然して大正十一年十月同社を辭して獨力共榮電機商會を興して一般電氣器具機械類の製作販賣に從事し、偶々彼の大震

火災に逢着して東都烏有に歸するや、君は愈々万難を排して事業の大擴張を企圖し、帝都復興に貢獻せんとの大志を抱き決然として從來の營業所を廢して丸ノ内ビルディングに移轉し、爾來着々として堅實なる地歩を開拓して漸次斯界に信望を博し、今や東都同業界の白眉を以つて目さるゝに至れり。

夫人スミ子は東京府士族清水貫一郎君の長女にして東京女子美術學校の卒業たり、現に東京市麻布區東町二八番地に住し電話高輪六六七八番なり。

佐久間俊一君

伯爵　正四位
七十七銀行取締役

當家は先代左馬太より顯はる、左馬太は舊山口藩士にして明治二年陸軍大尉となり同三十一年陸軍大將に累進す。其の間第十旅團長、第二師團長、中部都督、臺灣總督等を歷任し同二十八年勳功に依り特旨を以つて華族に列し、男爵を授けられ同四十年伯爵に陞る、

君は其の三男にして明治九年二月を以つて生れ大正四年家督を相續し爵位を付けらる。夙に第二高等學校に學び現時は前記銀行及び仙北輕便鐵道、東洋釀造各株式會社の重役として知らる。

夫人正子は石川縣の人勝尾信彦君の令妹にして其の間に秀明君及び美子、靜子文子、房子、光子等あり、現に仙臺市北町二番地に住す。

山東誠三郎君

侯爵德川家財務部長

君は和歌山縣士族山東重成君の三男にして、明治二十一年八月二十五日を以つて生る。大正二年慶應義塾大學を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに英國に留學して倫敦大學に學び大正五年同學を卒へ、造詣を深くして歸朝す。

然して大正八年萬國勞働會議に日本代表委員として出席し、更に同十年德川侯に隨ひ歐米各國を視察し、歸朝後同家財務部長の要職に就き以つて現在に及ぶ、曾つて旭セメント株式會社監査役たりしことあり。

夫人登喜子は淺野嘉吉君の五女にして跡見高學女學校を卒業し、君との間に長男宏君及び長女重子等あり、現に東京市麻布區飯倉町六ノ一四番地に住し電話青山六二八八番なり。

澤柳政太郎君

正四位勳二等
貴族院議員

文學博士澤柳政太郎君は長野縣士族澤柳信任君の長男にして、慶應元年四月を以つて生る。明治二十一年東京帝國大學哲學科を卒業するや直ちに文部省に出仕し、同二十三年文部書記官に翌年文部大臣秘書官兼文部書記官に任ぜらる。

爾來京都府大谷尋常中學校、群馬中學校長、第二高等中學校長、第一高等學校長等を歷任し同三十年文部省普通學務局長に轉じ、高等商業學校長事務取扱、高

等師範學校長等を兼任し同三十四年兼官を免ぜらる。

然して壁年獨逸國開備の東洋學會に參列し、歸朝後文部次官、高等商業學校長東北帝國大學總長、京都帝國大學總長等を歴任し又高等教育會議員、臨時博覧會事務局、日本大博覧會各評議員に任じ、大正三年官を退き同年文學博士の學位を受け後ち成城中學校長に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人をはつ子と呼ぶ、現に東京市外高田旭出町四三番地に住し電話牛込三九三番なり。

齊藤金吾君

山形の銅像翁　土地の恩人

衆議院議員

處はいづこ、名にし負ふ東北連峰白雪櫻花の香に匂ふ山形の天地、如何に千載の雪は消え失せ、櫻花の香ほりは消ゆるとも、銅像翁の其の名は、永く後世に傳はり傳はらん、そも〳〵その名は果して何人にて候、これぞ我が憲政會代議士齊藤金吾翁その人にて候。

顧みるに、其の去んぬる永き人生行脚の體驗より得たる、君の全生活の象徴として、その博學にして、且つ光輝ある德と熱情とは、會談自らにして畏敬の念を抱かしめ、正に凡輩を超越した聖人の如く、土地つ子の君を生神樣の如く尊敬する又宜なりと謂ふべし。

君は永く地方自治に參與し、村長、郡會議員、縣會議員等を歴任して能く農村開發、教育振興等に盡瘁し其の貢献するところ蓋し甚大、而も青年後輩を誘掖すること又切なりといふ。

於茲哉土地の有志相謀り、君の功勞を表彰して永く後世に遺すべく、銅像を建設し併せて左記の如き趣旨の記念碑を建立せり。

「齊藤金吾君山形縣西田川郡榮郷人明治二十四年郡制之行也選爲郡會議員數兼議議長及參事會員在職三十三年以興郡制終始至誠一貫功績最著町郷自治制之行也爲郷助役尋爲郷長以迄于今其間三爲縣會議員兼參事會員君資性亮直處事敏妙而能容衆議人服其雅量清露之二役率先献資竭力叙勳七等授青色桐葉章其他賑恤捐資不可勝數邑人感德合議醵建頌德碑今茲癸亥官廳郡制於是郡民胥謀欲酬積勞鑄造銅像建之郡衙側遠近贊斯舉者凡千餘人德望之盛可以見矣」

然して大正十三年の總選擧に際し、多數縣民の輿望を擔つて立候補を宣するや殆ど敵も味方も相呼應して君に榮冠を獲得せしめ、今や中央政界に殘花の香ほり粉々として匂ふ、君の得意や思ふべし。

而も齢既に老境に入れりと雖も其の志氣や壯、宜しく自重自愛以つて邦家の爲め有終の美を納められん……ことを吾等は祈つて止まず。

澤全雄君

旭鹿工株式會社長

君は舊會津藩士澤全秀君の長男にして明治七年十二月を以つて生る。明治二十九年東京高等工業學校應用化學科を卒業するや、直ちに實業界に身を投じ、現に旭鐵工株式會社々長たる外大日本製糖株式會社取締役技師長、大日本氷糖株式會社取締役として知らる。

曩に明治三十七八年日露の役に出征して戰功を立て功五級金鵄勳章を賜ふ、尚ほ從七位勳五等にして退役陸軍歩兵中尉たり、現に東京市小石川區原町六十一番地に住し電話小石川五二二五番なり。

酒井忠克君

伯爵　從四位

貴族院議員

當家は源氏の裔酒井廣親の二男備後守正利の後なり、正利の子忠勝德川家に仕へて若州小濱の城主となりそれより十二世を經て先代忠道君に至る、忠道君嘗て小濱藩出仕を仰せ付けられ功に依り明治十七年伯爵を授けらる。

君は其の長男にして明治十六年十一月を以つて生れ、大正九年家督を相續し爵仰せ付けらる。曩に式部官兼主猟官たりしが大正十三年十二月之を辭し、同十四年七月貴族院議員に互選せられ今日に至る、尚ほ東京府多額納税者にして現に直接國税五千七百餘圓を納む、趣味として庭球あり其技頗る妙なりといふ。

夫人を喜美子と呼び其の間に長男忠博君及び長女美枝子、二女小枝子、三女香枝子、四女壽枝子等あり、現に東京市牛込區矢來町一番地に有し電話牛込三二八番なり。

佐々木長治君

衆議院議員

二十九銀行取締役

新進代議士としてその前途多望なる佐々木長治君は愛媛縣の人佐々木長治君の長男にして。明治二十七年二月十日を以つて生れ、大正三年五月家督を相續して名聲を改稱す。

大正五年東京高科大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に二十九銀行、日東ゴム、伊豫貯蓄銀行各株式會社の重役にして又曩に財團法人佐々木愛郷會、私立伊豫實踐農學校等を創立し、青英事業地方開發に盡力し、大正十三年五月郷黨より推されて衆議院議員に當選す。

夫人をマツ子と呼び内助の譽れ高し、現に愛媛縣西宇和郡伊方村内港浦町に住す。

酒井忠亮君

子爵　從三位勲三等　貴族院議員

東華生命保險株式會社長

當家は德川四郎義季の末裔酒井忠稠の後にして、忠稠越前敦賀の城主となり後ち七代を經て忠經君に至る。君は其の長男にして明治三年十月を以つて生れ、明治十五年家督を相續し明治十七年華族に列し子爵を授けらる。

夙に學習院高等科を卒へるや東京帝國大學法科大學に學び、後ち一年志願兵として入隊し陸軍歩兵少尉に任ぜられ、同三十四年貴族院議員に互選せられ研究會

に屬し、現に研究會の幹部として我が國議政府に列して聲名あり。

尙ほ前記會社の社長たる外横濱新港倉庫、丸之内銀行、横濱正金銀行、淺野物産各株式會社の重役として財界に令名あり、尺八の達人にして又銃獵の名人なりといふ。

夫人卯子は子爵松井康昭君の叔母君に當り其の間に忠英君、義夫君等あり、現に東京市牛込區矢來町三番地に住し電話牛込六六番なり。

佐藤昌介君

農學博士
北海道帝國大學總長

君は岩手縣士族佐藤昌藏君の長男にして、安政三年十一月を以つて生る。明治十三年札幌農學校を卒業し、更に私費を以つて米國に留學しジョンス、ホプキンス大學に學び、歸朝後は開拓使御用掛、札幌農學校教授兼幹事、同學總長等を歷任し、曩に歐洲に航して大正三年歸朝し以つて現在に及べり。

夫人ヤウ子との間に二男あり、現に北海道札幌苗穗町に住す。

齋藤善八君

實業家

埼玉縣の素封家として令名高き齋藤善八君は、同縣の人齋藤善兵衛君の三男にして、慶應二年五月十二日を以つて生れ明治三十三年八月家督を相續す。

當家は先々代より呉服商を營み埼玉縣下に於ける屈指の實業家として知られ、且つ多額納稅者にして現時直接國稅三千九百余圓を納め貴族院議員に選ばるゝこと前後二回に及び、尙ほ埼玉縣農工銀行武州銀行、武州貯蓄銀行、岩槻自動車各株式會社の重役にして且つ岩槻信用組合長、埼玉縣共濟會理事兼評議員として令名あり。

又嘗つて粕壁稅務署宅地賃貸價格調査委員、同營業稅審査委員、岩槻電氣軌道及埼玉電燈各株式會社の社長たりしことあり、書畫骨董に趣味深しといふ。

夫人彌生子は埼玉縣の人河田欣三郎君の三女にして三輪田高等女學校を卒業し君との間に長男榮一君、二男寅男君、三男三男君、四男大八君、五男正郎君、六男鳳君及び長女龜子、二女田鶴子、三女喜美子等あり、埼玉縣南埼玉郡岩槻町に現住し電話岩槻二番二〇番二九番なり。

佐藤源治君

株式會社岩井商店專務取締役

君は佐藤源太郎君の二男にして同源四郎君の令弟に當り、明治十一年十二月三日を以つて生れ、同四十四年九月分家して一家を創立す。

夙に實業界に雄飛せんと志し就中君の最も熱望せる株式界に活躍せん爲め、明治三十九年紅葉屋商店に入りて恪勤精勵すること七ヶ年、更に望月商店に轉じ大正九年同店を辭し株式會社岩井商店を創立して同店專務取締役に就任し、今や我が株式界に於ける重鎭として知らる。

夫人庄子は東京府の人細野光春君の二女たり、現に東京府北豐島郡西巢鴨宮仲二二八八番地に住し電話小石川四三五二番なり。

齋藤安雄君

勳四等　貴族院議員
埼玉縣農工銀行頭取

帝國地方財界の重鎭齋藤安雄君は埼玉縣の人齋藤雄之助君の長男にして、慶應元年六月を以つて生れ明治十二年家督を相續すると共に前名慶之助を改稱す。

夙に埼玉縣立師範學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、曾つて埼玉縣會議員衆議院議員に當選し且つ埼玉縣多額納稅者にして、現に直接國稅千百余圓を納め大正十四年貴族院議員に當選するの榮譽を擔へり。

現に前掲の諸職にある外深谷銀行頭取武州銀行、武州貯蓄銀行、松本米穀製粉各株式會社の取締役として地方財界に令名高し、趣味として園菲に堪能にして又書畫を愛好すといふ。

夫人ツネ子は埼玉縣の人新井鬼司君の令妹にして淑德の譽れ高し、現に埼玉縣大里郡中瀨町に住す。

佐竹三吾君

法學博士　貴族院議員

從四位勳三等法學博士佐竹三吾君は岐阜縣の人佐竹柳三郎君の長男にして、明治十三年三月五日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、明治三十八年首席を以つて東京帝國大學法科大學獨法科を卒業す。

然して官界に身を投じ翌三十九年法制局參事官に任ぜられ、明治四十一年南滿洲鐵道株式會社に聘せられて同社理事となり、同四十五年鐵道院參事に任ぜられて監督局總務課長たりしが後ち大阪市電鐵部長となり、更に法制局長官に任じ大正十三年六月之を辭し、現に貴族院議員の要職にあり。

夫人秀子は兵庫縣の人久保田貫一君の四女にして其の間に俊一君、浩君等あり現に東京市小石川區駕籠町二一九番地に住し電話小石川七三三〇番なり。

佐雙定雄君

男爵　正五位

當家は先代佐双佐仲君より顯はる、佐仲君は舊金澤藩士堀尾次郎兵衛君の三男にして、同藩士佐双久右衛門君の後を繼ぐ、夙に海軍に志し累進して海軍造船總監に陞る。其の間海軍省軍務局第三課長兼造船監督、海軍艦政本部第三部長、海軍技術會議々員等を歷任し、明治三十二年工學博士の學位を授與せらる。

君は其の長男にして明治二十四年二月を以つて生れ、同四十年嚴父佐仲君の勳功に依り華族に列し男爵を授けらる。大正六年東京帝國大學工科大學造船科を卒業す、現に東京市赤坂區青山北町七ノ二番地に住し電話青山七〇六四番なり。

澤田利吉君

南尻別電氣株式會社長
衆議院議員

君は北海道の人にして明治十二年八月七日を以つて壽都郡松内村に生る。當家は同地方屈指の資産家にして亦名望家を以つて謳はる。君は若年にして實社會に身を投じ、彼の聞くも身震ふ北海の吹雪に直面し、荒れ狂ふ波瀾と戰つて今日の基礎を築き上げたり。

其の冒險にして而も幾多の難關に鍛へ上げたる君の頭腦や明晰にして英敏、學歴淺しと雖も其の體驗的識見や高し、而して僅かに三十二才にして既に村會議員となり村政の爲めに盡瘁し、後ち南尻別電氣株式會社を創立して自ら其の社長に任じ、地方産業發展の爲めに盡瘁するところ甚大、從つて同地方民よりの信望頗る厚く其の勢力たるや大にして終に道會議員に推薦せられ、更に大正十三年の總選擧に際し逐鹿場裡に奮戰して當選の榮譽を擔へるは、實に君が德望の然らしむるところ其の名聲眞に掬すべきものあり

君は資性溫厚にして剛健而も一度決すれば必ず是を斷行せざれば止まざるの氣概あり、其の今日ある眞に偉大なりと云ふべし、現に北海道壽都郡黑松内村に住す。

佐藤鋼次郎君

豫備陸軍中將

君は舊尾州藩士佐藤安信君の長男にして、文久二年四月を以つて生る。明治十六年陸軍士官學校に入り、獨逸に留學せしことあり、明治十九年陸軍砲兵少尉に任じ、大正五年陸軍中將に陞る。

其の間教育總監部、參謀本部各出仕、攻城砲兵司令部々員、旅順要塞參謀長、陸軍大學校教官、下關要塞砲兵聯隊長、重砲兵第五聯隊長、支那駐屯軍司令官、重砲兵監等を歴補せり。

夫人しげ子は愛知縣士族竹田孟太郎君の令妹にして其の間に鐵男君、文子等あり、現に東京市牛込區赤城下町六六番地に住す。

西郷從德君

侯爵　從二位勳三等功四級

當家は先代從道君より現はる、從道君は舊鹿兒島藩士にして維新の際動功を立て多年廟漠に參じて治績を擧げ海軍大將に任ぜらる、然して更に元帥に陞り侯爵を授けらる、君は從道君の二男にして侯爵西郷吉之助君の再從兄君に當り、明治十一年十月を以つて生る。

夙に陸軍に志し陸軍士官學校、同步兵射擊學校等を卒業し爾來累進して現に陸軍步兵中佐にして其の間近衛步兵第三、第四聯隊付、第一師團軍法會議判士、特命檢閲使屬員、軍事參議官副官、陸軍觀兵式諸兵指揮官副官、近衛步兵第四聯隊中隊長、陸軍省副官、步兵第一聯隊大隊長等を歴任す、先是明治三十七八年の役に從軍し、又要務を帶びて米國へ派遣せられしことあり。

夫人豐子は公爵岩倉具榮君の叔母君にして其の間に六男四女ありて從純君、從龍君、從宏君、從靖君、從達君及び道子從子、竹子、菫子等なり、東京府荏原郡目黑町上目黑二八九番地に現住す。

齋藤太兵衛君

衆議院議員
下野興業銀行頭取

宇都宮商業會議所特別議員にして宇都宮に於ける素封家齋藤太兵衛君は、栃木縣の人齋藤太平君の長男にして明治九年四月を以つて生れ、同三十年二月家督を相續して前名善次郎を改稱す。

現に前記銀行の頭取にして曩に宇都宮市より推されて衆議院議員に當選し憲政會に屬し尚ほ傍ら宇都宮銀行、下毛貯蓄銀行、宇都宮瓦斯、下野新聞、日光製紙社、宇都宮石材軌道各株式會社の重役にして且つ栃木縣多額納稅者として直接國稅一千七百七十余圓を納む。

夫人マス子は栃木縣の人中山佐一郎君の長女たり、現に宇都宮、宮島町に住す

左納利一君

和泉帆布株式會社長

君は大阪府の人左納權四郎君の長男にして、明治二十八年を以つて生る。夙に實業界に身を投じ、現に前記會社々長たる外泉醬油、泉州物産各株式會社取締役にして且つ東洋商工株式會社監査役たり

夫人トラ子は同府の人左納龜之助君の令姉にして其の間に長女文子あり、現に大阪府泉南郡貝塚町に住し電話一七番なり。

佐々木惟朝君

大阪肛門病院長

君は島根縣の人中澤武五郎君の二男にして、慶應二年十月を以つて生れ後ち先代元明君の養嗣子となる。明治二十五年京都醫學專門學校、東京帝國大學醫科大學を卒業するや更に獨逸に航し伯林、ミュンヘン等に學び造詣を積みて歸朝す。

曩に大阪府立病院外科部醫長、玉造病院長等たりしが現に大阪肛門病院長として關西刀圭界に重きをなし、傍ら大阪府醫師會議員たり。

夫人コウ子は島根縣の人橋本儀市君の令妹にして其の間に一男一女ありて朝雄君及び操子と呼ぶ、現に大阪市東區空堀通二ノ四七ノ一番地に住し電話南三八三二番なり。

佐々木嘉太郎君

佐々木銀行頭取
佐々木倉庫株式會社長

君は青森縣の人佐々木直平君の長男にして、明治十二年五月を以つて生る。夙に農業を營み青森縣多額納稅者にして、現に前記各會社の頭取又は社長たる外株式會社五所川原銀行取締役、陸奥鐵道株式會社取締役たり。

夫人さかへ子は靜岡縣の人田中又藏君の叔母君にして君との間に三男四女ありて彰造君、廉造君、謙造君及び秀子、いく子、正子、たか子等といふ、現に青森縣北津輕郡五所川原に住す。

西園寺公望君

公爵　正二位大勳位

當家は藤原鎌足の裔正二位權中納言通季の後なり、通季より三十一世を經て正三位師季君に至る。君は師季君の長男にして德大寺公弘公、德大寺則麿男及び高千穗宣麿男等の叔父君にして又住友吉左衞門君の令兄に當り嘉永二年十月を以つて生る。

夙に學に厚く明治三年佛蘭西に留學すること十年、大いに彼の地の新智識を得て歸朝し東京自由新聞を發刊して啓蒙開發に盡瘁し、明治十七年侯爵を授けられ同十八年特命全權公使に任ぜられ、爾來賞勳局總裁、貴族院副議長、樞密顧問官文部大臣、樞密院議長、內閣總理大臣臨時代理等を歷任し日露戰役後桂內閣の後を承けて內閣を組織し、戰後經營の大任に當り同四十一年辭して野に下り、後ち伊藤公の後を承けて政友會總裁となり同四十四年再び組閣し、尙ほ大正八年巴里に於て開催せる萬國平和會議に特命全權大使として參列し同九年公爵に陞叙せらる。

君は實に明治以來の功臣として元老の優遇を享け現に前記の諸顯職にある外帝室經濟顧問、臨時帝室編纂局御用掛等の要職にあり、號を陶庵と稱す、其の本邸を東京市神田區駿河臺南甲賀町五番地に有す。

齋藤義太郎君

群馬縣農工銀行頭取

君は群馬縣士族齋藤金太郎君の長男にして、明治四年十一月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ群馬縣農工銀行に入り、同四十三年副支配人となり大正二年支配人より同八年同行專務取締役に累進し、同十一年同行頭取に擧げられ以つて今日に及ぶ。

尙ほ傍ら東邦火災保險株式會社監査役にして且つ前橋商業會議所常議員たり、讀書を好み殊に歷史物に趣味を有すといふ。

夫人とき子は群馬縣士族岡崎秀雄君の令姉たり、現に群馬縣前橋一毛町二五番地に住し電話前橋五六六番なり。

坂井英太郎君

東京帝國大學教授

理學博士正四位勳二等坂井英太郎君は東京府の人坂井彥彌君の長男にして、明治四年四月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學理科大學を卒業し、更に大學院に入り數理物理學を研究して後ち教育界に投じ、爾來山口高等學校教授、東京帝國大學理科大學助教授等を歷任し、正四位勳二等高學官一等に叙せられ現に東京帝國大學教授たり。

夫人文子は理學博士田丸卓郎君の令妹にして君との間に一男四女ありて俊雄君及び貞子、順子、淑子、敬子等なり、現に東京市本郷區駒込西片町一〇番地に住す。

齋藤恒三君

工學博士
東洋紡績株式會社長

工學博士齋藤恒三君は山口縣士族藤井正路君の令弟にして、安政五年十月を以つて生れ先代禎三君の養子となる。夙に東京帝國大學の前身たる工部大學機械科を卒業し、直ちに實業界に投ぜり。

現に名古屋商業會議所特別議員にして東洋紡績株式會社の社長たる外中央鐵工所、名古屋製陶所、明治銀行、豐田紡織機各株式會社の重役として令名あり、大正四年工學博士の學位を授與せらる、讀書及び郊外散策に趣味最も深し。

夫人をハル子と呼び養父禎三君の二女たり、現に愛知縣東白壁町二ノ二番地に住し電話東一二六番なり。

佐々木勇之助君

第一銀行頭取

君は東京府の人佐々木直右衞門君の二男にして、安政元年八月を以つて生る。現に前記銀行頭取たる外東京貯蓄銀行取締役會長、澁澤倉庫株式會社會長、大正海上火災保險株式會社監査役、南滿洲鐵道株式會社監事にして又東京交換所委員東京銀行集會所會長、東京興信所評議員等に擧げらる。

夫人ふさ子は東京府の人野村光貞君の令妹にして君との間に五男五女ありて謙一郎君、修二郎君、和三郎君、恒吉君、重雄君及びまさ子、さわ子、わか子、なみ子、やす子等なり、現に東京市本郷區弓町二ノ二九番地に住し電話特長小石川三二〇〇番なり。

佐々木重兵衞君

東北實業貯金銀行頭取

君は宮城縣の人佐々木重兵衞君の二男にして、明治七年十二月を以つて生れ、前名勘右衞門を改稱す。

夙に佐々重商店を興し味噌醬油釀造業を營み、宮城縣多額納稅者にして又仙臺商業會議所議員たり、尙ほ前記銀行頭取たる外東北實業銀行、東北不動產、日本栓工、東洋釀造、宮城信託、東北館各株式會社取締役たり。

君に三男一女ありて豐治郎君、子之吉君、仁之助君及びてう子等なり、現に仙臺市大町に住し電話一四〇番なり。

佐々木平次郎君

佐々木漁業株式會社長

君は秋田縣の人北能喜吉君の二男にして明治六年四月を以つて羽後國由利郡會浦町に生れ、後ち北海道の人佐々木直治郎君の養子となる。曩に水產業視察の爲め露領薩哈嗹島に航せしことあり。

現に漁業及び倉庫業を營みて佐々木漁業株式會社並に佐々木商業株式會社の各社長たる外日華貿易、北海道拓殖、北海道工業、カムチャツカ漁業、日本格魯謨中野炭礦、北海道鑛業鐵道各株式會社取締役にして且つ日本毛皮、北日本汽船各株式會社監査役たり、尙ほ函館商業會議所常議員、同區會議員、水產組合聯合會

組長、露領水産組合代議員等に擧げられ衆議院議員たること前後三回に及べり。

夫人タケ子との間に六男四女ありて小一郎君、賢次郎君、雄三君、四郎君、五郎君、勘次郎君及び園子、鈴子、信子等なり、現に函館市辨天町に住し電話二五一番なり。

佐野理八君

金山鰊業株式會社代表社員

君は東京府の人佐野理八君の長男にして、明治九年十二月を以つて生れ前名市造を改稱す。夙に慶應義塾を卒業するや直ちに實業界に投じ、生糸商を營む傍ら前記會社の代表社員及び日本硬化油肥料株式會社代表社員にして且つ宮城清瀧電燈株式會社取締役、日本ベニー紡績株式會社監査役たり。

夫人きく子は東京府の人小野銅之助君の長女にして君との間に二男二女ありて初雄君、正雄君及び富美子、百合子等なり、現に東京市下谷區茅町二ノ二六番地に住す。

佐竹義準君

男爵　貴族院議員

君は故伯爵松浦詮君の男にして伯爵松浦厚君、子爵松浦清君、子爵井上勝純君本多正俊君、侯爵大隈信常君等の兄弟君にして、明治二年五月を以つて生れ後ち先代きん子の養子となり明治三十九年男爵を授けらる。

夙に東京帝國大學を卒業するや官界に職を奉じ爾來司法官試補、統監府秘書官朝鮮總督府事務官、同取調所事務官、韓國政府土地調査局書記官等を歷任す。

先是明治二十五年一年志願兵として近衛歩兵聯隊に入營し、同二十七年陸軍歩兵少尉に任じ日清、日露の兩役に從軍して陸軍歩兵中尉となり從四位勳四等に叙せられ、大正四年以來貴族院議員に當選すること前後二回に及べり。

夫人成子は伯爵伊達基君の令妹にして其の間に一男三女ありて義則君及び貞子操子と呼ぶ、現に東京市外澁谷町に住す

佐野新平君

帝國製藥株式會社長

君は香川縣の人漆原長次君の二男にして明治元年四月を以つて生れ、先代新三郎君の養子となる。夙に實業界に身を投じ現に帝國製藥株式會社代表社員たる外大内銀行、大阪手袋、四國紡織、淺越花莚各株式會社取締役にして且つ片川電力株式會社監査役たり、又香川縣多額納稅者として令名高し。

夫人いくの子は愛媛縣の人矢野通得君の令妹にして君との間に易君、寛君、垣君等あり、現に香川縣大川郡引田町に住す。

佐々木仙一君

吳醬油株式會社長
吳商工銀行頭取

君は廣島縣の人佐々木高榮君の長男にして、明治元年四月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に廣島縣多額納稅者にして前記各會社の重役たる外廣島信託株式會社相談役たり、曾つて吳市參事會員、衆議院議員等に選ばれしことあり。

夫人フク子は同縣の人小田甲子郎君の令妹にして君との間に一男五女ありて成二君及びタカ子、カヨ子、ヨシ子、ユキ子、フサ子といふ、現に吳市本通八丁目に住し電話三〇番なり。

佐竹義春君

侯爵　貴族院議員

當家は源義光の後にして其の孫昌義常陸國佐竹の郷に住し佐竹冠者と稱す、それより十二代義重に至り武威を關東に振ひその子義宣は當家の祖なり、義宣初め石田三成に與し、後ち德川氏に降りて出羽の秋田に封ぜらる、十二代を經て義堯君に至る、義堯君は維新の際官軍に屬し功に依りて侯爵を授けらる。

君はその孫先代義生君の長男にして、明治二十三年七月を以つて生る。大正三年東京帝國大學文科大學國史科を卒業し大正三四年事件の功に依り從四位勳四等に叙せらる。

夫人兼子は公爵九條道實君の長女にして君との間に義榮君及び則子の一男一女あり、現に東京市麹町區富士見町一ノ三一番地に住す。

齋藤松太郎君

齋藤汽船會社專務取締役

北海道函館に於ける素封家齋藤松太郎君は新潟縣の人渡邊重太郎君の長男にして、明治十四年九月を以つて生れ先代常五郎君の養嗣子となる。

當家は先代より雜貨商を繼承し、現に同地方有數の商家にして且つ前記會社の重役を兼ね、尙ほ北海道多額納稅者にして、現時其の直接國稅壹千五百四拾余圓を納むといふ。

夫人キク子は新潟縣の人齋藤久太郎君の二女たり、函館市地藏町四八番地に現住し電話一〇一番なり。

齋藤恂君

日本畫夜銀行專務取締役

正七位齋藤恂君は埼玉縣の人齋藤德之助君の長男にして、明治三年十一月を以つて同縣南埼玉郡日勝村に生る。夙に青山英和學校を經て獨逸協會學校を卒ふるや、直ちに文官高等試驗に合格し、明治三十年大藏省に入りて書記官兼大藏大臣秘書官に任ぜられ次いで同省監督局監査課長、銀行局銀行課長等を歷任し同年北海道拓殖銀行設立委員となり、更に日本興業銀行設立委員を命ぜられ同三十五年同行理事に擧げられ、監督部長兼庶務部長たりしが後ち之を辭す。

明治四十五年日佛銀行の創立せらるゝと共に同行取締役となり、爾來各銀行會社に關係し大正六年安田保善社に入り秘書役、監督部長、銀行部長、會社部長參事等を經て現に同社理事にして前掲銀行の重役たる外帝國紡績機械製造、秋田電氣、日本精工各株式會社の重役として令名を斯界に馳す。

夫人をとし子と呼ぶ、現に東京市牛込區北山伏町四番地に住す。

崎川才四郎君

正四位勳二等
商工省特許局長

君は佐賀縣士族崎川幸親君の長男にして、明治三年三月十五日を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、同年直ちに文官高等試驗に登第す。

斯くて、職を官途に奉じ農商務省書記官兼參事官に任ぜられ、爾來、山林局書記官、福岡鑛山監督局長、大阪鑛山監督局長、鑛山局長等を歷任し、大正十二年特許局長に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

現に其の傍ら文官普通懲戒委員長、辨理士試驗委員長等を兼任し、曩に大正十四年八月和蘭海牙に於て開催せられたる萬國工業所有權保護同盟會議に帝國委員仰せ付けられ、同時に歐米各國へ出張を命ぜられ視察研究して歸朝す。

夫人ツル子は東京府士族馬島讓君の二女にして、君との間に幸雄君、正親君、正三郎君、五郎君及び貞子、婦美子、喜代子、壽榮子、園子、綾子等あり、現に東京府荏原郡大崎町下大崎八九番地に住し電話高輪二九〇番たり。

齋藤守圀君

從四位勳三等
福岡縣知事

君は愛媛縣士族齋藤喜三郎君の長男にして、明治十七年八月を以つて東京に生る。君天資英明にして學業順を追ふて進み、第一高等學校を經て東京帝國大學に學び、明治四十年優秀の成績を以つて同法科大學獨法科を卒業す。

斯くて職を官途に奉じ、神奈川縣屬を振り出しに爾來、內務屬、和歌山縣事務官、宮崎、福井、長崎、神奈川各縣警察部長、內務書記官、同參事官兼大臣秘書官、專任內務監察官等を歷任す。

然して、大正十一年拔擢せられて千葉縣知事に任じ後ち埼玉縣知事に轉じ、昭和二年四月田中政友會內閣出現による地方官の大異動に伴ひて、君は福岡縣知事に榮轉し以つて現在に及ぶ。

夫人わか子は鹿兒縣士族木村壯介君の三女にして君との間に守道君及び穆子、瓊子、暢子等あり。

佐藤榮五郎君

幌別川水力電氣株式會社長

君は北海道の人佐藤榮五郎君の長男にして、明治六年八月を以つて生る。夙に財界に活躍するところあり、現に幌別川水力電氣株式會社々長たる外壽都銀行取締役たり。

夫人を前出葉子と呼び其の間に二男三女あり、北海道磯谷郡磯谷村に現住す。

最所文二君

正五位勳四等
遞信省經理局長

君は佐賀縣の人最所文八君の長男にして、明治十年四月を以つて生る。曩に日本法律學校を卒業し、明治三十七年文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて職を官途に奉じ、遞信省に入りて通信事務官、遞信書記官、經理局調度課長兼製鐵課長等を歷任し、後ち遞信省經理局長、遞信部內職員共濟組合審査會委員に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人ミヨ子は岡山縣の人平野石造君の養女にして東京女子高等師範學校を卒業し、君との間に顯文君、淳二君及びフミ子、富子等あり、現に東京市芝區公園十三號地に住し電話青山四九三六番たり。

坂梨哲君

株式會社坂梨商會社長
衆議院議員

君は福岡縣士族坂梨磯吉君の長男にして、明治四年五月を以つて生る。明治三十年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ、現に株式會社坂梨商會取締役社長として福岡財界に重きをなし、大正十三年四月福岡縣郡部より推されて衆議院議員に當選し、今や中央政界に令名あり。

夫人ウタ子は山口縣の人兒玉圓乘君の三女にして君との間に仁君、義人君、靖彥君等あり、現に福岡縣三池郡三川村に住す。

櫻井信四郎君

三井物產株式會社砂糖部長

君は大分縣士族櫻井恒次郎君の長男にして、明治十二年一月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切瑳琢磨研鑽の功空しからず、明治三十一年慶應義塾大學理財科を優秀の成績を以つて卒業せり。

斯くて直ちに東都實業界に投じ、明治三十六年十月三井物產株式會社に入社し爾來、同社靑島支店長を經て本社砂糖部長に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人靜子は東京府の人小幡篤次郎君の長女にして、君との間に遵君、禮二君及び幸子、武子、博子等あり、現に東京市麻布區富士見町九番地に住し電話高輪七五五一番たり。

齊藤大吉君

工學博士
京都帝國大學教授

君は岡山縣の人難波幾太郎君の三男にして明治五年十一月を以つて生れ、後ち先代秀親君の養嗣子となる。夙に學識衆に秀で學業順を追ふて進み、明治三十一年東京帝國大學工科大學を卒業し更に採鑛學研究の爲め獨逸に留學し、造詣を深くして歸朝す。

爾來、京都帝國大學理工科大學助教授同教授、同理科大學教授等を歷任し正四位勳二等に叙せられ、現に京都帝國大學教授として令名あり。

夫人岸子との間に一男二女あり、現に京都市上京區寺町通廣小路下ルに住し電話上四三八二番なり。

坂口末男君

信州土地合資會社長

東都財界に活躍して新進の聞えあるを我が坂口末男君となす。

君は舊松代藩士坂口勇太郎氏の五男にして、明治廿一年十一月二十日を以て生誕す。

夙に鄕里の長生中學を卒ふるや大志を抱いて樺太に渡航し材木及び漁業に從事すること四ヶ年、明治四十四年朝鮮に渡りて同地開拓に專念たること數年、而して君は對支貿易の發展に志を立て、大正三年渡支し日支貿易に從事して本邦產業の發展に貢献すること甚大なり。

斯くて大正八年歸朝するや天惠工業株式會社を創立して礦山業を營み、更に大正十一年不動產金融業に從事し、大正十五年信東土地合資會社を創立し同社代表社員に任じ以て現在に及ぶ。

夫人泰子は實業家藤井勇次郎氏の二女にして虎ノ門女學館を卒業せる才媛にして君との間に勝美君あり、現に東京市小石川區西丸町三〇番地に住し、電話大塚二四四〇番たり。

笹山恒太郎君

內外鑛業(株)庶務主任

君は三重縣の人故山田淺次郎氏の長男にして、明治六年十一月二十九日を以て生れ、後ち東京府の人笹山意平氏の養嗣子となる。

夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上、研鑽の後ち東都實業界に投じ、三井物產株式會社に勤務すること久しく、大正九年內外鑛業株式會社に轉じ、同社庶務主任に任じ以て現在に及ぶ、謠曲に長ずるが如し。

夫人を綾子と呼び其の間に豐君、章雄君、鄙君、久君、昭君等あり、現に東京市小石川區丸山町三十番地に住す。電話大塚一一五五番

笹山三樹雄君

東洋タイプライター(株)常務取締役

今やタイプライターの需要は年々激增の一途を辿り、諸官廳學校等を始めとして諸會社銀行商店並に一般家庭にまで波及するに至れり。

本邦斯界の權威東洋タイプライター株式會社の常務取締役として內外の社務を鞅掌し、稀に見る敏腕家の聞えあるを我が笹山三樹雄君となす。

君は故男爵森村市左衛門氏の三男にして、男爵森村開作氏の令弟に當り、明治二十二年三月を以て生れ後ち先代喜乃氏の養嗣子となる。

夙に學業を卒ふるや直ちに本邦實業界に志し、先づ日本の將來發展の地は南洋方面に飛躍せずんばあるべからずとなし視察巡遊すること屢々なり。

其の間東京護謨株式會社會計課長並に營業部長等として精勤、且つ又三木商會(株)を興して水道衞生暖房工事請負に力を致し、然して昭和二年三月東洋タイプライター株式會社に聘せられて同社常務取締役に就任以て現在に及ぶ。

社交に厚く、趣味に長じ就中狩獵を最も愛好すといふ、夫人トシ子は愛媛縣士族法華津孝治氏の養女にして其の間に基君、正義君及び美惠子等あり。

現に東京市外入新井町新井宿一五一九番地に住す。電話大森五二五番

櫻澤鶴吉君

片倉製糸紡績株式會社理事
甲州石材合資會社長

君は埼玉縣の人櫻澤磯吉氏の二男にして、明治六年十二月八日を以て生る。

夙に鄕校を卒ふるや上京、中外商業新報社記者として健筆を揮ひしも、仝卅四年片倉製絲紡績株式會社に入社、爾來、勤續實に廿余年現に同社理事たる外甲州石材合資會社代表社員にして尙ほ武州製糸、日本ソリデチット、日東紡績各株式會社重役たり。

現に東京市本鄕區春木町三ノ卅九番地に住す。電話小石川三一〇八番

相良亮吉君

三昭自動車(株)常務取締役

君は佐賀縣士族相良宗藏氏の三男にして、明治十三年十一月廿八日を以て生る。

明治三十八年東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、日本銀行に入りて同行本店及び名古屋支店等を歷勤せり。

斯くて明治四十三年南洋三五公司に入社して同社々長秘書役たりしが翌年歸朝後澁澤子爵の囑託を受けて、南洋新嘉坡地方の護謨事業視察を了し仝四十五年歸朝す。

然して同年三井物產株式會社機械部に入社、大正三年渡米して自動車業を視察研究して歸朝、仝十年梁瀨自動車株式會社に入社、同社取締役たりしが昭和三年十二月三昭自動車株式會社を創立して同社常務取締役に就任以て現在に及ぶ。

夫人德子は海軍少將窪田祐章氏の二女にして其の間に滿雄君、二郎君あり、現に東京市芝區高輪南町三〇番地に住す。電話高輪一九〇九番

齋藤勇君

北越製紙(株)東京出張所主任

君は東京府に現籍を有し、三重縣の人先考定吉氏の長男にして、明治十四年十月四日を以て生る。

夙に東京主計學校を經て明治四十年東京高等商業學校を卒業するや實業界に投じ、服部、中井兩洋紙店にて創立せる日本洋紙合資會社に入り同社販賣係長たりしが、大正四年同社解散に際し服部洋紙店(株)に轉ず。

斯くて大正八年北越製紙株式會社東京出張所主任として聘せられ、現に其の職にありて令名あり。

趣味に謠曲あり、又盆栽を愛好すといふ。

夫人かず子は愛知縣の人竹內榮助氏の令妹にして其の間に鼎君及び美登子あり

現に東京市本所區横綱町一ノ三番地に住す。電話本所三三三八番

櫻井源一郎君

大地主
二樓商會(株)監査役

當家は德川幕府の當初より連綿たる名家たり、先代謙喜氏は幕府の重石にして十五代將軍慶喜卿と共に幕末事件に參劃せし國士たり。

君實は佐藤善一郎氏の五男にして、明治廿二年十二月二十七日を以て生誕、後ち先代謙吉氏の養嗣子となり、同四十一年養家十代目を相續す。

大正二年慶應義塾理財科を卒業するや日進銀行に入り、更に大正七年一族により經營せらるゝ町田洋行に入り、此の間業務視察並に用件を帶びて上海地方に赴きしことあり。

然して大正九年同社を辭して以來當家所有土地の管理に當り、傍ら前記會社の重役として知らる。

夫人をひで子と呼び、府立第一高女の出身、其の間に弘毅君、謙二君及び美枝子、喜和子、榮子、紀子等あり、現に東京市本郷區駒込千駄木町七〇番地に住す電話小石川五九四三番

澤野富三郎君

精養軒(株)取締役
日本洗染(株)取締役

君は奈良縣の人澤野滝三郎氏の令弟にして、明治十五年五月を以て生る。

明治三十九年日本大學高等師範部を卒業するや本邦實業界に投じ、曩に大阪堂島ホテル、耐火建築金物各株式會社の重役たりしが、現時は前記諸職にありて知らる。

趣味に旅行あり、又讀書を好くすといふ、夫人政子は京都府の人菱木信興氏の二女にして其の間に富士太郎君、正行君富佐惠君、虎與君及び鶴子、禮子、富貴榮子等あり、現に東京市外澁谷町松濤五四一番地に住す。

電話青山三一九六番

西園寺亀治郎君

第一銀行監査役
浦賀船渠(株)監査役

當家は其の祖を西園寺公尊家と同じうし、共に禁庭に仕へ、今より約四百年以前宇和島藩伊達家の重臣となり、數代を經て公威氏に至る、公威氏は廢藩後伊達家の家令となり、傍ら第一銀行、二十銀行、東京貯蓄銀行、東京瓦斯會社、石川島造船所等に重役たりき。

君は即ち公威氏の二男にして、明治二年九月を以て生る。

明治二十六年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや實業界に投じ、現に前記の諸職にありて令名あり

夫人壽代子は故大審院長兒島惟謙氏の長女たり、現に東京市外代々木初代五九四番地に住す。電話四谷二八番

齋藤太郎君

古河銀行(株)調査部副長

君は東京府の出身にして、明治二十一年四月を以て生る。

明治四十二年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、東海銀行に入り同行麻布支店長として敏腕を振ひしも、大正六年古河銀行に轉じ、後ち同行元濱町支店長たりしが、昭和三年五月同行調査部副長に擧げられ以て現在に及ぶ。

現に東京市牛込區仲町三八番地に住す電話牛込一八二六番

坂倉吉兵衛君

坂倉吉兵衛商店主

當家は古くより質業並に白米商として東都に知られしも先代吉兵衛氏に至り專ら米穀商を營業となし現時に至りしものなり。

君は先代吉兵衛氏の男にして、大正十二年十二月家督を相續し前名英吉を改めて襲名す。

夙に芝中學校を經て大正十一年早稲田大學商學部を卒業するや直ちに家業を繼承し、尚ほ傍ら町内名譽職にあり、現に芝高輪車町々會議員、同町氏子總代にして且つ芝廻米問屋組合員、東京正米問屋聯盟會々員、日本棋院會員たり。

夫人きみ子は京都府の人早苗平兵衛氏の長女にして其の間に昭子あり、現に東京市芝區高輪車町三九番地に店舗を有す電話高輪三九七番

齋藤次郎君

主婦之友社(株)取締役

君は大阪府の出身にして、嚴父齋藤卯助氏の令息として、明治四年七月十七を以て生る。

夙に學業を卒ふるや大阪實業界に身を投じて敏腕を振ひしも期するありて大正元年上京、本邦圖書出版界に活躍、然して大正八年一月石川社長の囑に應じて主婦之友社に入社、爾來、社長を援けて内外の社務を執掌し、然して大正十四年同社が株式組織に變更せらるゝや推されて同社取締役に就任、現に兼ねて同社會計課長として知らる。

現に東京市神田區表神保町二番地に住す。電話神田五一七番

齋藤巖君

衆議院議員
辯護士　長崎市會議員

君は熊本縣の人齋藤寅八氏の三男にして、明治二十年十二月二日を以て同縣菊地郡志合町に生誕す。

明治三十九年明治大學法科を卒業するや直ちに辯護士登用試驗に應ぜんとせしも未定年の故を以て志果されず、操觚界に入りて各社新聞記者として健筆を振ひ斯くて明治四十三年辯護士登用試驗に登第せしかば愈々初期の目的を達し直ちに法曹界に活躍するに至れり。

曩に長崎市會議員、同縣會議員、仝副

議長等に擧げられ、昭和三年大日本憲政史上特筆すべき普選第一回の總選擧には多數縣民の輿望を擔つて見事當選し、今や中央政界に令名あり。

夫人チヲ子は長崎縣の人岡村半作氏の養女にして其の間に毅君及び桂子、瑠璃子、櫻子、昭子等あり、現に長崎市平戸町五番地に住す。電話長崎一五九一番

佐野正次君

正五位勳四等　大藏書記官
大藏大臣官房會計課長

君は東京府の人大田正太郎氏の二男にして、明治十五年十二月を以て生れ後ち先代美津氏の養子となる。

明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに官途に投じ、現に前記の外大藏省營繕管財局理事たり。

夫人富貴子は東京府の人佐野正一郎氏の令姉にして其の間に芳郎君、勇郎君、充郎君、幸郎君及び勝子あり、現に東京市外下落合丸山三〇四番地に住す。電話牛込六〇八六番

佐々木和三郎君

汽車製造會社・サッシュ製造會社支配人
サッシュ製造會社取締役

君は東京府の人佐々木勇助氏の三男にして、明治二十三年四月を以て生る。

夙に東京帝國大學工科大學機械科に學び、大正二年優秀の成績を以て卒業するや直ちに汽車製造株式會社に入社し、爾來、全社技師として精勵し、過去の蘊蓄を傾注して絶えず研鑽を重ね、全社に對して貢献すること頗る多く且又君の溫厚着實なる性格は、忽ち重役間の信認を高め終に技師長となり、更に進んで支配人に擧げられ現に全社の經營當事者として益々其の敏腕を發揮しつゝあり、尙ほ昭和二年全社の姉妹會社たるサッシュ製造株式會社の取締役に就任し、其の發展を期しつゝあり。

夫人を輝子と呼び男爵斯波忠三郎氏の長女にして跡見女學校出身の才媛にして

其の間に一男一女を擧ぐ、現に東京市小石川區鶯籠町二五七番地に住し、電話大塚三六六番たり。

齋藤軍平君

西彥製瓦(株)東京出張所長

君は德島縣の人齋藤熊一氏の二男にして、明治三十八年三月四日を以て同縣名東郡北井上村に生誕す。

夙に大志を抱いて大阪に出で、YMC英語學校本科を卒業、森六商店(株)大阪支店染料部に勤務し、大正十四年三月西彥製瓦株式會社に轉じ、昭和三年四月拔擢せられて同社東京出張所長主事に任じ以て現在に及ぶ。

趣味に音樂、謠曲、庭球等あり、現に事務所を芝浦二丁目三番地に有す。電話高輪四九一八番

佐久間國三君

第一ビルブローカー(株)常務取締役

應機縱橫の智略と、健實鞏固なる商略とを以つて、隆昌繁激なる行務一切を統卒し、絶えず斯界の先鋒となりて、活躍しつゝある士に、第一ビルブローカー株式會社常務取締役佐久間國三君あり。

君は曩に第三銀行證券部長たりし佐久間喜太郎氏の長男として、明治廿八年二月三日を以つて東京市神田區に生る。

夙に府立第一中學校を經て、大正八年慶應義塾大學理財科を卒業するや實業界に投じ高田商會、田口銀行等を經て昭和二年五月第一ビルブローカー株式會社常務取締役に就任し現に其の任にあり。

趣味として日本音樂に通じ、歌澤、清元、長唄等を最も愛し、就中歌澤は君の最も得意とする處素人の域を脫せりと。

夫人をたか子と呼び一ッ橋實科高等女學校の出身にして、君との間に孝一君、昭二君、清子あり。

現に東京市下谷區池之端七軒町三七番地に住す。電話下谷三六三一番

佐々木平次郎君

勳四等　衆議院議員
日華貿易(株)取締役社長

君は秋田縣の人北能喜吉氏の二男にして、明治六年四月を以つて生れ後ち佐々木直次郎氏の養嗣子となる。

夙に學業を卒ふるや樺太及び露領沿海州の漁業に從事し並に米穀海產物委託業を經營し、現時は日華貿易株式會社々長たる外樺太漁業、佐々木倉庫各株式會社々長にして且つ佐々木汽船、佐々木商業、壽都鐵道、北海道鐵道、露領水產各株式會社取締役及び日本毛皮、大北火災保險、北日本汽船各株式會社監査役並に露領水產組合副組長等にして北日本財界に重きをなす。

大正六年以來衆議院議員に當選すること四回現に其の任にありて中央政界に重きをなす、曩に國富區會議員、同商業會議所常議員、同特別議員に擧げられ、且つ西伯利亞に派遣せられ尋いで日露漁業問題交渉帝國代表として前後四回に亘り浦鹽に差遣せられしことあり。

夫人をたけ子と呼び養父直次郎氏の二女にして其の間に六男三女あり。現に函館辨天町十七番に本邸有り、東京住宅を澁谷櫻丘五ノ三番地に有す。

澤田半之助君

江之島水族館(株)監査役

君は福島縣の產にして明治元年六月を以て同縣岩瀨郡須賀川に於て生る。

夙に實業に志し當初福島丸善洋服店に於て洋服裁縫の技を修め後ち明治二十三年渡米し斯業を研鑽するところあり、同二十七年歸朝し獨立して東京銀座に澤田洋服店を開業せり、然して後年之れを小村佐吉氏に讓渡し現時株式會社江之島水族館監査役の任に在り。

此間岩谷商會共同經榮者として渡鮮し後ち獨立して實業に携りしが歸來各種の事業に關與し、曩に戸倉森林株式會社常

務取締役、日本八島織會社、太洋漁業會社、東京不動產會社、內外興業會社各監査役たりしことあり、又箱根、二宮、鎌倉等の各地に廣大なる土地を購入し別莊地經營を營みて巨利を博せしことあり。

君に特筆すべきは米國より歸朝するや間もなく片山潛氏等と諮りて勞働組合期成會を樹立し一般勞働者の向上に奔馳し或は明治三十一年の交米友協會を創設して其常任幹事に就任し伯理提督紀念碑建立を發企し其創立委員として盡瘁多大なるものありたり。

盆栽に趣味あり、家庭には夫人との間に弘君、花子、眞榮君、暢夫君、知夫君、泰輔君あり。現に東京市麴町區三年町二番地(電話銀座三七三二番)に住す。

佐々木 恒太郎 君

日本自働發電所建設(株)社長
關東瓦斯(株)常務取締役

君は香川縣の人佐々木清三郎氏の長男にして、明治三年一月を以て生る。

夙に穎才衆に秀で、土木機械工學並に佛語の研究を積むこと多年、其の蘊蓄を以て帝大工科大學助手として鳴らし、更に鐵道學校、工手學校等に教鞭を執る等教育界に貢獻すること甚大なり。

斯くて實業界に投じ、日英水電株式會社取締役技師長に轉じて同社の樞機に參劃し、後ち同社が東京電燈株式會社に併合せらるゝや、新に桂川電氣興業株式會社を創立、更に關東瓦斯株式會社を設立して同社常務取締役の要職に就任、尙ほ日本自動發電所建設株式會社々長にして信濃電氣顧問、工手學校理事たり。

夫人ミネ子は香川縣の人瀨尾嘉五郎氏の令妹たり。現に東京市外淀橋町柏木六三五番地に住す。電話四谷一二四九番

嵯峨 峨次郎 君

東京府華族
横濱正金銀行勤務

君は舊公卿正二位勳三等侯爵貴族院議員嵯峨公勝氏の二男にして、明治二十八年九月四日を以て生る。

夙に錦城中學校を經て大正七年中央大學商科を卒業し翌八年三月横濱正金銀行に入り、同行本店を經て大正九年東京支店詰に轉じ以て現在に及ぶ。

趣味に運動あり、小禽類の飼育に長ずといふ。

夫人尙子は東京府の人前白木屋呉服店社長故大村彦太郎氏の長女にして京都府立第一高等女學校の出身たり。現に東京市麴町區富士見町二ノ四五番地に住す。電話九段一五七二番

佐久間 德三郎 君

金融業

君は先考佐久間治助氏の次男にして、明治十四年十月を以て生誕す。

抑々當家の祖は代々水戸德川家の御用達を勤め主として武具並に馬具を扱へるが先代に至り洋馬具商を營みて都下に譽らる。

君は明治二十二年分れて一家を創立せしが、是より先き十五歲の弱冠より質商に於て其業務を修め、斯業に一貫刻苦して今日の產を成すに到れるも、現時の世態より推考して漸次業務を縮少し將來機至らば他業に轉換するの異望を以て之れに從事しつゝあり。

君は世の一般の同業者と其面目を異にすること極めて多大にして人物寔に溫厚時勢を達觀するの一隻眼を有し又思想上の諸問題に深く關心するところありて明察の妥當なる吾人の推服禁せざる所以なり。

書畫、骨董を愛玩するを以て娛しみとゝ爲し其家庭には故室田半之助氏の息女たるきを子夫人あり、其間に治康君、ときを子、健次君、泰三君、八千代子あり。

現に神田區松富町十八番地(電話下谷四四〇三番)に住す。

笹本 菊太郎 君

從四位勳三等功五級　豫備陸軍中將
工學士　三菱航空機株式會社顧問

君は德島縣の輩出せる俊材にして明治九年三月を以て同縣德島市に生誕、故今井新二氏の次男にして、夙に笹本芳次郎氏の養子となり大正九年其家督を承く。

宿志軍人に在りて陸軍幼年學校、陸軍士官學校を經て明治三十二年陸軍砲兵少尉に任官し後ち東京帝國大學工科大學に入學、機械科を專攻して同四十一年之れを卒業せり。

然して大正十二年陸軍少將に累進し昭和三年陸軍中將に陞り同年豫備役に編入されしが、此間陸軍造兵廠、名古屋工廠長、陸軍技術會議々員、陸軍技術本部御用掛、陸軍航空本部技術部長、航空評議會議員に歷補さる、又日露戰役に出征其功に依り功五級を賜はれり。

斯くて昭和三年現役を去るや同年三菱航空機械株式會社の聘に應じ入りて同社顧問に就任以て今日に及べり。

君は人物寔に敦厚、加ふるに航空事業に對し深き蘊蓄を藏す、三菱王國內に於ける現社業に一段の光彩を齎せるものと謂ふべきなり。

夫人をキヨ子と謂ひ故坪鄕義行氏の長女にして跡見高等女學校出身の賢婦たり其間に專一君、博君、菊枝子、包子、正剛君、明子、芳子あり。現に東京市牛込區原町一ノ三六番地に住す。

佐々木 謙一郎 君

正五位勳四等　專賣局事業部長

君は東京府の人第一銀行頭取佐々木勇之助氏の長男にして、明治十五年十一月を以て生る。

明治四十年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、神戸、橫濱各稅關を經て大藏省に入り、會計課長、經理部長等を歷任以つて現在に及ぶ。

現に東京市麴町區下二番町二十五番地に住す。電話九段二八四一番

結城豐太郎君

安田保善社專務理事
安田銀行副頭取

勳六等銀行家結城豐太郎君は山形縣の人結城彌右衞門君の三男にして、明治十年五月二十四日を以つて同縣東置賜郡赤湯町に生る。夙に鄕校を卒ふるや青雲の志を抱いて上京し、明治三十六年東京帝國大學政治科を優秀の成績を以つて卒業し、直ちに身を實業界に投じ日本銀行檢査局に入り、同三十九年紐育代理店監督役附、同四十二年大阪支店調査役、同四十三年京都支店長、大正元年祕書役、同三年名古屋支店長、同六年大阪支店長、同八年同行理事等の要職を歷補す。

然して大正十年推されて安田家に入り保善社專務理事として全般を總攬し、現に其の職にある外安田銀行副頭取、共濟生命保險、共濟信託、三井信託各株式會社の重役として斯界に令名高し、趣味として登山、刀劒等あり。

夫人もと子は石岡要藏君の長女にして赤湯高等女學校を卒業し其の間にアイ子久子、千代子、美都子、二三子、和子等あり。現に東京市麻布區永坂町六一番地に住し電話青山六四一二番なり。

×

北大路實信君

正四位勳三等　貴族院議員

當家は藤原鎌足十一代太政大臣公季六代實行の後裔にして阿野公誠の男季敏の立つる所なり。季敏初め奈良興福寺に入り維新後勅命に依り復歸して北大路と稱し其の孫公久君に至り明治十七年男爵を授けらる。

君實は子爵園池實康君の令弟にして明治二年十二月を以つて生れ幼名を檜麿と稱し、先代公久君の死跡を相續して明治二十八年襲爵仰せ付けらる。

爾來貴族院議員に當選すること三回に及び曾ては學習院、高等商業學校等に學び明治二十八年以來稅關屬、稅關事務官等に歷任し又東京築港に關する貨物調査を囑託せしことあり。現に東京府豐多摩郡大久保町西大久保四六〇番地に住す。

木村作次郎君

美濃新聞社長

君は岐阜縣の人上田甚助君の長男にして明治五年七月を以つて生れ先代ふみ子の養子となる。夙に中央大學の前身たる東京法學院に學び卒業後は地方にありて地方啓發に盡瘁し曩に大垣市會議長及び岐阜縣會議員たりしことあり又大正九年には衆議院議員に擧げられたり。現に美濃新聞を經營して自ら其の社長となり、本州中部地方新聞界に異彩を放ち其の令名や高し。

夫人をツル子と呼び其の間に四男一女ありて不二雄君、公平君、知常君、鐸四郎君及びたか子と稱す。現に岐阜縣大垣市に住す。

木村小左衛門君

從五位勳八等　內閣總理大臣秘書官
衆議院議員

其の昔、大阪城の智將として我が歴史上に灼々たる木村長門守重成の末裔十五世木村小左衛門君又祖先の名を恥かしめざる當代の逸物にして、且つ當家は山陰屈指の素封家として知られ尙ほ島根縣多額納稅者たり。

君は即ち木村義三郎君の二男にして明治二十一年二月を以つて生る。夙に松江中學を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽能く勉め、優秀の成績を以つて早大を卒業するや直ちに財界に活躍し、現に三葉自動車株式會社々長たる外鏃上鐵道、島根貯蓄銀行、雲陽銀行、山陰道產業、出雲製紙、東京乘合自動車各株式會社の重役にして曾つては島根縣農工銀行監査役大原郵便局長たりしことあり。

然して大正十三年の總選擧に際し島根縣第三區より立候補を宣し、馬を陣頭に進むるや目出度く當選の榮冠を獲得し、加藤內閣成立と共に若槻內務大臣秘書官に任せられ、大正十五年一月突如加藤首相病沒して若槻內閣の出現を見るや、君推されて內閣總理大臣秘書官に拔擢せられて現在に至る。

君や年齒未だ春秋に富めり、而も其の智謀百出の才幹と、天晴れなる男ッ振りは正に前途多望多端、其の今後の活躍大成期して待つべきものあり。

夫人波江子は島根縣の人泰莊右衛門君の令妹たり、現に東京市麹町區外櫻田町一番地に住し電話青山三一九三番なり。

木村清三郎君

越佐新報社長

君は新潟縣の人太田仁平次君の二男にして明治二年六月一日を以つて生れ後先代小太郎君の養嗣子となる。曩に長岡市會議員、同參事會員、新潟縣會議員たりし外尙ほ又大正九年には衆議院議員に當選して一時政界に名ありしが現時は越佐新報社長にして傍ら株式會社長岡米穀取引所監査役として令名高し。

家族は同君を初めとして五男二女ありて清司君、清三君、清四郎君、良雄君及びヨシ子、ヨシノ子等なり。現に長岡市西神田町に住す。

清岡長言君

子爵　正四位勳四等

當家は天穗日命の後胤贈正一位菅原道實の末流正二位權大納言五條爲庸の二男從二位參議長時の後裔なり。長時別に一家を創立し清岡と稱す、後六代を經て從三位長延に至り明治十七年子爵を授けらる。君は長延君の男にして明治八年二月を以つて生れ同三十八年に襲爵仰せ付けらる。

君は明治四十年殿掌に任ぜられ爾來府立京都圖書館囑託、御歌會始講頌御人數同講頌、菊花高等女學校長、掌典、祭官大禮使儀官、加茂祭勅使等に歷任し又貴族院議員に當選すること前後二回たり。

夫人峰子は子爵唐橋在正君の三女にして其の間に一男一女ありて長和君及び重子と呼ぶ、京都市上京區寺町通廣小路下ル東入東搦町三十五番地に住す。

木村武山君

從七位勳六等　畫家

日本美術院經營者にして又同院同人たる木村武山君は本名を信太郎といひ、明治九年七月十三日を以つて茨城縣西茨城郡北山內村に生る。夙に繪畫に趣味を有し、鄕校を卒ふるや東京に出でて東京美術學校を卒業し、益々其の研鑽を積み文展に出品して賞を受くること數回に及ぶ。

然して君の最も得意とするは佛畫にして其妙や異常、「阿房宮」「孔雀王」等の如き豐麗高雅なる作品は世人を嘆賞せしめし傑作たり。

下谷區谷中天王寺町三一番地に住す。

桐原捨三君

大阪每日新聞社專務取締役

君は埼玉縣の人河野藤次郎君の四男にして、安政二年十一月を以つて生れ後ち長野縣の人廣之助君の養嗣子となる。明治十一年慶應義塾を卒業するや直ちに操觚界に身を投じ、神戸新報主幹より改進新聞理事、東京每日新聞理事等を歷任す。

其の間東京市會及び府會各議員に選ばれ、又初期東京市區改正委員、國交社長たりしが後ち大阪每日新聞社營業局長に任じ、更に同社專務取締役に擧げられ以つて現在に及ぶ。曾つて日本眞珠株式會社の創立に與かり其の取締役たりしことあり、烏川と號し書を好み擊劍、圍碁等趣味多樣なりといふ。

夫人きん子は工學博士吉武榮之進君の令妹にして其の間に四男二女あり。現に大阪府豐能郡豐中に住す。

木村清四郎君

從五位勳三等
實業家

前日本銀行副總裁として久しく我が國金融界に盡瘁して令名あるを木村清四郎君となす。君は岡山縣の人木村勘吉君の長男にして文久元年六月を以つて生る。夙に漢學を學び後ち大阪に出でて英學を修め、更に大志を抱き奮然起つて單身帝都に上り三菱商業學校に入り、轉じて慶應義塾に學び明治十六年同塾を卒業す。

然して、直ちに中外物價新報商況社に入りて其の主筆に任じ、同十九年同社を中外商業新報社と改稱して自ら經營主宰するに至る。

偶々明治三十年岩崎彌之助男の推薦に依り日本銀行に入りて同行副支配人となり、次いで同支配人祕書役に進み、更に營業局長に榮進し同三十九年理事に擧げられ、同四十年行務を帶びて歐米各國を視察し、歸朝後同行副總裁に擧げられ、爾來、同行は勿論我が國銀行界に貢献すること甚大なりしが大正十五年之を辭す。

現に東京市麻布區材木町三五番地に住し電話青山六四一八番なり。

弓家慎吾君

土木建築左官請負業
白色セメントプラスター製造所(資)代表社員

土木建築就中左官請負の業務に於て稀有の特技を有して帝都に鳴る吾が弓家慎吾君は、茨城の產にして明治二十一年三月廿七日同縣西茨城郡岩間町に孤々の聲を擧ぐ、弓家善四郎氏は君の嚴父にして其の三男に當り、後ち分れて一家を創立せり。

當家は代々茨城縣に住し、嚴父善四郎氏に至り左官を其業として該地に營業せるも明治三十八年業務の一大躍進を期して東上せり。

君は往時嚴父に隨伴し、後ち東京高等工業學校建築補習科に學んで同四十年之れを卒業す、尋いで旭川步兵第二十八聯隊に入營、公に奉じて除隊となるや、克く嚴父を佐けて斯業に拮据精勵維れ努む

君は後ち父業を繼承、益々其業態を革め漸次斯界に抽んじて現時超凡の卓技と內外の信望とに依り、各官公衙及び一般民間の下命に應じて業績頓に擧るに至れり。

君は亦昭和三年十一月前揭の合資會社を創立して自ら其代表社員の重任を帶ぶ同社は從來の灰色を呈せるセメントに比し、色調純白、價格至廉にして且つ在來の樽入れを紙袋に包裝して需要家の運搬並に購買に際しての便益に供せる白色セメント及び水軟性プラスターを製造し販賣するを以つて其事業と成せり。該品は素と君の知友たる發明家山崎儀一氏が得たる特許品にして壁材料として理想を悉く具備するもの、君は同氏と提携し本業に兼ねて此新設事業の進展を期して活躍しつゝあり。

君は年齒未だ春秋豐かなり、新興日本の土木建築業界に躍進して大成することを疑ひなかるべく、宜しく自重して可なり尙は傍ら帝國在鄕軍人會神田區分會理事兼評議員たる外同第十三班長にして、其他同町會の各種事業に盡瘁すること甚大なり。

家庭にはハマ子夫人あり、君と同縣の人にして本圖瀧之助氏の長女、此の間に令嗣禮久君及び梅子あり。

現に營業所及び會社事務所は東京市神田區同朋町二番地に有し電話下谷三五三五番たり。

木村政次郎君

衆議院議員
東京每夕新聞社長

君は千葉縣の人林長八君の四男にして慶應元年七月八日を以つて生れ後先代とみ子の養子となる。夙に大志を抱いて上京し刻苦勉勵大いに研鑽を積み、後實業界に身を投じ明治二十一年日本橋區靑物市場頭取に擧げられ、次いで村田銀行支配人、札幌製糖株式會社支配人、起業銀頭取等を經て明治三十四年橫濱米穀取引所理事となる。

先是明治三十二年商事通信社を創立し更に同三十三年東京每夕新聞社を經營し

て大いに努め、明治四十四年立憲政友會に入り、大正六年千葉縣郡部より推されて衆議院議員に當選し、大正十三年の總選擧に際し再び同地より多數の得票を以つて選出せらる。

曾つては東北砂鐵株式會社、臺灣炭礦株式會社の各取締役として才腕を振ひ、明治三十七年には支那に同四十年には露米兩國を漫遊し、普く彼地の實狀を視察研究して歸朝し、今や前記の要職にある傍ら中央新聞社取締役、國語調査會委員勞働保險調査會委員等にして社會公共の事業に盡瘁すること甚大なり。

夫人いね子は東京府の人坂部長次郎君の長女にして其の間に政司君、得二君、達三君、鐵男君及び愛子、實子等あり。現に東京市芝區白金三光町三九三番地に住し電話高輪五五九〇番なり。

木村雄次君

東洋生命保險株式會社長

我が實業界一方の重鎭木村雄次君は東京府の八木村勘之助君の令弟にして明治七年六月二十一日を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、第一銀行に入りて京城支店員となり後同支店副支配人に擧げらる。

然して明治四十二年韓國銀行創立せらるゝや同行理事兼營業局長に推され、後轉じて朝鮮銀行に入り同行理事たりしが現時は東洋生命保險株式會社々長たる外城東電氣軌道株式會社の重役として令名高し。

夫人りゆう子との間に駒男君及びひさ子、韓子、京子、朝子、米子、美代子等あり、現に東京府北豐島郡巢鴨一八五二番地に住し電話小石川三七九九番なり。

清瀨一郎君

法學博士　辯護士
衆議院議員

君は兵庫縣の人清瀨一壽家君の長男にして明治十七年七月を以つて生る。明治四十一年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し後英佛獨に留學し歸朝後法學博士の學位を受け、大正九年以來每回衆議院議員に當選し革新倶樂部に屬し其の令名高し、辯護士を業とする傍ら大江ビルディング株式會社の取締役たり。

夫人比那子は和歌山縣士族林龍太郎君の長女にして梅田高等女學校を卒業し音樂の造詣深きを以つて知らる。現に大阪市北區堂島町濱通一ノ一番地に住す。

由谷義治君

鳥取新報取締役
衆議院議員

君は鳥取縣の人由谷喜八郎君の長男にして明治二十一年三月一日を以つて生る夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、早稻田大學に入りて研鑽を積み歸鄕するや地方自治制に參劃し、鳥取市會議員、縣會議員等に擧げられ大正十三年の總選擧に際し馬を陣頭に進め、惡戰苦鬪能く敵壘を打ち破つて見事當選の榮冠を獲得

し現在に及ぶ。

夫人を千枝子と呼び鳥取縣立高等女學校の卒業たり、現に鳥取市西町一三番地に住し電話三六七番なり。

木原猷胤君

帝國聯合電球會社常務取締役

君は東京府の人木原五平君の二男にして明治二年十月を以つて生る。夙に身を實業界に投じ爾來或は防腐木材株式會社の專務取締役として活躍し、或は株式會社東京電球製作所の專務取締役として事業の經營に當れり。

然して後同所の大崎電氣株式會社と改稱せらるゝや同じく其の專務取締役に推擧せられ、現時は前記帝國聯合電球株式會社常務取締役として斯業の發展に盡瘁し、傍ら日本電飾株式會社の取締役として知らる、電氣倶樂部、鐵道協會各會員たり。

夫人止子は東京府士族岩崎衞生君の五女にして其の間に敏胤君及び君子、國子民子、朝子等あり。現に東京市牛込區若松町一四番地に住し電話牛込二七一番なり。

木村清五郎君

木村商店主
東武砂利株式會社監査役

復興途上にある帝都斯界の重鎭勳七等功七級木村清五郎君は埼玉縣の出身にして明治十年十二月八日を以つて同縣兒玉郡七本木村に孤々の聲を擧ぐ。夙に實業界に雄飛せんとの大志を抱いて上京し、獨力木村商店を開設して奮鬪大いに努め君が至誠と不撓の奮鬪とは相俟つて漸次同業界に頭角を現はし、社會の信用年と共に加はり今や押しも押されもせぬ同業界の一勢力と目せられ、其の取引先は主として諸官廳にして宮內省、復興局、東京府、大藏省營繕管財局、東京市電氣局東京遞信局等に最も信用厚く尙ほ大倉組を初めとして都下諸會社其他一般民間に廣く得意先を有し、東都業界に於ける君の聲名や蓋し眞數あるものあり。

君は尙ほ傍ら東武砂利、立川砂利鐵道日東砂利各株式會社の重役として知られ彼の明治三十七八年日露の役勃發するや出征して滿洲の野に轉戰し幾多戰功を立て功に依り勳七等功七級金鵄勳章を賜はる。然して君の事業に對する熱誠たゞ單に自已一身の利益のみに拘泥せず、常に斯業の改善發達に心を碎き、現に關東砂利業者聯合會々長たる外東京砂利商組合組長にして、且つ東京砂利商組合理事等を勤め、君が斯界に貢獻すること甚大なり、現に東京市四谷區東信濃町十一番地に住し電話四谷四四〇二番たり。

湯川玄洋君

醫學博士
湯川胃腸病院長

君は和歌山縣の人湯川魯叟君の二男にして慶應元年八月を以つて生れ湯川玄硬君の養嗣子となり前名讓三郎を改稱す。夙に獨逸に航してベルリン大學其他の大學にて胃腸學を研究すること數年にして歸朝するや獨力以つて湯川胃腸病院を經營して自らその院長となり現在に至る。

夫人ミチ子は養父玄硬君の三女にして其の間に二女ありて長女を伸子と呼び二女を澄子といふ、現に大阪市東區內淡路町二ノ九七番地に住し電話東三六〇八番なり。

湯口好四郎君

大成商店常務取締役
內外化學物產會社取締役

君は京都府の人湯口豐藏君の令兄にして明治七年十月を以つて生る。現に株式會社大成商店常務取締役並びに內外化學物產株式會社取締役として京都財界の重鎭たり。

夫人をウノ子と呼び京都府の人湯口晉七君の長女にして其の間に五男二女ありて紀一郎君、寬二君、三郎君、四郎君、邦五郎君及び陸子、美代子等なり、現に京都市上京區衣棚通下立賣上ルに住し電話上四六一一番なり。

北村重昌君

株式會社精養軒社長

當家は累代京都佛光寺の寺侍として知られ、祖父重威君に至り東京に轉住し、維新後岩倉具視君の知遇を得て築地精養軒を合となり、後其後援を得て築地精養軒を開設し併せて西洋食料品の輸入販賣を兼營せり。

君は先代重禮君の長男にして明治七年三月を以つて生る。夙に明治學院を卒業するや直ちに身を實業界に投じ、祖業を繼承して漸次其の發展を計り、後時代の進運と共に從來の個人經營にては到底顧客の要求を容るゝに不便なるを感じ、奮然起つて業務の大擴張を企劃し之を株式組織に變更し、自ら同社々長として縱橫の才腕を振ひしかば社運頓に擧り、今や我が精養軒の名斯界に嘖々たり。

尙ほ傍ら大華工具株式會社副社長たる外北村合名會社代表社員として令名高し現に東京市赤坂區新坂町七番地に住し電話青山五五四七番なり。

北村西望君

彫刻家　正七位

君は長崎縣の人北村陳連君の四男にして明治十七年十二月十六日を以つて生る夙に大望を抱いて東上し明治四十五年東京美術學校を優秀の成績を以つて卒業し文展時代に特選を得て一躍本邦畫壇に令名を馳す。君の作品「怒濤」「晩鐘」「光にうたるゝ惡魔」「師範代」「漁師」「無限」「寺內元帥」「巨人」等は何れも世人の賞讃を博し、今や彫刻界の泰斗として世人渴望の的となり、現に東京美術學校教授並に帝國美術院美術展覽會委員等の要職にあり。

夫人ハルノ子は長崎縣士族板倉幹一君の長女たり、現に東京府北豐島郡瀧野川町上中里一七二番地に住し電話小石川五三二二番なり。

北島貴孝君

男爵　從四位
貴族院議員

當家は天穗日命五十五代の後裔出雲國造北島六郎貞孝の後なり代々出雲に住す貞孝より十八代孟孝君に至り國事に奔走し功あり、明治四年華族に列せらる、其の子從三位修孝君家を繼ぎ出雲大社少宮司となり、大教正に補せられ同十七年男爵を授けらる。先代齊孝君は其の長男にして出雲大社權宮司に補せられ貴族院議員に當選す。

君は齊孝君の長男にして明治十七年七月を以つて生れ大正七年襲爵仰せ付けらる。明治三十九年學習院高等科を卒業し更に東京帝國大學に學ぶ、大正十四年七月貴族院議員に互選せられ現に其の職にあり。

夫人華子は侯爵菊亭公長君の令妹にして東京佛英和女學校の卒業なり、現に其の住宅を島根縣簸川郡杵築に有す。

菊地恭三君

大日本紡績株式會社長
三十四銀行頭取

工學博士實業家菊地恭三君は愛媛縣の人菊地泰君の令弟にして安政六年十一月を以つて生る。現に關西實業界の重鎮として謳はれ、前記銀行會社の頭取又は社長として知らるゝのみならず又學者として令名あり。

夫人スマ子は長崎縣の人白江景由君の二女にして君との間に五男二女あり、現に大阪市東區上本町八ノ二三二番地に住し電話南一四番なり。

湯山壽介君

富士瓦斯紡績株式會社監査役
駿河銀行取締役

君は靜岡縣の人湯山八百吉君の長男にして安政五年十月一日を以つて生る。曾つて御殿場委托株式會社監査役たりしが現時は株式會社駿河銀行、同駿河貯蓄銀行、同御殿場銀行各取締役並びに株式會社御厨銀行、富士瓦斯紡績株式會社各監査役にして今や地方財界の重鎮として其の令名嘖々たり。

夫人をさん子と呼び靜岡縣の人森田泰次郎君の令妹にして君との間に四男七女あり、現に靜岡縣駿東郡小山町に住す。

湯淺七左衛門君

湯淺七左衛門商店代表社員

君は石川縣の人早川千吉郎君の令弟にして男爵山澤靜一君の叔父君に當り、明治十五年三月を以つて生れ前名外吉を改稱す。現に京都府多額納稅者にして株式會社湯淺七左衛門商店代表社員たる外湯淺蓄電池製造株式會社及び株式會社村田製鋲所各取締役にして且つ帝國油脂株式會社監査役たり。

夫人タケ子は先代七左衛門君の長女にして其の間に三男一女ありて佐一君、達二君、和雄君及びエン子等なり、現に京都市下京區五條通堺町東入ルに住宅を有し電話下七六七番なり。

北岡晴次郎君

東京貯蓄銀行常務取締役

曾つては教育界に令名を馳せ、今また我が財界に活躍して其の前途多望なる北岡晴次郎君は、東京府士族榎本丹次郎君の二男にして文久三年六月六日を以つて生れ後先代藤五郎君の養嗣子となる。明治十六年東京府師範學校を首席を以つて卒業し、爾來東京市郡の教育界に在りて育英の道に從事すること十年、名校長として斯界に貢獻すること甚大なりき。

然して感ずるところありて明治二十六年斷然教鞭を擲つて實業界に投じ、東京貯蓄銀行に入り爾來三十有余年、恪勤精勵、同行發展に全力を傾注し、漸次累進して本店支配人等を經て遂に同行常務取締役に擧げられ現在に至る。趣味として讀書、書畫、圍碁等あり以つて其の爲人を知るべきなり。

夫人てる子は東京府士族栗田原次君の養女にして淑德の譽れ高し、現に東京市本所區南二葉町三番地に住す。

城戸新石君

常磐生命保險會社東京支部長

君は愛媛縣の人城戸吉彌君の長男にして明治九年十月三日を以つて愛媛縣喜多郡菅田村に生る。夙に鄕校を卒ふるや直ちに實業界に身を投じ、獨力以つて酒造業を營みしが後大志を抱いて上京し、東京傳道學校に入りて基督教教理の課程を修得し、傳道師として北海道、新潟等に巡歷して大いに社會教化事業に盡瘁せしが大正二年常盤生命保險株式會社の創立に際し、聘せられて同社東京支部長となり今日に及べり、君は熱心なる基督教信者にして且つ圍碁、讀書、狩獵等に趣味を有すといふ。

夫人ヨネ子は新潟縣の人山崎清作君の長女にして新潟女子師範學校を卒業し其の間に新君、順子等あり、現に東京市麻布區市兵衛町二ノ六一番地に住し電話青山五九二三番なり。

岸清一君

法學博士　辯護士

君は舊松江藩士岸伴平君の二男にして慶應三年七月を以つて生る。明治二十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや直ちに辯護士となり專ら訴訟事務に從事し民事訴訟を得意として知らる。

其間屢々東京辯護士會々長に推され明治四十三年法學博士の學位を授けらる。而して外國に遊ぶこと數回に及び又體育奬勵普及に助力し、大正十二年第六回極東オリンピック大會に其の會長となり、同十三年第八回世界オリンピック大會に日本代表員として參加せり。傍ら大阪瓦斯、堺瓦斯各株式會社の重役たり。運動美術等に趣味を有し東京倶樂部、交詢社日本倶樂部、ゴルフクラブ、學士會各會員たり。

夫人壽美子は東京府の人坂井五一君の長女にして東京女學院を卒業し、君との間に偉一君あり、東京市芝區伊皿子町七〇番地に現住し電話高輪六二番なり。

城戸四郎君

松竹合名會社副社長
松竹キネマ株式會社常務取締役

溫厚にして篤學、執事周密加ふるに其の天賦の磊落たるや、人をして一見舊知の如く親しゝしむる我が青年實業家城戸四郎君は、彼の精養軒の創立者として令名高き北村重威君の令孫にして明治二十七年八月を以つて生れ幼にして城戸家を繼承す。

夙に東京府立第一中學校を經て第一高等學校に入り、大正八年東京帝國大學英法科を優秀の成績を以つて卒業し、翌年菅生商會外國貿易部に入り、同年更に國際信託株式會社に轉じ多年の蘊蓄を傾注して專ら業務の發展に盡瘁せしも大正十年同社を辭して松竹合名會社に入りて同社副社長に就任せり。

君即ち得意の敏腕を振ひ、社長を援けて大いに爲す所あり、次いで松竹キネマ株式會社常務取締役に擧げられ大正十二年には更に蒲田撮影所長兼務となり今日に至る。劇並に映畫は君の最も趣味を有する所のものなれば、來るべき時代に新機軸を出して我國映畫史上に貢献すると必せり。傍ら帝國興業株式會社、ルナパーク株式會社等の取締役にし社會政策の研究家として知らる。

現に東京市赤坂區檜町三番地に住し電話青山六五四番なり。

北村重太郎君

株式會社精養軒取締役
株式會社梅村屋社長

君は三重縣士族北村重禮君の三男にして我が財界の重鎮北村重昌君の令弟に當り、明治二十年十一月十四日を以つて生る。夙に學業を卒ふるや直ちに實業界に入りて令兄重昌君を援けて精養軒經營の衝に當り、大正七年株式組織に變更せらるゝや同社の取締役に就任し、尙ほ株式會社梅村屋を開設して其の代表取締役として活腕を振ひ以つて現在に至る。君年齒未だ春秋に富み其前途や蓋し多望なりといふべし。

夫人ミヨ子は東京府の人細坂梅吉君の三女にして內助の聞え高し、現に東京市京橋區松屋町二ノ六番地に住し電話銀座三五六九番なり。

木村秀興君

三重縣多額納稅者
東海電線株式會社取締役

君は三重縣の人木村誓太郎君の長男にして明治五年十月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學文科大學史學科を卒業するや鄕里に歸り、專心農村振興に盡瘁し自ら農會產業組合等を經營する外東海電線、北勢鐵道各株式會社重役として地方財界に知られ、且つ三重縣多額納稅者として直稅二千六百九十余圓を納むといふ。

夫人小枝子は三重縣の人今井幹一郎君の長女にして津市高等女學校を卒業し君との間に精一君、時哉君、俊夫君、春郎君、正也君、重郎君及び文子、千枝子、千賀子、茂子等あり、現に三重縣員辨稻郡に住す。

木下謙次郎君

正五位勳三等
衆議院議員

君は大分縣の人木下雄吉君の二男にして明治二年二月を以つて生る。明治十五年福岡縣蘆屋中學校を卒業するや直ちに第三高等學校に入り高等普通學を修得し明治二十五年中央大學の前身たる東京法學院を卒業せり。

曩に東洋生命保險會社の取締役たりしが後歸鄕して農業に從事し、更に明治三十年志を立てて東京に轉住し、寫眞用品製造株式會社を設立して同社專務取締役に就任し傍ら共濟生命保險會社取締役として財界に活躍し、明治三十五年大分縣郡部より推されて衆議院議員に選出せられ爾來當選すること九回現に其の任にあり。

曩に遞信省參政官、鐵道省勅任參事官東京齒科醫學專門學校理事、松平青英會々長等に歷補し、彼の日露戰役の功に依り勳四等に叙せられ旭日小綬章を賜り、大正三年功に依り勳三等に叙さる。讀書旅行等に趣味を有すといふ。現に東京市麻布區簞笥町二九番地に住し電話青山六〇〇五番なり。

北川幸吉君

土木建築請負業
株式會社北川組取締役

君は愛知縣の人北川宇三郎君の長男にして明治九年六月を以つて生る。夙に土木建築界に身を投じ幾多人生の辛酸を嘗め、終始奮鬪を以つて一貫したる結果は遂に今日の大をなすに至り、現に株式會社北川組取締役にして地方業界に令名あり、且つ愛知縣多額納稅者にして現時直稅二千二十余圓を納むといふ。

夫人きく子は愛知縣の人片野爲七君の長女にして其の間に四男五女あり、現に愛知縣名古屋市西堀詰町一ノ一三番地に住し電話西一六八番なり。

弓削田千吉君

若山鑛山株式會社長

君は福岡縣の人山本德次郎君の三男にして明治四年一月を以つて生れ先代長吉君の養嗣子となる。夙に實業界に身を投じ現に若松鑛山株式會社代表取締役社長たる外日本クローム工業株式會社及日本格魯謨株式會社取締役たり。

夫人フサ子は廣島縣の人木村彌助君の長女にして養嗣子軍吉君は二女サダ子の夫君にして廣島縣の人石井千代吉君の三男たり、尙ほ長女千代野子あり。現に松江市母衣町に住す。

北島精一君

秋田縣多額納稅者
平鹿銀行取締役

君は秋田縣の人北島虎之助君の長男にして明治十七年一月二十五日を以つて生

る。夙に實業界に投じ現に平鹿銀行取締役にして、且つ秋田縣多額納稅者として地方財界に知らる。

夫人トキ子は秋田縣の人小西辰藏君の二女にして其の間に四男一女あり、現に秋田縣平鹿角間川に住す。

木下正中君

正四位勳三等　醫學博士
木下產科婦人科病院長

帝都に於ける婦人科病院として其の令名高き木下產科婦人科病院の經營者、正四位勳三等醫學博士木下正中君は東京府士族木下潔君の長男にして、醫學博士木下東作君の令兄たり。明治二年八月を以つて生れ、夙に東京帝國大學醫科大學を卒業して後同醫科大學助教授に任ぜられ明治三十五年醫學博士の學位を受け同三十七年同校教授に進み產科婦人科各科講座を擔任す。

大正四年八月歐米諸國に留學し大正五年歸朝後も相變らず同校に教鞭をとりしが、大正六年同校を辭し濱町產科婦人科病院を經營し其院長たりしが、大正十四年三月同院長を辭して東京市麴町區四番町に木下產科婦人科病院を開設し、同院長として現在に至る。

夫人ヤス子は下瀨謙太郎君の令妹にして明治高等女學校を卒業し、其の間に正一君、泰二君、謹三君及び篤子、直子、宣子、定子、弘子、靜子等あり、現に東京市本郷區森川町一番地に住し電話小石川七二八番なり。

城戸元亮君

東京日々新聞社常務取締役
大阪毎日新聞社主幹

君は熊本縣の人城戸源太郎君の二男にして明治十四年五月十三日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて鄕關を出で、研鑽琢磨、明治三十九年京都帝國大學政治經濟科を卒業せり。

然して後大阪毎日新聞社に入り、更に歐洲各國に留學して研究すること三ヶ年有餘にして歸朝し、大正四年東京日々新聞社整理部長となり、次いで政治部長、副主幹、主筆等を經て現に同社主幹にして傍ら大毎社常務取締役を兼ね其の聲名嘖々たり。

夫人スエモ子は熊本縣士族田添嵩彌太君の四女たり、現に東京府荏原郡入新井町新井宿一三二九番地に住し電話大森一一四〇番なり。

菊地八次郎君

磯原銀行專務取締役

君は茨城縣の人菊池嘉右衞門君の長男にして明治四年八月を以つて生る。現に磯原銀行專務取締役たる外水戸提灯製造三濱製氷、茨城貯蓄銀行、兩毛電氣製氷北浦電氣各株式會社の重役にして地方財界に令名高し。尙ほ茨城縣多額納稅者にして現時直稅九百七十餘圓を納む、夫人キク子は福島縣人淺川彌三郎君の長女たり、現に茨城縣多賀關南に住す。

城戸崎廣三君

從七位勳六等　退役陸軍二等主計
臺灣製糖株式會社參事

君は福岡縣士族城戸崎彥郎君の三男にして明治九年二月九日を以つて福岡縣築上郡宇島町に生る。夙に鄕校を卒ふるや靑雲の志を抱いて東上し、明治三十二年商科大學の前身たる東京高等商業學校專攻科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに實業界に身を投じ聘に應じて三井物產株式會社に入社し、漸次累進したりしも大正四年臺灣製糖株式會社に轉じ同社商務部長となり、後ち參事に擧げられ現時に至る、圍碁、將棋を能くし書畫、盆栽を愛好すといふ。

夫人ヨシ子は群馬縣の人橋本信太郎君の長女にして群馬縣立高等女學校を卒業し、君との間に淸君、武二君及びマサ子スミエ子等あり、現に東京府豐多摩郡中澁谷町五四六番地に住し電話靑山一七三七番なり。

湯川寬吉君

從四位勳四等
住友銀行常務取締役

湯川家は和歌山縣新宮町の出にして世々藩醫として知られ、君は先代寬齊君の長男にして明治元年五月を以つて生る。明治二十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに官界に志し遞信省に入り遞信事務官、遞信書記官兼臨時臺灣電信建設部事務官、東京郵便電信學校長、通信事務官兼遞信參事官、外務省參事官、通信管理局長等に歷任せり。

然して後官界を辭して住友家に入り現に住友銀行常務取締役たる外住友製鋼所藤倉電線各株式會社取締役にして且つ住友電線製造所監査役、住友合資會社理事として令名あり。

曩に明治三十年米國華盛頓に開催の萬國聯合郵便會議委員として差遣せられ同時に歐洲に出張を命ぜらる。尙ほ大正六年銀行部擴張の要務を帶びて米國に航し歸路歐洲を視察漫遊し、今や關西實業界に重きをなす、現に兵庫縣武庫郡本庄村深江町一一六番地に住し電話蘆屋七三番なり。

岸井辰雄君

東京辯護士會長

東都有數の辯護士辨理士として知らるゝ岸井辰雄君は岸井辨吾君の長男にして明治十三年四月二日を以つて生る。夙に靑山學院中學部を經て明治法律學校に入り明治三十六年首席を以つて卒業し同三十七年判檢事登用試驗に合格し、浦和地方裁判所に勤務せしが同三十八年辯護士を開業し同四十年辨理士を兼業す。

大正三年破產管財人を命ぜられ大正十年辨理士會理事、明大商議員に選任せられ尋いで同十一年五月東京辯護士會副會長に同十四年五月同會長に選任せられ斯界に令名あり。

夫人龍子は埼玉縣の人田原萬平君の長女たり、現に東京市京橋區築地町三ノ一五番地に住し電話銀座四五五五番なり。

喜多又藏君

勳三等　實業家

大阪實業界の巨星喜多又藏君は奈良縣の人喜多長七郎君の三男にして、明治十年九月十一日を以つて奈良縣南葛城村に生る。明治二十七年大阪高等商業學校を卒業するや獨力丸木商店を經營せしが後之を廢し、南洋護謨拓殖、大阪莫大小紡織、大正製酒、東亞製麻、中華企業鈴政式織機、內外製糖、攝陽銀行、東亞興業妙寺製絲各株式會社の重役を歷勤し現に喜多合名會社代表社員、日本綿花、日華紡織、日華生命保險、日華製油、朝鮮棉花、旭絹織各株式會社々長、大正製麻、日本火災保險、大阪海上保險各株式會社の重役として關西財界に重きをなす。

曩に對獨平和條約締結の際功あり勳三等旭日中綬章を授けられ、大正十三年四月帝國經濟會議々員を仰せ付けられ、尙ほ傍ら休職軍人講習會顧問、日本產業協會、東亞同文會報效社各評議員、日本工業倶樂部理事、國際聯盟會評議員、日蘭協會監事等の公共事業に盡瘁すること甚大なり。趣味として讀書、旅行あり圍碁又君の能くするところたり。

夫人てい子は大阪府の人香村文之助君の長女にして梅田高等女學校を卒業し其の間に又太郎君及び登志子、はる子、滿壽子等あり、現に大阪市南區天王寺町小宮一〇番地に住し電話南四三五五番なり

弓削和三君

八代共立銀行取締役
熊本縣多額納稅者

君は熊本縣士族弓削德太郎君の長男にして明治四年五月十八日を以つて生る。早くも身を實業界に投じ地方產業發展に貢獻すること甚大、現に八代共立銀行取締役にして且つ熊本縣多額納稅者にして現に直稅一萬四千三百九十餘圓を納め當地財界に重きをなす。

夫人カジコ子は熊本縣の人和田和平君の長女にして其の間に一女あり、現に熊本縣八代市八代町に住す。

菊池愼之助君

從三位勳一等功三級
陸軍大將

君は茨城縣士族戶田忠正君の從弟君にして慶應二年二月を以つて生れ、後菊池のぶ子の養嗣子となる。明治二十二年陸軍步兵少尉に任じ累進して大正十二年陸軍大將に陞り軍事參議官たり。

其の間東部都督府參謀、敎育總監部參謀、陸軍省副官、參謀本部副官、第十六師團參謀長、陸軍士官學校生徒隊長兼敎官、步兵第五旅團長、陸軍省人事局長、參謀本部總務部長、敎育總監部本部長、第三師團長、朝鮮軍司令官、東京警備司令官等を歷補し大正十五年三月敎育總監部總監に任ぜられ現在に至る。

夫人をふさ子と呼び其の間に愼一君及びちゑ子、敬子、貞子等あり、現に東京市外大久保町東大久保二〇番地に住し電話四谷九九〇番なり。

菊池宇和司君

菊池合名會社長
福島電線株式會社取締役

君は福島縣の人菊池彥左衞門君の長男にして明治十四年九月を以つて生る。夙に地方財界に活躍して貢獻するところ甚大、現に菊池合名會社代表社員たる外福島電線、請戶川水電、飯坂銀行、信達軌道、第百七銀行、縣是製糸各株式會社の重役として知らる。

夫人を千代子と呼び君との間に三男三女ありて進君、正君、俊夫君及び恒子、富子、文子等あり、現に福島縣伊達郡粟野村に住す。

木村權右衞門君

木村銀行頭取

君は大阪府の人木村權右衞門君の長男にして明治七年十一月五日を以つて生る夙に實業界に志し惡戰苦鬪能く今日の大を成す一つに君の奮鬪の賜にして、現に木村銀行頭取として關西實業界に知られ且つ大阪府多額納稅者たり。

夫人ナツ子は大阪府の人奥村彥兵衞君の三女にして其の間に三男一女あり、現に大阪府東成郡鶴橋猪洞野五五番地に住し電話南一五七番なり。

湯淺倉平君

從四位勳二等　貴族院議員

君は山口縣士族湯淺康菴君の二男にして明治七年二月一日を以つて長門國豐浦郡に生る。夙に山口高等學校を經て東京帝國大學に入り、明治三十一年法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに官界に身を投じ、內務省に入り內務屬、滋賀、兵庫各縣參事官、鳥取、愛媛、長崎、神奈川各縣警察部長、香川、神奈川各縣內務部長、內務事務官同參事官、內務省地方局長等を歷任せり。

其の他臨時法制審査委員、特別都市計劃委員、臨時條約改正調査局委員、文政審査會委員、預金部資金運用委員會委員、中央衞生會委員等を歷任し、尙ほ大正十二年九月山本內閣成立するや警視總監に擧げられ、大正十三年六月內務次官に任ぜられしが後官界を辭し現に貴族院議員たり、圍碁、將棋、魚釣等に趣味を有すといふ。

夫人サキエ子は山口縣の人佐伯惟孝君の二女たり、現に東京市牛込區赤城下町四六番地に住し電話牛込三九三九番なり

菊池慶次郎君

岩手林業株式會社取締役
德田村農會長

君は岩手縣の人菊池清景君の長男にして明治二十二年八月を以つて生る。夙に盛岡中學校を卒ふるや靑雲の志を抱いて上京し、早稻田大學に入りて研鑽を積み同校を卒へて歸鄕し地方財界に活躍すること甚大、現に前記の外岩手銀行取締役にして且つ新山野耕地整理組合長たり、尙ほ岩手縣多額納稅者として令名あり。

夫人をツタ子と稱し吉田タニ子の令妹たり、現に岩手縣紫波郡德田村に住す。

木村德衛君

醫學博士
桑橋慈善病院長

君は新潟縣の人島田丑松君の二男にして明治四年九月二十五日を以つて生れ先代東眠君の養嗣子となる。明治三十三年東京帝國大學を優秀の成績を以つて卒業し後歐洲に遊學し明治三十八年醫學博士の學位を授與せらる。

曩に司法省醫務囑託たりしが後泉橋慈善病院に入り內科醫長副院長を經て、現に同病院長兼理事たる傍ら東京帝國大學醫學部の講師として令名あり、美術、書畫等の造詣深しといふ。

夫人益子は八代則彥君の令妹にして跡見高等女學校の卒業なり、現に東京市麴町區一番町三八番地に住し電話四谷二九五七番なり。

貴志米吉君

大阪三品商事株式會社取締役

君は大阪府の人武藏野友吉君の四男にして明治十年三月を以つて生る。現に大阪三品商事株式會社取締役にして、且つ大阪府多額納稅者として知られ現時直接國稅六千三百三十余圓を納むといふ。

夫人トク子は大阪府の人麻田吉郎平君の四女にして君との間に光子、美代子、實枝子、好子、高子等あり、現に大阪市東區北久寶寺町二ノ四七番地に住し電話船場二八八番たり。

結城安次君

東京電力株式會社常務取締役

從五位法學士結城安次君は茨城縣の人結城萬藏君の二男にして明治十七年十月十七日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに三井物產株式會社に入社し、後ち早川電力株式會社取締役、遞信大臣祕書官等を歷任し、現時は東京電力株式會社常務取締役として我が財界一方の雄たるを失はざるべし。

夫人を秀子と呼び岡山縣士族土居通博君の長女にして岡山縣立高等女學校の卒業たり、現に東京市芝區高輪南町五三番地に住し電話高輪六六一番なり。

木崎幸八君

福島縣多額納稅者
奥川水力電氣會社取締役

君は福島縣の人木崎市平君の長男にして明治二年八月十五日を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して其の貢獻するところ甚大、現に前記の外大沼電氣、東北物產、中澤溫泉、萩野石材各株式會社の重役にして且つ福島縣多額納稅者として直稅二千三百六十余圓を納め當地方の有力家たるに相違なし。

夫人をノブ子と稱し福島縣の人佐藤文泰君の三女たり、現に福島縣大沼郡高田に住す。

北田久右衛門君

合同貯蓄銀行取締役

君は岡山縣の人仁子政藏君の二男にして明治九年四月を以つて生れ先代久右衛門君の養子となる。當家は當地方に於ける有數の資產家として知られ、且つ前記銀行取締役たる外倉敷住宅土地株式會社監查役たり、尙ほ岡山縣多額納稅者にして直稅三千五百余圓を納むといふ。

夫人春子との間に六女ありて幾代子、秀子、政子、恒子、貞子、房子と呼ぶ、現に岡山縣都窪郡倉敷に住す。

岸義男君

東海電氣株式會社常務取締役
南信電力株式會社常務取締役

君は東京府士族岸幹太郎君の長男にして明治十五年四月二十三日を以つて生る夙に東亞商業學校を卒業するや直ちに實業界に志し、株式會社電業社に入りて活躍せしも後東京電化工業株式會社常務取締役及び株式會社電氣製鋼所監查役等を歷勤せり。

然して現時は前記諸會社の常務取締役たる外東海電極製造、木曾川電力、桂川電力各株式會社の重役として我が財界に令名高し、園藝、狩獵等に趣味を有し電氣倶樂部會員たり。

夫人元子は秋田縣士族高橋勇吉君の令妹にして秋田縣立高等女學校を卒業せり現に東京府豐多摩郡下落合四二五番地に住し電話牛込四〇三六番たり。

菊池寬實君

朝鮮炭礦株式會社取締役

君は栃木縣の人菊池武夫君の二男にして明治十八年四月を以つて生る。夙に實業界に入りて活躍し曩に日本陶器株式會社取締役を初めとして東京通船株式會社監查役等を勤め尙ほ石炭商を經營せしが現時は朝鮮炭礦株式會社取締役たり。

夫人ケイ子は栃木縣の人大嶋國雄君の長女にして君との間に一男一女ありて仁君、智子等なり、現に東京市京橋區明石町三四番地に住し電話銀座五五〇八番なり。

湯地幸平君

從四位勳三等
貴族院議員

君は宮崎縣士族湯地貞吉君の長男にして明治三年四月を以つて生る。明治二十四年東京府師範學校を卒業し、更に日本法律學校に學び、明治二十八年同校を卒業せり。

明治三十五年文官高等試驗に合格して職を官界に採り茨城縣視學官、茨城、鹿兒島、福岡、三重各縣事務官、警視廳警視、警視總監官房主事、愛知縣內務部長臺灣總督府警視總長、福井縣知事、警保局長等に歷任し現に貴族院議員として知らる。

夫人リウ子は廣島縣士族松村貞雄君の長女にして東京府立第一高等女學校の卒業なり、現に東京市麻布區本村町三九番地に住し電話高輪五二五二番なり。

菊池長之君

弘前電燈株式會社取締役

君は青森縣の人菊池定次郎君の三男にして明治十二年七月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に弘前電燈株式會社取締役にして、尚ほ青森縣多額納稅者として直稅二千餘圓を納め當地に名あり。

夫人をタヨ子と呼び青森縣の人藤野駒吉君の三女にして君との間に清君、敏時君、益三郎君、英太郎君、長三郎君、謙三郎君及び三女あり、現に弘前市上土手町に住す。

湯原元一君

正四位勳二等
東京高等學校長

君は舊鍋島藩御典醫石井家の出にして文久三年を以つて生れ先代清一君の養嗣子となる。夙に醫學に志し明治十七年東京帝國大學醫學部に入りて修學せしが途中退學し、福岡尋常中學校教諭となり爾來山口高等中學校、第五高等學校各教諭宮崎、新潟各縣立尋常中學校長、新潟縣視學官、北海道事務官、東京音樂學校長東京女子高等師範學校長等を經て東京高等學校の開校せらるゝや同校長となり現在に至る。

夫人とく子は北海道の人金子元三郎君の長女にして君との間に甫君及び愛子、和子等あり、現に東京市外代々幡町代々木一四六二番地に住し電話四谷一八八二番なり。

金原己三郎君

金原銀行頭取
丸善株式會社監査役

君は東京府士族濱崎光節君の三男にして明治二年四月二十日を以つて生る。夙に實業界に身を投じ活躍大いに努めしかば、當時我が財界に令名ありし金原明善翁に其の將來を囑望せられ、即ち翁の長男明德君の長女ミヨシ子の婿養子となし爾來金原を稱し、現に金原銀行頭取たる外丸善株式會社監査役として我が財界に令名あり。

趣味廣く就中撞球に堪能にして社交に厚く鐵道協會、銀行倶樂部、交詢社各會員たり、夫人ミヨシ子との間に五女あり現に東京市芝區高輪北町四八番地に住し電話高輪一四二番たり。

木原唯一郎君

木原酒造株式會社長

君は廣島縣の人木原清三郎君の二男にして慶應元年十一月八日を以つて生る。多年町長或は町會議長として社會公共の爲めに盡瘁すること甚大なりしが、現時は木原酒造株式會社を創立して自ら同社の社長として經營の衝に當り、專ら其の發展に全力を傾倒する傍ら大洲商業銀行加茂製酒店各株式會社の取締役として地方財界に其の令名高し。

夫人マサミ子は愛媛縣の人廣田鷹雄君の長女にして其の間に一男五女あり、廣島縣加茂郡內海町に現住す。

木原清君

正五位勳三等
陸軍少將

君は東京府の人木原白照君の長男にして明治九年四月九日を以つて生る。明治二十九年陸軍士官學校を卒業し、更に陸軍大學校に入りて明治三十六年同校を卒業す。先是明治三十年陸軍歩兵少尉に任じ大正九年陸軍少將に陞任す。

其の間歩兵第四十九聯隊長を始めとして陸軍運輸部基隆支部長、參謀本部々員陸軍大學兵學教官、參謀本部課長、陸軍技術審査部議員、同會議々員等を歷任し尚ほ歐洲戰爭當時は英國にありて出征軍に加はり更に支那に航し軍事視察の要務を帶びて在留すること前後數回なり。

夫人豐子は東京府の人春山清寧君の三女にして君との間に五女ありて近枝子、菊枝子、隆子、良子、英子と呼び良子は東京府の人山勢ふく子の養女となる、現に東京市牛込區甲良町二一番地に住し電話牛込二三一番なり。

木村惠吉郎君

東京商科大學教授

正五位勳四等木村惠吉郎君は東京府の人木村信鄕君の長男にして明治十年一月を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業するや間もなく東京高等商業學校教授に任ぜられ、同校が大學令の改正と共に單科大學に昇格して東京商科大學と改稱せられし後も同じく同大學に教鞭を執り、現に同校豫科教授兼同大學教授として知らる。

夫人ゆき子は故農科大學長松井直吉君の長女にして、君との間に一男二女あり現に東京市牛込區市ヶ谷田町三ノ二五番地に住し電話牛込三六一〇番たり。

木村重治君

東京商科大學教授

正五位勳四等木村重治君は大阪府の人木村芳之助君の二男にして明治七年五月六日を以つて生れ後木村トミ子の養嗣子となる。明治二十九年東京立教學院高等專修科を卒業するや直ちに米國に航しハーバート大學、ホバード大學等に斯學の研鑽を積みて歸朝す。

然して身を育英界に投じ爾來立教大學臺灣協會專門學校、慶應義塾大學等に教鞭を執りて其の博大なる蘊蓄を傾注するところありしが更に轉じて山口、東京各高等商業學校教授に歷任し現に東京商科大學教授として令名あり。

夫人をやゑ子と呼び愛知縣士族染山竹次郎君の長女にして君との間に重義君、陽二郎君及び靜子、英子、邦子等あり、現に東京市外大久保町西大久保三八四番地に住す。

木村桂七郎君

木村工業株式會社長

君は靜岡縣の人宮崎長九郎君の三男にして明治十年八月五日を以つて生れ、後ち先代木村大吉君の養嗣子となる。夙に林業を營み現に木村工業株式會社長たる外福川林業株式會社專務取締役にして、

且つ日本木煉瓦並に日加物産各株式會社取締役として知らる。

現に大阪市東區上本町八丁目新六番地に住す。

木村尚達君

從五位勳五等　司法書記官
大臣官房調査課長

君は熊本縣の人東彦則君の二男にして明治十二年五月を以つて生れ、明治四十四年四月先代成苗君の養嗣子となる。

明治三十九年七月京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し、後ち同四十四年獨逸に留學してチユーリンゲン、ミユンヘン、ベルリン各大學に學び、造詣を深くして歸朝す。

然して職を官途に奉じて千葉區裁判所檢事、東京地方裁判所判事、同部長等を歴任し、後ち司法書記官に任ぜられ大臣官房調査課長の要職に就任し以つて現在に及ぶ。

夫人ミサヲ子は中山寛君の長女にして君との間に某君及び千代子、壽子、敏子等あり、現に東京市麹町區中六番町三五番地に住し電話四谷六三一五番たり。

木邊孝慈君

男爵　從四位

當家は内大臣藤原鎌足六代從三位參議眞夏の裔本願寺大谷宗照の長男にして、開祖たる存覺の後なり。即ち存覺近江錦織寺を開基し一向專念入旨を傳ふ、夫より十四代を經て正五位淳慈に至る。

君實は伯爵大谷照君の大叔父君に當り明治十四年四月を以つて生れ、後ち同家の後を承けて明治二十九年に至り男爵を授けられ前名尊行を改稱す。現に眞宗木邊派の管長にして江洲錦織寺の住職たり。

夫人靜子は公爵一條實輝君の養女にして、侯爵醍醐忠重君の令姉に當り、君との間に一男三女あり、現に滋賀縣野州郡中里村に住す。

北村長吉君

日本重油株式會社長
千代田石油株式會社取締役

君は東京府の人北村長吉君の長男にして、明治二十六年五月を以つて生れ、後ち前名周一郎を改稱す。夙に慶應義塾普通部を卒業するや、直ちに實業界に投じ祖父より傳へられたる油問屋を營み、尚ほ傍ら日本重油株式會社々長たる外千代田石油、東京揮發油各株式會社重役として新進實業家の名あり。

夫人千代子は愛知縣の人竹内義太郎君の令妹にして、跡見高等女學校の卒業なり、現に東京市日本橋區小網町三ノ八番地に住し電話浪花四〇〇九番たり。

桐島像一君

岩崎家々庭事務所長
東山農事(株)專務取締役

君は舊高知藩士桐島正親氏の長男にして、元治元年十月五日を以て生る。

夙に東京帝國大學法科大學を卒業するや三菱合資會社に入社し、同社銀行部長兼地所課長、地所部長等を歴任、後ち三菱合資會社管事となり、大正八年十月東山農事株式會社を創立して同社專務取締役に任じ、現に其の職にある外岩崎家々庭事務所長にして、且つ明治生命、麒麟麦酒、東京イーシー工業、東京電燈、東京海上火災保險、大阪毎日新聞、三菱銀行、三菱製紙各株式會社の重役として我が財界に名あり。

曩に大正二年の交、歐米各國を歴遊して彼の地の經濟界並に社會狀態を視察見學して歸朝す、今や實業界の恩人にして且つ財團法人濟生會、帝國飛行協會、日本倶樂部各理事、東京市教育會評議員會々長等の公職にあり、尚ほ曾つては東京市會議員、同議長として東京府市制に盡瘁すること甚大なり、工業倶樂部、交詢社各會員、趣味に投網、謠曲、旅行あり。

夫人ミツ子との間に友一君、龍太郎君あり、現に東京市本郷區駒込上富士前町一二二番地に住す。電話小石川七〇番

木村庫之助君

木村商店(株)社長
横濱商業會議所議員

君は千葉縣の人鈴木市太郎氏の二男にして、明治四年二月二十日を以て生れ後ち木村利右衛門氏の養子となる。

夙に横濱商業學校を卒ふるや實業界に投じて活躍大いに努め、現に前記の外横濱電氣工業、相模紡績各株式會社の取締役にして且つ大日本自轉車、東京電燈各株式會社監査役、横濱取引所員として横濱財界に名あり。

夫人ナヲ子は養父利右衛門氏の五女にして其の間に富太郎君、仲二郎君、源四郎君、恒夫君、米雄君及び延子、俊子、貞子等あり、現に横濱市根岸町一〇二三番地に住す。電話本局九三〇番

木村清治君

衆議院議員　醫師
磐城銀行取締役

君は福島縣の人木村元策氏の三男にして、明治三年八月十五日を以て生る。

夙に濟成學舍を卒業し、更に笈を負ふて上京、研鑽を積み後ち醫師檢定試驗に合格、明治二十四年順天堂病院に入りて助手となり、仝二十六年郷里大浦村に於て醫師を開業す。

爾來、縣下刀圭界に名を馳せ、且つ明治四十四年以來縣會議員に當選すること前後四回、昭和三年日本政黨史上特筆すべき普選第一回の總選擧に際し逐鹿戰場に奮戰せしかば幾多猛者を打ち破つて見事當選、現に立憲政友會代議士として知らるゝのみならず、磐城銀行、平製氷磐城セメント各株式會社の重役にして且つ大浦信用組合長たり。

夫人セイ子は福島縣の人渡邊金治氏の三女にして其の間に正俊君、貞雄君、玄策君及びケイ子、コウ子、シヅ子等あり現に福島縣磐城郡大浦村に住す。電話四ツ倉三三番

岸本重任君

大阪小型タクシー(株)專務取締役
福岡乘合自動車(株)社長

君は岡山縣の人岸本英之助氏の長男にして、明治二十三年二月二十三日を以て生誕す。

夙に實業界に投じて敏腕を振ひ、現に前記の外黑龍會專務理事、養生義塾經營者たり、尙ほ曩に雜誌ゼ●エイシヤン●レビュー主幹として健筆を振ひしことあり

趣味に撞球あり、社交に厚く清交社、交詢社、寶塚倶樂部、大軌倶樂部各會員たり。

夫人田鶴子は愛知縣の人淺井儀平氏の二女にして御茶ノ水高女の出身、其の間に重孝君、鐵太郎君及び美津枝子、澄子等あり、現に大阪市堂島北町八ノ一番地に事務所を有す。電話北六三二二番

北郷資雄君

御園自動車商會主
東京自動車組合評議員

君は鹿兒島縣士族舊薩摩藩の名家北郷左七氏の長男にして、明治十四年三月十三日を以て同縣薩摩郡に生る。

明治三十九年東京高等工業學校機械科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに川崎造船所造機部に技師として聘せられ、越えて同四十一年臺灣總督府鐵道部汽車課に轉勤、滯臺すること十年に及ぶ。

斯くて大正六年同府を辭して歸京、直ちに明治製菓株式會社囑託に任じ後ち立山鐵工所技師に聘せられ、大正十二年獨力御園自動車商會を創立して東都業界に全力を提げ、爾來、鋭意奮鬪せしかば忽ちにして業運擧り、今や東都同業界の權威として知られ、尙ほ大正十三年以來東京自動車組合評議員として斯界の發展に盡瘁すること甚大なり。

夫人イト子は鹿兒島縣士族兒玉清秀氏の二女にして鹿兒島縣立高等女學校の出身、其の間に資利君、寅次郎君、太刀男君、利彦君、實君及びヤス子、ヨシ子等あり、現に東京市四谷區東信濃町十一番地に住す。電話四谷四四〇一番

北初太郎君

北村木店主
王子町會議員

君は現籍を東京府に有し大阪府の人先考兵吉氏の長男にして、明治九年二月を以て生る。

明治三十年の交より土木建築請負業界に活躍、大正三年十二月鴻圖を抱いて上京、東京府土木課に勤務すること二ヶ年再び土木建築請負業を開始せしも大正八年材木商を創設し、今や東都斯界に重きをなすのみならず、王子町々會議員、町榮會々長等として知らる。

現に東京府北豐島郡王子町王子七〇三番地に住す。電話王子五三一番

木村篤太郎君

辯護士　法學士
東洋纖鋼(株)監査役

君は奈良縣の人木村猪藏氏の長男にして、明治十九年二月七日を以て同縣宇知郡五條町に生誕す。

明治四十四年東京帝國大學法科大學英法科を優秀の成績を以て卒業するや本邦法曹界に投じ、民事並に商事を專門に幾多の事件を處理決裁して社會の信望を博し今や東都法曹界に重きをなす。

曩に東京辯護士會、第一東京辯護士會各常議員、帝國辯護士會、日本辯護士會各理事たりしことあり。

趣味に富み、就中、刀劍を愛好し其の鑑定に長ずといふ、日本倶樂部會員たり

夫人愛子は元代議士現に京王電軌鐵道株式會社々長井上篤太郎氏の二女にして日本橋高等女學校の出身、其の間に一男四女あり、現に東京市外代々幡町代々木山谷一二八八番地に住す。電話四谷一二三三番

岸禧一君

帝國倉庫運輸(株)常務取締役
横濱貿易倉庫(株)取締役

君は東京府の人先考眞一郎氏の長男にして、明治八年一月十五日を以て生る。

明治二十八年慶應義塾大學を卒業するや實業界に投じ、爾來、三井物產、豐國銀行本郷支店長、帝國鑛泉株式會社取締役兼營業部長、國際信託株式會社信託課長、第一通商株式會社取締役、日本製布株式會社專務取締役、南洋殖產株式會社監査役等を歷任し、大正十五年二月帝國倉庫運輸株式會社常務取締役に任じ、現に其の外横濱貿易倉庫株式會社取締役として知らる。

趣味に運動あり、且つ旅行を愛好すといふ、交詢社會員たり。

夫人直子は島根縣の人宮崎彌三郎氏の令妹にして共立女子職業學校の出身、其の間に隆子、艶子等あり、現に東京府下代々幡町代々木一一二二番地に住す。電話四谷三四三五番

北川源次郎君

岡谷合資會社東京鐵部長

君は愛知縣の人北川基三氏の長男にして、明治十六年五月十一日を以て生る。

夙に鄕校を卒ふるや中京財界に投じ、明治二十九年以來岡谷合資會社に精勤、大正七年本社鐵部長に拔擢せられ、昭和二年十一月偶々同年東京鐵部の大整理行はるゝや君は其の大任を負ふて同東京鐵部長に推され、今や積極政策に消極を加味したる新進の營業方針を把持して着々として隆昌の域に達せしめ、今後の發展又期して待つべきものなり。

趣味に圍碁、將棋、音樂、旅行等あり夫人久子は愛知縣の人如藤金兵衛氏の二女にして其の間に茂子、鶴子、雅子等あり、現に東京市麴町區下二番町五三番地に住す。電話九段三六八六番

木水隆吉君

汐留驛運送(株)常務取締役
高瀬組(株)取締役支配人

君は東京府の人木水豐次郎氏の二男にして、明治十一年十二月五日を以て生る。

夙に本邦實業界に投じ、明治三十二年高瀬組に入社以來引續き同社に精勤、累進して現に同社取締役支配人たるのみならず、汐留驛運送株式會社常務取締役にして且つ中洲運送株式會社常置委員取締役たり、尙ほ品川驛運送株式會社相談役をも兼任す。

然して昭和三年四月新橋運輸事務所管内指定運送取扱人會々長に推され、且つ東京鐵道局管内指定運送取扱聯合會副會長等として知らる。

日本交通協會々員たり。夫人ムメ子は東京府の人澤田源次郎氏の長女にして其の間に隆次君、惟之君、隆雄君あり、現に東京市麻布區竹谷町一番地に住す。電話高輪七七九一番

北豐吉君

正五位勳四等　醫學博士
文部省學校衛生官
文部省体育課長
教育研究所々長

君は石川縣の人北久作氏の長男にして明治八年十月三十日を以て生る。

明治三十年金澤醫科大學の前身たる金澤醫學專門學校を卒業するや直ちに東上し、東京帝國大學醫科大學衛生教室に入りて衛生學の研鑽に專念たること四ヶ年同三十五年海外に航し獨逸ライプチヒ大學に斯學の蘊奥を極むること三年、同三十七年歸朝す。

然して聘に應じて大阪市立衛生試驗所長に任じ、同所にあること約十年に及ぶ其の間堪えず新進の學說を我が學界に送つて令名を馳せ、斯くて君が斯界に貢獻すること甚大、大正五年文部省に轉じ、同七年學士會の推薦に依り醫學博士の學位を授けらる。

現に我が醫學界に令名嘖々たるのみならず、文部省衛生官、同体育課長及び体育研究所々長として錄々の名あり。

夫人をとみ子と稱し富山縣の人筏井甚造氏の長女にして女子大學の出身、其の間に博正君、正通君、久光君等あり、現に東京市牛込區矢來町二番地に住す。電話牛込四二〇八番

岸井壽郎君

東京朝日新聞(株)印刷局次長

君は香川縣の出身にして、明治廿五年五月廿八日を以て生る。

大正六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや直ちに支那、滿鮮地方視察の途に上り、歸朝後一年志願兵として善通寺歩兵第四十三聯隊に入營す。

斯くて除隊するや司法官試補として東京地方裁判所に司法官たること一ヶ年、大正八年東京朝日新聞社に轉じて政治部記者として健筆を振ひ、爾來、同社整理部副部長、印刷部長等を經て現在に及ぶ

曩に新聞界視察の爲め歐米各國に出張を命ぜられ昭和二年五月歸朝す。

夫人を操子と呼び其の間に二男一女あり、現に東京府下玉川村用賀に住す。電話玉川七八番

木下正道君

三井鑛山㈱目黒試驗所庶務課長

君は熊本縣の人明治十七年十一月二十二日を以て同縣菊池郡大字甲佐町に孤々の聲を擧ぐ。先考池田勤之氏の二男にして、慈母を嘉壽子となせり。

夙に鹿本中學校に學び、尋いで長崎高等商業學校に入學し同四十一年之れを卒へて直ちに大牟田なる三井三池炭鑛事務所に入り、然して同年福岡縣三池郡玉川村の名士木下誠氏の養嗣子となり同氏の息女咲枝と婚して木下姓を冒す。

大正十二年三井鑛山株式會社の本店詰に轉じ、次いで昭和二年同社目黒試驗所庶務課長に榮轉、斯くて君は該試驗所の内務に就き大いに敏腕を振ひ其の積弊を革むると共に幾多改善の實績を擧げ、貢献尙に著しきものあり、現に其の職にありて社業に黽勉す。

夫人咲枝子との間に誠一郎君及び道子俊子あり、現に東京市外淀橋町柏木三七一番地に住す。

北村榮三郎君

東京朝日新聞(株)廣告部長

君は大阪府の出身にして、明治二十七年三月を以て生る。

夙に神戸商業學校を經て東京商科大學の前身たる東京高等商業學校專攻部を卒業す。

大正七年茂木合名會社に入り仝十一年東京朝日新聞社に轉じ、累進して現に同社廣告部長として知らる。

夫人春枝子は大阪梅田高等女學校の出身、其の間に俊郎君あり、現に東京市外澁谷町下澁谷九四三番地に住す。電話青山一七一九番

木村正義君

文部書記官
同省學生部長

達識敏腕の令聞あり、事に當るや堅實周到にして一些事と雖も苟もせず、然り而して雄心大いに勃々たる官場の新進氣鋭吾が木村正義君は、熊本縣の產める卓材にして明治二十三年一月一日の佳辰を以て同縣鹿本郡川邊村に孤々の聲を放てり、瀨口二三太氏の三男に生れしが元藤田組理事にして實業界に令名を謳はれし故木村陽三氏の養嗣子となり大正六年其の姓を承く。

君は夙に志を立て、縣立熊本中學校、第五高等學校等を經て東京帝國大學法科大學に入り、獨法科に學びて大正四年之れを卒業せり、君は素と俊敏の人、在學中既に文官高等試驗に登第せしが、同年學を出づるや直ちに内務省に入りて官界の人となる、然して當初新潟縣屬となり後ち同縣保安課長に任ぜられ、大正六年京都府警務課長、翌七年同府久世郡長に

推さる。

斯くて同八年文部省書記官に任じ、同省參事官、實業學務課長、祕書官、工業補習教育課長等の官歴を經て、昭和二年四月同省會計課長に就任更に同四年六月同省學生部長に擧げられ以て今日に至れり、曩にワシントンに於ける第一回國際勞働會議の開催さるゝや、政府隨員として之れに列席し、會議終了後教育界の狀況視察の爲め歐洲各國を遍歴し同九年八月歸朝す。

君は烏鷺を戰はすを好み、又讀書に趣味あり、曾つて「公民教育」の著を公にして紙價を高めしは普ねく人の識るところなり。

夫人彌江子は故木村陽三氏の長女にして大阪金蘭高等女學校出身の才媛、其の間に正光若及び崇子、和子あり、現に東京市外高田町旭出四十三番地に住す。電話牛込二一二七番

木村清志君

勳八等　愛生堂藥局主
王子町々會議員

君は長野縣の人木村伊代吉氏の二男にして、明治二十七年一月十日を以て生る

夙に鄕校を卒ふるや帝國海軍々人として横須賀、舞鶴、第一艦隊、練習艦隊等に勤務すること七ヶ年、功により特に勳八等を賜はる。

斯くて大正十年愛生堂藥局を創立經營し、現に傍ら王子町會議員、仝學務委員建築委員、築地町會、豊光會各幹事、立憲政友會王子倶樂部庶務等を勤め新進の聞え高し。

夫人をとめ子と呼び其の間に二男一女あり、現に東京府下王子町豊島一四七番地に住す。電話王子三五〇番

北村令司君

正五位勳四等
遞信局技師

多年官途に職を奉じて至誠一貫、以て其の管掌の事務たる電信電話事業に奉公を献じつゝある吾が北村令司君は、明治五年九月丹波國に生誕せり、同篠山の藩士として令名を謳はれたる故北村源正博氏は即ち君の嚴父にして、其の長男に當る、然して大正十四年北村家の家督を繼承す。

君は夙に篠山中學校に入り之れを卒へるや笈を負ふて東上し、東京郵便電信學校に入學し、明治二十五年秀拔の成績を以て同校乙科を卒業せり、斯くて直ちに官界に挺身し、郵便電信局兼電話交換局技手、遞信技手、通信技手、尋いで遞信技師、臨時電信電話建設局技師兼遞信技師、建設局東京出張所材料課長等を歴任し、現に遞信局技師として工務課庶務主任の官務を帶ぶ、此の間歐米各國に派され、電信電話事業に就き具さに研鑽を爲すところあり。

以上君が閲歴の略述にして未だ以て其の人物の如何を髣髴し得ずと雖、孜々乎として怠るなき精勵の誠と、人に接する慈父の如き溫容は即ち之れ君の全人格の閃きにして現時上下の信望を聚め令聞ある所以を附言せば、以て其の人と爲りの一端を窺知し得んか。

君の愛弟陸軍歩兵大尉北村令三君は日露戰役當時彼の沙河の大會戰に際し、明治三十七年十月十六日悲壯なる戰死を遂げて君國に報ぜり、君が溫容の裡に一抹の憂愁あるは、即ち愛弟追憶の人間的至情の現はれと謂ふべし。

君に趣味として旅行、登山、觀劇あり又朝風呂入浴の法悦境を好めり、夫人とく子は大阪の人青木太郎氏の長女にして其の間に令一郎君、龍雄君、令三郎君、通雄君及び博子、愛子、久子等あり、現に東京市外世田ヶ谷町池尻一五四番地に住す。電話青山二〇八〇番

清末長輝君

法學士
日本興業銀行參事

當家は大分縣の名望家にして、數百代代々相繼ぐ舊家なり。

扨て先代新郎治氏は貴族院議員にして又土地に於ける實業家として、夙に名望高き人なりき、君は其の二男にして、明治二十五年二月十一日を以て生る。

夙に第五高等學校を經て、大正七年東京帝國大學法科大學政治科を優秀なる成績を以て卒業するや直ちに日本興業銀行に入り、斯くて調査部、信託部、證券部祕書部、貸付部、鑑定部等を經て昭和三年割引係主任に任じ、更に昭和四年祕書役に就任して現時に至る。

趣味としては西洋音樂を好み、讀書、觀劇等も愛好すといふ。

夫人靜子は正四位男爵眞木平一郎氏の長女にして聖心女子學院の出身たり、君との間に長興君、信輝君及び佐智子あり現に東京市外上大崎七六〇番地に住す。電話高輪三四七八番

木崎宏君

東京府會議員
辯護士　民衆法律相談所長

曾つては名警察署長として令名を謳はれ、今又新進政治家として前途多望なるを我が木崎宏君となす。

君は三重縣の人木崎武三郎氏の長男にして、明治卅二年十月十八日を以て生る

夙に第一高等學校を經て東京帝國大學に學び、大正十三年優秀の成績を以て同學英法科を卒業す。

先是在學中既に文官高等試驗に登第せる程の俊才、卒業するや身を官途に投じ警視廳に職を奉じ、同廳保安係長より拔擢せられて東京市日本橋堀留警察署長に榮補して敏腕を振ひしも、君は固より官海に汲々たるを欲せず即ち將來政治家たらんとの大志を抱き、昭和三年第一次普選法案による東京府會議員總選擧に際し日本橋區より立候補せしかば同區青年團体は勿論演藝關係の諸名士は一齊に君を推薦するのみならず同區民多數の聲援を

得て遂に逐鹿戰に大多數の得票を以て當選し、今や東京府會最少壯派の一人として令名あり。

君は尙ほ江戸音曲に趣味を有し、長唄常盤津の如きは已に素人の域を脫し曾つては在學當時より文字太夫の內弟子として知られし程の達人、又以て其の人と爲りを知るべきなり。

夫人を信子と呼び長野縣の人酒井泰次氏の令妹にして其の間に幹君あり、現に東京市日本橋區濱町二ノ十一番地に住す電話浪花六八九八番

木間武三郎君

國定教科書共同販賣所(株)支配人

時は恰も幕末維新の頃、會津魂に燃ゆる白虎の一隊は武道と正義の旗幟を翻へして城を枕に共の最後の花を散らし、更に彰義の一隊は上野の山に南州の兵と血戰せしも武運つたなく僅かに十數名の殘黨を以て引き上ゞ、今も昔も變りなき大和武夫の意氣よ、それは忠誠と正義の結晶にあらずして何ぞや。

我が木間武三郎氏は、其の名も高き舊會津藩士にして、其の昔國事に奔走して功勞勘なからざりし故木間常利氏の長男慶應元年七月國內未だ騷亂の際に誕生す

夙に鄕塾に和漢の學を極め後ち靑雲の志を抱いて上京、斯くて身を實業界に投じ、明治三十七年以來日本書籍合資會社に敎腕を振つて同社の發展に盡瘁、同四十三年同社が株式會社に組織變更せられ國定敎科書共同販賣所と改稱せらるゝや同社支配人に擧げられ現に內外の社務を執掌し東都圖書出版界に令名あり。

夫人愛子は福島縣の人本鄕只介氏の三女にして其の間に常理君及び綾子、菊子あり、現に東京市小石川區白山御殿町一一〇番地に住す。電話小石川七三一七番

喜多孝治君

正四位勳三等
前樺太廳長官

君は大阪府の人喜多寬次郎氏の二男にして、明治十一年二月を以て生る。

明治三十五年中央大學の前身たる東京法學院英語法學科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに文官高等試驗に合格す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、遞信省遞信事務官、遞信書記官、新潟郵便局長遞信省臨時調査局事務官兼監察官、臺灣總督府秘書官兼參事官、同殖產局長、臺南州知事等を歷任し、昭和二年樺太廳長官に任ぜられ大いに靈腕を發揮せしも昭和四年六月濱口內閣成るや退官し今や野にあつて悠々次代を劃策しつゝあり。

曩に官命を奉じて英米兩國に留學し斯界の研鑽を積みて歸朝す。

夫人愛枝子は大阪府の人山脇義住氏の長女にして其の間に隆君及び淑子あり、

現に東京市外荏原町下蛇窪三九一番地に住す。電話高輪八〇〇番

北村政治郎君

正七位勳六等
日本放送協會東京中央放送局各技術部長

本邦放送界にありて其の新進の學理と優秀の技術とを以つて斯界に聲名あるのみならず、特に無線電信の研究家として官民斯界に重きをなすを我が北村政治郎君となす。

君は滋賀縣の人中島武次郎氏の二男にして、明治十五年四月十四日を以つて同縣大津市に孤々の聲を擧げ仝廿二年北村齋一郎氏の養嗣子となる。

夙に穎才の聞え高く、鄕校を卒ふるや靑雲の志を抱き笈を負ふて東上し、明治卅七年東京郵便電信學校を卒業するや身を官途に投ず。

斯くて遞信省電氣試驗所に入り、其の貢獻すること甚大なりしも大正十三年三月官途を辭す。

爾來、專心無線電信電話の研究に沒頭し、其の間安中電機製作所、沖電氣株式會社、東京市電氣研究所等の囑託たりしが大正十四年本邦最初の放送局として東京放送局開設せらるゝや君は推されて同技術部長に擧げられ仝十五年日本放送協會中央放送局と改稱後も引き續き同部長として今日に及べるものなり。

然して今や本邦ラヂオ界に全的生命を打ち込んで、斯界の發展は勿論普ねく日本國民の修養機關並に高級娛樂機關として將又宣傳機關として缺くべからざるものたらしめんと日夜腐心して止まざる君は正に本邦斯界の恩人たらずんばあるべからず。

惟ふに、現下の放送曲目はやゝともすれば中央化階級化するの弊なきにしもあらずと雖も、君は常に此点に留意して之が地方民化に全力を提げ以つて全日本國民、就中、國民の約五割を占むる地方農民の修養機關たるは勿論其の娛樂機關たらしめんが爲めには、現下の放送曲目の內容に改善を加へ以て彼等純朴なる民の日常生活に資せんとするは君の最も希望するところのものにして、今や其の改善發達に腐心研究する等蓋し君が永年斯界の研究家として其の蘊蓄するところ甚大なりと謂ふべし。

昭和三年十二月歐米各國の放送事業主として技術方面の視察の途に上り昭和四年六月歸朝す。

夫人いち子は新潟縣の人佐々高敎氏の四女にして、新潟縣立女子工藝學校を卒業し、君との間に一郎君、恒二君、尙三君及び信子、愛子、泰子、直子等あり。

現に市外澁谷町中澁谷七〇四番地に住す。電話靑山四九〇五番なり。

菊地政君

辯護士　實業家

東都法曹界に活躍して錚々の名聲あるのみならず、新進の實業家にして、ニード化粧品株式會社並に株式會社太陽社各取締役社長として令名あるを吾が菊地政君となす。

君は東京府伊豆新島の產んだる異彩にして、明治二十三年十一月十二日を以て

生る。嚴父を菊池孫右衞門氏となし、同島郵便局長にして君は其の二男たり。

夙に上京して早稻田中學校を卒業するや一旦歸朝せしも大正二年再度上京、斯くて大正六年中央大學法科を卒業し、同九年辯護士登用試驗に登第す、其の間遞信省貯金局、西山金山株式會社等を歷勤す。

大正九年辯護士に登第するや直ちに開業し、一般法律事務に從事し、特に民事商事々件を專門として斯界に重きをなし今や東都法曹界に嘖々の令名あり。

現に東京市麻布區森元町一ノ二十七番地に住す。電話青山五九五一番

木下鶴吉君

木下自動車ホヰール工場主

君は東京府の出身たり、夙に實業界に投じて活躍大いに努め獨力以つて木下自動車ホヰール工場を創立して敏腕を振ひ今や同業界に重きをなし、令息武一君と共に益々斯界に勢力を波及し前途多望なり。

現に東京市外澁谷町山下六一番地に住す。電話高輪七三五三番

吉光寺　錫君

醫學博士　杏雲堂醫院胃腸科主任

刀圭界に在りて夙に嘖々の令聞ある君は、明治十一年四月を以て栃木縣下都賀郡穗積村に於て生誕す、嚴父を故吉光寺梶郎氏とし其三男に生る。

抑々當家は代々農業を營み栃木縣下に於ける豪農として識られ、現戸主たる君の家兄吉光寺秀作氏其家督を相續し、君は後ち別れて一家を創立せり。

君は幼にして穎悟、其卓才は夙に鄕黨の囑目するところたり、鄕校を卒へ後ち中等、高等の各校を經て京都帝國大學醫科大學に入學し孜々學窓に黽勉、明治三十八年優秀の成績を以て該大學を卒業す斯くて同四十二年醫學の淵源獨逸國に航し、切瑳以て具さに斯學の研鑽を成すところありて同四十五年歸朝す。尋いで杏雲堂醫院に入りて診療に從事、爾來同院に在り、現に胃腸科主任として勤務し打診の適切と手術の妙を以て頓に令名を高むるに至れり、曩に其の學殖凝つて論文「ラヂウムマナチオン の生物學的作用に就て」を提出し、大正二年醫學博士の學位を受け斯學界の權威として風靡す。

君は人物資性極めて敦厚にして該博なる蘊蘊を藏す、加ふるに尙ほ春秋に富む年齒の壯、將來學界に貢献するところ多大なるべしと庶幾せらる。

家庭にはアサ子夫人(東京、池谷榮次郎氏二女)との間に雪枝子を愛撫して靄然たる一家を營めり、尙ほ家兄秀作氏は現時栃木縣農工銀行、下野新聞社の各取締役にして同縣多額納稅者として識られ、令姉ヤス子は同縣の人川島純治氏に、令妹ヒサ子は茨城縣の素封家荒井源左衞門氏に各々婚家せり。現に東京市本鄕區眞砂町三二番地に住す。電話小石川二〇八八番

桐島友一君

經濟學士　三菱銀行勤務

君は東京府士族桐島像一氏の長男にして、明治三十六年二月十九日を以て生る

抑々嚴父像一氏は夙に東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに三菱會社に入り、爾來、銀行部並に地所部各部長等を經て現に東山農事株式會社專務取締役たる外東京海上火災保險、東京イーシー工業、明治生命保險、麒麟麥酒、日本窒素肥料各株式會社取締役並に三菱銀行、大阪毎日新聞、三菱製紙、東明火災海上保險各株式會社監査役等として本邦財界に令名高く斯界の恩人たり。

君は夙に第四高等學校を經て昭和三年東京帝國大學經濟學科を優秀の成績を以て卒業するや直ちに三菱銀行に入り、現に同行日本橋支店に精勤新進の聞えあり音樂、スポーツ、讀書等趣味多樣なりといふ。

現に東京市小石川區原町一〇二番地に住す。電話小石川七〇〇七番

菊澤秀麿君

從五位勳六等　法學士
文部省書記官　青年教育課長

上掲の官職以外東大書記官として庶務課長を兼ね夙に令聞ある吾が菊澤秀麿君は、滋賀縣の出身にして明治十八年九月を以て同縣彦根に於て孤々の聲を擧ぐ、嚴父は奈良縣郡山の舊藩士たりし故華房誓因氏にして其四男に當れるが、夙に故菊澤保孝氏の養嗣子となりて其姓を冒し大正十二年家督を承ぐ。

君は幼にして學を好み小學校を卒ふるや縣立彦根中學校、第三高等學校を經て東京帝國大學法科大學に入り法律學科を專攻し、大正二年優秀の成績を以て之れを卒業せり。

斯くて直ちに徵兵に應じ歩兵第七十聯隊に入營し歸休除隊するや文部省に入り同三年文官高等試驗に登第せり。

然して同七年鳥取縣理事官、同九年東北帝國大學事務官に歷任するところあり次で同十二年文部省に復し同省第三課長に任ぜられ後ち學術課長に革り、昭和四年七月同省教育課長に轉じ現に其の任に在り、その傍ら東京帝國大學事務官を兼ね庶務課長たり、而して又學術研究會主事、震災豫防評議會幹事其他幾多の同省關聯の各會に參與して孜々其職責を全うしつゝあり。

此間曩に同省より出張を命ぜられ歐米各國に航し具さに學事上の視察を爲し昭和四年七月歸朝せり、又是より先き大正十五年ルーバン大學復興實行委員として盡瘁せるの功に依り白耳義國より王冠章を賜はれり。

君は公務上及び處世上の主義として平素「忠實至誠一貫」を咸言と爲し之れを實行す、蓋し其人と爲りを窺知するに足るべし。

趣味に野外の一般スポーツあり、夫人をさだゑと謂ひ先孝保孝氏の長女にして京都府立第一高等女學校專攻科出身の才媛なり。現に東京市四谷區三光町二十一番地に住す。電話四谷二一〇九番

木下武一君

木下自動車ホキール工場主

君は東京府の人木下鶴吉氏の長男にして、明治三十一年七月二十一日を以つて生る。嚴父鶴吉氏は財界に活躍する傍ら東京市區制に參劃して貢献するところ尠少ならず。

君は早稻田實業學校を卒業するや實地の研鑽を積むべく、園池製作所に勤務すること四ヶ年、後ち錄々商會製作所に轉じ此處に研究すること三ヶ年に及びぬ。

斯くて家業たる自動車ホキール工場に入りて敏腕を振ひ、今や我が木下自動車ホキール工場をして益々斯界に令名あらしめしは蓋し君の力大なりと謂はざるべからず。

趣味に釣魚あり、夫人綾子は兵庫縣の人大村啓市郎氏の長女にして、其の間に房子あり。

現に東京市外澁谷町山下十六番地に住す。電話高輪七三五三番

北小路三郎君

從四位　子爵

宮內省圖書寮編輯官叙式部官

君は故北小路俊親氏の三男にして明治二十三年十月二十二日を以て生誕す。

夙に東京帝國大學文科大學に入學し國史科を專攻して、大正八年之れを卒へ引續き同大學院に於て研鑽せり。

斯くて同十年宮內省に入り式部官に任ぜられしが同十二年兼ねて待從を拜命す然して昭和二年三月之れを辭すると共に圖書寮御用掛を被仰付仝年六月編輯官に任ぜられ以て今日に到れり。

趣味に讀書、和洋音樂、盆栽、運動等あり。

夫人治子は子爵日野西資博氏の次女にして女子學習院出身の麗人たり、其間に俊元君、正子、和子あり。

現に東京市外杉並町馬橋四九七番地に住す。

岸高武君

清水組(資)建築技師

君は福岡縣の人岸高才藏氏の六男にして、明治二十三年三月二十四日を以て同縣粕屋郡小野村に於て生誕す。

夙に福岡縣立中學修猷館を經て東京工業大學の前身れる東京高等工業學校を卒業するや直ちに清水組に入社、大正八年社命を帶びて米國に航し、工事實施並に施工設計等の研究に專念すること二年有半、造詣を深くして大正十年歸朝す。

爾來同社內に優秀なる技術者を以て鳴らし第二相互館、青山女子學習院、東京絹毛(株)沼津工場、鐵道省赤羽發電所、東京電燈(株)本社、同千住發電所、同火力發電所、三井物產(株)川崎阜頭工事、日本勸業銀行等の各大建築物を完成して益々其の信望を集め、今や新進技術家を以つて前途を嘱望せらる。

趣味に旅行、ゴルフ、水泳等あり、建築學會、筑前工業會、筑前實業會各會員たり。

夫人八女生子は井上秀吉氏の三女にして福岡筑紫高女の出身、其の間に一男二女あり。現に市外下落合六二六番地に住す電話牛込四七六六番

岸本正清君

日本タンカー(株)社長

神國海上火災保險(株)專務取締役

君は大阪府の人奥田富太郎氏の令弟にして、明治二十七年一月を以て生れ、大正十年岸本兼太郎氏の養子となり、同十四年分家して一家を創立す。

夙に京都帝國大學法科大學經濟科を卒業するや實業界に投じ、現に前掲の外日清海上火災保險、壽生命保險、岸本共同各株式會社の重役として知らる。

夫人テイ子は養父兼太郎氏の長女にして、其間に隆雄君及び民子、弘子あり。現に大阪市西區新町通二ノ七番地に住す

木村德兵衛君

木村德兵衛商店(株)社長

愛國生命保險(株)監査役

君は神奈川縣の人故馬場喜右衛門氏の二男にして、元治元年五月十九日を以て生れ後木村總兵衛氏の養子となる。

夙に米穀商を營み現時深川に於ける有數の廻米問屋木村德兵衛商店を經營する外愛國生命保險(株)監査役にして且つ東京廻米問屋總行司、佐賀町會長、第五十八區地區々劃整理副議長たり。

現に東京市麻布區永坂町一番地に住す電話青山五四八六番

岸本兼太郎君

岸本汽船(株)社長

壽生命保險(株)社長

關西實業界に活躍して錚々の名ある、君は大阪府の人先々代岸本五兵衛氏の二男にして、明治七年九月を以て生る。

夙に船舶事業に着眼して斯界に敏腕を振ひ、たま〳〵日清の役勃發して海運界に隆昌するや一躍斯界に一大勢力を波及し、今や前掲諸要職にある外岸本共同、箕面土地各株式會社々長にして且つ藤永田造船所、阪神急行電鐵、神戸海上運送火災保險、三井銀行、丸赤醬油各株式會社の重役として令名あり。

現に大阪市西區西長堀南通二ノ五番地に住す。電話新町二四七三番

湯淺武孫君

三共株式會社常務取締役

君は岡山縣の人湯淺幸八氏の長男にして、明治三年三月を以て生る。

夙に上道中學校に學び後ち藥學を專攻し、而して久しく神奈川縣技師防疫事務官として衛生行政を掌り、又横濱市設備調査會委員として海陸設備調査に參畫し明治四十五年辭し三共株式會社に入り以つて現在に及ぶ。

夫人トミ子は愛媛縣士族野田將知氏の長女たり。現に東京市外品川町御殿山七三三番地に住す。電話高輪一〇三八番

金田市國士君

盛岡銀行、同貯蓄銀行各頭取
盛岡商業會議所會頭

東北實業界の重鎮として令名ある君は青森縣の人矢幅德四郎氏の二男にして、明治十六年七月七日を以て生る。

夙に實業界に投じ、現に前掲の外盛岡信託、盛岡電氣工業、岩手輕便鐵道、三陸水產冷藏、花卷溫泉、九戸水力電氣、盛岡土地建物各株式會社々長にして且つ岩手日報、岩手縣農工銀行各株式會社取締役、盛岡市會議員、所得稅審査委員、電氣協會理事、第九十銀行相談役たり。

現に盛岡市上米小路十四番地に住す。電話盛岡六三四番

岸本五兵衛君

攝津貯蓄銀行頭取
神戸海上火災保險(株)社長

當家は其遠祖を兵庫縣に發し代々海運業を以て本業となす。君は先代五兵衛氏の長男にして、關西財界の重鎮岸本兼大郎氏の令甥に當り、明治二十四年十二月を以て生れ、大正四年家督を相續すると共に前名安太郎を改めて襲名す。

現に前掲の外鴻池信託株式會社副社長にして且つ岸本汽船、丸赤醬油、岸本合同、箕面土地、壽生命保險、日清火災海上保險各株式會社の重役として令名あり

現に大阪市西區西長堀町南通四ノ十番地に住す。電話新町六三三番

岸本鑑之助君

攝津汽船(株)社長

君は兵庫縣の人三木拙二氏の令弟にして、明治十六年五月を以て生れ、同四十四年岸本家に入りて其の家督を相續す。

明治四十一年明治大學商科を卒業するや關西財界に活躍し、現に前掲の外大阪實業銀行、攝津貯蓄銀行、攝津信託、岸本汽船、日清火災海上保險、岸本商會、壽生命保險、岸本共同各株式會社の重役として令名あり。

夫人タカ子との間に新太郎君及び君子あり。

現に大阪市西區北堀江通四ノ五番地に住す。電話新町四二八番

政治・經濟・社會
高給評論機關
帝國時論
帝國時事通信社特輯

三輪信太郎君

醫學博士　從五位勳五等
延壽堂病院長

君は東京府士族三輪正君の長男にして明治三年一月三日を以つて生る。

夙に才幹群を拔き學業順を追ふて進み、明治廿七年東京帝國大學醫科大學を優秀の成績を以つて卒業し、更に翌年十一月小兒科學研究の爲め獨逸に留學し明治卅一年造詣を深くして歸朝す。

然して東京帝國大學醫科大學講師を囑託し、尋いで同三十四年助教授に任じ三十九年小兒科講座を擔任せしが後辭して延壽堂病院を創立して、自ら其の院長となり以つて現在に及び、尙ほ日本醫師會理事、神田區醫師會々長、神田區裏猿樂町々會長等の公職にあり且つ日本歷史の研究家として知らる。

夫人八三子は埼玉縣の人久米六右衞門君の長女にして其の間に喜一郎君、信作君、信三君及び貞子、元子、義子、智子文子、榮子等あり、現に東京市神田區裏猿樂町三番地に住し電話大手五六六五番なり。

箕輪半藏君

石城炭礦株式會社取締役
神奈川縣多額納稅者

君は神奈川縣の人箕輪三郎君の長男にして明治五年十一月を以つて生る。當地方に於ける大地主にして早くより土地貸付業を營みて勢力あり、且つ久しく横濱市會議員に擧げられ現に神奈川縣會議員にして市部會議長たり。

然して尙ほ石城炭礦株式會社取締役たる外東京アニリン染料株式會社取締役にして、且つ神奈川縣多額納稅者として直稅一千二十余圓を納む。

夫人フジ子は東京府の人船曳淸修君の三女にして、君との間に四男及び二女あり、現に横濱市北戸町五五五番地に住し電話一七一一番たり。

南次郎君

從四位勳二等功四級
陸軍中將　參謀次長

君は大分縣士族南喜平君の二男にして明治七年八月を以つて同縣速見郡日之出町に生る。明治廿八年陸軍士官學校を卒業し、更に陸軍大學校に入りて明治卅六年同校を卒業せり。

明治二十八年陸軍騎兵少尉に任じ、大正十三年二月陸軍中將に陞進せり、爾來大本營參謀、陸軍大學校教官、關東都督府參謀、騎兵學校教官、騎兵第十三聯隊長、陸軍省騎兵課長、支那駐屯軍司令官騎兵第三旅團長、陸軍騎兵學校長、陸軍士官學校長、教育總監部騎兵監、第十六師團長等を歷任し昭和二年三月參謀次長に補任し以つて現在に至る、乘馬、弓術等に堪能なりといふ。

夫人かく子は大分縣士族宮崎義一君の姪君にして大分縣立速見高等女學校を卒業し、君との間に長男重美君及び長女順子、二女直子、三女寬子、四女友子等あ

り、現に東京市外上澁谷二三番地に住し電話青山三六七七番なり。

三山喜三郎君

從四位勳三等　工學博士
京城高等工業學校長

君は千葉縣の人三山敦利君の二男にして明治六年六月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業するや、更に明治四十三年應用化學研究の爲め英獨米に留學し、斯學の蘊奥を極めて歸朝す。

然して東京帝國大學工科大學助教授、工業試驗所技師兼農商務省技師等を歴任し、現に朝鮮總督府中央試驗所長たる外京城高等工業學校長にして明治四十年工學博士の學位を授與せらる。

夫人を操子と稱し東京府士族渡邊朔君の令姉にして君との間に正雄君、金彌君醇君等あり、目下朝鮮京城倭城臺に住す。

三井金甫君

山梨製糸株式會社取締役

君は山梨縣の人三井忠右衛門君の長男にして慶應三年十月を以つて生る。夙に實業界に志し現に山梨製糸株式會社取締役として地方財界に令名あり。

夫人をきよじ子と稱し君との間に八郎君、淳君、金三君、盛雄君及びきみゑ子貞代子、かつ子、房江子等あり、現に山梨縣中巨摩郡今訪諏村に住す。

宮下武一郎君

明治商店(株)常務取締役

君は長野縣の人宮下今朝太郎君の長男にして明治十九年五月二日を以つて生る明治三十八年松本中學校を卒ふるや直ちに實業界に身を投じ、大阪增田屋商店に入りて恪勤精勵、大正五年同店東京支店詰を命ぜられ愈々東都財界に活躍して君が敏腕を振ひ、同店の爲め貢献することは甚大なりしが大正九年辭して株式會社明治商店に入社し、現に同社常務取締役の要職にあり。

趣味廣く書畫、骨董を最も愛好し、社交に厚く工業倶樂部會員たり。

夫人廣子は大阪府の人岩崎萬藏君の長女にして大阪清水谷高等女學校を卒業し君との間に武太郎君、健治君及び靜子、信子等あり、現に東京市外入新井町新井宿二三一〇番地に住し電話大森六三一番たり。

光永星郎君

日本電報通信社長

我が新聞通信界に令名高き光永星郎君は熊本縣の人光永雄喜君の長男にして、慶應二年七月二十四日を以つて同縣八代郡に生れ前名喜一を改稱す、夙に鄕校を卒ふるや大志を抱いて上京し一時盛んに政界に馳驅せしことあり。

然して明治三十四年日本廣告株式會社を創立して之が社長となり、同卅九年電報通信社と合併して之を株式會社日本電報通信社と改稱し、君其の專務取締役に

擧げられしかば愈々全力を傾注して同社の發展を計り、現に同社長として敏腕を振ひ今や日本電報通信社の聲名斯界に嘖々たり、文學、書畫、玉突、寫眞撮影等に趣味を有すといふ。

夫人ツギ子は熊本縣士族每木彌三次君の長女にして其の間に長女幾久子、二女園枝子等あり、現に東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町原宿一九六番地に住し電話青山四一一番なり。

水野錬太郎君

法學博士　正三位勳一等
貴族院議員　文部大臣

君は東京府士族水野立三郎君の長男にして、明治元年一月十日を以つて生る。明治二十五年東京帝國大學法學部英法科を卒業す。

斯くて職を内務省に奉じ、傍ら第一高等學校講師を囑託せられ法學通論を講じ明治二十七年神社局長に拔擢せられ同三十年内務行政に關する諸般の事務視察の爲め歐米各國に差遣せらる。

當時白國ブラッセル市に開かれたる工業所有權萬國會議に委員として參列し、翌年歸朝するや著作權法案の起草を託され、議會に於て該議案の說明をなし之を通過せしむ、後ち東京帝國大學の講師として破産法の講座を擔任する外日本法律學校の講師となり、明治四十一年七月内務大臣秘書官に任ぜられ次いで再び歐米に差遣せられ、同四十二年一月歸朝するや法學博士の學位を授けらる。

然して明治四十三年九月内務省土木局長に任ぜられ大正二年内務次官に進み、同三年四月内閣更迭と共に野に下り更に寺内内閣成立するや再び内務次官に任じ大正七年四月内務大臣に親任せられしが同年九月辭して野に下り、幾何もなく朝鮮總督府政務總監に任ぜられ、加藤友三郎内閣成立するに及んで再び内務大臣に親任し、清浦内閣成るや三度内相に親任せられ、後ち暫らく野にありしが昭和二年六月田中内閣の文部大臣に親任せられ以つて現在に及ぶ。

先是貴族院議員に勅任せられ、尋いで錦鷄間祗候仰せ付けられ現に其の顯職にあり、現に東京市芝區白金猿町六一番地に住し電話高輪一八〇番なり。

三井守之助君

三井物産株式會社長
三井合名會社監査役

君は我が財界の巨星三井元之助君、三井得右衛門君等の令弟にして、明治八年一月を以つて生れ、後ち先代篤次郎君の養嗣子となり、明治十四年二月其の家督を相續す。

夙に實業界に身を投じ曩に三井銀行、横濱正金銀行各株式會社取締役及び株式會社芝浦製作所社長たりしが、現時は三井物産株式會社々長たる外三井合名會社監査役にして、我が國實業界一方の重鎭として令名斯界に高し。

夫人檜光子は男爵住友吉左衛門君の養妹にして君との間に長男高篤君、二男生

雄君、長女英子、二女倭子等あり、現に東京市麻布區永坂町一番地に堂々たる邸宅を有し電話青山五五〇九番なり。

三雲敬一郎君

從五位勳四等
梨本宮家附事務官

君は和歌山縣士族三雲篤敬君の長男にして、慶應三年八月十六日を以つて和歌山市に生る。夙に和歌山縣立中學校を卒業するや青雲の志を抱いて東上し、明治二十三年法政大學法律科を首席を以つて卒業す。

然して直ちに官界に投じ宮内省御料局に入り爾來帝室林野管理局會計課長兼庶務課長、土地整理課長等を歴任し、大正十一年十月宮内事務官に任せられ梨本宮附仰せ付けられ現在に至る、趣味として釣魚、日本音樂等あり。

夫人美代子は京都府士族村田邊君の三女にして家政女學校を卒業せり、現に東京市本郷區眞砂町二五番地に住し電話小石川一九〇二番なり。

湊　嘉平次君

氷見銀行取締役
氷見電氣株式會社監査役

君は富山縣湊嘉平次君の二男にして明治二十一年五月を以つて生れ前名龜次郎を改稱す、夙に實業界に活躍して名あり現に前記諸會社重役にして尚は富山縣多額納税者として直税一千三百十余圓を納むといふ。

夫人うめの子は富山縣の人近岡七四郎君の令妹にして其の間に晨君及び鶴子等あり、現に富山市氷見町に住す。

三井元之助君

三井鑛山株式會社長

君は京都府の人故從三位三井高生君の長男にして又三井得右衛門君、三井守之助君等の令兄に當り、明治元年十月を以つて生れ前名長五郎を改めて其の家督を相續す。曩に三井物産、東神倉庫各株式會社々長たりしが現時は三井鑛山株式會社長として知らる。

夫人を曉子と呼び君との間に高長君、高勅君等あり、因に令孃艶子は男爵前田利功君に令妹タオ子は醫學博士土肥慶藏君に嫁し又令弟英之助君は東京府の人越家を再興せり、現に東京市芝區伊皿子町五〇番地に住し電話高輪一五番なり。

宮崎三之助君

正七位　衆議院議員

君は富山縣の人宮崎虎太郎君の令弟にして明治五年九月廿日を以つて富山市中町に生る。夙に明治法律學校を卒ふるや七尾、木更津各地方裁判所判事、千葉區裁判所監督判事等を歴補し、後ち官を辭して辯護士を開業し一般訴訟事務に從事して今日に至る。

傍ら本所區會議長、市會議員等に推され、大正九年衆議院議員に當選し同十三年の總選擧に再び選ばれ、尚ほ東京府農工銀行、東洋捕鯨、富山綿織物模範工場各株式會社の重役たり。

夫人ヨシ子は富山縣士族高橋基一君の長女にして君との間に鐵三君、龜之助君梅三郎君及び佳代子、喜美子、德子等あり、現に東京市本所區小泉町三四番地に住し電話墨田四〇〇八番たり。

滿谷國四郎君

洋畫家

現時帝國美術院會員にして我が洋畫界に於ける泰斗として、令名高き滿谷國四郎君は岡山縣士族滿谷準一郎君の三男にして明治七年十一月十日を以つて生る。夙に洋畫家たらんと志し初め小山正太郎氏の不同舍に學び、明治三十五年歐米に留學し同四十四年再度外遊して洋畫の研鑽を積みて歸朝す。

然して爾來文展、帝展に毎回出品して名聲高く、其の前途多望なるものあり、尚ほ大平洋畫會を組織し中村不折君等と共に其の幹部として知らる。

夫人すゑ子は東京府の人福井六兵衛君の長女にして其の間に一女ありて三重子と稱す、現に東京府下下落合七五三番地に住し電話牛込二〇二五番なり。

宮莊七君

千葉貯蓄銀行取締役

君は千葉縣の人宮莊七君の長男にして明治九年四月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍し、現に千葉貯蓄銀行取締役にして地方金融界たる外佐貫銀行取締役にして地方金融界に令名高し。

夫人とよ子は千葉縣の人藤平安右衛門君の二女にして君との間に二男四女ありて敬藏君、隆治君及び登美子、はる子、きよ子、みき子等なり、現に千葉縣千葉町君津佐貫に住す。

三浦覺玄君

電氣日報社長

君は東京府の人三浦三郎君の二男にして、明治十年二月二日を以つて生れ前名匡義を改稱す、明治三十四年國民新聞社に入りて其の健筆を揮ひしも、後ち感するところありて實業界に轉じ、聘に應じて日本電氣株式會社に入社し同社の爲め盡瘁すること甚大なりき、

然して明治四十四年獨立して電氣世界社を創立し「電氣世界」「電氣化學」「理科少年」等の雜誌を發刊し大正十年四月組織を變更して株式會社と爲し、之を電氣日報社と改稱して日刊電氣日報を發刊し現に其の社長として内外の社務を鞅掌し前途愈々多望なるものあり、趣味として長唄、歌澤あり又妙なりといふ。

夫人與世子は岡山縣士族高見龜君の令妹にして共立女子職業學校を卒業し君との間に長男義雄君、二男匡雄君及び長女智惠子、二女靜子等あり、現に東京市麴町區有樂町一ノ四番地に住し電話大手五二六九番なり。

三宅川百太郎君

三菱所事株式會社取締役會長

君は愛媛縣の人三宅川清三郎君の長男にして、明治二年六月二十三日を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治二十五年商科大學の前身東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に志し、三菱合資會社に入りて同社神戸大阪各支店長代理、高砂製紙所副支配人漢口、上海、北京各支店長、本社營業部長、門司支店長兼若松支店長兼船舶課長等を歷任せり。

然して同社が東洋課を創設するや其の課長となり、更に三菱製鐵株式會社の成立に際し同社常務取締役に擧げられ後ち三菱商事株式會社取締役會長に擧げられ傍ら大北漁業、三菱内燃機、三菱造船各株式會社の重役にして且つ日本貿易協會理事たり。

夫人テイノ子との間に基一君及び絢子等あり、現に東京府豐多摩郡中野町八一番地に住し電話四谷一四五二番なり。

三島海雲君

カルピス製造株式會社專務取締役

我が國產高級飲料水カルピスの聲價今や内外に普ねし、而して同社專務取締役として其の才腕を縱横に振ひ、新進實業家の稱ある三島海雲君は明治十一年を以つて大阪府豐野郡萱野村に生る。

夙に鄉里の中學を經て明治三十二年京都文學寮高等科を卒業するや、直ちに青英會に身を投じ山口市開導中學校英語科の教師たること二ケ年、後ち感ずるところありて更に佛教大學に入學し、明治三十五年同學を卒業して間もなく支那に渡り、直隸省趙州中學に教鞭を執ること一年有半なりしも明治三十六年斷然教職を去りて實業界に投ぜり。

然して北京に赴き日支洋行を創立して日支及び蒙古貿易に從事せしもたゞ〳〵日露兩國の開戰となるや彼地に於て盛んに蒙古の軍馬を供給し、我が軍の爲めに活躍すること甚大、明治三十九年より蒙古牧畜業を計劃せしも日支兩國の國際問題となり大正二年之を支那政府に賣却し大正五年上京して醍醐味噌合資會社を創立し、大正六年株式組織に變更して之をカルピス會社と改稱し、爾來孜々として社運の隆昌を計り今や我がカルピスの聲價は内外に嘖々たり。

君や資性闊達英明に加ふるに事業的識見豐かにして、よく「味の研究と味の藝術化」を提唱し、君の趣味たる繪畫、音樂等に相對照して其の生活趣味として之を一般に普及宣傳するに日夜專念、我が高級飲料水「カルピス」の高評嘖々たる蓋し君の努力の賜と謂はざるべからず、現に東京市外下目黑八五一番地に住し電話高輪四八一三番なり。

宮林彦九郎君

高岡銀行取締役
新湊銀行取締役

君は富山縣の人宮林彦九郎君の長男にして明治二十一年五月を以つて生れ後前名作郎を改稱す。夙に實業界に志し活躍

大いに努め、現に前記の外越中製軸株式會社取締役にして且つ富山縣多額納稅者として知らる。

夫人とめ子は富山縣の人菅野傳右衞門君の令妹にして君との間に二女ありて利子、公子と呼ぶ、現に富山市射水町新湊に住す。

三土忠造君

正五位勳二等　大藏大臣
衆議院議員

當家は代々香川縣に住し農を業とせる舊家として知らる。君は明治四年六月を以つて生る。夙に香川縣師範學校を卒業するや選拔せられて東京高等師範學校に入學し、明治三十年首席を以つて卒業し後ち歐洲諸國に留學して專ら教育學史學を研究し、歸朝後東京高等師範學校教授として學徒の薰陶に盡瘁し、次いで韓國政府學政參與官に聘せらる。

明治四十一年以來衆議院議員たること數回、立憲政友會に屬し、曩に大藏省勅任參事官、内閣書記官長、農商務次官及政務次官たりしが同省の二省に分立するや、農林政務次官に任ぜられ、昭和二年四月若槻内閣倒れて田中軍人内閣成るや臺閣に列して文部大臣に親任し、同年六月大藏大臣に親任す。

夫人ナツ子は愛媛縣士族加藤伸市君の令妹にして君との間に知芳君、純介君及び國子あり、東京市赤坂區青山北町七ノ二番地に現住し電話青山三一番たり。

宮坂作衛君

長野農工銀行監査役

君は長野縣の人宮坂作之助君の長男にして、明治二十年七月を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、明治四十四年慶應義塾理財科を卒業し、即ち錦を飾つて歸鄉し直ちに地方財界に活躍し、現に前記の外諏訪電氣、諏訪電氣工業各株式會社の重役たり。

夫人をいね子と稱し柳田茂十郎君の三女にして其の間に作太郎君、邦典君、雅美君及びゆり江子等あり、現に長野縣上諏訪に住す。

三井高精君

男爵　正五位
實業家

當家は三井六本家の一なり、先代高保君は總領家高福君の五男にして出でて當家を繼ぎ、京都博覽會頭取、京都博覽會々長、三井銀行總長等に就任し大正四年男爵を授けらる。

君は高保君の五男にして男爵三井八郎右衞門君は其の叔父君に當り、男爵三井壽太郎君は其の從兄君たり、明治十四年七月を以つて生れ大正十一年襲爵仰せ付けらる。夙に英國バーミンガム大學商科を卒業するや財界に投じ現に三井銀行、三井信託、三井物產、東洋倉庫、三井合名各株式會社の重役として知らる。

夫人勇子は京都府の人三井源右衞門君の令妹たり、東京市麴町區平河町五ノ二一番地に住し電話四谷二二七三番なり。

宮崎松次郎君

勳八等　實業家
衆議院議員

君は福岡縣の人森太七郎君の長男にして明治八年十二月を以つて生れ後ち先代磯造君の養嗣子となる。夙に實業界に投じ先代の遺業たる醬油釀造業を營み、傍ら縣會議員として地方自治制に參與し、且つ衆議院議員として現に中央政界に活躍して名あり。

夫人トミ子は福岡縣の人高瀨九三治君の令姪にして其の間に一男一女ありて吉祐君及びキヌ子と稱す、現に福岡市田川町添田に住す。

溝口直亮君

伯爵　從三位勳三等功五級
在郷陸軍少將　貴族院議員

當家は清和天皇の皇孫鎮守府將軍源經基五世の孫新羅三郎義光より出づ、六世の孫逸見義重美濃大井戸に住し、後ち尾州溝口郷に移りしを以つて溝口を姓となす、其の後數世を經て伯耆守秀勝に至り初め織田信長の將丹羽長秀に從ひ、後ち豐臣秀吉に屬し加賀大聖寺四萬四千石を領し、後ち越後新發田に移り六萬石を封ぜらる其の子伯耆守宣勝より十二世にして先代從二位直正君に至り新發田十萬石の封を襲ぎ戊辰の役には官軍に屬し戰功あり、藩知事、宮中祇式部御用掛式部等を歷動し明治十七年伯爵を授與せらる。

君は直正君の長男にして子爵五島盛輝君の從兄君に當り、明治十一年四月十一日を以つて生れ大正八年襲爵仰せ付けらる。明治卅一年陸軍士官學校を卒業し翌年陸軍砲兵少尉に任ぜられ後陸軍大學を卒業し大正十二年八月累進して陸軍少將に陞る、其の間陸軍省軍務局砲兵課長、皇族附武官、陸軍技術會議員、廣島、善通寺、宇都宮、名古屋各師團附等に歷補せり。

彼の日露の戰役に出征して勳功あり功五級金鵄勳章を賜はり、大正十三年十一月貴族院議員に互選せられ同十四年陸軍參與官に任ぜらる、夫人を須美子と呼び女子學習院の卒業たり、現に東京市外千駄ヶ谷町穩田一六四番地に住し電話青山二三七四番なり。

三島良藏君

松竹キネマ株式會社理事
松竹キネマ合名會社秘書役

君は鳥取縣の人三島甚三郎君の三男にして明治十九年六月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し研鑽琢磨、明治四十一年早稻田大學商科を優秀の成績を以つて卒業し直ちに實業界に投じ、聘に應じて大丸呉服店に入り東京、京都、大阪各支店を歷任し、大正三年同店を辭して歐米各國の經濟狀況を視察漫遊して歸朝す。

然して後ち白木屋呉服店に入りて其の雜貨部長に擧げられ、大正八年郡山紡績株式會社の創立に參劃して同社東京支店長となり、同十二年同社が名古屋紡績株式會社と合併契約成立すると同時に同社を辭し、大正十三年松竹合名會社に入りて社長祕書役兼廣告部長となり、同時に松竹キネマ株式會社理事として內外の社務を鞅掌し以つて現在に至る。

夫人貞子は東京府の人赤羽武次郎君の長女にして東京府立第一高等女學校の卒業たり、現に東京市小石川區上富坂町一七番地に住し電話小石川六五八八番なり

三井壽太郎君

男爵　正五位
實業家

當家は先代八郎次郎君より其の名顯はる、八郎次郎君は三井高福君の四男にして、三井合名會社業務執行社員、第一銀行取締役其他の公職に擧げられ、多年實業界に盡瘁したる功に依り明治四十四年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる

君は其の長男にして、男爵三井八郎右衞門君の甥君に當り、男爵三井高精君及び三井高潤君の從兄君たり、明治七年十一月を以つて生れ大正八年十月襲爵仰せ付けらる、現に東神倉庫株式會社長たり外三井合名會社監査役たり。

夫人を靡子と呼び子爵田村丞顯君の令妹たり、現に東京市麹町區富士見町一ノ三六番地に住し電話四谷二二七三番なり

宮口竹雄君

東京電力株式會社專務取締役
日本紙器製造株式會社監査役

君は山口縣士族山本清十君の三男にして明治八年七月を以つて生れ後ち宮口笠熊君の養嗣子となる夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、明治三十二年東京帝國大學工科大學電氣科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに實業界に身を投じ曾つて秋田電氣、群馬電力各株式會社取締役を始めとして、海岸電氣鐵道株式會社監査役たりしことあり。

現時は東京電力株式會社專務取締役たる外日本紙器製造、京濱電氣鐵道各株式會社の重役として東都財界に令名高し。

夫人ツル子は東京府士族大谷宇吉君の令妹にして君との間に一男ありて孝雄君と稱す、現に東京市外千駄ヶ谷町穩田二八番地に住し電話青山二八七番なり。

美濃部俊吉君

正六位　勳四等
前朝鮮銀行總裁

君は兵庫縣の人美濃部秀芳君の長男にして、明治二年十二月を以つて生る。明治二十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、職を官界に採り、農商務屬を拜命し商工局に勤務し、尋いで同局工務課長となり同二十九年歐洲に出張を命ぜられ、商工業を視察して歸朝す。

然して後ち農商務省參事官に任じ爾來農商務大臣秘書官、特許局審査官兼書記官、大藏省理財局書記官兼同大臣秘書官等を歷任せしが、後ち官界を辭して野に下り、北海道拓殖銀行頭取に推され更に朝鮮銀行總裁に任じたるも大正十三年之を辭し閑地に就き悠々自適たり。

夫人きつ子は東京府の人佐藤芳三郎君

の二女にして君との間に熙君、洋次君及び俊子、雅子、綏子等あり、現に東京市赤坂區青山北町七丁目一番地に住し電話青山四〇〇一番なり。

三谷一二君

三菱鑛業株式會社取締役會長
雄別炭礦鐵道株式會社長

正七位勳五等陸軍一等主計三谷一二君は廣島縣の人三谷敬一郎君の二男にして明治四年十月二十二日を以つて生る。明治二十九年東京高等商業學校を卒業するや一年志願兵として入營し、退營後三菱合資會社に入りて長崎支店長、唐津支店長、本社營業部石炭課長、東京支店長等を歴任せり。

大正七年四月三菱鑛業株式會社の創立を見るや、君推されて同社常務取締役に就任し、同時に三菱商事株式會社取締役を兼ねしが大正十三年五月三菱鑛業會社取締役會長に任ぜられ、尚ほ前記雄別炭礦鐵道株式會社々長たる外美唄鐵道、山本鑛業、古河電氣工業各株式會社の重役として令名高く、曩に早川電力、東京毛布、古賀炭坑各株式會社の重役たりし事あり、端艇は君の最も得意の技にして社交に厚く如水會、交詢社、日本工業倶樂部等の各會員たり。

夫人チヨ子は廣島縣士族原純造君の長女にして其の間に雄一郎君、憲二君、眞吾君及びスミ子、鶴子、アヤ子、千賀子等あり、現に東京市小石川區駕籠町二五番地に住し電話小石川六〇九番なり。

皆川鷹助君

會津製氷株式會社監査役

君は福島縣士族皆川辰四郎君の長男にして明治九年十二月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に會津製氷株式會社監査役たり。

然して同縣下多額納税者の一人にして直税一千二十余圓を納め、且つ福島縣會議員たり、夫人をマス子と稱す、現に北會津神指に住す。

水野專之助君

愛知縣多額納税者
眞田貿易株式會社取締役

君は愛知縣の人水野七右衛門君の長男にして明治元年二月を以つて生る。現に眞田貿易、關ヶ原炭礦各株式會社の取締役にして且つ縣下多額納税者として直税二千二百七十余圓を納むといふ。

夫人をくら子と稱し愛知縣の人伊藤源兵衛君の令妹にして君との間に二男三女ありて源次郎君、登季雄君及び千鶴子、重子、菊子等なり、現に名古屋市南熱田富江町五十一番地に住し電話本局一九八八番たり。

峯村敎平君

大和木材株式會社取締役
鴻池銀行取締役

君は長野縣の人齊藤壽一郎君の二男にして、明治十七年十二月を以つて生れ、後ち先代榮藏君の養嗣子となる。夙に鄕校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、

直ちに東都實業界に身を投じ、幾多事業會社に關係して君が敏腕を振ひ、曾つて日本テープ紡績、日本コンスターチ、峰村電氣製材各株式會社の重役を始めとして新冠木材合資會社代表社員たりしことあり。

現時は大和木材株式會社取締役たる外日高林業、鴻商銀行各株式會社の重役として令名あり、東京市牛込區若松町五七番地に現住す。

美土路昌一君

東京朝日新聞社主幹兼整理部長
朝日財團理事

君は岡山縣士族美土路芳次郎君の長男にして明治十九年七月十六日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切磋琢磨、優秀の成績を以つて早稲田大學文科英文科を卒業す。

後ち東京朝日新聞社に入社して青島從軍記者、上海特派員、紐育特派員、本社通信部長、計劃部次長、社會部長等を歴任し、累進して現に前記要職にある外論説委員にして社の内外に重きをなす、趣味廣く就中銃獵を最も好み、季節到來すれば則ち獵銃を肩にして山間を拔渉するを常となす。

夫人てい子は靜岡縣の人杉山藤之君の令妹にして沼津高等女學校を卒業し、君との間に修一君及び八千代子、ふさ子、孝子等あり、現に東京市小石川區金富町二三番地に住し電話小石川六八三〇番たり。

三井源右衛門君

正五位　三井銀行社長

當家は三井家中興の祖八郎右衛門高利の弟三子三郎吉高治の後にして、新町の三井と稱し三井六本家の一なり、相傳へて先代高辰君に至る。君は三重縣の人三井則右衛門君の二男にして、慶應三年五月二十二日を以つて伊勢松坂町に生れ先代の養嗣子となる。

曾つて三井物産合名會社、東神倉庫株式會社の代表者たりしが、現時は前記銀行の社長たる外三井業務執行社員、三井物産株式會社取締役にして、三井家諸事業の重鎮として樞機を司り今名高し。

夫人いそ子は養父高辰君の長女にして内助の譽れ高し、現に東京市小石川區水道町三五番地に住し電話小石川二〇〇一番なり。

水野利八君

美津濃運動用品株式會社長

君は岐阜縣の人水野利八君の二男にして明治十七年五月を以つて生る。夙に美津濃商店を經營して、專ら運動用品の製造販賣をなし東京、神戸、名古屋、南大阪等に支店を設置し、且つ大阪浦江町に工場を設け大正十二年資本金五百万圓の株式組織に變更し、今や本邦斯界の白眉を以つて目さるゝに至れり。

夫人すが子は京都府の人小堀喜藏君の叔母君に當り、君との間に一男ありて健次郎君と稱す、現に大阪市東區北濱町五

ノ四番地に住し電話本局一五八〇番たり

三上於菟吉君

著作家

我が文壇の異彩三上於菟吉君は埼玉縣の人三上純太郎君の長男にして、明治廿四年二月四日を以つて同縣北葛飾郡櫻井村に生る。夙に鄕里の粕壁中學校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、早稻田大學英文科に學び優秀の成績を以つて同科を卒業せり。

然して東京毎夕新聞社に入りしも後辭して創作に專念し、年齒廿五歲にして處女作を公にせし以來短篇小說に「無明」「孤獨」「底」以下十數篇、長篇小說に「愛慾の霧」「空しき靑春」「暗い情熱」「妙齡」「靑春の罪」「楊貴妃の慾望」等其の他數篇、飜譯物に「獸人」「歡樂」「美しき寡婦」「森の處女」「モントクリスト伯爵」その他數種、戲曲に「小さき犧牲」の外數篇を發表し、爾來我が文壇の雄として斯界に令名を謳はるゝに至る。

曩に時事新報紙上の「展望」欄に於て智慧保夫の別名にて流行文學たるゴシップ雜文に先鞭をつけ、才氣橫溢せる君が筆致や文藝愛好者に絕大なる感動を與へ又同紙上に連載したる「白鬼」は君が新聞小說に筆を染めたる最初にして讀者の好評を博し、今や文藝家としての君の前途は愈々多事多望なるものあり。

夫人康子は坪內趙遙門下の閨秀小說家として筆名長谷川時雨を以つて知らる、現に東京市牛込區市ケ谷仲之町十二番地に住す。

三好學君

正三位勳二等　理學博士
帝國大學名譽敎授

君は舊岩村藩士三好友衞君の二男にして、文久元年十二月を以つて生る。明治二十二年東京帝國大學理科大學を卒業し更に大學院に進み同二十四年植物學研究の爲め獨逸に留學を命ぜられ、同二十八年歸朝するや帝國大學理科大學敎授に任せられ、植物學講座を擔任し、同年理學博士の學位を授けらる。

大正九年帝國學士院會員を仰せ付けられ、同十一年附屬植物園長となり同十三年退官し、大正十三年十二月東京帝國大學名譽敎授に任せらる、我が國櫻花研究の權威者として知らる。

夫人みつ子は東京府士族矢野文雄君の長女にして、華族女學校を卒業し其の間に新君及び壽美江子、紋江子、壽江子、彌江子、千江子等あり、現に東京市本鄕區駒込西片町一〇にの五號に住し電話小石川一七三三番なり。

宮島清次郎君

日清紡織株式會社長
南洋貿易株式會社監査役

君は栃木縣の人小林庄太郎君の二男にして明治十二年一月二十日を以つて生る夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、研鑽大いに努め、明治三十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに

實業界に投ず。

爾來加富登麥酒株式會社監査役及び日清紡績株式會社專務取締役等を歷任し、現に日清紡績株式會社々長たる外南洋貿易、日本麥酒鑛泉各株式會社の重役として令名高し。

然して東京市會議員として帝都市制に參與し、其のこれに貢獻すること又甚大なり、夫人をせい子と稱す現に東京市芝區伊皿子町一番地に住し、電話高輪五〇五番たり。

三木武吉君

正五位勳三等　衆議院議員

君は香川縣の人三木古門君の長男にして、明治十七年八月を以つて生る。夙に早稻田大學法律科を卒業するや判檢事登用試驗に合格し辯護士を開業し、大正四年以來衆議院議員に當選すること二回現に其の任にあり、大正十三年加藤內閣成るや擧げられて大藏省參與官に任ぜらるる

夫人をかね子と呼び東京府の人天野良太君の令妹たり、現に東京市牛込區若松町七六番地に住し電話牛込一〇〇四番なり。

宮下正一君

都市工業合資會社長

帝都復興途上に直面して愈々其の前途多望なる、都市工業合資會社代表社員宮下正一君は長野縣の人宮下直作君の二男にして、明治二十年八月八日を以つて生る。

夙に鄕校を卒ふるや大志を抱いて東上し、身を實業界に投じて一意專心其の經驗と研究とを積みしかば、大正十一年八月土木建築用材料及び諸機械販賣を目的とする都市工業合資會社を創立し、自らその無限責任代表社員として經營の衝に當り、畫策大いに努めしかば漸次斯界の信用を博し、遂に今日の大をなすに至る而も君や未だ春秋に富めり其の前途蓋し多望なりと云ふべし。

夫人きく子は東京府の人吉田幸次郎君の長女にして其の間に長男研吾君、二男正三君、三男剛吉君等あり、現に東京市本鄕區湯島三組町二六番地に住し電話下谷五九八一番なり。

三木雄藏君

大阪印刷インキ製造會社長

君は兵庫縣の人三木計吉君の令弟にして明治四年十二月を以つて生る。早くも實業界に身を投じ現に大阪印刷インキ株式會社々長として關西實業界に名あり。

現に大阪市天王寺區南河堀町二四七番地に住し電話南七二六二番たり。

三宅幸太郎君

日出足袋株式會社常務取締役

君は廣島縣の人三宅豊八君の二男にして明治七年十月を以つて生る。夙に實業界に活躍し家業綿布問屋に精勵する傍ら日出足袋株式會社常務取締役にして且つ廣島縣多額納稅者として直稅六千八百三十余圓を納むといふ。

夫人ヒサヨ子は廣島縣の人麻布光三郎君の三女にして、君との間に三男三女ありて定夫君、豐幸君、修三君及び靜子、絹惠子、節子等なり、現に廣島市堺町一ノ二一番地に住す。

三井八郎右衛門君

男爵　從三位勳一等
三井合名會社業務執行委員

當家は御堂關白藤原道長五世の孫信忠の子右馬之助信生の後なり。信生始めて三井と稱し十一世を經て出羽守乘定に至り、佐々木滿總の三男高久を嗣となす、高久源姓に改め江州蒲江の城主たり、後ち五世越後守高安勢州に移り、其の子高俊松坂に於て始めて商估となり、其の子高利に至り家運大いに興り江戸並に京都に支店を開く之を中興の祖となす。高利の後分れて六本家となり五連家を加へて十一家となる其の總本家は高利の長子高平の後裔にして、夫より八世を經て高福君に至る。

君は高福君の男にして、男爵三井高精君、三井高精君等の叔父君に當り、安政四年一月十四日を以つて生れ、明治十八年二月先代高朗君の後を承けて家督を相續し前名長四郎を改む。夙に米國に遊學し明治二十六年以來三井家の全事業を總轄し、同二十九年特旨を以つて華族に列し男爵を授けられ、同三十九年日露事件の功に依り勳二等に叙し旭日重光章を賜はり、大正十三年勳一等に叙し瑞寶章を授けらる。

夫人を苞子と呼び伯爵前田利男君の叔母君たり、現に東京市麻布區今井町四二番地に住し電話青山六〇二四番なり。

溝淵進馬君

正四位勳三等
第五高等學校長

君は高知縣の人溝淵渉君の三男にして明治三年十二月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業するや、直ちに教育學研究の爲め獨佛兩國に留學し歸朝後第二高等學校教授、千葉縣尋常中學校長、高等師範學校教授、東北帝國大學農科大學豫科教授、第四高等學校長等を歴任し以つて現在に至る。

夫人駒衛子は高知縣の人棚橋友信君の養女にして其の間に知惠子、俊子、光子等あり、現に熊本市第五高等學校官舍内に住す。

峰岸敎三郎君

峰岸木材合資會社代表社員
中央土地株式會社取締役

君は駒場源八君の四男にして、明治二十一年七月一日を以つて宇都宮市大町に生る。夙に學に厚く丸山通庸師に師事して和漢の學を修得し、後實業界に名を成さんとの大望を抱き即ち上京して東都財界に身を投じ、活躍大いに努めしかば遂に先代峰岸安之君其の人と爲り將來多望なるを知りて君を養嗣子となし其の事業一切を繼承するに至れり。

然して現に先代の遺業たる木材業に精

勵する傍ら前記の諸職にあり、尙ほ曩に鹿沼銀行監査役たりしが大正十四年同行が合併せらるゝや辭して顧問となり現在に至る。

趣味として音樂の造詣深く、且つ文學經濟學等の研究に專念し又七日會々員たり。夫人をさと子と呼び埼玉縣の人舟津民藏君の二女にして現に東京府北豐島郡岩淵六五一番地に住し電話赤羽三番なり

溝手保太郎君

合同貯蓄銀行取締役
岡山縣多額納稅者

君は岡山縣の人溝手直次郎君の長男にして明治十年三月を以つて生る。現に前記の外中備銀行、早島紡績、倉敷紡績各株式會社取締役にして且つ岡山縣多額納稅者として直稅一萬五百余圓を納むといふ。

夫人マサ子は香川縣の人楊小三郎君の令妹にして君との間に二男五女あり、現に岡山市都窪町早島に住す。

水谷勇三郎君

京華商事株式會社監査役

君は東京府の人水谷才次郎君の長男にして明治二十四年五月を以つて生る。現に京華商事株式會社監査役たり。

夫人をかね子と稱し東京府の人本多巳之助君の五女たり、現に東京市牛込區神樂町三ノ一番地に住す。

三倉滋君

扶桑海上火災保險會社專務取締役

君は岐阜縣士族三倉道行君の二男にして明治十五年七月を以つて生る。明治三十九年京都帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに實業界に身を投じ東京海上火災保險株式會社に入社し、更に大正五年扶桑海上火災保險株式會社に轉じて同社支配人となり、累進して專務取締役に擧げられ現に其の要職にありて内外の社務を執掌し、同社發展に盡瘁すること甚大なり。

趣味として讀書あり、閑日を利用して

は内外のあらゆる書籍に耽溺するを常となす、而して社交に厚く學士會、工業倶樂部等の會員たり。

夫人しづ子は大阪府士族平生金三郎君の長女にして大阪梅花高等女學校の卒業なり、現に東京市本郷區西片町十番地に住し電話小石川一六五一番たり。

三宅信太郎君

岡山縣多額納稅者
帝國足袋株式會社取締役

君は岡山縣の人三宅大五郎君の長男にして明治十三年十一月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍するところあり、現に前記會社の外釣鐘護謨株式會社取締役にして且つ岡山縣多額納稅者として直稅一千六百五十余圓を納むといふ。

夫人をよう子と稱し其の間に德郎君、千吉郎君、大五郎君及び好子、千代子、多滿子等あり、現に岡山市兒島町昧野に住す。

目黒甚七君

東京辭書出版株式會社監査役
東京府多額納稅者

君は新潟縣の人富樫甚平君の四男にして、慶應三年十二月を以つて生れ後目黒十郎君の養嗣子となる。夙に圖書出版界に志し獨力目黒書店を開設して書籍出版業を營み、奮鬪大いに努めしかば着々として斯業界に頭角を現はし、現に斯業を營む傍ら東京辭書出版、日本ノート學用品、東京書籍各株式會社の重役として知らる。

然して東京府多額納稅者にして現時直接國稅實に五千數百圓を納め、且つ傍ら東京府制に參與し京橋區選出府會議員たり。

夫人テフ子は新潟縣の人宮島七藏君の三女たり、現に東京市京橋區南傳馬町二ノ五番地に住し電話京橋二五五番五二三三番たり。

三野有造君

松山銀行頭取

君は香川縣の人三野岩八君の二男にして明治十六年十二月を以つて生る。夙に地方金融界に活躍して地方產業の發展に貢獻すること甚大、現に松山銀行頭取として知らる。

夫人良子は香川縣の人三野ナヲ子の令妹にして君との間に二男四女ありて守亮君、守造君及び千榮子、末子、富美子、喜美子等なり、現に香川縣綾歌松山に住す。

三好一君

正五位勳三等功五級
陸軍中將

君は大分縣士族三好成君の長男にして明治九年十月二十六日を以つて生る。明治二十九年陸軍士官學校を卒業し同三十年陸軍騎兵少尉に任じ昭和二年三月陸軍中將に陞進す。

爾來陸軍戸山學校教官、陸軍實施學校教官、參謀本部員、騎兵學校教官、騎兵第四聯隊長、近衛騎兵聯隊長、陸軍省軍務局騎兵課長、騎兵第二旅團長、陸軍騎兵學校長等を歷補し大正十五年三月教育總監部騎兵監に就任し現在に及ぶ。

夫人章子は和歌山縣士族神中正雄君の二女にして君との間に二男三女ありて成雄君、次郎君及び千代子、久子、京子と呼ぶ、現に東京府下中野町字中野一六一八番地に住す。

宮田光雄君

正五位勳三等
貴族院議員

君は三重縣の人宮田宇吉君の長男にして、明治十一年十一月二十五日を以つて生る。夙に名古屋中學校を經て第三高等學校に進み、明治卅八年東京帝國大學法科大學を卒業し同年文官高等試驗に合格して翌年五月貴族院書記官となり庶務課長を命ぜらる。

明治四十二年五月大藏省臨時建築事務官を兼任し、大正三年四月貴族院書記官長事務取扱を任命せられ同七年六月臨時建築局經理部長兼貴族院書記官に任じ、大正八年六月福島縣知事に任ぜられ同九年五月三重縣より推されて衆議院議員に當選す。

而して大正十一年加藤友三郎内閣成立するや内閣書記官長に任ぜられ、次いで露國及支那、朝鮮へ出張を命ぜられ、後ち内閣書記官長を辭し貴族院議員に勅選せられ現在に至る、趣味として庭球あり又農林經營の研究に熱心なりといふ。

夫人をツヤ子と呼び東京府立第三高等女學校の卒業たり、現に東京府豐多摩郡下澁谷一三九番地に住し電話青山五八九八番なり。

三浦新兵衛君

山形酒造株式會社長
山形玉糸株式會社常務取締役

君は山形縣の人荒木健治君の二男にして、明治二十二年十一月を以つて生れ大正六年先代新兵衛君の養子となる。夙に實業界に投じ現に前記諸職にある外山形瓦斯、南洋商會、山形電氣、三浦銀行各株式會社の重役たり。

夫人コウ子は山形縣の人市村利吉君の長女にして其の間に子なきを遺憾となす現に山形縣旅籠町一九五番地に住す。

三上參次君

文學博士　從三位勳二等
東京帝國大學教授

君は兵庫縣の人幸田貞助君の三男にして、慶應元年九月を以つて生れ後先代勝明君の養嗣子となる。明治二十二年帝國大學文科大學國史科を卒業し更に大學院に入り、本邦政治史を專攻し兼ねて女子高等師範學校教授兼帝國大學文科助教授東京帝國大學文科大學教授を歷任せり。

現に東京帝國大學教授にして明治二十八年以來史料編纂委員、同編纂官、同事務主任として大日本史料編纂の事務を統べ、又明治三十五年萬國東洋學會々議本邦委員として獨逸に赴き傍ら歐米諸國を歷遊す、然して大正六年以來御講書始圖書進講を仰せ付けらる、尙ほ帝國學士院會員たり。

夫人はる子は埼玉縣の人田邊明相君の長女にして其の間に勝君、武君、進君の諸子あり、因に長女登代子は滋賀縣の人大海原重義君に嫁し長男俊夫君は長瀨君の養子となる、現に東京市本郷區駒込林町一六九番地に住し電話小石川一二四四番なり。

三原美男君

内田商事株式會社取締役

君は山口縣士族三原敬之君の二男にして明治十六年一月を以つて生る。現に内田商事、内田汽船各株式會社重役にして曾つて帝國窯業株式會社監査役たりしことあり。

夫人キクヨ子は山口縣の人河崎之一君の三女にして君との間に美紀君及び公子和子、道子等あり、現に神戸市再度筋三

一番地に住し電話元町二六九〇番たり。

三上英雄君

日本住宅保全株式會社長
辯護士　辨理士

我が法曹界の新人にして且つ實業界に名ある、三上英雄君は明治二十三年を以つて備後國比婆郡に生る。夙に鄕校を卒ふるや日本大學法科及び中央大學に學び法律學を研究し、後ち辯護士試驗に應じて首尾よく登第し、直ちに法律事務所を開設して一般法律事務を取扱ひ、其の蘊蓄を傾注して事件を處理すること極めて敏活懇切なりしかば、漸次社會の信望を博するに至れり。

曩に日本辯護士協會理事、公益法人助弊會監事たりしが現に東京辯護士會副會長として我が法曹界に名あるのみならず、實業家たるの才幹豊かにして各種の事業會社に關係を有し、現に日本住宅保全株式會社々長たり。

趣味廣く旅行を好み讀書を愛好すといふ、現に事務所を日本橋區新右衛門町八番地に有し電話大手一〇七八番にして東京市外高圓寺八五八番地に現住す。

三潴信三君

法學博士　從五位
東京帝國大學教授

君は東京府の人三潴謙三君の長男にして、明治二年五月六日を以つて生る。明治三十八年東京帝國大學法科大學を卒業し、更に明治四十年法理學及び民法研究の爲め獨逸伯林大學、伊國ローマ大學に學び歸朝するや東京帝國大學法科大學、早稲田、中央、法政、慶應各大學の講師たりしが現に從五位法學博士にして東京帝國大學教授たり。

夫人ハナ子は福島縣の人田邊守君の長女にして君との間に信吾君、信邦君及びのぶ子、ゆり子等あり、現に東京市麻布區仲之町一一番地に住す。

宮内國太郎君

從四位勲三等　商工省工務局長

君は茨城縣の人宮内長右衛門君の令孫にして、明治九年七月を以つて同縣行方郡立花村に生る。明治三十六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや農商務屬となり、同年文官高等試驗に合格し同三十七年特許局事務官に任じ、山林書記官を兼ね同四十年歐米に差遣せらる。

然して歸朝後は鑛山監督局事務官、法制局參事官、行政裁判所評定官、大阪鑛務署長、農商務大臣秘書官兼戰時保險局長、特許局長、同省工務局長兼鑛山局長等を歴任し、大正十四年官制改正せられて農商務省の農林商工兩省に分るゝや商工省工務局長に任ぜられ、尙ほ社會局參與、勞働保險調査會委員等の要職にあり演劇、讀書等に趣味を有すといふ。

夫人をまき子と呼び茨城縣士族佐藤五右衛門君の長女にして水戸高等女學校の卒業なり、現に東京市本鄕區駒込曙町一三番地に住し電話小石川八二五番たり。

水谷鹿治郎君

相模紡績株式會社常務取締役
日本製布株式會社取締役

一度、身を操觚界に投じては輕妙なる筆致と卓越せる論理とを以つて世人を驚嘆せしめ、轉じて實業界に入りては其の才腕を縱横に揮ひ、行くとして可ならざるなき新進實業家水谷鹿次郎君は明治九年七月を以つて三重縣に生る。

夙に才智衆に秀で明治二十五年三重縣立中學校を卒ふるや、獨力經濟週報を發刊し主として經濟事情の報導をなして斯界に稗益する處尠なからず、傍らやまと新聞社に入りて經濟部を擔當し、内外の經濟事情を報導して名名ありき。

然して後ち感するありて斷然操觚界を去りて實業界に走り相模紡績株式會社の創立に努め同社の成立を見るや、推されて同社常務取締役に任じ其の敏腕を振ひ遂に同社をして今日の大を成さしむるに至り、尙ほ傍ら日本織布株式會社取締役として地方財界に名名高し。

夫人をかめの子と呼び其の間に一女ありて藤子と呼ぶ、現に東京市四谷區大番町八〇番地に住す。

三尾邦三君

春海商店專務取締役

君は和歌山縣の人三尾彦右門君の二男にして明治二十四年九月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に株式會社春海商店專務取締役たり。

夫人ちせ子は大阪府の人植松タツ子の養嗣子にして君との間に二男ありて隆造君、勝之助君と稱す、現に大阪市東區伏見町三ノ一七七番地に住す。

目黒文平君

廣瀨銀行頭取

君は新潟縣の人目黒德松君の二男にして明治十七年五月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に廣瀨銀行頭取たる外北越水力電氣株式會社の重役にして、且つ其他幾多事業會社に關係を有し當地方財界に重きをなす、尙ほ新潟縣多額納稅者として現時直稅四千九百五十余圓を納むといふ。

夫人レン子は新潟縣の人笹川俊藏君の三女たり、現に新潟縣北魚沼郡須原に住す。

三宅秀君

醫學博士　正四位勲二等
東京帝國大學名譽教授

君は舊金澤藩士三宅貞齊君の長男にして嘉永元年十一月を以つて生る。夙に高島秋帆、手塚律藏等の家塾に學び後更に佛國に航して研鑽を積み歸朝後尙ほ横濱にありて修得するところあり。

明治三年大學出仕、同中助教となり爾來文部省出仕二回、文部大助教、文部少教授、東京醫學校長心得、宮内省及内務省御用掛、東京大學教授兼東京大學醫學部長、醫科大學教授、兼醫科大學長等を歴任し、其の間學校衛生顧問會議長、學士會院會員、日本大博覽會評議員等に擧

げられ尚ほ各種の委員或は審査官たること頗る多く又萬國醫學會副會頭として米國費府に派遣せられ、明治二十四年貴族院議員に勅選せらる。

現に帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、錦鶏間祗候、中央衞生會、保險衞生調査會、史蹟名勝天然記念物調査會等に各委員たり、夫人ふち子は男爵佐藤進君の養妹たり、現に東京市小石川區竹早町八十一番地に住す。

三宅速君

醫學博士　從四位勳三等

九州帝國大學教授

君は德島縣の人三宅玄達君の長男にして慶應三年三月を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し、更に明治三十一年獨逸に留學し同三十六年再び獨逸に留學して外科學を研鑽して歸朝す。

曾つては京都帝國大學教授、福岡醫科大學教授たりしが現に九州帝國大學教授として知らる。夫人ミホ子は福岡明人君の長女にして其の間に博君、秀勝君及びフジ子、富子等あり、現に福岡市大名町に住す。

宮島幹之助君

醫學博士　正五位

衆議院議員

君は山形縣の人宮島家久君の長男にして明治五年八月を以つて生る。明治卅一年東京帝國大學理科大學を卒業し、直ちに大學院に入り無脊椎動物特に腔腸類を專攻し同三十三年京都帝國大學大學院に入り病源虫類を專攻せり。

明治三十四年大學講師に任ぜられ又京都高等工藝學校講師を兼任し、同三十六年痘苗製造所技師に任ぜられ同三十八年傳染病研究所技師に轉じ、大正三年移管の爲め之を辭任し北里研究所部長となり現時同研究所理事たり。

明治四十年醫學博士の學位を授けられ又曩に國際聯盟保健委員會帝國代表委員國際阿片會議帝國專門委員等に擧げられ米、獨、比律賓、亞佛利加等に差遣せらる。大正十三年郷里米澤市より民衆の輿望を負ふて衆議院議員に當選し現に其の職にあり、東京市外杉並高圓寺町五五番地に現住す。

三輪田輪三君

山形高等學校長

正五位勳四等三輪田輪三君は愛媛縣の人三輪田高房君の三男にして明治七年十一月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學理科大學數學科を卒業するや直ちに教育界に入り爾來山口、第六の各高等學校教授を歷任し現に山形高等學校長兼教授として知らる。

夫人を光子と呼び東京府の人城戸要君の令妹にして君との間に靜枝子、芳野子美代子、柯野子、文惠子等あり、現に山形市山形高等學校内に住す。

三好重道君

三菱造船株式會社常務取締役

三菱製鐵株式會社常務取締役

君は故貴族院議員三好退藏君の二男にして、明治四年二月十五日を以つて生る。明治二十八年慶應義塾大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、九州鐵道株式會社に入り後運輸事務研究の爲め歐米を視察して歸朝す。

然して後帝國鐵道參事たりしが明治四十一年三菱合資會社に入り同社漢口支店長、本店營業部副長兼臨時北海道調査課副長、同社參事、炭坑部總務課長等を歷任し、大正七年四月三菱鑛業株式會社の創立を見るや君推されて其の常務取締役となり更に三菱造船、三菱製鐵各株式會社の常務取締役に擧げられ現在に至る、傍ら帝國鐵道協會理事たり、趣味としてゴルフあり又神妙なりといふ。

夫人スハ子は東京府士族山口宗義君の長女にして、東京女子高等師範附屬高等女學校を卒業し其の間に道夫君及びヒサ子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷仲ノ町五七番地に住し電話牛込三八七七番なり。

三輪新五郎君

濱松銀行副頭取

君は靜岡縣の人三輪茂平治君の長男にして明治元年十一月を以つて生る。曾つて芳川銀行頭取たりしが現時は株式會社濱松銀行副頭取たる外株式會社新津銀行取締役、日本織布株式會社常務取締役、濱松形染株式會社取締役、濱松窯業株式會社取締役として地方財界に令名高く且つ現に濱松商業會議所議員たり。

夫人いち子は靜岡縣の人大杉順藏君の長女にして君との間に新右衞門君、信男君、貞雄君、武雄君及び三千江子、きよし子、ゆきゑ子、藤子、壽子等あり、現に靜岡縣濱名郡芳川村に住す。

三輪善兵衞君

實業家

丸見屋商店社長

今や丸見屋商店の名は其の發賣にかゝるミツワ石鹸、ミツワ化粧料の聲價と相俟つて、全日本はおろか東洋全土にまで宣傳せられて餘すところなし、而して當丸見屋商店の經營者三輪善兵衞君は東京府の人先代三輪善兵衞君の長男にして、明治四年五月十一日を以つて生る。

先代善兵衞君は名古屋より出でて始め小間物商を營みたりしも商畧の才能豐かに而も覇氣に富める君が一度其の遺業を繼承してミツワ石鹸を始め幾多の新化粧品又はミツワ家庭藥等を發賣し、傍ら化學研究所を起して製品の改善を計ると共に、大膽なる廣告術とを以つてせしかば丸見屋の名全土に喧傳せられ、遂に今日の大をなすに至る、現に東京府多額納稅者にして直接國稅四萬九千六百十余圓を納め傍ら歌舞伎座、秩父セメント各株式會社の重役たり。

趣味として音樂、茶道等の嗜あり、社交廣く日本橋倶樂部、日本工業倶樂部、同電氣倶樂部、貿易協會等の各會員たり夫人のぶ子は東京府の人增田桃七君の三女なり、現に東京市麴町區平河町三ノ六番地に住し電話四谷二六三七番たり。

三輪德寛君

醫學博士
千葉醫科大學長

從二位勳二等三輪德寛君は愛知縣の人三輪重秀君の令弟にして安政六年六月を以つて生る。明治十九年帝國大學醫科大學を卒業し、更に大學院に斯學を專攻し尙ほ明治三十一年獨逸に留學して外科學を研究して歸朝す。

然して爾來第一高等學校教授、千葉醫學專門學校教授、同校長兼縣立千葉病院長兼同第一外科部長等に就任し、而して同校の大學令により昇格して單科大學となるや君又昇進して千葉醫科大學々長に任じ現在に至る。

夫人榮子は東京府の人高松凌雲君の長女にして其の間に德秀君、德定君、德三君等あり、現に千葉市に住し電話千葉七三番なり。

三科章君

三科病院長

當家は其の祖肥前守某武田機山公に仕へて戰功あり邑を山梨郡上神內川に賜ふ武田氏沒落後順益と稱して醫業を以つて子々孫々に傳へ、先代貞幹君は鶴齊と號し家業に從事する傍ら維新の際同志を糾合し、率先勤王の大義を唱へ順逆の嚮ふところを定めて功あり朝廷より護國隊の名を賜ふ。

君は貞幹君の四男にして明治五年一月八日を以つて生る。明治三十年東京帝國大學醫科大學產婦人科專修科を修業し、醫師開業檢定試驗に合格して前記の所に開業し今日に及ぶ、曩に大宮町會議員に當選せしこと二回現に憲政會埼玉支部常任幹事にして縣下に於ける同會の有力者たり、尙ほ埼玉縣醫師會議員、北足立郡醫師會幹事等の諸職にあり、謠曲、圍碁草花等に趣味を有すといふ。

夫人を於唯子と呼び山梨縣の人笠原和三郎君の長女にして山梨縣立第一高等女學校の卒業なり、現に埼玉縣大宮町三六四九番地に住し電話大宮五三番なり。

宮川久一郎君

弘前商業銀行頭取

君は青森縣の人西谷嘉兵衛君の四男にして、村本良助君の令兄に當り明治四年十一月を以つて生れ、同二十三年先代久一郎君の養嗣子となる。

曩に津輕銀行監査役たりしが現に前記銀行頭取たる外弘前宮川銀行專務取締役五十九銀行、宮川吳服店、吉野藤商店各株式會社の重役として知らる。

尙ほ青森縣多額納稅者にして現時直接國稅六千八百六十余圓を納むといふ、現に弘前市百石町に住す。

御厨基三君

正五位勳五等
東京市社會局長

君は佐賀縣士族御厨利貞君の長男にして、明治十二年十一月三日を以つて生る夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、明治三十九年東京帝國大學法科大學を優秀の成績を以つて卒業す。

斯くて職を官途に奉じ、警視廳屬を振り出しに、爾來、臺灣總督府警視、同專賣局煙草課長、同南投廳長、高雄州內務部長等を歷任し、後ち推されて三重縣津市長に擧げられ、斯くて君が地方自治行政に盡瘁すること甚大、而して、昭和二年四月東京市社會局長に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人スヤ子は佐賀縣士族中村安將君の長女にして君との間に富美子、笑子、民子、伊津子等あり、現に東京市牛込區南町二十一番地に住し電話牛込一八二〇番たり。

三上治三郎君

京都府多額納稅者
京都商業會議所議員

君は京都府の人三上治助君の長男にして、明治十一年十月を以つて生る。現に京都府多額納稅者にして、且つ京都商業會議所議員として知らる。

夫人エン子は滋賀縣の人木村源藏君の二女にして君との間に富三郎君及びふみ子、てる子、あさ子等あり、現に京都市下京區高辻柳馬場西入に住し電話長四四八番たり。

三善清之君

衆議院議員　陸軍參與官

君は香川縣の人宮本平八郎君の二男にして、安政六年十二月を以つて生れ、明治十四年三善家を再興す。

夙に大阪府師範學校を卒業するや更に陸軍士官學校に學び、同校を卒ふるや陸軍中尉として熊本鎭臺工兵大隊の副官等を勤め、後ち辭して實業界に投ず。

然して直ちに日本土木株式會社々員となり、東京灣砲臺、紀淡海峽砲臺、月島築城、東京灣浚渫等を擔任して其の技倆を發揮せしが、明治三十年再び官吏となり、岡山縣技師に任じ從六位に叙せられ同縣土木課長として兒島灣大開墾の紛議を解決し、明治三十六年官を辭して丸龜市長に擧げられ、後ち衆議院議員に當選し、昭和二年四月田中立憲政友會內閣成るや陸軍參與官に任ぜらる。

夫人すき子は神奈川縣の人福田利吉君の長女にして君との間に淸胤君、芳行君及び富子、淸香子、勝子等あり、現に東京市外代々木富ケ谷一三九六番地に住し電話四谷三二番たり。

三澤善哉君

兵林館印刷所代表取締役

君は東京府士族三澤重禮君の二男にして、明治十七年一月二十二日を以つて生る。曾つては陸軍通譯官、陸軍御用商人等を勤め、現時前記兵林館印刷所株式會社代表取締役たる外日本自動車學校顧問隆文館株式會社取締役たり。

夫人を志津子と呼び君との間に猛君及び禮子等あり、現に東京市神田區今川小路三ノ五番地に住し電話四谷二四一一番なり。

宮原秀一君

宇野港土地株式會社長
合同貯蓄銀行監査役

今や地方財界の重鎮として、且つ縣下多額納税者として令名嘖々たるを我が宮原秀一君となす。

君は岡山縣の人宮原臺君の長男にして明治十一年六月を以つて生る。夙に財界に投じて活躍大いに努め、現に宇野港土地株式會社々長たる外、合同貯蓄銀行監査役にして且つ縣下多額納税者として直税七千三百五十余圓を納む。

夫人トヨエ子は香川縣の人鎌田大三郎君の長女にして君との間に虎之丞君、義久君、義明君及び壽子、喜更子、八代子等あり、現に岡山縣兒島郡日比に住す。

箕浦多一君

正八位　在郷陸軍歩兵少尉
報知新聞社取締役兼營業局長

當家は稻葉家の家臣にして舊家として知られ、父君箕浦勝人は同藩家臣實相寺愚山の二男にして、安政二年二月を以つて生れ明治三年十二月箕浦又生君の養嗣子となりし人、夙に秋月新太郎君、栃原助之進君、草場船山君等の門に入りて漢學を修め後ち上京して慶應義塾に學び、同七年卒業す。

斯くて報知新聞社に入りて君の健筆を縱横に揮ひ、盛んに國會開設の議を提し而して後ち仙臺神戸岡山等の各中學校長として青英界に貢献すること尠少ならず

然して後ち身を政界に投じ、改進黨を組織し初期以來選ばれて衆議院議員たること十五回、その間副議長、遞信次官、遞信大臣等に任ぜられ君が我が國政に參劃して貢献する蓋し甚大なり。

我が新人箕浦多一君は實に其の二男にして、明治二十四年七月三十日を以つて生る。大正六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに富士瓦斯紡績株式會社に入社し、同九年五月報知新聞社に轉じ、營業局次長、販賣局長、營業局長等を歴勤して以つて現在に及ぶ。

先是大正六年一年志願兵として近衛歩兵第二聯隊に入營し、退役と同時に陸軍歩兵少尉に任官せらる。

夫人を園子と呼び大分縣立高等女學校を卒業す、現に東京市小石川區關口町一八九番地に住す。

宮田重治君

岩手縣多額納税者

君は岩手縣の人先代重治君の長男にして、慶應三年七月を以つて生る。夙に地方財界に令名を鳴らし、現に盛岡銀行、盛岡倉庫各株式會社監査役にして、且つ岩手縣多額納税者として直税四千二百二十余圓を納む。

夫人ジュン子は岩手縣の人宮田謙次郎君の長女にして君との間に二男三女あり現に岩手縣盛岩郡東中野第一地割に住す

宮田哲雄君

醫學博士　宮田病院長
日新醫學社監査役

本邦醫學界の重鎮宮田哲雄君は茨城縣の人宮田藤七君の長男にして、慶應三年八月七日を以つて生る。

夙に東京帝國大學醫科大學に學び病理學及び皮膚科を研究すること三ケ年、更に明治三十八年獨逸に留學してミュンヘン大學に學びドクトル、メヂチーネの學位を得て明治四十一年歸朝す。

先是明治三十一年以來田代病院々長代理として田代義德博士の薫陶を受け、曩に鐵道病院、警視廳、東京市等の囑託醫として貢献すること甚大、大正九年博士論文を提出して醫學博士の學位を受く。

斯くて、明治四十一年日本橋區久松町に開業し、大正三年現住地に宮田病院を設立して一般診療に從事する傍ら前記會社の重役を兼ね、尚ほ各種の名譽職に擧げられて今日に及ぶ。

夫人つな子は栃木縣の人田部井猪子君の令妹にして淑德高等女學校の出身たり現に東京市日本橋區村松町三七番地に住し電話浪花一二九三番なり。

宮澤直治君

盛岡電氣工業株式會社取締役

君は岩手縣の人宮澤善治君の長男にして、明治十二年三月を以つて生る。現に前記會社の重役たる外盛岡信託株式會社監査役にして、且つ岩手縣多額納税者として直税二千百十余圓を納む。

夫人チル子は岩手縣の人宮澤右八君の令姪にして君との間に三男四女あり、現に岩手縣稗貫郡花卷川口に住す。

宮島幹之助君

醫學博士　正五位
衆議院議員

我が醫學界の重鎮にして、且つ政界に活躍して令名ある宮島幹之助君は山形縣の人宮島家久君の長男にして、明治五年八月を以つて生る。

明治卅一年東京帝國大學醫科大學を卒業するや直ちに大學院に入り、無脊椎動物特に腔腸類を專攻し、更に同三十三年京都帝國大國大學院に入りて病源虫類を專攻す。

斯くて同三十四年大學講師を命ぜられ同時に京都高等工藝學校講師を兼任し、同三十六年痘苗製造所技師に任じ、同三十八年傳染病研究所技師に轉じ大正三年移管の爲め之れを辭し、北里研究所部長

となり、現に同研究所理事たり。

曩に國際聯盟保健委員會帝國代表委員國際阿片會議帝國專門委員等に擧げられ米國、獨逸、比律賓、亞弗利加等に差遣せらる。而して大正十三年鄕里米澤市より輿望を負ふて衆議院議員に當選し以つて現在に及ぶ。

現に東京市外杉並高圓寺五五五番地に住す。

三木與吉郎君

勳四等　貴族院議員
株式會社三木商店社長

君は德島縣士族先代與吉郎君の長男にして、明治八年十一月を以つて生れ、後ち前名康治を改めて先代を襲名す。

當家は德島縣下に於ける素封家として知られ、代々藍及清酒醸造業を營み、大正七年株式組織に變更して三木商店と稱し、本店を東京に置き支店を大阪に設置して廣く染料化學製品及び米穀雜貨各種機械工具金物類の直輸出入業を營み、現に同社々長たる外大同藍株式會社代表取締役たり。

曩に衆議院議員たりしが大正七年貴族院議員に互選せられ同十四年再選せらる尙ほ德島縣多額納稅者として直稅一萬二千三百九十余圓を納む。

夫人ツネ子は德島縣士族吉田賢太郎君の令妹たり、現に德島縣板野郡松茂二一番地に住す。

水江林吉君

中央證券信託株式會社長

君は兵庫縣の人水谷助三郎君の二男にして、明治十三年七月十五日を以つて生れ、後ち水江勝次郎君の養嗣子となる。明治大學第一期の法科を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して日本海事株式會社を創立して邦人の海外發展に盡瘁し、後ち是正砂利株式會社々長を始めとして日本完全燃燒、日本無砂精米、多摩鐵道各株式會社の各專務取締役を歷任し、現に前記會社の社長たる外四菱合資會社代表社員にして、且つ工業藥品商を營み我が財界に令名あり、尙ほ傍ら母校明治大學商議委員にして趣味に園碁あり、又妙なりと。

夫人シヅ子は山口縣士族北村平治君の長女にして本邦女流刀圭界の第一人者として聞ゆ、現に横濱市福富町二ノ五一番地に住す。

南新吾君

東亞煙草株式會社長

勳六等實業家南新吾君は大分縣の人南一郎平君の四男にして、明治六年十一月十八日を以つて生る。

明治三十七年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに三井物産合名會社に入り、爾來、口の津、天津、香港各支店長を經て同四十二年本店秘書役となり、次いで同調査課長、參事等を歷勤し、同四十三年商務官に任ぜられ退官後臺灣銀行に入り同行理事に擧げらる。

曩に大北漁業株式會社々長、日本鐵道事業、樺太合同產業各株式會社取締役及び日魯漁業株式會社常任監査役たりしが現時は東亞煙草株式會社々長たる外日米信託株式會社取締役として斯界に令名あり。

夫人ゑみ子は兵庫縣の人美濃部俊吉君の令妹にして君との間に四男三女あり、現に東京府豐多摩郡中野町二五〇一番地に住し電話四谷一〇八四番なり。

水野猿君

東亞通商株式會社常務取締役

君は愛知縣士族水野行敏君の三男にして、明治十八年三月二十四日を以つて生る。明治四十三年早稻田大學商科を卒業す。

然して直ちに財界に投じ、高木合名會社に入社し、累進して現に同社理事たる外、大正三年以來東亞通商株式會社に勤務し現に同社常務取締役たり。

曩に大正電燈株式會社常務取締役たりしことあり、趣味に園碁、撞球あり。

夫人幾代子は鹿兒島縣立高等女學校を卒業し君との間に行夫君及び貞子、敏子等あり、現に神奈川縣鶴見町二見臺四九番地に住し電話鶴見二二六番たり。

宮尾麟君

南洋製糖株式會社長

君は高知縣士族宮尾造作君の長男にして、明治元年四月を以つて生る。夙に實業界に投じて敏腕を振ひ、現に前記會社の社長たる外大成化學工業、旭石油、太田川水電各株式會社取締役にして且つ信越電力株式會社監査役たり。

曾つては建築技師として斯界に貢獻せしことあり。

夫人をチカ子と呼ぶ、現に東京市赤坂區青山南町一ノ四九番地に住し電話青山五三八番たり。

宮崎峯太郎君

東洋工業社常務取締役

君は東京府の人宮崎吉五郎君の二男にして、明治十五年四月六日を以つて生る。

夙に横濱商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ米國貿易會社に入りて恪勤すること二十ヶ年、大正七年東洋工業社に轉じ、現に同社常務取締役として我が財界に令名あり。

夫人をとめ子と稱し栃木縣士族與津與六君の長女にして栃木縣立足利高等女學校を卒業し君との間に武男君、尊君、昇君、吉繁君、五郎君等あり、現に東京府荏原郡調布下沼部田園都市四二三番地に住す。

宮川米次君

醫學博士　正五位

君は愛知縣渥美郡福井町の出身にして明治十八年二月四日を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學醫科大學內科を卒業し、現に傳染病研究所技師兼東京帝國大學醫學部助敎授にして、傍ら豐橋電氣株式會社監査役たり。

夫人をヤス子と稱し君との間に逸郎君

及び妙子あり、東京市本郷區曙町七番地に現住し電話小石川一〇二五番たり。

峰岸慶藏君

東京府多額納稅者
日本絹絲紡績株式會社長

君は栃木縣の人峰岸覺之丞君の令弟にして、明治八年八月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや青雲の志は燃えて烈火の如く、遂に奮然起つて帝都に上り身を實業界に投ず、時に年齒廿一歲なりき。

然して東都財界の明星濱口儀兵衛商店雜穀部に入りて恪勤すること年あり、時しも明治四十二年愈々獨立の機運熟するや、敢然米穀肥料問屋を經營し、爾來、奮戰大いに努めしかば着々として斯界に頭角をあらはし、遂に今日の大を爲すに至れり。

現時は其の傍ら前記會社々長たる外東洋食品株式會社取締役にして且つ米穀取引員第三部委員長を勤め、尙ほ東京府多額納稅者として直稅六千餘百圓を納め我が財界の重鎭たるを失はざるべし。

夫人ちよ子は東京府の人鈴木勝藏君の長女にして內助の閑え高し、現に東京市麴町區下二番町三九番地に住し電話四谷二三五番なり。

參木錄郎君

工學博士
東京瓦斯會社技師長兼供給課長

君は栃木縣の人參木彦次君の四男にして、明治十一年五月十日を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し、次いで大學院に學ぶ。

曩に千代田瓦斯株式會社に勤め、後ち東京瓦斯會社に轉じて同社技師兼常務取締役たりしが、大正十年同社を辭し、後ち再び同社に復歸し以つて現在に及ぶ。

尙ほ傍ら帝國火藥工業、太田信義藥房各株式會社の重役たり。

夫人をツヤ子と稱し君との間に錦司君五郎君及びソノ子、ノブ子、千枝子等あり、現に東京市本郷區駒込千駄木町五九番地に住し電話小石川二二八七番たり。

宮原敏君

日本醋酸製造株式會社取締役兼支配人
東洋藥品株式會社取締役

君は東京府の人山內堤雲君の四男にして、明治十年九月を以つて生れ、後ち先代たま子の養嗣子となる。明治卅九年京都帝國大學法科大學を卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ五十八銀行百三十銀行等を歷勤し、現に日本醋酸製造株式會社取締役兼支配人にして、且つ東洋藥品株式會社取締役として知らる。

夫人をリン子と呼び、栃木縣立宇都宮高等女學校の卒業にして君との間に元子光子、きみ子、まつ子等あり、現に東京市牛込區拂方町二五番地に住し電話牛込一一六七番たり。

三浦大五郎君

大洋火災保險株式會社取締役

君は東京府の人三浦正直君の長男にして、明治三年十二月十八日を以つて生る

明治廿四年中央大學の前身たる東京法學院を卒業し、後ち辯護士登用試驗に登第するや辯護士事務所を開設して東都法曹界に令名ありしが幾何もなく辯護士稼業を廢し、現に前記會社の重役たり。

夫人こう子は東京府士族笹田たつ子の長女たり、現に東京市芝區高輪車町四三番地に住し電話高輪一三五二番たり。

水野豐君

日本鑿業合資會社長
豐榮製氷株式會社長

君は新潟縣の人水野連君の長男にして明治十一年四月二十二日を以つて長野縣上田市に生る。

夙に青雲の志を抱いて東上し、專心、法律學を研鑽して辯護士となり、現に水野法律事務所を開設して一般訴訟事務に從事するのみならず前記各會社々長にして且つ草津電氣鐵道株式會社取締役及び法律新報社々長たり。

趣味に俳句あり、六山人と號し枯野社々人として斯道に通じ、又紫伴と號して和歌を能くすといふ。

夫人を久野子と稱し君との間に廣三郎君、泰輔君、茂君、潤君及び盛子等あり現に東京府豐多摩郡中野町中野一七一九番地に住し電話四谷四二三〇番なり。

宮澤胤勇君

東京スタンダード靴會社專務取締役

君は長野縣の人宮澤長作君の長男にして、明治二十年十二月を以つて生る。明治四十四年早稻田大學政治科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

曾つて明治製革、櫻組工業各株式會社取締役たりしが、現時は東京スタンダード靴株式會社專務取締役として知らる。

夫人をひさの子と稱す、現に東京府豐多摩郡大久保百人町三一一番地に住し電話四谷一五九三番なり。

宮崎好文君

月島機械株式會社常務取締役
株式會社東京工藝社監査役

今や新進實業家として令名あるを我が宮崎好文君となす、君は東京府の人宮崎幸麿君の長男にして、明治十四年七月六日を以つて生る。

明治三十九年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業するや直ちに實業界に投じ、月島機械株式會社に入り同社技師長を勤め、現に同社常務取締役にして且つ東京工業社監査役たり。

夫人千代子は奈良縣士族齋藤金一郎君の二女にして三輪田高等女學校の卒業たり、現に東京市牛込區南町二〇番地に住し電話牛込六八五番なり。

三好海三郎君

從五位勳五等　實業家

君は舊宇和島藩士三好長光君の三男にして、明治二年十二月十四日を以つて宇和島に生れ、後ち分家して一家を創立す

明治二十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し、翌年文官高等試驗に應じて首尾よく合格し直ちに官界に投ず。

爾來、稅關檢査官、稅關事務官、稅關監視官、函館稅關長、長崎稅關長等を歷補し、後ち官を辭して實業界に入り神田鐳藏君の紅葉屋銀行を創立するに當り聘せられて共專務理事となり、現に神田銀行取締役及び朝日信託株式會社取締役たり。

夫人をかぎ子と稱し東京府の人佐々木長十郎君の三女にして君との間に四男三女あり、現に東京市外入新井町新井宿長田二三〇番地に住す。

三原庄太君

仙臺商業會議所議員

君は宮城縣の人三原庄太君の長男にして、明治二十三年一月を以つて生る。現に仙臺商業會議所議員たり。

夫人ヤス子は山形縣の人蜂屋五郎兵衛君の六女にして君との間に一女あり、現に仙臺市大町五ノ一九五番地に住し電話三二三番なり。

三井米松君

從四位勳三等
商工省鑛山局長

君は長崎縣士族佐伯小彌太君の令弟にして、明治七年四月を以つて生れ、後ち先代豐次郎君の養嗣子となる。

明治三十四年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し、更に同三十九年同法科大學法律科を卒業す。

斯くて直ちに職を官途に奉じ曩に農商務屬、水產講習所敎授等を歷任し、其の間、明治四十三年文官高等試驗に合格し後ち水產局書記官、農商務書記官、福岡鑛務署長等に任ぜられ、現に商工省鑛山局長にして且つ社會局參與たり。曾つて佛領印度支那、暹羅、英領印度等に出張を命ぜらる。

夫人クメ子は先代豐次郎君の四女たり現に東京市外落合町下落合八二六番地に住し電話牛込一五六〇番たり。

三井助作君

三井工業株式會社長
能登燐礦株式會社專務取締役

君は山梨縣の人三井尙正君の二男にして、明治八年四月を以つて生る。明治三十四年京都帝國大學工科大學土木科を卒業す。

然して直ちに實業界に投じ、三井工業株式會社を興して土木建築界に活躍し、現に同社々長たる外能登燐礦株式會社專務取締役にして、且つ千代田製藥株式會社取締役たり。

夫人きよ子は山梨縣の人加賀美庫次郎君の長女にして君との間に武夫君、行雄君及び正子等あり、現に東京市京橋區南紺屋町二一番地に住し電話銀座六三四〇番なり。

宮本清三郎君

富士瓦斯紡績會社常務取締役

君は香川縣の人中村與吉郎君の令弟にして、明治九年十二月を以つて生る。明治二十七年大阪高等商業學校を卒業す。

斯くて、直ちに實業界に投じて君が敏腕を縱に横に四方に又八方に振展して令名を鳴らし、現に富士瓦斯紡績株式會社常務取締役として知らる。

夫人もと子は愛知縣の人永室作太夫君の長女にして、君との間に一郎君及び春子、八重子、夏子等あり、現に東京市外澁谷町中澁谷一〇〇番地に住し電話青山七五五番なり。

三宅川保一君

森村銀行專務取締役

君は東京府の人三宅川百太郎君の令弟にして、明治十一年二月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ、曾つては三菱銀行調査部長たりしが、現時は森村銀行專務取締役として知らる。

夫人を操子と呼び岡山縣の人松原吉郎君の長女たり、現に東京府豐多摩郡中野町九二〇番地に住す。

三島彌吉君

株式會社下野銀行頭取

君は故子爵三島通庸君の四男にして、明治十七年十二月十五日を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す。

然して後ち富豪村井吉兵衛君に其の人と爲り前途有望なるを見込まれて養嗣子となりしも配偶者死するに及び復歸す。

夙に實業界に活躍し、現に下野銀行頭取たる外カルピス製造、東京電氣、建築興業各株式會社の重役にして、尙ほ東京商業會議所議員、勞資協調會議員たり。

現に東京市外淀橋町柏木一二四番地に住し電話四谷四一七番たり。

宮本政次郎君

王子電氣軌道株式會社取締役

君は舊幕臣宮本源次君の二男にして、明治元年七月を以つて生る。夙に大藏屬となり主稅局に勤務せしが、後ち辭して神戸鈴木商店に走る。

然して曩に同店を代表して浪華倉庫、日本酒類釀造、關門窯業、鹿兒島釀造、產島電氣、帝國麥酒、日本金屬、南滿洲物產、沖見初炭坑、東亞鹽業各株式會社の重役に擧げられ、現時は前記會社の重役として知らる。

夫人てる子は三重縣の人竹中槐翁君の二女にして君との間に勝一君及び辰子、敬子等あり、現に東京市下谷區谷中初音町四ノ一九番地に住し電話淺草五〇七三番なり。

三井辨藏君

三井物產株式會社監査役

當家は三井十一家中所謂五連家の一にして、先代養之助君は宗家三井家より入

りて後を繼ぐ。君は其の長男にして明治二十年十二月を以つて生る。

夙に慶應義塾普通部を卒業し、後ち明治四十年英國に留學し造詣を深くして歸朝し、間もなく三井物產株式會社に入りて永く紐育支店勤務たりしが、大正十二年歸朝し、現に同社監査役たり。

夫人榮子は子爵岡部長職君の二女にして君との間に高孟君、高宅君、養藏君及び旦子等あり、現に東京市麻布區本村町一六九番地に住し電話高輪四七六六番なり。

三瓶勇佐君

日本車輛製造株式會社取締役

君は宮城縣士族三瓶盤民君の長男にして、明治四年九月を以つて生る。夙に横濱英語學校に英語を學ぶ。

斯くて財界に投じ、ジャーデンマヂソン商會の囑託を受け、同商會を代表して臺灣に渡つて事業を經營し、後ち農商務省實業練習生に擧げられ、米國コロンビヤ大學に入りて殖民政策を專攻し、造詣を積みて歸朝するや野澤組支配人相談役となり、現に前記會社の重役たる外大連機械製作所の重役たり。

夫人みどり子は東京府の人杉岡龜雄君の二女にして君との間に二男四女あり、現に東京市四谷區愛住町九六番地に住し電話四谷四三一三番なり。

三谷覺莊君

西條酒造株式會社專務取締役

君は廣島縣の人三谷森助君の五男にして、明治八年六月を以つて生る。現に西條酒造會社專務取締役兼支配人たり。

夫人シスヨ子は廣島縣の人川平保太郎君の長女にして君との間に太郎君、治郎君、覺君及び照子、茂子等あり、現に廣島縣賀茂郡西條町に住す。

三觜舜太郎君

實業家

君は神奈川縣の人先代八郎右衛門君の長男にして、慶應三年五月を以つて生る明治二十二年慶應義塾大學を卒業するや直ちに財界に投ず。

斯くて君が敏腕を縱橫に振ひ、現に關東銀行、日本輪工、藤澤製麥倉庫、相模鐵道、中央生命保險各株式會社の重役たり。

夫人ヒサ子は神奈川縣の人三觜弁君の三女にして君との間に一男あり、現に神奈川縣高座郡藤澤町に住す。

水谷景長君

博文館印刷所取締役

君は東京府士族水谷景健君の長男にして、明治元年四月三日を以つて生る。夙に實業界に投じ、大正三年以來印刷機械商を創めて今日に及び、尙ほ傍ら株式會社博文館印刷所取締役たり。

夫人をカマ子と呼び神奈川縣士族岡田井藏君の二女たり、現に東京市小石川區久堅町一〇八番地に住し電話小石川七六三番なり。

三井清一郎君

從四位勳二等功四級
陸軍主計總監　陸軍省經理局長

君は石川縣の人三井亥三郎君の令弟にして、慶應三年六月を以つて生る。夙に軍籍に入り明治二十八年陸軍歩兵少尉に任じ、同三十五年陸軍一等副監督に轉科し、累進して陸軍主計總監に陞進す。

其の間近衞歩兵第一聯隊中隊長、陸軍糧秣廠々員、被服廠大阪支廠長、第四第一各師團經理部々員、陸軍省經理局衣糧課長等を歷補し以つて現在に及ぶ。

夫人をのゑ子と稱す、現に東京市外中野町一〇一三番地に住し電話四谷一一二一番なり。

三苫寛一郎君

實業家

君は福岡縣の人三苫寛三郎君の叔父君にして、慶應三年一月を以つて生る。夙に九州財界に活躍して令名を馳せ、現に帝國硅藻土、丸山倉庫各株式會社取締役にして且つ博多商業會議所特別議員たり

夫人ツネヲ子は福岡縣士族淺香茂君の長女たり、現に福岡縣伊崎浦郡に住す。

三輪市太郎君

旭電氣鐵道株式會社長
日光川倉庫銀行監査役

君は愛知縣の人先代伊兵衞君の令弟にして、慶應三年四月を以つて生る。現に旭電氣鐵道株式會社々長たる外佐屋川土地、日光川倉庫銀行各會社の重役たり。

嘗つては愛知縣會議員、同副議長、同議長等を勤め又衆議院議員に當選すること五回、現に其の任にありて知らる。

夫人ゑつ子は愛知縣の人田中新右衞門君の長女たり、現に名古屋市東區二葉町に住す。

三谷芳松君

山陽綿株式會社取締役

君は廣島縣の人三谷助三郎君の令弟にして、慶應元年九月を以つて生る。現に前記會社の重役たる外姫路製綿、福山撚糸紡績、福山綿、福山藝妓檢番、備後繩叺各株式會社監査役たり。

夫人をクマ子と稱し廣島縣の人三谷德助君の長女にして君との間に文太郎君、二郎君及び文子等あり、現に廣島縣福山郡神島に住す。

宮澤高義君

日本土地證券株式會社長

君は長野縣の人宮澤幸太郎君の二男にして、慶應二年四月を以つて生る。明治二十七年中央大學を卒業するや直ちに實業界に投ず。

現に日本土地證券株式會社々長たる外博仁房、東洋文藝、中外勸業各株式會社の取締役にして、曩に日本セルロイド株式會社々長たりしことあり。

夫人いく子は長野縣の人原傳左衞門君の三女にして君との間に俊義君、明義君及び悅子、愛子等あり、現に東京市外巢鴨町巢鴨一一一六番地に住し電話小石川

六二三三番なり。

三輪綏君

四日市銀行取締役

君は三重縣士族岡本安利君の二男にして、明治十年四月を以つて生れ、同二十八年四月先代猶作君の養嗣子となる。

現に前記の外四日市貯蓄銀行、四日市鐵道、四日市米穀取引所各株式會社の重役にして、且つ三重縣多額納税者たり。

夫人はまさ子は養父猶作君の長女にして君との間に五男一女あり、現に三重縣四日市濱田町一五七五番地に住す。

三好泉君

北日本興業株式會社取締役

君は東京府の人小野政造君の長男にして、明治十八年九月四日を以つて生れ、同三十八年一月三好ツネ子の養嗣子となる。

明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、直ちに實業界に投じ現に北日本興業、日本證券各株式會社の取締役たり。

夫人ミナエ子は愛媛縣の人山本盛信君の二女にして君との間に榮君、守君及び俊江子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷富久町一一三番地に住し電話四谷一四〇二番なり。

三谷了介君

京都株式取引所取引員

君は京都府の人三谷定次郎君の四男にして、明治十五年一月を以つて生る。現に京都株式取引所取引員として京都株式界の重鎮たり。

夫人をさだ子と呼び滋賀縣の人森田文次郎君の二女たり、現に京都市下京區東洞院四條上ルに住し電話長中七八五番なり。

三村軍藏君

横濱市街自動車株式會社長

君は神奈川縣の人三村勝右衛門君の長男にして、明治三年十二月を以つて生る元祿年間より横濱樽問屋界に重きをなす合名會社樽勝商店は實に初代勝右衛門君の創業にかゝれるものなり。

君又夙に横濱財界に投じ、現に同店代表社員及び前記會社々長たる外東洋釀造近江繭鶏各株式會社取締役にして、且つ花咲市場主にして傍ら横濱自動車協會々長を勤め、尚ほ神奈川縣多額納税者として直税千七百二十余圓を納む。

夫人キヨ子は神奈川縣の人山埜井惠助君の長女たり、現に横濱市淺間町七四〇番地に住し電話五七四番なり。

三浦良幹君

日本壓搾瓦斯株式會社長
排斥川電氣株式會社取締役

君は愛知縣の人前愛知縣會議長澁谷良平君の三男にして、明治十五年八月を以つて生れ、後ち國學者先代千泰君の養嗣子となる。

明治四十年東京帝國大學工科大學應用化學を研究して歸朝す。

曩に東京瓦斯株式會社芝製造所々長たりしが、後ち東京市會議員となり現に日本壓搾瓦斯株式會社々長たる外揖斐川電氣、日本グリセリン、黑板工業各株式會社の重役たり。

夫人をタマ子と稱し醫學博士吳秀三君の長女たり、東京市本郷區菊坂町八六番地に現住し電話小石川一六三九番なり。

水谷重兵衛君

愛知縣多額納税者

君は愛知縣の人先代水谷重兵衛君の三男にして、明治二十三年八月を以つて生る。現に愛知縣多額納税者にして直税三千二百四十余圓を納むるを以つて知らる夫人をきく子と稱し愛知縣の人勝周助君の長女たり、現に名古屋市西區袋町二九〇番地に住し電話東四七六番なり。

三崎芳之助君

日本霰彈製造株式會社長

當家は代々江戸に住せる商家として知られ、君は先代三崎芳之助君の長男にして、明治二十年三月を以つて生れ大正八年五月家督を相續すると共に前名祿太郎を改稱す。

夙に東京高等師範學校附屬中學校を卒業するや、直ちに祖業を繼承して財界に活躍し、現に日本霰彈製造株式會社々長たる外三崎芳之助商店、東京鋼鐵各株式會社の重役たり。

夫人ツル子は東京府の人小原久兵衛君の長女たり、現に東京市神田區材木町一八番地に住し電話大手五六二二番なり。

三浦孝造君

能登部銀行頭取

君は石川縣の人三浦幸松君の長男にして、明治十九年十二月を以つて生る。現に能登部銀行頭取たる外能登産業銀行、加能撚織各株式會社の重役にして、尚ほ石川縣多額納税者として直税九百三十余圓を納む。

現に石川縣鹿島郡能登部に住す。

溝淵進馬君

正四位勳二等　第五高等學校長

君は高知縣の人溝淵涉君の三男にして明治三年十二月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し、更に教育學研究の爲め獨佛兩國に留學し蘊蓄を究めて歸朝す。

斯くて教育界に投じ、爾來、第二高等學校教授、千葉縣尋常中學校長、高等師範學校教授、東北帝國大學農科大學豫科教授、第四高等學校長等を歴任し以つて現在に及ぶ。

夫人駒衛子は高知縣の人棚橋友信君の養女たり、現に同校舍宅に住す。

水谷清三良君

水谷合名會社代表社員

君は大阪府の人水谷清兵衛君の長男に

して、明治十一年三月を以つて生る。當家は大阪に於ける相當の資產家として知られ、現に合名會社水谷商店代表社員たり、尙ほ大阪府多額納稅者として直稅四千五百四十余圓を納む。

夫人千代子は大阪府の人爲村佐一郎君の長女にして君との間に四男三女あり、現に大阪市南區横堀町七ノ二二番地に住す。

三浦良次君

日墨興業株式會社專務取締役

君は新潟縣の人三浦傳藏君の長男にして、明治十九年五月を以つて生る。現に日墨興業株式會社專務取締役たる外日露興業、堤内地漁業、大和木材、共同水產販賣所各株式會社の重役として知らる。

夫人をマキ子と稱し新潟縣の人田邊熊一君の令妹にして君との間に良一君、良平君、良三君及び鶴子、文子、信子等あり、現に東京市小石川區竹早町六六番地に住し電話小石川二〇九六番なり。

三浦新七君

法學博士　從四位勳三等

東京商科大學教授

君は山形縣の人三浦新兵衛君の令弟にして、明治十六年六月を以つて生れ同四十五年三浦權四郎君の養嗣子となる。

明治三十二年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校本科を卒業し、同校講師より同教授を歷任し、大正五年法學博士の學位を授けられ、同九年東京商科大學教授に任じ以つて現在に及ぶ。

曩に同大學圖書館幹事兼小樽高等商業學校教授たりしことあり。

夫人シゲ子は養父權四郎君の長女たり現に山形縣山形市四日市に住す。

三宅重也君

千代田製紙株式會社專務取締役

大陸產業株式會社專務取締役

君は岡山縣の人三宅吉太郎君の五男にして、明治六年十一月を以つて生る。現に千代田製紙、大陸產業各株式會社專務取締役たる外日本製紙、江木寫眞館、明治書院各株式會社の重役として令名あり。

三樹退三君

中央土地建物株式會社專務取締役

日本製紙株式會社監査役

君は神奈川縣の人先代一平君の長男にして、明治十七年十月を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに官界に投じて判事となる。

然して千葉、東京各地方裁判所に奉職すること數年、大正八年八月辭して辯護士を開業し、現に其の傍ら中央土地建物株式會社專務取締役たる外日本製紙、江木寫眞館、明治書院各株式會社の重役として令名あり。

夫人サダ子は東京府士族原元藏君の令妹にして君との間に二男一女あり、現に東京市小石川區原町一三三番地に住し電話小石川五一四番なり。

水埜與兵衛君

高津土地建物株式會社取締役

君は廣島縣の人九谷和七君の二男にして、明治五年五月を以つて生れ、同三十二年水埜與兵衛君の養嗣子となる。

夙に關西財界に活躍して令名を馳せ、現に高津土地建物會社取締役にして、且つ大阪府參事會員たり。

夫人くす子は養父與兵衛君の長女にして、君との間に一男三女あり、現に大阪市南區三津寺町二七番地に住し電話南二四一〇番なり。

三角愛三君

從七位　後備陸軍輜重兵中尉

昌光硝子株式會社取締役

君は北海道の人三角茂喜君の令弟にして、明治十三年一月を以つて生る。明治三十八年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業するや直ちに財界に投ず。

然して其の間身を軍籍に投じ現に後備陸軍中尉にして、尙ほ前記會社の重役たり。曩に旭硝子株式會社曹達工場長たりしことあり。

夫人幾代子は東京府の人居初富三郎君の二女にして君との間に三男あり、現に東京市赤坂區青山北町三ノ四八番地に住し電話青山三六九番なり。

三浦逸平君

帝國火藥工業株式會社常務取締役

君は愛知縣の人三浦桂助君の長男にして、明治三年一月を以つて生る。現に中央大學の前身たる東京法學院を卒業す。

斯くて實業界に投じ現に前記會社の重役にして、曩に愛知縣郡部より打つて出て馬を陣頭に進むるや、其のいなゝく名馬の聲に郡民大いに感動し、遂に多數の輿望を擔つて國會議員樣に當選し、中央政界に鳴らせしこと二回に及べり。

夫人をゑい子と稱し長野縣士族遠藤和作君の長女にして君との間に二男一女あり、現に愛知縣碧海郡刈谷に住す。

御子柴朔朗君

株式會社國益商會社長

君は長野縣の人御子柴伊佐太君の長男にして、明治五年二月を以つて生る。現に株式會社國益商會社長たる外東京タイム式精米株式會社常務取締役たり。

夫人ちやう子は長野縣の人高田小次郎君の長女にして君との間に博見君、幸一君及び操子、不二子等あり、現に東京市外澁谷町下澁谷下廣尾二八番地に住す。

南文藏君

株式會社南商店社長

君は東京府の人南晉次郎君の令弟にして、明治九年四月を以つて生る。曩に株式會社南商店を創立し、現に同社々長として大阪財界に知らる。

夫人孝子は東京府の人水野陽一郎君の二女たり、現に東京市下谷區谷中天王寺二五番地に住し電話淺草七二五五番なり

三浦覺一君

中外證券信託株式會社取締役

君は大分縣の人三浦喬三君の長男にして、明治三年五月を以つて生る。現に前記の外東北水産、日本耐酸塗料各株式會社の重役たり。

夫人蔦子は東京府の人鈴木重夫君の令姉にして君との間に三男二女あり、現に東京市小石川區小日向臺町一ノ九番地に住し電話小石川六四八〇番なり。

水野俱吉君

實業家

君は東京府の人淺野利右衛門君の二男にして、明治七年二月を以つて生れ、後ち先代たみ子の養嗣子となる。現に帝國硝子、日本加工製紙、小島印刷、上海工商、東京紙器各株式會社の重役たり。

夫人てるよ子は東京府士族岡本義邦君の養妹たり、現に東京市四谷區大番町一〇三番地に住す。

南大曹君

醫學博士　南胃腸病院長

君は福島縣士族近藤玄貞君の三男にして、明治十一年三月を以つて生れ、同二十七年南二郎君の養嗣子となる。

明治三十八年東京帝國大學醫科大學を卒業し、同四十三年獨逸に留學し大正元年歸朝同二年醫學博士の學位を授けらる。

然して大正四年獨力にて南胃腸病院を開設して一般診療に從事し以つて現在に及ぶ。胃腸病診斷及び治療學食養療法の著書ありて廣く世に知らる。

夫人滿子は東京府の人又木享三君の令妹にして東京女學館を卒業し、君との間に博君及び綾子等あり、現に東京市赤坂區檜町一番地に住し電話青山三三五三番なり。

水木常太郎君

日本特許インキ株式會社常務取締役

君は青森縣の人水木常吉君の長男にして、明治四年九月を以つて生る。夙に慶應義塾大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に日本特許インキ株式會社常務取締役たり。

夫人きや子は青森縣士族橋本石松君の令妹にして君との間に一男三女あり、現に東京市芝區白金臺町一ノ六六番地に住し電話高輪一七八五番なり。

水野秀吉君

資産家

君は東京府の人島村榮次郎君の令弟にして、明治八年二月を以つて生れ、先代音次郎君の養嗣子となる。當家は深川界隈に於ける相當の資産家として名あり。

東京市深川區中島町七番地に現住す。

壬生基義君

伯爵　正三位勳三等

陸軍少將

當家は藤原鎌足十七代の孫御堂關白道長卿の二男從一位右大臣頼宗卿の裔正二位左大臣圓基音卿の末子從四位左大臣基起卿の後裔たり。

基起卿一家を興し葉川姓を名乗りしが其の子基淳に至り壬生姓に改め、夫より八代を經て先代基修氏に至り明治十七年伯爵を授けらる。

君は其の長男にして、明治六年六月十五日を以て生れ、明治十五年より同二十三年迄　明治天皇の側近に奉仕し、同二十六年騎兵第四大隊に候補生として入隊後ち陸軍士官學校を卒業後同三十年騎兵少尉に任せられ同三十九年陸軍大學校を卒業す。

爾來、累進して大正十一年八月陸軍少將に陞進、其の間竹田宮恒久王附武官、明治天皇靈柩供奉、東宮武官、御學問所御用掛、侍從武官等の顯職を歷任し、大正十二年待命、昭和元年十二月大喪使祭官仰せ付けらるゝ等君が邦家の爲め貢献すること甚大なり。

趣味に乘馬あり、其の道に關する達人とか承はる。

夫人篤子は故久邇宮邦彦王殿下の御令妹に當り、其の間に基泰君及び種子、綾子等あり、現に東京市外代々幡町代々木一九六番地に住す。電話四谷一五五六番

宮下巖君

辯護士　辨理士

君は鹿兒島縣士族宮下彦助氏の長男にして、明治三十二年八月五日を以て生る。

夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上、早稻田、明治各大學に學び更に大正十年中央大學法科を卒業するや同年直ちに辯護士登用試驗に合格す。

斯くて翌十一年獨力法律事務所を開設して蘊蓄を傾倒せしかば信用漸次加はり今や東都法曹界に新進の聞えあり、尙ほ東京辯護士會常議員たり。

趣味に讀書、撞球、旅行あり、日本辯護士協會々員たり、現に東京市赤坂區丹後町五番地に住す。電話青山二三二番

三好三也君

日本皮革(株)取締役兼技師長

夙に製革事業に携り本邦產業界に靈すところ多く其の功績蹇に淺からざる吾が三好三也君は岐阜縣の人にして明治十一年五月を以て生誕す。

先考大野忠輔氏は鎗術の達人として藩中に鳴れる錚々の漢、君は其の嫡男に當れるも弱冠にして長野縣上伊那郡高遠町なる三好泰喬氏の養嗣子となり其の姓を冒すに到れり、而して大正四年三好家の家督を相續す。

君は當初鄕費に學を修め後ち笈を負ふて東都に出で故杉浦重剛翁の門に入り翁が宰する日本中學校を卒業するや東京高等工業學校に入學、同三十四年同校應用化學科を卒業す。

斯くて製革事業に嶄目し大阪市大倉皮

革製造所に入り、同三十九年之れが視察の爲め同所より派され北米を經て英吉利に航し、具さに斯業の研鑽を爲すところありて翌四十年歸朝す。

然して櫻組、東京製皮會社、福島皮革製造所の合併爲りて日本製革株式會社の組織せらるゝや君は同社東京工場技師に就任、次いで大阪工場技師長に轉じ大正十二年再び東京工場技師長となり、翌十三年同社取締役に擧げられ技師長を兼務して現に其の任にあり、此の間尚ほ同四十三年、同四十五年、大正十四年の交に歐米各國を巡歴して業務上の視察を爲せることあり。

是れ君の來歴の略述に過ぎざるも、本邦の製革事業の未だ極めて幼稚なる往時より終始一貫して斯業に身を挺し以て製革製造工業上に啓蒙貢献ありしのみならず、今や舶來品を駆逐し得るの域に發達せしめたるの功績は蓋し本邦産業史上特筆に價すと謂ふべし。

君は其の人物寔に敦厚、余暇あれば觀世流謠曲を嗜むを以て娯しみと爲す。

夫人すゑ子は岐阜縣の人増田鍵吉氏の令妹にして其の間に富士彦君、貢君、泰君及び百合子、董子あり、現に東京市外千住町中組一一六二番地に住す。

三井高篤君

經濟學士
三井信託株式會社勤務

君は本邦實業界の巨頭三井財閥の御大三井守之助氏の長男にして、明治卅三年八月を以て生る。

夙に學習院高等科を經て東京帝國大學に進み、昭和三年同經濟學部を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて直ちに本邦實業界に投じ、三井信託株式會社に入社して社務を鞅掌、新進實業家として前途を囑望せらる。

趣味多樣なる中にも自動車操縦術に長じ、甲種免許狀を有する程の達人、尚ほ長唄を能くす、現に東京市麻布區永坂町一番地に住す。電話青山五五〇九番

水野博德君

勲六等　辯護士　辨理士
原町紡織(株)取締役

君は東京府士族にして、明治十二年九月六日を以て東京市日本橋區に生る。

明治三十二年中央大學の前身たる東京法學院を卒業し仝三十四年專修大學の前身たる東京專修學校經濟科を卒業す。

斯くて翌三十五年辯護士登用試驗に應ずるや見事登第、越えて三十七年日露の役勃發するや陸軍砲兵少尉として征途に就き遠く滿洲の野に强敵露兵と轉戰して軍功あり。

然して戰終熄して歸京後辯護士事務所を開設し一般法律事務に從事するや君の明快なる決裁は忽ちにして社會の信望を博し、今や東都法曹界に重きをなすのみならず、芝區會議員として東京市區制に參劃し貢献すること甚大なり。

夫人をふよ子と呼び茨城縣の人越部喜兵衛氏の二女にして其の間に行德君あり現に東京市芝區南佐久間町一ノ三番地に住す。電話芝二六九七番

三ツ矢勝治郎君

東洋綿花(株)東京支店長

君は宮城縣の人三ツ矢直次郎氏の長男にして、明治十九年五月六日を以て生る。

明治四十年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以て卒業するや直ちに三井物産株式會社に入社し爾來、本社、牛莊、鐵嶺、大連、天津、紐育、ダラス各支店を歴勤す。

斯くて大正九年三井物産株式會社綿花部獨立して東洋綿花株式會社設立せらるゝや同社に轉じ、青島支店詰を經て東京支店長に榮轉以て現在に及ぶ。

趣味に文藝、ゴルフ等あり、社交に厚く日本工業倶樂部、如水會各會員たり。

夫人俊子は京都府の人田井與之助氏の長女にして神戸親愛高女の出身、其の間に直一君、泰次君、京三君及び和子等あり、現に東京市外大崎町上大崎二五三番地に住す。電話高輪二一五六番

水野廣德君

正五位勲三等功五級
豫備海軍大佐

曩に「此一戰」「次の一戰」「戰影」「波のうねり」等の創作を公にして洛陽の紙價を高め其の靈筆を喧傳せられたる君は文武兩道にまたがる所謂練達堪能の士、明治十年十月二十四日を以て愛媛縣松山市に生誕す。舊松山藩士故水野光之氏の次子に當り、夙に海軍に志し同縣立中學校修業中海軍兵學校入學試驗に登第せる類秀の人物にして、同三十一年十二月同校を卒業、同三十三年一月海軍少尉に任官し、爾來、累進して大正七年海軍大佐に陞る。

此の間千代田艦、吳水雷艇、水雷術練習所附、初瀬艦、鳥海艦、佐世保水雷艇等に乘組み、北清事變に際しては陸戰隊として上海警備の任に就けり、又日露戰爭に出征して功五級金鵄勳章を賜はれるが戰後日露戰史編纂の爲め海軍省軍令部に出仕せるあり、次いで舞鶴水雷艇、佐世保工廠副官兼檢査官、海軍省文庫主管等に歴補され後ち出雲、肥前各艦の副長を勤務せり。

然して大正五年私費歐米に航して戰亂當時の各國を視察するところあり、同八年再び私費を以て戰後の歐洲各國を巡歴せり、同九年歸朝後日獨戰史編纂の爲め軍令部に出仕せしが翌十年現官を退き現時閑地にありて自適悠々の境に想を練る。

夫人つや子は同郷の人故寺尾榮次郎氏の女にして溫淑の佳人たり、現に東京市外駒澤町上馬一四三番地に住す。

宮川宗德君

東京市下谷區長

君は熊本縣士族宮川宗保氏の長男にして、明治十九年十二月十二日を以て生る。

夙に職を東京市に奉じ、累進して東京市牛込區長、小石川區長、市役所監査課長等を歴任、後ち歐米視察の爲め出張を命ぜられ昭和三年四月歸朝するや東京市役所文書課長に任じ、昭和四年二月東京

市下谷區長に擧げられ以て現在に及ぶ。

夫人を英子と呼び其の間に宗明君、剛君、宗弘君及び敏子あり、現に東京市小石川區關口臺町二十六番地に住す。電話牛込五三二〇番

皆川泉君

辯護士　辯理士
日本辯護士協會理事

君は山梨縣の人皆川要二郎氏の二男にして、明治廿二年五月二日を以て同縣北巨摩郡朝神村に生る。

夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京、研鑽琢磨、大正十二年中央大學法科を卒業す、而して在學中即ち同十一年辯護士登用試驗に應じて首尾よく登第する程の俊才、後ち法學博士辯護士川手忠義氏の事務所に入りて實地に研究すること一ヶ年、直ちに皆川法律事務所を開設して一般法律事務に從事せしかば、其の穎才と敏腕とは忽ちにして東都法曹界に令名を鳴らし、今や新進辯護士として前途多望なるものあり。

趣味に文藝あり、又演劇を愛好するが如し、夫人をかほる子と稱し愛知縣の人石原家の出にして實踐高等女學校出身の才媛たり、現に東京市麹町區内幸町一丁目六番地に事務所を有す。電話銀座二〇六三番

三矢宮松君

從四位勳三等
帝室林野局長官

君は山形縣の人三矢維顯氏の三男にして、明治十三年十月二十三日を以て生る

明治四十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや同年文官高等試驗に合格す。

斯くて明治四十二年岐阜縣事務官に任ぜられ、爾來、福井縣事務官、奈良、三重、宮城、京都各府縣警察部長、福井縣内務部長等を歷任後ち大正七年官途を退きしも、仝九年再び官界に入り警察講習所教授兼内務省參事官に任じ、次いで内務書記官並に内務省參事官として歐米各國に出張を命ぜられ、歸朝後内務監察官朝鮮總督府警務局長等を歷任し大正十五年九月帝室林野局長官に任補以て現在に及ぶ。

夫人榮子は山形縣士族黑崎與八郎氏の六女にして其の間に進一郎君、篤君、國夫君、隆夫君、周夫君及び紀子、倫子、妙子等あり、現に東京市外高田雜司ヶ谷旭出四十三番地に住す。電話牛込一〇〇二番

三木與吉郎君

勳三等　貴族院議員
三木商店取締役社長

君は德島縣士族先代與吉郎氏の長男にして、明治八年十一月二十七日を以て生る。

當家は德島縣下に於ける素封家として知られ、代々鹽及び精酒釀造業を營みて名を成し、君は十二代目にして、明治三十七年先代を襲名して前名康治を改稱す

君即ち祖業を繼承するや益々盛大ならしめ、大正七年株式會社三木商店を創立して同社々長に就任し、東京に本店を設置し、更に大阪に支店を設けて、專ら染料、化學藥品及び米穀雜貨並に各種機械工具金物類等の直輸入等を營み今や本邦貿易界に令名あり。

斯くて大正四年德島縣郡部より推されて衆議院議員に當選し、大正七年には貴族院議員に互選せられ仝十四年再選の結果再び其の榮譽を擔ひ今や研究會に屬して内外に重きをなす、曩に日獨事件の功により勳四等に叙せられ後ち勳三等に陞叙せらる。

惟ふに當家は當地の素封家なるのみならず、代々國家に貢献する所甚大にして先代與吉郎氏も同じく貴族院議員として議政府に列すること二期間に亘り、君又嚴父に劣らざる人材にして當に本邦財界に活躍して功績甚大なるのみならず、深く我が國政を憂ひ國事に奔走して餘すところなし、蓋し同家の今日の名望内外に普ねき以所なりと謂はざるべからず。

夫人園枝子との間に眞治君、共治君及び增子、英子等あり、現に德島縣板野郡松茂村に住し電話大代二番にして、東京本店を日本橋區本材木町二ノ十七番地に有し電話日本橋三二〇七番たり。

宮寺清一君

宮寺自動車商會主

君は現籍を東京府に有し、埼玉縣の人宮寺芳太郎氏の二男にして、明治二十三年九月二十四日を以て同縣入間郡に生る

夙に鄕校を卒ふるや家業たる製糸業に從事せしも年齒二十五才の折鴻圖を抱いて上京、三井物產株式會社自動車部に入り、實地に就き研鑽を積むこと三ヶ年、更に大正五年三井物產株式會社重役藤瀨氏の下に運轉士として勤むること三ヶ年に及ぶ。

斯くて大正七年現地を卜して獨力以て宮寺自動車商會を興し斯界に活躍せしかば年と共に隆盛に赴き今や東都斯業界に令名あり、曾つて芝區白金臺町々會幹事たりしことあり。

夫人ヨシ子は埼玉縣の人和田大助氏の二女にして其の間に幸助君、美千代子あり、現に東京市芝區白金臺町二ノ八番地に住す。電話高輪二八一五番

御木本幸吉君

勳四等　貴族院議員
御木本眞珠店主

君は三重縣の人御木本音吉氏の長男にして、安政五年一月を以て生る。

夙に眞珠の人工養殖法を發明し、御木本眞珠店を經營して國内は勿論遠く海外にまで販路を擴大し、今や同店の名全世界に隈なく知れ亘り、曾つては聖路易萬國大博覽會に出品して最高名譽大賞牌を授與せらる。

現時は眞珠加工品の外ダイヤモンド、貴金屬裝身具商を營み本邦斯界の重鎭として錄々の名あり。

尙ほ三重縣多額納稅者にして、大正十

三年貴族院議員に互選せられ、昭和二年十月眞圓眞珠完成並に稚介養殖法の發明者として功に依り勳四等瑞寶章を賜はる

現に東京市京橋區銀座四ノ二番地に營業所を有す。電話京橋三五番三六番

三村稱平君

三菱銀行(株)丸ノ内第二支店長

君は曾つて三菱財閥の元老として雷名ありし故三村君平氏の長男にして、明治二十年八月を以て生る。

明治四十三年慶應義塾理財科を優秀の成績を以て卒業するや三菱銀行に入り、累進して現に同行丸ノ内第二支店長として知らる。

夫人秋江子は大阪府の人緒方收二郎氏の三女にして、其の間に庸平君、泰平君周平君、亮平君あり、現に東京市赤坂區新坂町三十六番地に住す。電話青山三〇〇三番

御木本隆三君

御木本眞珠店經營者
文學士　ラスキン研究家

君は本邦眞珠王にして貴族院議員勳四等御木本幸吉氏の長男にして、明治二十六年十月二十六日を以て生る。

夙に東京帝國大學文科大學を經て英國に留學し牛津大學、オリエル大學等に學び大正九年歸朝す。

而して仝十三年四月再度英國に航し文學の研究に沒頭し仝十四年十二月歸朝す大正九年以來ラスキンの經濟的學術觀並にラスキン思考に就て其の蘊蓄を研究發表して我が學界に知らる。

現に斯學の研究傍ら鄕里鳥羽町に於て眞珠養殖業に從事し、昭和二年一月紐育市フイフス、アベニューに支店を開設し仝年十一月ロンドン支店長として渡英す

社交に厚く交詢社、東京ローンテニス倶樂部、英國ゴーリングフオードラスキン協會各會員たり。

夫人れん子は京都府士族横濱源一郎氏の二女にして京都平安高等女學校の出身たり、現に東京市外澁谷町中澁谷七二五番地に住す。電話青山七三七〇番

三輪竹次郎君

凸版印刷(株)取締役支配人
東洋インキ製造(株)取締役

君は東京府の人箏曲研究家として令名ある三輪信次郎氏の長男にして、明治二十六年三月を以て生る。

夙に穎才の聞え高く、大正七年慶應義塾大學理財科を卒業するや直ちに東都財界に投ず。

斯くて凸版印刷株式會社小石川紙工場の前身たる東京紙器株式會社に入社し、後ち同社が凸版印刷株式會社に併合せらるゝに及んで君又同社に入りて取締役兼支配人に推され現に其の傍ら東洋インキ製造株式會社重役にして我が財界に於ける新進實業家として知らる。

運動及び謠曲は君の最も得意とするところ、尙ほ高級社交機關として知らるゝ駒澤カントリー倶樂部會員たり。

夫人をとき子と呼び東京府の人內田男太郎氏の二女にして日本女子大學附屬高等女學校の出身たり、現に東京市本鄕區湯島新花町九十三番地に住し、電話小石川四九四〇番なり。

三宅米吉君

從三位勳二等　文學博士
東京文理科大學々長　宮中顧問官

君は和歌山縣士族三宅榮充氏の長男にして、萬延元年五月を以て生る。

明治八年慶應義塾を卒業するや新潟英語學校、新潟師範學校、千葉師範學校、同中學校各教諭、東京高等師範學校助教授、同教授、帝國大學文科大學講師、東京帝室博物館學藝委員、同評議員、臨時帝室編修局長官、同御用掛、帝室博物館長等を歷任す。

斯くて東京高等師範學校長に任じ、昭和四年四月同校が昇格と共に東京文理科大學となるや同學長に推され現に其の他宮中顧問官、帝室博物館評議員、教育檢査委員會常任委員、古社寺保存會委員、文政審議會委員、考古學會々長、帝國學士院委員等の公職にあり、曩に歐米諸國に留學し明治三十四年文學博士の學位を授けらる。

夫人さと子は群馬縣士族反田愼行氏の長女、其の間に晁君及び香鹿子、清子等あり、現に東京市小石川區原町一〇三番地に住す。電話小石川三一五四番

宮崎千代吉君

惠比壽乘合自動車(株)代表取締役

君は高知縣の人宮崎丈次氏の四男にして、明治二十八年十月二十六日を以て同縣高岡郡窪川町に生誕す。

夙に縣立高知中學校を經て、東京芝正則中學校を卒へ、更に早稻田大學專門部を出づるや直ちに實業界に投ず。

斯くて三菱鑛業株式會社に入社し同社福岡支店に勤務せしも大正十二年辭し本邦乘合自動車界の有望なるに着眼するや斯界の研究に專念し、昭和二年三月惠比壽乘合自動車商會を創立して活躍大いに努めしかば、月に年に隆盛に赴き、後ち之を株式組織に變更して惠比壽乘合自動車株式會社と改稱し、君は同社代表取締役に就任、今や使用車數十數臺、使用人六十有余人を擁して東都業界に令名ある蓋し君の奮鬪の賜と謂ふべし。

趣味に富み音樂、讀書並にスポーツを好むといふ。

夫人きみ子は福岡縣の人川野源吉氏の二女にして其の間に祥子あり、現に東京市外世田ヶ谷池尻一六三番地に住す。事務所電話高輪六九三五番

水上熊吉君

保險銀行通信社長
興業出版(名)社長

君は操觚界に終始して縱橫の健筆鳴る明治六年八月を以て群馬縣に生を享けたる君は、若冠にして儁秀、才器大いに衆童に絕せり。

夙に東上して活社會に奮鬪するあり、當初雜誌「教育時論」に依つて堂々の論陣を張りしが、明治三十一年經世社を創立して之れが社長たり、尋いで宮田修、綱島、梁川兩氏と共に雜誌「日本教育」の發刊に從ひ、後ち鄕里群馬縣の日刊紙「上州」及び「朝野新聞」に執筆して雄々の卓論を試めり、斯くて同四十三年保險銀行通信社を大正六年興業出版合名會社を創設して何れも現に其の社長の任にあるの傍ら、東京機械株式會社の樞機に參じて克く一方に令名あり、曩に東洋新報社を創設するところありて、操觚界に元老の地位を占む。

家庭にはたか子夫人あり、現に東京市牛込區西五軒町五番地に住す。電話牛込一三一番

三村保君

福島紡績(株)取締役兼技師長

君は明治七年九月を以て生る。同二十九年東京工業大學(元高工)を卒業するや直ちに實業界に投じ以て現在に及ぶ。

現に大阪市豐能郡箕面村に住す。

宮坂平助君

宮島屋經營者
鐵道省御用達

東都に於ける麻苧及び同製品並に雜貨問屋として知られ、先代平左衛門氏より鐵道省御用達として信望を博せし宮島屋は實に宮坂平助君の經營主宰する老舗たり。

君は東京府の人にして、嘉永六年五月廿一日を以て生れ、夙に同業界に活躍して業界の發展に貢献すること甚大、而して現時は嗣子善次郎君に内外の商務を任じて自らは單に顧問として統卒するのみなりと雖も吾等は君の今日までの功績を此處に記し以て將來に遺さんとするものなり。

然して嗣子善次郎君も亦父君に劣らざるの敏腕家、よく祖業を繼ぎて益々發展の域に達せしめ、今や東都斯業界に錚々の名あらしむるは蓋し君の至誠奮鬪の賜と謂ふべし。

夫人ちよ子は東京府の人黑崎英藏氏の令妹、能く祖父に從ひ夫君を援けて家業に精勵するの賢こき夫人なりといふ、現に東京市京橋區本材木町三ノ十七番地に住す。電話京橋三五九三番

三輪外次郎君

協立興業社(資)出資社員

昭和聖代は最早や舊套を脱して、あらゆる産業は其の統制時代であると同時に決算期の觀なきにしもあらず。

此の間に處し、我が電氣事業界もまさしく多事にして多端、今や朝野相呼應して其の統制に力を致さんとするの際、電氣機械の製作より該工事の一切に關する諸事業は年と共に著しき進歩發展を見るに至れり。

然して東都斯界にありて錚々の名あり絶大の信用ある我が協立興業合資會社は正に昭和の日本産業界に活躍して他に追

從を許さゞる營業方針と充實せる内容を以て前途多事なりと謂はざるべからず。

斯くて同社の發展と今日の聲望とを克ち得たる、固より資材の力と時代の力とによるものなりと雖も、同社を代表する岡崎將次氏と共に同社營業部の一切を掌握して戰線に立つ同社出資社員三輪外次郎君あるを忘るべからず。

君は新潟縣の人故三輪惣吉氏の二男にして、明治二十三年七月十七日を以て同縣高田市に生る。

夙に鄕校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上、研鑽を積むや直ちに東都實業界に投じ、爾來、東京電燈株式會社、高田商會等を歷勤して三ツ引商事株式會社に轉じ、同社工務部工事課長として敏腕を振ひしが大正十四年三月電氣機械工事業界の恩人岡崎將次氏と共に合資會社協立興業社を創立し、君は同社の營業方面を主宰して多年の蘊蓄を傾倒せしかば業勢頓に擧り、今や東都業界に於て錚々の名ある蓋し君の誠實なる奮鬪の賜と謂はざるべからず。

夫人をアキ子と呼び東京府の人荒井松五郎氏の令姉にして君との間に總一君及びフキ子、サナ子等あり、現に東京府豐多摩郡淀橋町角筈一四四番地に住す。電話四谷二二二〇番

三井高達君

三井鑛山株式會社監査役

君は東京府の人三井高修氏の令弟にして、明治二十六年十二月を以て生れ大正九年先代清子の入夫となる。

夙に實業界に投じ、現に三井鑛山株式會社監査役として知らる。

夫人清子は東京府の人三井復太郎氏の長女にして其の間に高索君あり、現に東京市牛込區若松町一四八番地に住す。電話牛込四一七一番

三上參次君

正三位勳一等　文學博士
東京帝國大學名譽教授
臨時帝室編修官長

君は兵庫縣の人幸田貞助氏の二男にして、慶應元年九月を以て生れ後ち先代勝明氏の養嗣子となる。

明治二十二年東京帝國大學文科を卒業し更に大學院に學ぶ、而して同二十四年文科大學講師となり、翌二十五年東京女子高等師範學校講師を兼ね、爾來、東京女子高等師範學校教授、東京帝國大學文科大學助教授を經て同大學教授に進み文學部長に擧げらる。

斯くて同三十二年文學博士の學位を授けられ、大正十五年四月同大學教授を辭するや名譽教授に推され現に前記の諸職にあり、特に史料編纂掛主任史料編纂官として大日本史料編纂事務を司る事廿五ケ年、現に　明治天皇御傳記の撰修に從事する外維新史料編纂會委員、古社寺保存會委員にして且つ帝國學士院會員たり

現に東京市本郷區駒込林町一六九番地に住す。電話小石川四六〇〇番

宮川敏樹君

辯護士　弁理士
加藤文明社(株)取締役

帝都法曹界に活躍して漸次其の信望を博し、前途愈々多望なるを我が宮川敏樹君となす。

君は山口縣の出身にして、明治十七年十二月十二日を以て吉敷郡宮野村に孤々の聲を擧ぐ、嚴父を亀松氏と呼び同郷に於ける名望家を以て內外に聞え高く、其の功績甚大なり。

君即ち其の二男に生れ、父母の膝下に愛育せられて山口縣立鴻城中學校を卒ふるや笈を負ふて東都に上り、中央大學の前身たる東京法學院及び早稲田大學に法律經濟學等を專攻して兩大學を優秀の成績を以て卒業す。

斯くて身を官途に投じ、東京稅務監督局に入りて精勤すること十有三年、其の間大正十年九月辯護士登用試驗に應ずるや難關たる登龍門に幾多の奇才と奮戰して見事登第の榮譽を擔つて一躍斯界に令名を馳せたり。

然して後ち官を辭して法曹界に投じ、始め中井富藏氏の經營する法律事務所に入りて實地につき一般法律事務に携はり翌年獨立の機運熟するや敢然として獨立を宣し宮川法律事務所を開設し以て今日に及び、今や東都法曹界は勿論本邦法曹界に其の信望や絕大、前途愈々多望なるものあり。

夫人久子は同縣の舊家藤井安藏氏の二女にして君との間に壽夫君あり、現に東京市神田區松富町四番地に住し電話下谷三八七番たり。

目崎政吉君

目崎自動車商會主
東京自動車組合評議員

君は新潟縣の人目崎幸太郎氏の二男にして、明治十七年十月三十日を以て同縣北魚沼郡吉谷村に生る。

夙に鄕校を卒ふるや直ちに祖業たる農業に從事せしも、固より大志ある君は永く斯業にアクセクたるに忍びず、即ち奮然起つて東都實業界に大飛躍を試みんと單身上京す。

斯くて本邦自動車界の將來益々有望なるに着眼せる君は先づ其の研究を積まんと、爾來自動車に關する萬般の習得を了し初めて君が其の人と爲りを知られしは財界の巨頭藤山雷太氏にして、君は同氏の下に精勤すること九ヶ年、後ち宮邊家に入りて精勤すること五ヶ年、其の間既に自ら最高級自動車一臺を購入して東京芳野自動車部に轉じ、大正十三年愈々獨立の機熟するや現地を卜して目崎自動車商會を設立し、爾來、誠實奮鬪以て斯業に從事せしかば業勢漸次加はり、今や東都同業界に嘖々の名ある蓋し君の人德と終始奮鬪の賜と謂ふべきなり。

現に東京市芝區愛宕下町四ノ二四番地に住す。電話芝二八四二番

宮島保衛君

正六位　拓務事務官同書記官

君は長野縣の人宮島泰次郎氏の三男にして、明治二十五年七月二十六日を以て生る。

大正四年長崎高等商業學校を卒業し、同六年文官高等試驗に合格、同七年京都帝國大學法科大學英法科を卒業するや官途に投ず。

斯くて遞信局を振り出しに、爾來通信事務官補、浦和郵便局長、遞信書記官に任じ管船局勤務、同九年四月商船學校教授を兼任、同十一年六月外務事務官に任じ翌五年對支文化事業局事務官を兼任同十四年六月大使官書記官として米國ワシントン在勤を拜命せしも同十五年十一月病氣退官す。

然して昭和三年四月京城帝國大學講師兼朝鮮鐵道局囑託より同三年十一月京都帝國大學書記官、同四年六月拓務事務官兼書記官に任官以て現在に及ぶ。

趣味多樣なる中にも文藝、庭球等に長ずといふ。壽美子夫人は跡見高等女學校出身の麗人、其の間に田鶴子、佳苗子、靖子あり。現に東京市外入新井町木原山一六三番地に住す。

御法川直三郎君

製絲機械製造販賣業

幾多の製絲機械を發明し本邦產業界に盡すところ極めて多大なる吾が御法川直三郎君は、舊秋田藩士御法川林太氏の第二子にして安政三年七月を以て孤々の聲を擧ぐ。

君は亶性洵に思考力に富み幼にして發明の才能に惠まる、當初該地に於て蠶種の直輸出業に携りしが明治十九年勃々の覇志を抱いて東上し農商務省試驗場給費生となりて研究に從うところあり、後ち歐洲に渡航し蠶病驅除法に就いて研鑽し歸朝後蠶蛹熱殺器を發明し特許を得たり同二十一年需給社講師に招聘されしが翌二十二年獨立して座操機を發明製作し、之れが販賣を營むに到れり、同二十四年大日本蠶絲會を設立して同會幹事となり同二十五年蠶業新報を發刊せり。然して爾來專心考案に傾注し、揚返緩振機、六口取絲操機械、乾燥器、二九式燃燒機其他幾多の發明品を世に供し當業者の豪る利便福益洵に尠らず、斯業界に齎せる貢献や多大なりと謂ふべし。

君は如上の發明品を各種展覽會、博覽會等に出品し受賞せること屈指に遑あらず、又曾つて秋田縣知事は君の功績に酬ゆるに金盃を贈呈して、其の名譽を表彰せることあり。

君は人物寔に溫雅、接する者概ね其の溫容に謂ひ難き感懷を催さゝるなし。

現住所は事務所工場と共に東京市小石川區初音町四番地(電話小石川二四一番)に在り。

峰村教平君

合資會社ミノル商會社長
日高林業株式會社取締役

君は長野縣の人齋藤壽一郎氏の二男に

して、明治十七年十二月を以て生れ後ち先代榮藏氏の養嗣子となる。

夙に鄕校を卒ふるや鴻圖を抱いて東上本邦實業界に投じ幾多事業會社の重役として敏腕を振ひ、曾つては大和木材、鴻商銀行、日本テープ紡績、峰村電氣、新冠木材各會社重役として貢献するところ甚大、現時は前記の諸職にありて我が財界に令名あり。

現に東京市牛込區若松町五十七番地に住す、電話牛込三四三八番。事務所丸ノ内三菱五号館電話丸ノ内四六一六番

光山百川君

駒澤大學々監

君は昭和三年四月山上曹源氏の後を承けて駒澤大學々監に就任以來、其の校務並に學務一般の充實を期して鋭意改革に着手し以て同校の面目を刷新、着々其の夙志を達成しつゝある所謂練達の士にして嘖々の令聞あり。

君は明治十一年十一月二十八日を以て大分縣東國東郡國東町に於て生誕、嚴父故光山禪龍氏の嫡男にして幼時既に卓才夙に曹洞宗鎭西中學校に學び後ち曹洞宗大學に入學、明治三十七年之れを卒業す。

斯くて直ちに操觚界の人と爲り大分新聞社に入社し論說に健筆を揮ふこと一年の後ち同社を辭して東上するや東亞高等女學校に轉じ同校々務を宰するの傍ら雜誌「東亞の光」主筆たり。

然して同四十二年大分縣中津郡なる二豐新聞社に入社し同社主筆たりしが大正七年之れを退き雜誌「青年界」に倚りて同誌に執筆するところあり、次いで同十年九州日々新聞社に入り同社客員として論說を擔擔し堪能縱横の靈筆を揭げて令名頓に擧れり、而して昭和三年四月上掲の任に就き今日に至れるが、君に現時の業務上の所懷を叩けば即ち曰く「大衆に先立つて作業し所謂一日不作一日不食の氣魄を涵養し以て農村敎化並に山林經營に就き農民と共に勞作を敢てする剛毅不屈の僧侶を育成するに在り」と以て君の徒弟薫育の大綱を識るに足らん乎。

君は未だ在學の往時、加藤拙堂、杉村楚人冠、加藤智學、境野黃洋氏等錚々の士と共に宗敎界の革新運動に挺身し極めて光彩ある活動を爲せし人、又「阿蘇夏期大學」の主唱者にして現に每夏之れに關與しつゝありて宗敎界、敎育界に貢献するところ寔に多大なり。

君は講談を好み又圍碁運動等に趣味あり、其の家庭にはカヅ子夫人あり、大江高等女學校出身にして其の間に俊雄君、勳君、靜枝子、豐子、登美枝子、恭子あり。

宮部光利君

正五位勳三等　護國海軍大佐
大阪製鎖所(株)東京出張所長

資性磊落にして、往時の武人の氣質を忘れず、會社にありては圓滑に人に接し好く其の仕事を處理するの敏腕、吾人等しく、敬服惜く能はざるの士を株式會社大阪製鎖所東京出張所長宮部光利君となす。

君は明治十五年十月を以つて、愛媛縣下宇和島に生る。

夙に鄕校を卒ふるや、海軍兵學校に入り明治三十三年仝校を卒業するや、海軍少尉に任官、爾來累進して海軍大佐に陞進す。

其の間日露戰爭、日獨戰爭に從軍して偉勳を奏し、後ち本省附となり、敎育局々員、聯合艦隊副官、第三驅逐艦隊司令、水雷學校敎官、舞鶴防備隊司令等を歷補し、昭和二年支那騷亂の際、八雲艦長として、警備の爲上海に一ヶ年駐在し、豫備役に編入するや、實業界に入りて、現時大阪製鎖所東京出張所々長たり、傍ら仝社横濱分工場の工場長を兼任以て現在に及ぶ。

夫人を美子と呼び東京上野音樂學校出身の才媛にして、ピアニストとして令名あり、君との間に一男一女あり。現に市外井荻町上荻窪九三五番地に住す。

宮田貞吉君

藤井商店(株)代表取締役

比叡山峯と琵琶湖との雄大なる大自然によつて生を享けし滋賀の生んだる逸足に我が北海道財界の明星宮田貞吉君あるを忘るべからず。

君は嚴父を宮田四郎氏となし、其の三男として明治二十三年十二月を以て生る。

夙に鴻圖あり、北海道財界に投じて敏腕を振ひ、今や同道屈指の實業家として藤井商店(株)の名も高く、君は其の代表取締役として錚々、前途益々洋々たるものあるは蓋し君の至誠奮闘の賜と謂はざるべからず。

夫人操子は北海道の人臼井猪五郎氏の長女にして內助の聞え高し。現に札幌市北十二條西四丁目に住す。

水野薫君

從七位　法學士　經濟學士
警視廳警視　西神田警察署長

君は福岡縣の出身にして明治三十一年五月二十四日を以て同縣築上郡黑森村に於て生誕、嚴父を水野與市氏と爲し母堂をチヅ子と謂ひ其嫡男に當る。

幼にして學を好み夙に中津中學校を卒ふるや後ち第三高等學校を經て東京帝國大學法科大學に入學、獨法科を專攻して大正十二年之れを卒業す、然して習十三年十一月文官高等試驗に登第せるが更に同大學經濟學部經濟科に入りて孜々學窓に黽勉するところあり、同十四年之れを出づ。

斯くて直ちに官途に就き同年四月警視廳に入り警視廳警部、警務部規畫課員を命せらる、次で昭和二年六月警視廳警視となり六本木警察署長に補されしが、同四年七月神田區西神田警察署長に轉じ現に其の任に在りて恪務以て警察行政に携りつゝあり。

君は其の人と爲り寔に篤厚にして然も學殖識見に富む、年齒未だ大いに春秋あり、蓋し官界に於ける逸材にして吾人は寧ろ其前途に多大の嘱望無き能はざるも

のなり。

夫人を章子と謂ひ前臺灣銀行理事瀧田傳吉氏の息女にして佛英和高等女學校出身の才媛たり。

現に神田區小川町四十一番地署長官舍に住す。電話神田一〇〇二番

三村準平君

法學士
東京海上火災保險(株)勤務

君は三菱銀行の重役として知らるゝ三村君平氏の二男にして、同行丸ノ内支店長として聞え高き三村稱平氏の令弟に當り、明治三十年三月四日を以つて生誕す

夙に第六高等學校を經て大正十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに實業界に投じ、東京海上火災保險株式會社に入社し以つて現在に及ぶ。

趣味に乘馬、ゴルフあり、學士會々員たり。

夫人富士子は故福澤捨次郎氏の二女にして其の間に嶺子、君子あり。現に東京市赤坂區青山南町五ノ四番地に住す。電話青山五八六一番

水谷當起君

工學士　東京地下鐵道(株)技師

新進の學理と優秀なる技術とを以て前途を囑望せらるゝ我が水谷當起君は東京府士族水谷光和氏の長男にして、明治廿九年一月廿一日を以て生誕す。

夙に第三高等學校を經て大正九年東京帝國大學工科大學土木科を優秀の成績を以て卒業し、翌十一年四月地下鐵道に關する研究の爲め歐米各國に出張し、歸朝後東京市電氣局に奉職、後ち横濱市港灣課に轉務大正十四年十一月東京地下鐵道株式會社技師拜命以て現在に及ぶ。

趣味に讀書、短艇等あり、學士會々員たり。

松子夫人は道家氏の五女にして、三輪田高女の出身其の間に一男一女あり。

現に市外東大久保二一八番地に住す。電話四谷六二一番

皆川廣量君

勲六等　皆川(資)代表社員
昭和ビル、内外ビル(株)專務取締役

君は愛媛縣士族廣生氏の三男にして、明治四年二月を以て生れ、後ち皆川家の養子となり、明治十九年分れて一家を創立す。

夙に本邦實業界に投じて活躍大いに努め、幾多事業會社を創立若しくは關係して何れも大成を見、曩に滿洲興業、日本觀光、深海工業各株式會社監査役たりしが現時は前記諸要職にある外東京建物、南洋農產、國際自動車、朝鮮皮革、東京潛水工業各株式會社の取締役として財界に令名あり。

現に東京市牛込區市ヶ谷藥王寺町五十番地に住す。電話牛込四三一番

水上泰生君

日本畫家

君は明治十五年十月二十四日を以て福岡市外春吉町に出生、嚴父を故源七郎氏母堂を故まさ子と爲し其長男に當る。

夙に修猷館中學に學びしが幼にして畫道に志あり、當初荒木墨仙、松山雪堂兩氏に師事せるが同三十四年笈を負ふて帝都に出で東京美術學校に入學せり、而して同三十九年之れを卒へるが是より先き寺崎廣業氏を師とし類秀の畫才は忽ち同門下十哲の第一人者たらしめ、美校卒業に際しての作品「幽寂」を描いて首席となれり。

斯くて歸省するや同四十年東筑中學校及び女子師範學校に教諭たり、然して大正五年之を辞し後ち再び東上今日に至れるが、此間大作巨什を公にし各種展覽會に出品して受賞し、桑港世界大博覽會に際しては「琉球の花」「樺太の夏」を出品金牌を享け、東京奠都五十年紀念並に市制施行三十年紀念祝賀に當り「園生の卷」を大正天皇銀婚式に際し「鯉魚」を又今上陛下御成婚紀念に「秋叢」を献上し奉り御嘉納の榮に浴せり。

君の畫風を文字に顯現せば所謂溫故知新的にして中庸を尚び些の街奇なく寔に韻清に富めり。

曩に大患に遭へるも以來節制を旨として健康舊に倍し益々斯道に精進しつゝあり、當代畫壇の巨擘にして其人格の敦厚と相俟つて吾人の誇るべき存在なりと謂はざるべからず。

家庭には靜子夫人あり、同郷の人津田利夫氏の長女にして其間に元子、千代子、信子あり。

現に東京市麻布區本村町十二番地（電話高輪七五九五番）に住す、又信州上林溫泉に「洗心莊」なる由緒深き別邸あり。

宮川宗德君

東京市下谷區長

君は熊本縣の人宮川宗保氏の長男にして、明治十九年十二月十二日を以つて生る。

明治三十八年熊本縣立中學校を卒ふるや笈を負ふて東上、研鑽琢磨、明治四十三年國學院大學を卒業、其の間日本大學に通ひて政治經濟學を專攻、同四十四年内務省に入りて内務屬を拜命、大正三年六月文部省囑託を命ぜられ翌四年文部屬に任じ同九年東京市視學に任じ同十年主事となり十三年一月東京市牛込區長に拔擢せられ區制の發展に盡瘁するところ甚大、十四年八月東京市監査課長、後ち歐米國に出張し、昭和三年歸朝するや東京市各文書課長に擧げられ更に昭和四年一月東京市下谷區長に任じ以て現在に及ぶ。

運動に趣味を有し、劍道、庭球、水泳等に長じ、又圍碁も得意とするところなり。

英子夫人との間に宗明君、剛君、宗宏君及び敏子等あり。現に東京市小石川區關口臺町二六番地に住す。電話牛込四四三三番

宮地茂秋君

淺野セメント(株)總務部長兼營業課長
淺野スレート販賣(株)監査役

君は東京府士族宮地茂春君の長男にして、明治十七年九月二十一日を以つて生る。

明治四十三年東京帝國大學法科大學を卒業するや外務省に入り、大正六年實業界に轉じて第一生命保險相互會社に入社し、大正八年淺野セメント株式會社に轉勤、同社庶務課長に就任し漸次上長の信任を得て同社樞要の地位に擧げられ、大正十五年八月總務部長兼營業部長に推され以つて現在に及ぶ。

君は尙ほ傍ら淺野スレート販賣、伏木板紙、大阪石綿工業、日本ヒュームコンクリート工業關東運輸各株式會社の重役として知らる。

讀書に趣味を有し社交に厚く、現に同氣倶樂部、丸ノ内倶樂部、丸ノ内一中會學士會、各會員たり。

夫人を吳子と呼び高知縣の人福岡正郎氏の二女にして東京府立第二高等女學校を卒業し、君との間に祐君、宏君及び敏子等あり。

現に東京市芝區三田綱町一番地に住す
電話高輪二七九四番

高給評論機關
政治・經濟・社會
帝國時論
帝國時事通信社特輯

鹽田團平君

沼館酒造株式會社常務取締役
衆議院議員

得意の經濟論を以つて盛んに產業の發達と農村振興を振り翳し、何れも名にしあふ秋田武士の面々前代議士池田最上の兩猛將を向ふに廻し、三派巴の大激戰に目出度く當選の榮譽を擔つたるは誰あらふ、これなん初陣の若武者鹽田團平君其の人にて候。

君は秋田縣の人先代團平君の長男にして、明治十四年四月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、切磋琢磨螢雪の功空しからず、明治三十六年商科大學の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに地方實業界に投じ幾多銀行會社に關係して君が敏腕を振ひ現に前記會社の常務取締役たる外植田銀行、秋田貯蓄銀行、羽後製氷、秋田水力電氣、横莊鐵道各株式會社の重役にして、今や地方財界に重きをなすのみならず、又中央政界の一異彩たるを失はず、因に秋田縣多額納稅者にして艶福家の稱あり。

夫人せつ子は秋田縣の人菅忠吉君の三女にして君との間に浩太郎君、雄次君、陽三君及び愛子、榮子等あり、現に秋田縣平鹿沼館に住す。

×

後川文藏君

京都日出新聞社長
京都自動車株式會社長

君は京都府の人正七位上井手小足重眞第五十二代の孫井手用平君の二男にして明治元年七月を以つて生る。夙に慶應義塾に學び、後遞信省其の他の官職を經て明治二十九年京華社を創立し、新聞通信及び廣告取扱業を營み、現に同社々長にして且つ京都日出新聞社々長たる傍ら京都自動車株式會社々長、日出生命保險株式會社監査役として京都實業界に令名あり。

夫人のぶ子は京都府の人落合しゆん子の二女にして君との間に晴之助君、益夫君、利夫君、幾太郎君及び榮子、芳子等あり現に京都市上京區烏丸通上長者下ルに住し電話長西陣七九番なり。

廣田理太郎君

工學博士

君は廣島縣士族廣田紋三郎君の長男にして慶應元年十一月を以つて生る。夙に學に厚く學業順を追ふて進み、明治二十年東京帝國大學工科大學を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、曩に京都第一絹絲紡績株式會社技師、尾小屋鑛山技師、高田商會事務長、同監事たりしが現に工學博士にして東京帝國大學工學部講師たる傍ら東京計器製作所株式會社專務取締役たり。

夫人とし子は群馬縣の人鶴見良憲君の長女にして君との間に二男三女ありて孝一君、洋二君及びしづえ子、嘉代子、喜代子等なり、現に東京市麴町區下二番町に住す。

下郷傳平君

下郷同族株式會社長
仁壽生命保險株式會社相談役

勳四等實業家下郷傳平君は滋賀縣の人従七位先代下郷傳平君の長男にして、明治五年三月を以つて生る。夙に第三高等中學校を經て慶應義塾大學に學び後ち實業界に身を投じ、明治三十三年商工業視察の爲め歐米に漫遊す。

曩に長濱銀行、近江銀行各頭取、長濱取引所理事長、仁壽生命保險會社、京都信託會社、中之島製紙會社、大阪ホテル各社長其他諸會社の重役たりしが後其の直接關係を絶ち現時は下郷同族會社々長にして且つ帝國經濟會議員、下郷共濟會理事長たり。

曾つて貴族院議員に互選せられ且つ日露事件の功に依り勳四等に叙し旭日小綬章を授けらる、君は慈善、教育、感化事業其他公共團體等に盡瘁すること甚大。

莫大の資金を投じて下郷共濟會を經營し尚ほ滋賀縣多額納税者にして、現に直接國税三千六百七十余圓を納むといふ、夫人を妙子と呼び奈良縣士族千葉斷一君の令姉たり、現に東京市外澁谷下澁谷町一八三四番地に住し電話特長高輪五四八二番なり。

篠田次助君

正五位勳三等功五級　陸軍少將
近衛歩兵第二旅團長

君は靜岡縣の人篠田治策君の令弟にして明治十年九月十七日を以つて靜岡縣小笠郡池新田村に生る。夙に軍籍に投じ陸軍士官學校を經て陸軍大學を卒業す。

明治三十二年陸軍歩兵少尉に任官し歩兵第三十五聯隊附を拜命し、爾來歩兵第三十五聯隊中隊長、歩兵第六十聯隊中隊長、第十師團參謀、歩兵第三十六聯隊大隊長、第十五師團參謀、近衛歩兵第一聯隊長、第三師團參謀長等を歴任し、大正十三年八月陸軍少將に昇進し同時に第六師團司令部附拜命更に大正十五年三月近衛歩兵第二旅團長に任ぜられ現在に至る

尚ほ特筆すべきは大正九年八月二十日日光田母澤御用邸御駐輦の　大正天皇、皇太后兩陛下供奉の光榮に浴し更に明治三十七八年日露の役には乃木軍に參加して旅順攻撃に花々しき戦功を立て、名譽の負傷三度に及びし程にて功により功五級金鵄勳章を賜はる。

君は極めて温情豊かにして部下を統率する懇切に、忠誠以つて一貫する大和武士の典型たるを失はざるべし、夫人ミネ子は靜岡縣の人鈴木銀十君の長女にして跡見高等女學校を卒業し君との間に俊次君、次郎君、三次君等あり。

現に東京市牛込區市ヶ谷臺町十一番地に住し電話四谷二〇四番なり。

平岡通也君

大阪高等工業學校教授

君は福井縣士族平岡貴君の長男にして明治十年六月五日を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業するや教育界に入りて大阪高等工業學校教授に任ぜられ後選鑛學及採金學研究の爲め米國に留學す。

夫人こと子は埼玉縣の人中村鐵三郎君の長女にして君との間に一女ありて千代子と稱す、現に兵庫縣武庫郡西宮町に住す。

下郷寅太郎君

仁壽生命保險株式會社長
中之島製紙株式會社長

君は滋賀縣の人下郷傳平君の令弟にして明治十三年四月を以つて生る。夙に郷校を出ずるや笈を負ふて東上し慶應義塾大學に學び、同校を卒業するや直ちに實業界に身を投じ各種事業會社に關係し、現に仁壽生命保險株式會社長たる外京都殖産、中之島製紙各株式會社の取締役社長にして且つ下郷同族、大阪ホテル、名古屋ホテル、日本メリヤス、東洋塗料製造、樺太工業、大阪三品取引所各株式會社の重役として關西實業界の重鎮たり。

夫人クニ子は京都府の人邨上藤三郎君の令妹にして其の間に一女ありて迪子と呼ぶ、現に大津市下北國町一九番地に住す。

兵須久君

安田銀行常務取締役

我が安田銀行の聲名内外に嘖々たり、而も其の當事者として且つ安田系統各銀行の重役として令名ある兵須久君は鳥取縣士族兵須八郎君の長男にして慶應三年九月十六日を以つて生る。

夙に大阪府に職を奉じたりしが、後ち實業界に雄飛せんと志し明治卅五年故松本重太郎君の知遇を得て百三十銀行に入り、後ち大垣共立銀行取締役に擧げられ更に大正三年京都銀行支配人に轉勤し、曾つては養老鐵道株式會社監査役、大垣貯蓄銀行取締役たりしが後ち安田銀行に入り保善社主事及銀行部長等を歴任し現に同行常務取締役として知らる。

夫人すみ子は鳥取縣士族中島時宜君の二女にして君との間に一男四女ありて大一君及び竹子、八重子、富美子、朝子等なり、現に東京市外青山原宿一七〇番地に住し電話青山七四四番なり。

土方久徴君

日佛銀行取締役

勳四等法學士東京商業會議所特別議員土方久徴君は舊幕吏土方久巳君の二男、子爵土方雄志君の令弟にして明治三年九月を以つて生る。幼にして父母を喪ひ孤獨窮苦と闘ふこと數年、萬難を排して東京府立中學校に入り、第一高等學校を經て明治廿八年帝國大學法科大學を優秀の成績を以つて卒業す。

然して直ちに日本銀行に入り北海道支店營業主任となり、同卅年銀行業研究の爲め英白兩國に留學を命ぜられ歸朝後同行檢査役營業局調査役、祕書役、國債局長、營業局長等を經て理事に昇進し後ち日本興業銀行總裁を經て日本郵船株式會社取締役、共立鑛業會社長たりしが現時は日佛銀行取締役として知らる、趣味に

釣魚、書書等あり。

夫人まつ子は東京府の人三野村安太郎君の令姉たり、現に東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町七六三番地に住し電話青山二九一番なり。

柴田源七君

二十一頭行頭取
長濱貯蓄銀行頭取

君は滋賀縣の人柴田九峯君の長男にして慶應二年五月三日を以つて生る。夙に實業界に志し現に二十一銀行及長濱貯蓄銀行各頭取にして尙ほ丸太柴田商店の代表者として地方財界の重鎭として令名嘖々たるものあり。

夫人しう子は滋賀縣の人中村寅吉君の令姉にして君との間に三男六女ありて哲之助君、晋作君、五郎君及びしづ子、みね子、とし子、うた子、たへ子、ふゆ子等なり現に滋賀縣阪田郡六莊村に住す。

柴田勝雄君

名古屋銀行常務取締役

君は愛知縣の人柴田良造君の長男にして明治十一年三月を以つて生る。明治三十四年東京高等商業學校を卒業し、名古屋銀行營業部長、總務部長等を歷任し、現に同行常務取締役たる外名古屋貯蓄銀行取締役たり。

夫人てふ子は愛知縣の人廣岡宗三郎君の令姪たり、現に名古屋市東區安房町十番地に住し電話四七一番たり。

志田順君

理學博士
京都帝國大學教授

君は千葉縣の人志田極君の三男にして明治九年五月を以つて生る。明治三十四年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し尙ほ大學院に入りて電氣工學を專攻し更に大正二年物理學研究の爲め獨逸英國及び米國等へ留學し歸朝後は廣島高等師範學校教授、第一高等學校教授、京都帝國大學助教授等を歷任し、現に京都帝國大學教授にして正五位勳四等理學博士として我が學界に令名高し。

夫人すみ子は東京府の人渡邊望君の四女にして君との間に順一郎君、正二君、三郎君及びすま子、のぶ子等あり、現に京都市上京區烏丸通今出川北入に住す。

平山爲之助君

五所川原銀行頭取
陸奥鐵道株式會社長
衆議院議員

我が立憲政友會の重鎭平山爲之助君は青森縣の人平山雄太郎君の長男にして貴族院議員鳴海周次郎君の實兄君に當り、明治七年一月二十九日を以つて青森縣は北津輕郡榮町に孤々の聲を擧ぐ。夙に弘前市東奥義塾を卒ふるや笈を負ふて上京し慶應義塾に學び研鑽を積み造詣を深くして歸鄉し、直ちに實業界に身を投じ幾多有數會社の重役として活躍し、現に五所川原銀行頭取たる外青森貯蓄銀行取締役、佐々木銀行取締役、鳴海銀行監査役にして地方金融界にありて一勢力をなし又陸奥鐵道株式會社々長たる外松木屋呉服店、津輕酒造各株式會社取締役として一般事業會社に君が敍腕を縱横に振ひ、今や當地方は勿論東北地方屈指の實業家として名聲灼々たり。

斯くて君の人望は單に地方財界にのみ止らず、あらゆる公共事業を始めとして中央地方政界にまで其の兩翼を自由に振展し、大正十三年の總選擧に際し縣民多數の重望を擔つて馬を陣頭に進め、東北武士の猛者連と火蓋を切つて奮戰し、遂に榮ある當選の鬨の聲は津輕海峽逆卷く怒濤の響と相和して、一時は鳴りも止まざる盛況を呈せりと云ふ。

曾つて郡會議員、郡會議長、縣會議員郡參事會員等の要職を歷任し今や立憲政友會代議士として中央政壇院の內外に重きをなし、尙ほ青森縣多額納稅者として直接國稅一千數百圓を納め當地方の名望家として知らる。

夫人とよ子は青森縣の人竹浪富三郎君の長女にして君との間に啓一郎君、周藏君、祐三郎君、正藏君、定五郎君及びとし子、とき子、きみ子等あり、現に青森縣北津輕郡榮町に住す。

白田謙四郎君

横濱仕譯同倉庫㈱關運送各株式會社長
株式會社宇都宮回漕店社長
國際運輸株式會社長

現時横濱に於ける屈指の實業家として令名高き白田謙四郎君は、熊本縣の人白田伊八君の長男にして明治十三年十一月十九日を以つて生る。夙に大志を抱き熊本縣立八代中學校を卒業するや、單身横濱に出でて海運業に從事し奮鬪これ努めしかば遂に今日の大をなすに至る。

現に前記各會社の社長たる外日光運輸横濱共立倉庫各株式會社の重役にして且つ横濱稅關公認東西揚屋代表者、横濱商業會議所議員、横濱回漕業組合副組長として知られ、曾つて熊本丸船主一ノ瀨回漕店株式會社の重役、廣瀨鑛業所々長たりしことあり、趣味として撞球、旅行等あり。

夫人をフク子と呼び貞淑の譽れ高し、現に横濱市本牧町二五〇〇番地に住し電話一九九五番なり。

樋口長市君

東京高等師範學校教授

君は長野縣の人樋口海藏君の長男にして明治四年十一月五日を以つて生る。明治三十二年東京高等師範學校を卒業するや直ちに教育界に身を投じ爾來東京及大阪各府師範學校教諭、東京高等師範學校教授等を歷任して現在に至る。

夫人常子は大阪府士族三枝守太君の令妹にして君との間に六男三女あり、現に東京市小石川區白山御殿町一〇七番地に住す。

鹽釜伊兵衛君

仙臺高等工業學校教授

君は宮城縣の人鹽釜安次郎君の長男にして明治九年二月五日を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業するや、直ちに育英界に身を投じ愛知縣立第一中學校の教諭となり次いで仙臺高等工業學校教授、東北帝國大學生徒監、東北帝國大學工學專門部教授等を歷任し、現時は仙臺高等工業學校教授として知らる。

夫人をちよ子と呼び宮城縣の人村上常喜君の長女にして君との間に和賀麿君、忠麿君及びけい子、さと子等あり、現に仙臺市同心町通に住す。

鹽川一郎君

佐久鐵道株式會社取締役

君は鹽川幸次郎君の長男にして早くより實業界に投じ、現に前記の外佐久銀行監査役にして且つ長野縣多額納稅者として知らる。

現に長野市北佐久町三四番地に住す。

比佐昌平君

衆議院議員

彼の會津魂と磐洲翁の薫陶とは正に福島現代人士の骨髓深く徹し、今や中央政界に活躍して令名を謳はるゝもの又尠なしとせず、我が少壯政治家比佐昌平君も同じく福島縣磐城の產にして、比佐逸太郎君の次男に當り明治十七年三月三日を以つて生る。

夙に鄕校を卒ふるや笈を卒ふて上京し明治四十一年早稻田大學政治經濟科を卒業し、更に都下各大學研究科に入りて政治學を專攻して其の蘊蓄を究め、後ち歸鄕して家事に就き、大正十三年の總選擧に際し「藥は星、政治は比佐」の標語の下に鹿を野に追ひ殆んど言論を以つて奮戰し、君が熱あり力ある其の雄辯はやがて多數選擧民の血を湧かせ、目出度くも當選の榮冠は君の頭上に落ち、今や中央政界の一異彩として其の將來を囑望せらるゝに至る。

君や天資穎明加ふるに溫厚篤實にして夙に政治的趣味を豐厲し、其の政論卓越明快にして一糸亂れず故大隈翁の薫陶正に君の純血中を流る、必ずや中央政界に名を成さんも又遠からざるべし、福島縣磐城郡湯本町字湯本一四四番地に現住す

柴田常吉君

柴田寫眞館主
三越吳服店寫眞部長

本邦寫眞界に於ける優秀なる技師として其の令名頓に謳はれたる柴田常吉君は東京府の人柴田松太郎君の長男にして慶應三年一月十五日を以つて豊橋市に生る夙に鄕校を卒ふるや青雲の志を抱き、年齒僅かに十六才にして奮然起つて上京し初め書壇に名を立てんと志せしも中途にして石版界の人となり、後ち故ありて彫刻を修得するに至る。

斯くて幼より藝術に趣味深き君は寫眞界に志を轉じ一意專心斯業の實地或は學理に付き研鑽を積み、明治二十七年初めて白金紙使用の發明をなし、後來我國に於ける白金紙使用の元祖たらしめ、且つX光線を寫眞に應用し實驗の結果大いに好成績を得たり。

更に明治三十年活動寫眞撮映機をゴーモン會社より購入して撮映を爲し、本邦活動寫眞の嚆矢となし我が國斯界の振展に貢献するところ甚大、夙に日比氏の斡旋に依り三越吳服店に寫眞部を設置すると共に其の主任となり大いに敏腕を振ひ今や斯界に於ける重鎭として其の聲望嘖々たるものあり。

君又業務の余暇を利用して萬國切手の蒐集に趣味を有すといふ、夫人ちよ子は海崎藤吉君の二女にして其の間に長男一郎君、及び育子等ありて家庭圓滿なり、現に東京市赤坂區田町一ノ一一番地に住し電話青山五四四九番なり。

柴原國松君

東京市神田區長

君は三重縣の人柴原與三五郎君の二男にして、明治十四年二月十日を以つて東京市小石川區水道端町に生る。夙に濱松槃若林覺を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽大いに勉め、大正二年日本大學の前身たる日本法律學校を優秀の成績を以つて卒業せり。

然して職を官界に奉じ、東京市神田區役所に入り、大原、山縣兩區長の下に恪勤精勵すること久しく、累進して學事主任、庶務係長等を歷勤し大正十四年十一月山縣區長隱退するや、君拔擢せられて同區長に擧げられ以つて現在に及べり。

君や天資穎明、事務を執掌する又明快にして今や復興途上にある東京市制に參劃して愈々多年の經倫を傾注し、同區の爲め貢献する蓋し甚大なりと謂ふべし。

夫人喜野子は三重縣の人山本竹翠君の長女にして、三重縣立高等女學校を卒業せり、現に東京府豊多摩郡落合町上落合六二二番地に住す。

志村清右衛門君

大橋堂製菓株式會社長
衆議院議員

君は千葉縣の人先代清右衛門君の二男にして明治十三年十二月を以つて生る。明治四十一年東京高等商業學校を卒業するや實業界に身を投じ、現に大橋堂製菓株式會社々長たる外千葉縣選出の衆議院議員として知らる。

現に千葉縣千葉市幕張馬加に住す。

東海林力藏君

北海道帝國大學教授

農學博士東海林力藏君は北海道の人東海林長治君の四男にして明治十一年一月七日を以つて生る。明治三十四年札幌農學校を卒業し更に農學研究の爲め英獨米各國に留學して歸朝し爾來札幌農學校助教授、東北帝國大學農科大學助教授、北海道帝國大學農科大學助教授等を歷任し

現に北海道帝國大學教授たり、尙ほ曩に南洋諸島に出張せしことあり、因に正五位勳四等高等官二等たり。

夫人をマキ子と稱し北海道の人笠原文平君の令姉にして君との間に三男一女あり、現に北海道札幌市北三條西十四丁目に住す。

廣瀨庄太郎君

森永製品販賣㈱社專務取締役

東洋製菓界に聲名ある森永製菓株式會社の同系統たる、森永製品販賣株式會社の實權を掌握して今や斯界に令名高き廣瀨庄太郎君は、東京府の人廣瀨庄郎兵衞君の二男にして、明治八年二月十七日を以つて生る。

夙に實業界に雄飛せんとの大望を抱き横濱に出でて東屋號と稱して菓子製造販賣業を興し、奮鬪これ努めしかば遂に今日の大を成すに至る、現に本店を横濱市南仲通に置き支店を同市神奈川二谷に設け益々發展の途上にあり、尙ほ前記の要職にある傍ら森永相互保證株式會社の監査役として知らる。

夫人みどり子は長野縣の人丸山大次郎君の二女にして其の間に文一君、融君、清人君及び知子等あり、現に横濱市南仲通二ノ二六番地に住し電話二八一九番四三一二番なり。

芝川又四郎君

千島土地株式會社取締役

君は京都府の人先代又右衞門君の三男にして明治十六年二月十五日を以つて生る。明治四十三年京都帝國大學法科大學經濟科を卒業し直ちに實業界に走り不動產貸業を營み現に前掲の職にあり。

夫人竹子は山口縣の人小坂猪二君の令妹にして君との間に又彥君、又次郎君及び百合子、英美子、霜子等あり、現に大阪市東區伏見町四ノ四九番地に住し電話本局一三六番なり。

芝原豐二君

安田信託株式會社支配人

君は京都府の人芝原三左衞門君の三男にして、明治十年十二月八日を以つて京都府北桑田郡神吉町に生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切磋琢磨、明治三十九年優秀の成績を以つて慶應義塾法科を卒業し、直ちに身を實業界に投じ村井銀行本店に入りて恪勤精勵、累進して同行京都支店長に就任し後村井貿易株式會社に轉じ、同社營業部長として君が敏腕を縱横に振展して其の發展に盡瘁すること甚大なりき。

然して大正十三年九月安田保善社に入社して帝國商業銀行副支配人を命ぜられ後安田信託株式會社に轉勤し、擧げられて同社支配人の要職に就任し以つて現在に及ぶ。

君や博學多才、事務を鞅掌する又明快直截、蓋し安田系統諸會社を歷勤して前途を囑望せらるゝ又宜なる哉

夫人きぬ子は京都府の人桂政太郎君の二女にして京都府立高等女學校を卒業し君との間に二男一女ありて宏君、淳君及び美知子と稱す、現に東京市外中澁谷六八二番地に住し電話青山三二七番なり。

東坊城政長君

子爵　正五位

當家は正二位參議五條爲經の二男正三位治部卿茂長の後なり、茂長別に一家を創立して東坊城と稱す、後十數世を經て先代德長君に至る。德長君は任長君の長子にして特旨を以つて華族に列し明治十七年子爵を授けられ宮中に仕へて御歌所參侯し、同四十四年以來貴族院議員に互選せらるゝこと二回に及べり。

君は先代德長君の長男にして明治三十五年三月四日を以つて生る。夙に學に厚く大正八年四月慶應義塾普通部を卒業し更に其の翌九年米國に渡りシカゴ大學に入りしも研究半にして不幸父君薨去の報に接し、餘儀なく中途退學して同十二年歸朝し襲爵仰せ付けらる。後實業界に志し同十三年四月丸星商會を創立して現在に至る。

君は資性溫厚、風貌又典麗而も華胄界より出でゝ自ら同商會を起し其の經營に任じて以つて奮勵一番、前途洋々多望、其の意氣や愛すべく又嘆賞に値すべきものあり、趣味頗る廣く就中ゴルフ、撞球に至りては尋常凡輩の容易に追隨を許さざるものあり、又讀書を愛好すと云ふ。現に東京府下千駄ヶ谷町九〇三番地に住す。

志波安一郎君

長崎縣農工銀行監査役
衆議院議員

君は長崎縣士族志波三九郎君の長男にして、明治六年九月を以つて生る。夙に第三高等學校に學び後ち長崎縣會議員、同參事會員等に擧げられ現に前記の要職にあり。

夫人チトセ子は福岡縣の人内田逸藏君の二女にして君との間に威和夫君、忠和君及び美和子、喜和子、和賀子、和枝子、香和留、和子等あり、現に長崎縣南高來郡神代に住す。

新川元右衞門君

船木鐵道株式會社取締役
宇部銀行監査役

君は山口縣の人新川竹藏君の長男にして明治元年六月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に前記の外宇部電氣、宇部鐵工所、宇部鐵道各株式會社の重役として知らる。

夫人ツル子は山口縣の人藤山傳四郎君の令姉にして君との間に涉君、浩君及び日露子、ヤチヨ子、綾子、芳子等あり、現に山口縣宇部に住す。

上甲信弘君

蠶糸貿易業

君は神奈川縣の人上甲謙七君の長男にして明治四年一月七日を以つて生る。明治二十四年第一高等中學校を卒業して後

南洋に渡航し、彼の地に留まりて雜貨商を營みしが歸朝後蠶糸及貿易商を營み、現に我が國蠶糸業界に活躍する傍ら矢野上甲合名會社業務擔當社員、日本ペニー紡績、日本炭礦、日本製袋、東海鐵工、大平運輸各株式會社取締役にして且つ横濱撚糸織物株式會社監査役たり。

夫人つた子は群馬縣の人矢野半次郎君の二女なり、現に横濱市山手町一七一番地に住す。

下河原友吉君

日本石油乳劑株式會社長
合資會社三酉商會社長

君は新潟縣の人下河原繁藏君の長男にして、明治五年八月廿日を以つて同縣佐渡郡桐川町に生る。夙に鄕校を卒ふるや直ちに第三高等學校に入學し同校を經て東京帝國大學法科大學に學び後ち實業界に雄飛せんと志し、明治二十八年淺野石油部に聘せられ、同社販賣係として奮鬪大いに努めしかば漸次昇進して同社國館及各地の支店長を歷勤せり。

偶々同社石油部閉鎖の止むなきに至るや、君は選ばれて淺野氏を代表して寶田石油株式會社に入社し、同社東京支店長に就任し其の才幹を發揮して同社の發展に盡瘁することと多年、大正四年同社を辭して當時石油問屋として聞え高き要屋商店支配人に轉勤せり。

然して後ち君が朝夕忘ることなき大望への機運熟するや斷然同店を辭し、大正九年十月獨力三酉商會を開設して諸油、蠟燭、石鹼卸問屋、特許寶釜製造販賣、高級石油乳劑等の販賣より更に外國火災保險會社の東洋總代理店を引き受け、爾來幾多艱難と鬪ひつゝ益々君が才腕を縱横に振ひ、遂に今日の大をなすに至れり

尙ほ大正十五年十月事業の大擴張を企劃して日本石油乳劑株式會社を創立し、君自ら其の社長として內外の社務を輦掌し今や其の令名嘖々たり、趣味として書畫、刀劍、謠曲等あり。

夫人順子との間に三男二女あり、長男武男君は大正十四年東大法科を卒業するや直ちに文官高等試驗に登第し、更に大正十五年には外交官試驗に登第せる程の俊才、二男英夫君は東京商科大學の出身にして三男友雄君は慶應大學普通部に通學し、長女文枝子は東京高女を卒業して三井物產會社員水口德之助君に、二女登志子は府立第一高女の卒業にして同じく三井物產會社員南原彥九郎君に嫁す、現に東京市麻布區本村町一三二番地に住し電話高輪七〇一九番なり。

廣井一君

長岡銀行常務取締役
北越新報社長

君は新潟縣の人廣井十三君の長男にして、慶應元年九月五日を以つて生れ先代萬七君の養子となる。明治十八年東京專門學校を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、現に長岡商業會議所議員にして且つ長岡銀行常務取締役及び北越新報社長として令名高し。

夫人ちよ子は新潟縣の人片岡勝太郎君の長女にして君との間に四男一女あり、現に新潟縣古志郡東山村に住す。

平澤越郎君

横濱棧橋倉庫會社常務取締役

我が實業界の重鎭平澤越郎君は新潟縣の人田中敬次郎君の三男にして、明治十三年十二月を以つて生れ後ち平澤家の養嗣子となる。幼にして俊敏夙に學に厚く志を抱いて東上し、明治三十九年優秀の成績を以つて東京帝國大學政治科を卒業す。

然して直ちに實業界に投じ日本銀行に入り、後ち横濱茂木銀行に入りて多年の蘊蓄を傾注せしも更に轉じて横濱貯蓄銀行に走り行務の發展、事務の刷新整理に當つて其の敏腕を揮ひ漸次上長に重望視せられ、遂に推されて取締役となり、更に東華生命保險會社の懇請により入りて取締役に就任せり。

現に横濱棧橋倉庫株式會社の常務取締役として能く同社內外の社務を輦掌して余すところなし、夫人京子は鹿兒島縣の人橋口條治君の令姉たり、現に東京市芝區高輪南町五三番地に住し電話高輪三五九番なり。

清水與七郎君

東京電氣株式會社工業部長

曾つては官界にありて其の優秀なる技術を謳はれ、今又本邦財界に活躍して其の天稟の才幹を縱横に振ひつゝある清水與七郎君は、明治十八年七月十二日を以つて富山縣西礁波郡福岡町に生る。

夙に鄕校を卒ふるや大志を抱いて東上し、明治四十一年東京帝國大學工科大學を優秀の成績を以つて卒業し、直ちに身を官界に投じ遞信省電氣局技師たりしが後ち官を辭して實業界に走り、現に前記東京電氣株式會社工業部長として令名あり。

夫人もと子との間に和夫君、康三君、與四郎君及び道子、雪子等あり、現に東京府荏原郡北品川一本木三四六番地に住し電話高輪一一〇五番なり。

島博三君

西條酒造株式會社取締役

君は廣島縣の人島博三君の長男にして明治十九年十月を以つて生る。現に西條酒造株式會社取締役にして且つ廣島縣多額納稅者たり。

夫人カツ子は廣島縣の人八谷喜太郎君の長女にして其の間に啓君及び庸子、恭子等あり、現に廣島縣安藝郡西條町に住す。

新開新太郎君

土木建築請負業
北海道多額納稅者

君は福井縣の人新開與右衛門君の長男にして明治三年十二月を以つて生る。夙に土木建築界に身を投じ、現に同地方に於ける斯界の重鎭として且つ北海道多額納稅者として知らる。

尙ほ札幌商業會議所議員にして同地財界に令名あり、夫人をムメ子と稱す、現に札幌市北一條東三ノ一番地に住す。

白井博之君

磐城銀行頭取
極東製藥株式會社長

君は福島縣の人白井遠平君の長男にして明治二年十二月五日を以つて生る。夙に東京英語學校及び東京農林學校に學び後ち地方開發に盡瘁すること甚大福島縣會議員、同參事會員等に擧げられ曾つて衆議院議員たりしことあり。

現時は前記諸職にある外福島縣農工銀行、平銀行、小高銀行、磐城實業銀行、福島瓦斯、郡山電氣、平運送、川前信託、植田水力電氣各株式會社の重役にして且つ櫻無煙炭礦株式會社取締役會長として地方財界に令名高し。

夫人をヤサナ子と呼び福島縣の人草野政醇君の長女にして其の間に四男四女あり、現に福島縣石城郡平町に住す。

下河原武夫君

日本石油乳劑株式會社取締役

天稟の才能豊かに而かも其の人と爲りやがて新時代の覇者たるに十分なる、我が下河原武夫君は現代實業家として令名高き下河原友吉君の長男にして、明治三十四年五月八日を以つて東京市麻布區本村町に生る。

幼にして早くも天才的才能を發揮し東京府立第一中學校を卒ふるや、直ちに第一高等學校に學び同校を經て大正十四年三月東京帝國大學英法科を優秀の成績を以つて卒業し、更に同年十一月文官高等試驗に應じて首尾よく合格し、尋いで大正十五年八月外交官及び司法科試驗に應じて、日出度く登第して世人を驚嘆せしむ。

尙ほ斯學を研鑽する傍ら前記會社の取締役にして、今や新興日本の生みし一異彩たるを失はざるべく其の前途測り知るべからざるものあり、東京市麻布區本村町一三二番地に住し電話高輪七〇一九番なり。

鹽田環君

辯護士　特許辯理士

帝都法曹界の新人鹽田環君は横濱の人鹽田宗澤君の長男にして、明治十六年一月二十四日を以つて生る。當家は代々醫家として刀圭界に令名ありしが、君は東京府立第一中學校及び第一高等學校を經て明治四十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、三菱合資會社に入社して本社及若松支店勤務たること六ヶ年、大正三年之を辭して福岡市に辯護士を開業し、後上京して現在の地を卜して開業し以つて今日に至る。

礦業法海商法は君の最も得意とする處にして、其の著「船員論」「礦業法通論」「礦業法原理」「礦業法研究」等は著名なるものなり、趣味として長唄、碁、テニス、玉突等ありて何れも妙なりといふ。

夫人珠子は東京府の人淺田恭院君の二女にして双葉高等女學校の卒業たり、現に東京市京橋區築地町二ノ二三番地に住し電話京橋六九〇五番なり。

芝川榮助君

大阪毛織株式會社長
芝川商店社長

君は京都府の人横田清兵衛君の二男にして慶應元年六月を以つて生る。夙に實業界に活躍し獨力芝川商店を興して內外織物及び雜貨等の販賣をなし、後ち株式組織に變更して自ら同社々長に就任し、現に其他大阪毛織株式會社々長にして且つ大平火災海上保險株式會社の重役として知らる。

曩に日本毛織紡績株式會社の取締役たりしことあり、趣味廣く謠曲、圍碁、撞球等あり、夫人をキミ子と呼び養父芝川新助君の二女たり、現に大阪市東區高麗橋町三ノ一〇番地に住し電話本局四六〇〇番たり。

樋口茂太郎君

前橋織物株式會社取締役

君は福島縣の人佐久間多濃君の長男にして、明治十六年一月を以つて生る。現時は群馬縣多額納稅者にして且つ上野銀行、前橋製作所、東洋絹絲紡績、前橋織物、阪東電機商會各株式會社取締役たる外小野村商事株式會社監査役たり。

夫人たか子との間に長女八重子、二女利喜子等あり、現に前橋市細ヶ澤町に住す。

新保德壽君

正五位勳四等
仙臺高等工業學校長

君は宮城縣の人新保普及君の二男にして明治六年十月を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業するや更に大學院に學び、後ち仙臺高等工業學校教授同生徒監、東北帝國大學工學專門部教授同校主事、東北帝國大學事務官等を歷任し以つて現在に及べり。

夫人りゆう子は青森縣の人にして君との間に勝夫君、芳夫君及び光子、とし子八重子、榮子等あり、現に仙臺市片平町四五番地に住す。

清水釘吉君

正七位勳五等　退役陸軍歩兵大尉
合資會社清水組社長

君は京都府士族小野高永君の二男にして、慶應三年十一月十日を以つて生る。夙に東京帝國大學工科大學建築科を卒業し、曾つて大阪第一銀行の設計成るや當時學生ながらも建築工事監督主任として先輩の間に伍し、大いに其の才幹を發揮して斯界の注目を惹き、明治卅四年建築業視察のため歐米各地を漫遊し歸朝するや斯業の大擴張を圖り今や清水組の名天下に普し。

曩に君が一年志願兵として入營中たまゝ〳〵彼の日清の戰役勃發するや、遼東の野に轉戰して軍功を立て陸軍中尉に進み勳六等單光旭日章を賜ひ、更に日露の役

に際しては北韓に轉戰し後ち陸軍大尉に昇り勳五等に叙し双光旭日章を賜ふ。

曾つて石川島造船所、函館地所、强羅土地各株式會社の重役たりしが現時は清水組の代表社員たる傍ら沖電氣株式會社の重役たり、趣味として藝術あり、夫人たけ子は東京府の人清水滿之助君の令姉にしてフェリス女學校の卒業なり、現に東京府豐多摩郡東中野小瀧一五七五番地に住し電話四谷八二九番なり。

廣末恒太郎君

池田倉庫株式會社長

君は兵庫縣の人廣末七右衛門君の長男にして明治十四年四月を以つて生る。現に池田倉庫株式會社々長たる外攝池田銀行監査役にして且つ北攝信託、猪名川水力電氣、有馬靈泉土地各株式會社の重役たり。

夫人よゑ子は兵庫縣の人下山英五郎君の令妹にして其の間に浩三君及び茂子、祐子等あり、現に兵庫縣川邊郡川西村に住す。

平山毅君

東北帝國大學工學部教授
仙臺高等工業學校教授

正五位勳四等平山毅君は長野縣士族平山季雄君の三男にして明治十二年八月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業するや直ちに古河鑛業株式會社足尾銅山電氣部技師となり、同四十二年文部省外國留學生を命ぜられ獨瑞米各國に遊び大いに造詣を深くして歸朝す。

大正元年東北帝國大學工學專門部教授を拜命し同八年同大學教授兼同專門部教授に任ぜられ、現時は仙臺高等工業學校教授を兼任し又曾つて東北帝國大學工學部長たりしことあり。

夫人しづ子は三重縣の人日置藤夫君の三女にして君との間に二男二女ありて章君、達君及び多賀子、都賀子と呼ぶ、現に仙臺市士樋一五二番地に住す。

清水留吉君

日本實業興信所長

君は東京府の人清水清作君の五男にして、明治四年八月四日を以つて生る。夙に學業を卒ふるや實業界に雄飛せんと志し大阪病傷生命保險株式會社、帝國火災保險株式會社等に入りて活躍し其の貢献すること甚大なりき。

然して本邦興信事業の外國のそれに比して甚だ幼稚なるに鑑み、明治三十九年敢然起つて前記興信所を開設し、後ち合資組織に變更し支所を大阪、臺灣、仙臺東北、北海道、滿洲、朝鮮、大連等各樞要の地に設置し、君自ら所長として內外の社務を鞅掌せしかば、社會の信望頓に擧り今や本邦斯界に重きをなすに至る。

尙ほ傍ら東京土木建築組合、東京市土木建築同志會、東京スレート業組合等の各理事として知らる、夫人キヨ子は竹內綱次郎君の長女にして其の間に潔君、信一君あり、現に東京府荏原郡大井町元芝八四九番地に住し、電話高輪四五二七番なり。

柴田英三君

日本絹織株式會社長

君は滋賀縣の人柴田源藏君の二男にして明治二十六年三月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に日本絹織株式會社長たる外羽前牧畜、日本製材、十合撚糸商會各株式會社の取締役にして且つ東京大倉畜產株式會社監査役として我が實業界に於ける少壯實業家として令名あり。

夫人ゆき子は京都府の人大原直次郎君の令妹たり、現に東京市麴町區富士見町六丁目一二番地に住す。

平塚直治君

農學博士

君は北海道士族平塚直幹君の長男にして明治六年十月を以つて生る。夙に東京帝國大學農科大學を卒業し、曩に靑森縣立、沖繩縣立第一各中學校教諭及び北海道農會幹事たりしが、現時は札幌商業會議所特別議員、帝國製麻株式會社技師長札幌支店長兼製絲本部長たり。

夫人ミサヲ子は北海道士族原直三郎君の長女にして其の間に一男五女あり、現に北海道札幌市北六條東二丁目に住し、電話一〇三八番なり。

柴田畦作君

工學博士　從四位勳三等
東京帝國大學教授

君は岡山縣の人柴田猪作君の長男にして明治六年七月一日を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し、更に大學院に入りて研究し業成るや身を教育界に投じ、爾來第三高等學校教授及第五高等學校教授等を歷任して東京帝國大學工科大學助教授となり後土木工學研究の爲め米獨佛各國へ留學して斯學の蘊蓄を極めて歸朝す。現に從四位勳三等高等官一等にして東京帝國大學教授として令名あり。

夫人むめ子は東京府の人木下哲三郎君の長女にして君との間に圭一君及び能惠子あり、現に東京市牛込區東五軒町九番地に住す。

清水亥三郎君

石川縣多額納稅者
清水商店取締役

君は石川縣の人清水惣八君の令弟にして明治二十年三月を以つて生る。夙に實業界に志し羽二重製造業を營み傍ら前記會社の重役にして且つ石川縣多額納稅者たり。

夫人信子は石川縣の人坪光大藏君の長女にして其の間に一男ありて壽一君と稱す、現に金澤市馬場町一番地に住す。

菱沼平治君

從五位勳六等
廣島高等師範學校教授

君は東京府の人菱沼直光君の三男にして明治二年二月を以つて生る。現に廣島

高等師範學校教授たり。

明治四十二年私費を投じて歐米に留學し更に大正十一年音韻學英語及教授法研究の爲め英米獨佛伊各國へ留學せしことあり、夫人をなつ子と稱す、現に廣島市鐵砲町白幡小路に住す。

平澤權次郎君

鶴見土地株式會社長

君は神奈川縣の人平澤萬右衞門君の三男にして明治七年十月を以つて生る。夙に實業界に活躍し現に鶴見土地株式會社々長にして且つ神奈川縣多額納稅者たり

夫人ぎん子は東京府の人渡邊彌三郎君の二女にして其の間に宏君、直良君、四郎君及びつき江子、みつ江子、まつ江子いつ江子、睦江子等あり、現に神奈川縣橘樹郡鶴見に住す。

比企忠君

京都帝國大學教授

君は福井縣士族比企佐門君の長男にして慶應二年五月一日を以つて生れ先代叔父君に當る儀長君の死跡を相續す。明治二十七年帝國大學理科大學地質學科を卒業し、更に地質學及び鑛物學研究の爲め米英獨國等に留學して歸朝す。爾來京都帝國大學理工科大學助教授、同教授、同理科大學助教授等を歷任し現に京都帝國大學教授たり。

夫人うめ子は東京府士族須川賢久君の長女にして君との間に二男三女あり、現に京都市上京區中長者町西入に住し電話上一七一三番なり。

平口太兵衞君

敦賀土地建物株式會社長
北國製瓦株式會社長

君は福井縣の人平口太兵衞君の長男にして明治十二年七月を以つて生る。夙に中央大學の前身たる英吉利法律學校を卒業するや實業界に身を投じ、現に前記各社長たる外福井土地建物、敦賀築港倉庫敦賀銀行、日鮮土地、敦賀倉庫各株式會社の重役たり。

尙ほ福井縣多額納稅者にして直稅一千四十一圓を納むといふ、夫人をこと子と稱す、現に福井縣敦賀町に住す。

塩田清一君

塩田醫院長

君は京都府の人塩田武八郎君の長男にして明治十七年十二月五日を以つて京都に生る。父君は夙に醫術を開業し傍ら東京市四谷區會議員として公共の爲めに盡瘁して令名ありき。

君夙に醫家たらんと志し獨逸協會學校に入り尋いで第一高等學校に入學し、更に進んで九州帝國大學醫科大學に入り精勵これ努め、明治四十四年優秀の成績を以つて卒業するや同校の助手となり研鑽琢磨、居ること數ヶ年に及びしも後大正十三年十一月笈を負ふて東上し現在の場所をトして開業し以つて今日に及ぶ。

君は其の研究を基礎醫學に專念し病理に就いて修得し後小兒科特に疫病に就いて研究すること三年有半、今や其の篤學にして熱心研究の結果は都下小兒科專門醫としての信望嘖々たるものあり、現に東京市四谷區大番町二九番地に住し電話四谷四〇七八番なり。

平福百穗君

畫家

東洋畫壇に其の令名を謳はれつゝある平福百穗君は、秋田縣の人平福順藏君の四男にして明治十年十一月二十九日を以つて同縣平鹿横手町に生る。本名を貞藏と呼び幼にして繪畫を愛好し鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治三十一年東京美術學校を卒業して益々その研鑽を積めり。

爾來文展特選一回、三等賞一回、褒狀一回入選四回、更に帝展其の他に「あいぬ」「赤茄子と芋」「七面鳥」「豫讓」「むら鳥」「獵」「伏犧」等を出品して何れも社會の賞讃を博し、大正十三年帝展審査員に擧げられ現に帝展審査員たる外國民新聞社員たり、曾つて結城素明氏と金鈴社を興し斯界の發展に盡瘁するところ甚大なり。

夫人ます子は大阪府士族鷹野銈吉君の長女にして其の間に一郎君、周藏君、三吉君及びヤス子、トク子、トミ子、惠子等あり、現に東京府荏原郡上目黑五八五番地に住し電話青山五五〇番なり。

宿田久一君

京都取引所證券米穀取引員

君は京都府の人先代久太郎君の長男にして明治二十八年六月を以つて生る。大正九年早稻田大學商科を卒業するや直ちに實業界に投じ現に京都取引所證券米穀取引員たり。

夫人みつ子は滋賀縣の人猪飼清太郎君の三女にして其の間に一雄君、久雄君、及びはな子等あり、現に京都市下京區錦小路東洞院東入に住し電話特長三二六九番なり。

平塚嘉右衞門君

森平組取締役社長
寶塚月島土地會社長

君は兵庫縣の人平塚林九郎君の長男にして明治八年五月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に前記の外寶塚ルナパーク、寶塚溫泉、寶塚土地經營所各株式會社の重役たり。

夫人ため子は兵庫縣の人平野鶴藏君の二女にして君との間に嘉一郎君、正二君弘君及びしづゑ子等あり、現に兵庫縣武庫郡良元村に住す。

鹽海德太郎君

岡府津銀行專務取締役

君は神奈川縣の人鹽海惣五郎君の二男にして、明治十二年七月を以つて生る。夙に實業界に身を投じて大いに地方財界に活躍し、現に國府津銀行專務取締役として知らる。

夫人よし子は神奈川縣の人中戸川吉次郎君の長女にして三男二女ありて幸平君

勇君、進君及びもと子、智惠子と稱す、現に神奈川縣足柄下郡酒匂に住す。

平沼騏一郎君

正三位勳一等　法學博士

君は舊津山藩士平沼晋君の二男法學博士平沼淑郎君の令弟にして、慶應三年九月二十八日を以つて生る。明治二十一年東京帝國大學法科大學を卒業し司法省參事官試補となり、累進して東京地方裁判所判事、千葉、横濱地方裁判所部長、東京控訴院判事同部長、司法省參事官、大審院檢事、司法省民刑局長兼檢事等を歴任し同四十年司法制度視察の爲め歐米に差遣せられ次いで法學博士の學位を受く

歸朝後檢事兼民刑局長を經て司法次官に任じ、大正元年檢事總長同十年大審院長に親任せられ、同十二年山本内閣成るや司法大臣に親任し同十三年一月之を辭し貴族院議員に勅選せらる。

其の他帝國大學及各私立大學に民法刑法等の講座を擔任し執達吏登用試驗委員長、判檢事辯護士試驗委員等を兼ね幾多の功績あり、大正十三年二月樞密院顧問官に任せられ尚ほ帝室制度審議會委員、修養團長等を勤む、趣味として讀書、音樂等あり、現に東京府豐多摩郡大久保西大久保町四二〇番地に住し電話四谷一一八一番なり。

柴崎雪次郎君

正五位勳六等
新潟市長

君は埼玉縣の人柴崎團次郎君の二男にして明治六年三月を以つて生る。明治二十七年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに教育界に投じ、京都府立商業學校教諭、新潟縣立商業學校教諭兼校長等を歴任し、明治三十四年文部省留學生となり、海上運送學研究の爲め英佛白三ヶ國に派遣せられ同三十八年造詣を深くして歸朝す。

然して直ちに神戸高等商業學校教授に任じ同四十一年長崎高等商業學校長に擧げられしが、大正三年辭して外務省囑託となり印度、安南、南洋等に航して海運及び殖民の調査に從事し後官を辭し實業界に活躍すること數年、大正十三年新潟市長に推擧せられて現在に及べり。

夫人ユウ子は廣島縣の人岡田吉顯君の四女にして君との間に一男ありて謹一君と稱す、現に新潟市に住す。

平田保太郎君

大丸呉服店支配人
南洋商會取締役

君は舊宮津藩士平田敬信君の長男にして明治十年七月を以つて生る。夙に東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、森村組に入りて米國に出張を命せられ、歸朝後は同組輸出課長同助役たりしが現時は大丸呉服店支配人にして且つ南洋商會取締役たり。

夫人道子は東京府の人上野榮三郎君の三女にして君との間に二男三女あり、現に京都市上京區山堀池二三番地に住す。

進藤信義君

神戸新聞社常務取締役

君は兵庫縣の人進藤信重君の長男にして明治十二年四月を以つて生る。現に神戸新聞社常務取締役として令名あり。

夫人ひさ子は兵庫縣の人吉倉吉三郎君の長女にして其の間に三男二女ありて富士夫君、悦夫君、幸夫君及びチカ子、カズ子等なり、現に神戸市大手寺東九番地に住し電話本局三六三四番たり。

下村耕次郎君

大阪鐵工所專務取締役

君は滋賀縣士族川村鐘太郎君の令弟にして明治六年五月を以つて生れ後先代久君の養嗣子となる。現に大阪鐵工所專務取締役たる傍ら大阪機械工作所、大阪製鎖所、共同漁業、大阪製工業館、大正製麻各株式會社の重役たり。

夫人千代子は大阪府の人小林鑄造君の令妹にして其の間に三男四女あり、現に大阪市南區松屋町八ノ一番地に住し電話長東六三七番たり。

平野長藏君

實業家

我が株式界の重鎮平野長藏君は熊本縣の人平野平八君の二男にして、明治四年七月廿四日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや直ちに實業界に志し、鄕里に於て米穀商を營みしが固より大望ある君は永く留ることを欲せず明治三十年翩然起つて大成を期して上京し、三上株式店に入りて君が才腕を振ひぬ。

明治四十年愈々獨立の機運熟するや現物問屋を開業し、同四十一年仲買人となりしが大正二年之を廢し、同四年再び現物問屋を營み大正十年東京株式取引所短期取引員實物取引員として今日に及ぶ。

夫人ハツ子は東京府の人駒井友三郎君の長女にして君との間に一女ありてトシ子と呼ぶ、現に東京市麹町區麹町八丁目二十五番地に住し電話四谷五一三一番なり。

下田伊三郎君

株式會社岩井商店支配人

君は奈良縣の人松井熊吉君の長男にして、明治二十年八月を以つて生れ先代ナカエ子の後を繼ぐ。夙に實業界に志し現に株式會社岩井商店取締役支配人たり。

夫人ヤエ子は大阪府の人中野富三郎君の三女にして其の間に四女ありて龍子、豐子、富子、百合子と稱す、現に大阪市住吉町天王寺に住す。

清水茂三郎君

六十七銀行取締役

君は山形縣の人諏訪彦太郎君の三男にして、明治二十四年十二月を以つて生れ先代利兵衛君の養嗣子となる。現に六十七銀行取締役にして地方財界に名あり。

夫人を富代子と稱し山形縣の人今野善六君の四女にして鶴岡高等女學校の卒業たり、現に山形縣鶴岡市に住す。

平野長祥君

男爵　從三位勲三等
貴族院議員

當家は一品舍人親王の後裔從五位下主水正宗長の後たり、宗長姓を平野と改稱す。それより十三代長裕君に至り大和國田原本藩主となり一萬石を食む。君は其の長男にして明治二年十二月三日を以つて生れ明治十三年男爵を授けらる。

夙に學習院に入り同二十三年同高等科を卒業し、更に大學院に入りて政治經濟學を修め後ち實業界に走り東京海上保險株式會社に入社し、同二十八年加島銀行に轉じ更に豐山護法銀行に入り同行專務取締役に就任し、後ち安川氏の跡を受けて同行頭取たりしが明治三十九年同行を辭す。貴族院議員に互選せらるゝ事五回現に其の職に在り、尙ほ有隣生命、萬朝報、各株式會社の重役たり、圍碁、撞球盆栽に趣味を有すといふ。

夫人增子は大關增勤君の長女にして子爵大關增輝君の令姉に當り、東京女子高等師範附屬女學校の卒業なり、現に東京府北豐島郡巢鴨上駒込町四七四番地に住し電話小石川四〇〇〇番なり。

柴田亨一君

北海林業株式會社長

君は兵庫縣の人柴田友藏君の長男にして明治二十五年六月を以つて生る。大正五年關西學院高等科商科を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、亡父友藏君の經營に係る北海林業株式會社に入りて同社經營に當り、現に同社々長として內外の社務を執掌するに至る。

尙ほ兵庫縣多額納稅者にして、現時直接國稅四千百三十余圓を納む、夫人慶子は東京府の人大倉喜三郎君の三女にしてフレンド女學校の出身たり、現に兵庫縣神戸市會下山町三ノ一〇番地に住し電話本局三〇一三番たり。

鹽川賢三君

深志倉庫株式會社長

君は長野縣の人鹽川幸太君の令弟にして明治三年三月一日を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に六十三銀行取締役にして且つ佐久貯蓄銀行監査役等を兼ねて深志倉庫株式會社々長として地方財界の重鎭たり。

夫人をなか子と呼び君との間に一男四女あり、現に長野縣北佐久郡三岡村に住す。

廣田弘毅君

外務省歐米局長

從五位勲三等廣田弘毅君は福岡縣の人廣田德平君の長男にして、明治十一年二月を以つて生る。明治三十八年七月東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、同三十九年十月外交官及領事官試驗に合格し外交官補、大使館三等書記官、外務書記官、農商務省書記官、大使館一等書記官外務事務官、大使館參事官、外務省情報局次長等を歷任し現在に及ぶ。

夫人をミス子と呼び福岡縣の人月成功太郎君の二女にして君との間に弘雄君、忠雄君、正雄君及び千代子、美代子、登子等あり、現に東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ一二番地に住し電話青山二五一五番なり。

柴田愛藏君

武州銀行常務取締役

地方金融界の重鎭柴田愛藏君は京都府の人柴田文次郎君の長男にして明治八年三月を以つて生る。夙に早稻田大學商科を卒業するや直ちに實業界に入り、東京貯蓄銀行に勤務し後東洋生命保險株式會社に入り同社廣島、名古屋各支店長、本店會計課長等を歷補したるも武州銀行創立に際し其の創立委員として盡瘁し設立成るや常務取締役に擧げられ現在に至る園藝、讀書に趣味を有すといふ。

夫人加代子は京都府の人松代善二郎君の二女にして宮津高等女學校を卒業し、其の間に文子、篤子、幸子等あり、現に埼玉縣北足立郡浦和町に住す。

廣岡宇一郎君

勲三等　衆議院議員

曾つて政友會時代に所謂加藤憲政會總裁の珍品五個問題を提げて、議會開會中天下の輿論に訴へて異名を馳せ、更に大正十三年の總選擧には床次本黨總裁の下に其の選擧副委員長として劃策大いに努めて令名ある、廣岡宇一郎君は兵庫縣の人廣岡藤九郎君の長男にして慶應三年七月八日を以つて生る。

夙に日本大學法科を卒業するや政界に參じ大正四年以來兵庫縣郡部より推されて衆議院議員に當選すること四回にして政友本黨に屬し中央政界に名あり。

大正三四年事件の功に依り勲四等に叙せられ大正十三年二月勲三等に陞叙せらる、政治と圍碁と酒盃とは君の生命の全体なりといふ、現に東京市芝區三田豐岡町六六番地に住し電話高輪二六七番たり

櫻セメント株式會社專務取締役

君は岡山縣士族高見實眞君の二男にして、明治六年十一月を以つて生れ後先代柳吉の養嗣子となる。早くも實業界に活躍し、現に櫻セメント株式會社專務取締役として知らる。

夫人うめ子は岡山縣士族吉田農夫也君の三女たり、現に大阪府西成郡玉出町に住す。

島津需吉君

廣島電氣株式會社取締役
廣島縣農工銀行監査役

君は廣島縣の人島津源三郎君の二男にして、明治十三年九月を以つて生る。明治三十四年早稻田大學政治經濟科を卒業するや財界に投じ現に前記の外藝備銀行廣島倉庫各株式會社の重役にして且つ廣島縣多額納稅者たり。

夫人を正子と稱し廣島縣の人三上藤四郎君の二女にして其の間に二男ありて公

一君及び裕吉君と稱す、現に廣島市上柳町に住す。

廣瀬德次郎君

北海道製糖會社常務取締役

君は兵庫縣士族井筒敦次郎君の令弟にして明治十二年三月四日を以つて生れ、明治三十八年十月先代きよ子の入夫となり家督を相續す。明治三十九年京都帝國大學理工科大學製造化學科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して神戸精糖株式會社技術長となり更に歐米及南洋各地を視察し、後ち帝國製糖株式會社に入りて神戸工場長、汽船部常務取締役等を歴任し現に前掲會社の常務取締役たる外帝國製糖、臺灣商事各株式會社の重役たり。

夫人シゲ子は東京府の人内山虎雄君の令妹にして鎌倉高等女學校の卒業なり、現に東京府豐多摩郡澁谷町中澁谷五一九番地に住し電話青山二〇三四番なり。

島定治郎君

大阪北港株式會社取締役
日新自動車株式會社監査役

君は大阪府の人島德治郎君の二男にして明治十年三月を以つて生る。明治二十六年慶應義塾に學び後ち實業界に走り、現に前記の外城北土地、日米板硝子、大日本除虫粉、島貿易各株式會社の重役として知らる。

曩に大正七年貴族院議員に當選せしことあり、夫人をきぬ子と稱す、現に大阪府三島郡山田に住す。

平塚廣義君

從四位勲三等
東京府知事

君は山形縣士族平塚榮次郎君の長男にして、明治八年九月を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第し、職を官界に奉じて内務屬に就任せり。

爾來福井、宮崎、三重各縣事務官等を經て新潟、神奈川各縣警察部長及び愛媛新潟各縣内務部長より栃木、長崎、兵庫各縣知事等を歴任し、大正十四年九月東京府知事に任ぜられ現在に及ぶ。

夫人シゲ子は東京府の人神谷茂太郎君の長女たり、現に東京市芝區芝公園一八號地に住し電話青山二三一〇番五三六九番たり。

東久世秀雄君

男爵　從三位勲三等
宮内省内匠頭

君は故正二位勲一等伯爵東久世通禧君の四男にして、伯爵東久世通敏君の令弟に當り明治十一年七月十九日を以つて生れ、特旨を以つて華族に列し明治三十年男爵を授けらる。

明治三十八年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに身を官界に投じ、農商務省に入りて山林事務官兼農商務省參事官に任じ、後ち貴族院書記官、皇后宮主事、宮内事務官、帝室林野局事務官等を歴任し以つて現在に及ぶ。

趣味として謡曲あり頗ぶる妙なりとか夫人小六子は實業家濱口儀兵衛君の長女にして東京女學館の卒業なり、現に東京市麻布區新龍土町六番地に住し電話青山五五二九番たり。

平田學君

北海道炭礦汽船會社秘書役兼人事課長

君は福岡縣の人平田作平君の長男にして明治四年五月五日を以つて生る。夙に福岡縣立中學校を卒ふるや暫らく福岡高等小學校に教鞭を執りしも後九州日報社に入りて君が健筆を縦横に揮ひ、社會民衆を稗益すること甚大なりしが後感ずるところありて笈を負ふて東上し、當時の國民英學會、專修學校等に入りて、苦學力行、造詣を積むこと五ヶ年に及べり。

偶々故伊藤博文公が統監として渡韓赴任するに際し、君即ち統監府機關新聞たる京城日報社編輯長に榮任せんとせしが圖らずも金子辰三郎氏の勸說するところとなり遂にこの擧を中止し、財界の巨頭園琢磨氏の紹介によりて三井家に入り、爾來同氏の秘書役として才腕を振ひしが後ち同じく三井系たる北海道炭礦汽船株式會社專務取締役磯村氏の知已に感じ、同社に轉じて其の秘書役兼人事課長に就任し以つて現在に及ぶ。

君や學識博大にして資性溫厚、而も恬澹且つ周密懇切にして君と接する何人も能く畏敬するところ、趣味頗る廣く就中將棋を能くし、俳句は三十余年の古き歴史を有し、殊に古書の蒐集に熱心にして漢學の如きに至りては已に書齊に滿ちて藏書家たるを失はざるべく、以つて其の人と爲りを知るべし、東京市外入新井町不入斗二五一番地に住し電話大森二四三番たり。

白鳥德之助君

東京市神田區長

君は長野縣の人白鳥永吉君の二男にして、明治十四年二月二日を以つて諏訪湖に近き上伊那郡に生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、研鑽大いに勉め然して明治三十二年浦和稅務署臨時雇員を振り出しに翌年東京市小石川區役所に轉勤し、爾來同區會計課、經理課等に恪勤精勵すること多年、同區の爲め貢獻すること甚大なりき。

斯くて大正八年五月東京市役所に轉じて東京市主事、同道路局主計課長、同庶務課長等を歴任し、大正十一年拔擢せられて東京市小石川區長に擧げられ、大正十三年再び東京市に入りて同地理課長、經理課長等の要職を經て、大正十五年十二月東京市本鄕區長に任ぜられ以つて現在に至る。

君や天資穎明にして闊達、人と交るに又懇切、而して其の永き尊き體驗によりて磨き上げたる隱れたる德望と敬虔なる風貌とは、正に君の全人格の表徵とも謂ふべく、其の絶えざる奮鬪努力により今日の地位を贏ち得たる是れ現代立志傳中

の人として恥かしからざる人物にして、著者は本書刊行に際し敢へて君の畧歴を記するに躊躇せざるものなり。

夫人をミエ子と稱す、現に東京市牛込區原町三ノ七番地に住し電話牛込二六四〇番なり。

芝　染太郎君

ジヤパンタイムス主幹兼主筆

君は愛媛縣士族芝誠明君の長男にして明治三年九月三日を以つて生る。夙に愛知縣立中學校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、青山學院に入り同校を卒業するやハワイに渡り、同地に於て四新聞を經營し同業界に活躍して名聲を博せり。

然して大正四年森村商事會社東京支店に入社し、後ち大正十年ジヤパンタイムス社に入りてその支配人に推され現に同社主幹兼主筆として知らる。趣味に讀書あり、余暇あればとれに耽溺するを常となす、現に東京市外荏原郡大井町瀧王子四六二〇番地に住す。

澁谷芳太郎君

石川縣多額納稅者
金澤米穀取引所員

君は石川縣の人三谷久次郎君の長男にして明治九年四月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に地方財界に活躍して重きをなす。

夫人シゲ子は富山縣の人水谷コト子の令姉にして其の間に久一君及びたみ子、ふさ子等あり、現に金澤市中町二番地に住し電話長九〇七番なり。

白石禎美君

樽倉電氣株式會社長

君は福島縣の人白石住之助君の長男にして明治十三年五月を以つて生る。現に樽倉電氣株式會社々長にして且つ福島縣多額納稅者たり。

夫人ユキ子は栃木縣の人山田忠吾君の長女にして、君との間に三男三女ありて義明君、靜男君、禎亮君及び佐惠子、愛子、トシ子等あり、現に福島縣東白川郡原に住す。

下田助次郎君

土木建築請負業
下田組頭取

君は神奈川縣の人下田政右衛門君の長男にして、安政元年八月三日を以つて神奈川縣足柄上郡南足柄村に生る。夙に實業界に身を投じ初め米穀及び製油業を營みしが、後ち土木建築界に名を成さんとの大志を抱き、鹿島組、星野組等の下請負をなせしも明治三十六年獨力下田組を興し、敢然業界の陣頭に立つて活躍せしかば漸次業勢加はり、爾來風雨幾春秋幾多の波瀾曲折を經て遂いに今日の大をなすに至れり。

曾つて隅田川製紙株式會社々長たる外草津鐵道株式會社の重役として活躍し、然して君の知友には今日我が財界に名をなすもの多く、現に財界に勢力を有し且つ福島縣憲政會の牛耳を握つて中央政界に令名ある大島要三君の如きは君の最も親しき知友なりといふ。

夫人をたき子と稱し其の間に政造君、德三郎君及びたか子、錦子等あり、因に長男政造君は慈惠醫大の出身にして目下日本橋に開業し、東都刀圭界に聲名あり東京市芝區芝公園七號地に現住し電話青山二〇一六番たり。

平山清次君

理學博士
東京帝國大學教授

君は宮城縣士族平山廣次君の長男にして明治三十年東京帝國大學理科大學星學科を卒業し、更に大學院に入りて斯學の蘊蓄を積み又夙に編歴法研究の爲め米國に留學せしことあり、現に正五位勳四等にして東京帝國大學教授たり。

夫人のぶ子は同縣の人佐藤信忠君の令妹にして君との間に廣次君、しげり子、ゆきえ子等あり、現に東京市麻布區新龍土町に住す。

塩田爲五郎君

麻布銀行頭取

君は東京府の人塩田てつ君の令弟にして明治四年四月を以つて生る、現に麻布銀行頭取たり。

夫人壽々子は東京府の人石井三九郎君の三女にして君との間に二男三女ありて仁君、信道君及び信乃子、貞子、鏡子等なり、現に東京市麻布區新網町二ノ八番地に住し電話青山三八二六番たり。

平山信君

理學博士　從三位勳二等
東京帝國大學理學部教授

當家は舊幕臣にして幕末大砲指圖役を勤めし家柄として知られ、君は前海軍大學教授平山順君の令弟にして慶應三年九月を以つて生る。明治二十一年東京帝國大學理科大學星學科を卒業し、更に大學院に入りて斯學の研鑽を積み、後ち英獨二國に留學し造詣を深くして歸朝するや東京帝國大學教授に任じ、後ち理學博士の學位を授けらる、我が邦星學界の泰斗を以つて知られ現に前記の職にある外東京天文臺長兼技師たり。

夫人藍子は東京府士族伊藤常夫君の令妹にして君との間に三男四女ありて担君、嵩君、健君及び百合子、多美子、厚子、千枝子等なり、現に東京市麻布區永坂町一番地に住し電話青山五五二四番たり。

庄司信吾君

北鄙製糸株式會社常務取締役
山形製紙株式會社監査役

君は山形縣の人庄司三郎君の五男にして明治二十五年八月を以つて生る。大正五年慶應義塾大學政治科を卒業するや、直ちに歸朝して地方實業界に投じ現に前記の外第一信託、早稲田商業銀行、日本薪炭各株式會社の重役たり。

夫人たけよ子は山形縣の人槇萬治郎君の二女にして君との間に三女ありて俊子、槇子、光子と稱す、現に山形縣北村山大石田に住す。

鹽田世綱君

鹽田鐵工場主

養父誠太郎君は正六位勳四等退役海軍機關少佐にして、退官後鐵器製造業を開始して斯界に令名あり。

君は山口縣の人柳寛三郎君の二男にして明治二十四年十二月を以つて生る。大正六年東京帝國大學法科大學經濟學科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに實業界に身を投じ、養父君の隠退により其の事業を繼承して鐵工業を營み、現に鹽田鐵工場主として斯界に令名高し。

夫人安喜子は養父誠太郎君の長女たり現に東京市小石川區西原町一ノ八番地に住し電話小石川一八二八番なり。

平野平兵衛君

帝國油脂株式會社取締役
大阪府多額納稅者

君は大阪府の人平野平兵衛君の長男にして明治二十七年十二月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ小麥粉卸商を營む傍ら帝國油脂、中外護謨各株式會社の重役にして且つ大阪府多額納稅者たり。

夫人靜枝子は東京府の人原田鎭治君の四女にして學習院女學部を卒業し、君との間に平吉郎君、和三郎君、四郎君、五郎君等あり、現に大阪市東區備後町三ノ二四番地に住し電話本局六三四番たり。

島崎新太郎君

東京日々新聞副主幹

君は京都府の人島崎八藏君の二男にして明治十五年一月二十一日を以つて生る夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治三十九年早稻田大學文科哲學科を卒業し、直ちに大阪毎日新聞社に入りしがまもなく一年志願兵として入營す。

然して退營後は大阪毎日新聞社の特派員として奉天に駐在し、大正三年東京日々新聞社に轉じ同八年歐米を漫遊して歸朝し、同社政治部長より地方部長、社會部長等を歷任して大正十四年九月副主幹となり今日に至る、趣味として角力、野球、觀劇等あり。

夫人とく子は京都府の人横田清次郎君の二女にして其の間に正二君、良介君、友治君及びきぬ子、いそ子等あり、現に東京市芝區二本榎西町二番地に住し電話高輪一一三四番なり。

塩谷宇平君

鐵島銀行取締役

君は岐阜縣の人先代宇平君の長男にして明治十年五月を以つて生る。明治三十一年早稻田大學邦語政治科を卒業し現に前記の外岐阜縣多額納稅者たり。

夫人ため子は岐阜縣の人內原源吾君の三女にして其の間に一男二女ありて瀧雄君及び萬枝子、峰子等なり、岐阜縣稻葉郡鏡島村に現住す。

柴田增次郎君

京都府多額納稅者

君は京都府の人柴田茂吉君の令弟にして、明治十七年十月を以つて生る。夙に實業界に投じて呉服問屋を營み、現に京都府多額納稅者として直稅三千五百三十余圓を納むといふ。

夫人ヨシエ子は京都府の人中村義輔君の三女にして君との間に尹夫君、候三君及び一子等あり、現に京都市下京區高倉六角下ルに住し電話中二二一七番なり。

平沼亮三君

青島製粉株式會社長
衆議院議員

横濱憲政會の重鎭として、且つ彼の關東大震火災當時東京から横濱まで驅け通して一躍マラソン界に謳はれ、而かも我が紳士的實業家として知らるゝ平沼亮三君は、神奈川縣の人平沼九右衛君の長男にして明治十二年二月十五日を以つて生る。

明治三十一年慶應義塾を卒業するや直ちに財界に投じ、現に南進公司護謨、青島製粉各株式會社々長たる外麒麟麥酒、ポルネオ護謨、古河電氣工業、日本タイプライター各株式會社の重役にして、曩に横濱市より推されて衆議院議員に當選し現に憲政會に屬す。

明治三十六年以來横濱市會議員に選ばるゝこと數回、神奈川縣會議員たること數回、且つ名縣會議長として鳴らし大正十一年市會議長に就任せり、尙ほ神奈川縣多額納稅者にして現に直接國稅三千九百四十余圓を納むといふ。

夫人婦美子は京都府の人高木豊三君の二女にして共立女子職業學校の卒業なり現に横濱市西平沼町七五番地に住し電話三〇八番なり。

定塚門次郎君

日比谷商店取締役
日比谷銀行取締役

君は富山縣の人定塚三右衛門君の四男にして明治十九年九月を以つて生る。現に前記の外武藏整織株式會社監査役たり現に東京市麴町區富士見町二ノ三十二番地に住す。

正田貞一郎君

日清製粉株式會社長

君は群馬縣の人正田作次郎君の長男にして、明治三年二月二十八日を以つて生る。明治二十四年東京高等商業學校を卒業するや歸鄕して醬油釀造業に從事し、同三十四年館林製粉株式會社を創立して自ら經營の任に當り、同四十年日清製粉株式會社設立と共に之に合併し同社專務取締役に擧げらる。

尙ほ曾つて正田醬油株式會社取締役、岡田商店、日本醬油、千代田工業、輸出國產各株式會社の監査役たりしが現時は日清製粉株式會社々長たる外東京製パン株式會社長、東武鐵道、日清紡績、日本共立火災保險各株式會社の重役として知らる。

夫人きぬ子は群馬縣の人正田文右衛門君の長女にして高等女學校の卒業たり、現に東京市小石川區小日向臺町一ノ二二番地に住し電話小石川九七二番なり。

勝田主計君

從三位勳一等　貴族院議員

君は舊高松藩士勝田久廉君の五男にして、明治二年九月十五日を以つて生る。夙に東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官職を奉じ、大藏屬となり同廿九年文官高等試驗に合格し同卅年稅關檢査官に任ぜられ、爾來稅務監督官、函館稅關長兼函館稅務管理局長、稅關事務官、大藏書記官、臨時國債整理局書記官同局長、大藏省理財局長等に歷任す。

大正二年山本內閣成るや大藏次官に擧げられ同三年貴族院議員に勅選せられ、尋いで朝鮮銀行總裁となり寺內內閣の成立を見るや大藏次官に任ぜられ同五年十二月大藏大臣に親任せられ、同十三年清浦內閣成るや再び大藏大臣として臺閣に列す。

曩に明治卅四年より卅六年に亘り浦鹽斯德歐洲及清韓兩國に差遣せられ、大正三年再び歐洲に航し大正九年三度歐米各國を巡遊す、明治四十二年以降支那に漫遊すること數回に及ぶ、現に東京府豐多摩郡中澁谷五六五番地に住し電話青山二〇四五番なり。

志水源兵衞君

小濱銀行取締役
福井縣多額納稅者

君は福井縣の人松田源助君の二男にして、明治二十五年十一月を以つて生れ先代源兵衞君の養嗣子となる。現に前記の外若州製糸、小濱運送倉庫各株式會社の重役として知らる、現に福井縣遠敷小濱門君の長女たり、現に大阪市南區玉屋町四十三番地に住し電話南六四五〇番なり

白井松次郎君

千日前土地建物株式會社長
京都府多額納稅者

君は京都府の人大谷榮吉君の長男にして、明治十年十一月を以つて生れ先代龜吉君の養嗣子となる。現に前記の外松竹キネマ、松竹座各株式會社取締役たり。

夫人ヤエ子は京都府の人大久保傳右衞

幣原喜重郎君

男爵　從三位勳一等

君は文學博士幣原担君の令弟にして、明治五年八月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業し翌二十九年外交官及領事官試驗に合格す。

爾來仁川、倫敦各領事官補、アングエルス、釜山各領事、外務書記官、外務省取調局長、米國、英國各大使館參事官、和蘭兼丁抹駐劄特命全權公使、外務次官米國駐劄特命全權大使等を歷補し大正九年勳功に依り特に華族に列し男爵を授けらる。

大正十年米國駐劄ワシントン會議に全權委員として參列し、同十一年臨時外務省の事務に從事し同十三年加藤內閣成るや外務大臣に親任せらる、現に東京市本郷區駒込上富士前町に住す。

白塚大三郎君

松坂銀行取締役
日印通商株式會社監査役

君は三重縣の人間宮新助君の長男にして、明治二年七月を以つて生れ先代代三郎君の養嗣子となる。現に前記の外松坂鐵道、南勢紡績、三重土地、伊勢殖產、三重合同電氣各株式會社の重役たり。

尙ほ君は三重縣多額納稅者にして現に直接國稅二千六十余圓を納め當地方の勢力家たり、現に三重縣飯南郡松坂町に住す。

平田敏雄君

東京女子高等師範學校教授

君は和歌山縣士族平田綱一郎君の長男にして明治六年六月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學理科大學を卒業するや、更に大學院に入りて研鑽を積み、明治三十二年東京女子高等師範學校教授に任ぜられ以つて現在に及べり。

夫人常子は故陸軍少將小島政利君の二女にして其の間に三男四女あり、現に東京市本郷區駒込西片町一〇番地に住し電話小石川三〇七二番たり。

斯波忠三郎君

男爵　從三位勳二等
工學博士　貴族院議員

當家は舊金澤藩の國老にして代々一萬石を領し、先代蕃君に至り男爵を授けらる。君は蕃君の長男にして明治五年三月八日を以つて生れ、同卅九年襲爵仰せ付けらる。夙に第一高等學校を經て東京帝國大學工科大學に學び、更に同大學院に進み舶用機關學を專攻せり。

明治廿九年工科大學助教授に任ぜられ同卅一年同教授に進み同年文部省に入り同省より選ばれて海外留學を命ぜられ、英獨佛の三ケ國に遊び專心舶用機關學の蘊奧を極め、ディー、エス、シーの學位を得て歸朝す。

然して一千九百一年英國グラスゴーに工學會議開催せらるゝや、名譽會員として參列し、明治卅八年八月南清に於ける造船造機及び交通機關視察の爲め出張、同卅九年本邦最初の海底電線布設船の設計及監督を囑託せられ、同年海軍大學の教官を囑託せられ應用力學の講座を擔任し特許局技師を兼ねたり。

尙ほ又學習院評議員、特別都市計畫委員會委員、文政審議會學術研究會議員等を歷補し、大正六年貴族院議員に互選せられ、現に其の任にある外東京帝國大學教授、航空研究所長、帝國海軍協會理事機關學會々長等を兼ね本邦學界の泰斗たり、現に東京市本郷區駒込曙町一六番地に住し電話小石川四四番なり。

白崎仁三郎君

東亞工業株式會社常務取締役

君は福井縣の人白崎佐五右衞門君の長男にして明治七年七月を以つて生る。夙に實業界に志し、現に前記の外大福商店福井撚糸染工各株式會社の重役にして、且つ福井縣多額納稅者にして直稅千七百

九十余圓を納むといふ。

夫人ちか子は福井縣の人小川宇右衛門君の長女にして君との間に切君及び靜子等あり、福井縣吉田郡森田町に現住す。

志村源太郎君

從四位勳三等
貴族院議員

君は山梨縣の人志村宇平君の長男にして慶應三年三月一日を以つて生る。明治二十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに官界に投じ農商務省參事官、同秘書官、法制局參事官、農商務省工務局長等を歴任す、曾つて勸業博覽會出品課長として功勞あり藍綬褒章を賜はる。

後日本勸業銀行相談役、横濱正金銀行檢査役、同外國課長等を經て再び日本勸業銀行に入り副總裁より總裁の要職に就き在職二十一年後辭して現に貴族院議員たる傍ら大藏省預金部資金運用委員會委員、農林省米穀委員會委員たり。

夫人を直子と呼び東京府士族藤岡正信君の令妹にして跡見高等女學校の出身たり、現に東京市小石川區金富町四〇番地に住し電話小石川一五八番なり。

平野忠太郎君

新潟貯蓄銀行取締役

君は新潟縣の人平野六平君の四男にして、明治三年一月を以つて生る。夙に實業界に投じ現に前記の外東洋物産株式會社專務取締役たり。

夫人クメ子は新潟縣の人早川寅次郎君の長女たり、現に新潟市西湊町通四ノ一番地に住し電話六三五番なり。

斯波貞吉君

大勢新聞社長
衆議院議員

君は斯波有造君の長男にして明治二年八月を以つて生る。明治二十二年より同二十四年迄英國オックスフォード大學に留學し、更に明治二十九年東京帝國大學文科大學英文科選科を卒業するや盛岡中學校及佛教大學に教鞭を執り、同三十二年萬朝報英文言論記者となり、同四十年同社編輯長に任ぜらる。

然して大正十四年大勢新聞社創立と共に其の社長兼主筆となり、大正十四年東京府郡部より推されて衆議院議員に當選し以つて現在に及ぶ、寫眞、書畫等に趣味を有すといふ。

夫人ヤス子は福井縣士族橋本知貞君の長女にして東京女子高等師範學校を卒業し、現に文華高等女學校長として令名あり、東京府豐多摩郡代々幡町代々木一六六番地に現住し電話四谷七八番なり。

篠原藏司君

千葉縣多額納稅者
小草畑銀行取締役

君は千葉縣の人先代篠原藏司君の三男にして明治二十五年十月を以つて生る。夙に實業界に入り現に小草畑銀行取締役にして、且つ千葉縣多額納稅者たり、

夫人サカエ子は愛媛縣の人德田波江君の令妹にして君との間に二女ありて菊子及びみどり子と稱す、現に千葉縣山武郡に住す。

白石元治郎君

實業家

我が財界の巨星白石元治郎君は新潟縣士族前山保太郎君の令弟にして、慶應三年七月を以つて生れ先代武兵衛君の養嗣子となる。夙に東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、淺野商店に入り明治二十六年石油部支配人に擧げられ、同二十九年總一郎翁東洋汽船會社を創立するや、之に參劃し同社の設立と共に支配人に擧げられ同三十一年歐米各國を歴遊して彼地の海運業を視察し歸朝後は專ら同社の經營に任ぜり。

次いで同社桑港支店長として赴任し同三十五年歸朝し、翌三十六年同社取締役兼支配人に推擧せられ、爾來各種の事業に關與し現に日本エナメル、帝國人造肥料、日支炭礦、中央製鐵各會社々長たる外日本鋼管、東京灣埋立、淺野造船所、淺野同族、淺野石材工業、淺野小倉製鋼所、大島製鋼所、東海鋼業、東洋汽船、樺太汽船、庄川水力電氣、關東水力電氣帝國蓄電池、磐城炭礦、大日本石油礦業大日本自轉車、京濱運河、淺野物産、山元オブラート等各株式會社の重役として令名高し。

夫人をまん子と呼び我が財界の巨頭淺野總一郎君の二女たり、現に東京市芝區三田功運町一番地に住し電話高輪四〇二番なり。

白鳥保五郎君

甲子製紙株式會社取締役

君は青森縣士族杉山壽之進君の令弟にして、明治六年五月を以つて生れ後白鳥家の養嗣子となる。明治二十六年中央大學法科を卒業するや、直ちに實業界に投じ第百銀行に入り、累進して京橋支店長たりしが後ち辭して現に前記の職にあり

夫人きや子は青森縣の人藤田武君の令姉にして君との間に達三君、武夫君及びゆき子等あり、現に東京市麻布區富士見町九番地に住す。

澁澤義一君

實業家

君は子爵澁澤榮一君の從弟たる澁澤喜作君の三男にして、明治十二年五月四日を以つて生る。明治三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、直ちに第一銀行に入りて實務を修得する事數ヶ月、後ち澁澤商店に入り經營者長太郎氏の沒後營業を繼承して蠶糸貿易商を營み傍ら横濱火災海上保險、横濱生命保險各株式會社の重役及横濱商業會議所副會頭たり。

曩に大正八年米國に遊ぶ、神奈川縣多額納稅者にして現に直接國稅一萬八千七百余圓を納め横濱に於ける有數の實業家として令名高し、趣味として文學あり。

夫人貞子は清野長太郎君の長女にして

御茶の水高等女學校の出身たり、現に東京市外荏原郡入新井町新井宿二八〇八番地に住す。

島居幸雄君

廣島縣多額納稅者
尾道銀行取締役

君は廣島縣の人島居儀右衞門君の令弟にして明治四年七月を以つて生る。夙に實業界に志し現に前記の外藝備銀行、尾道輕便鐵道、廣島合同貯蓄銀行各株式會社の重役たり。

尙ほ尾道商業會議所副會頭にして且つ廣島縣多額納稅者として、直稅二千四百十余圓を納むといふ、現に尾道市土堂町五三番地に住す。

清水近太郎君

加須銀行常務取締役

君は埼玉縣の人先代善兵衞君の令孫にして明治元年四月を以つて生る。現に加須銀行常務取締役にして、且つ埼玉縣多額納稅者たり。

夫人なか子は茨城縣の人長澤時之助君の叔母君にして其の間に晃一郎君、健次郎君、輝次君、敏三郎君及び豐子、きく子等あり、現に埼玉縣北埼玉郡加須に住す。

平井清君

實業家

君は兵庫縣の人平井清右衞門君の長男にして明治十三年一月を以つて生る。曾つて池田倉庫株式會社取締役たりしが現時は北攝銀行取締役、猪多川水力電氣株式會社常務取締役にして且つ桃園溫泉土地株式會社取締役たり。

夫人フジ子は大阪府の人小山定治郎君の二女にして其の間に一男三女あり、現に兵庫縣川邊郡東谷町に住す。

下村宏君

法學博士　從三位勳二等
朝日新聞社專務取締役

君は和歌山縣士族先代房次郎君の長男にして、明治八年五月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや官界に投じ、爾來遞信書記官、北京郵便局長、爲替貯金局長、遞信官吏練習所長、臺灣總督府民政長官、同府總務長官等を歷任し、後ち官界を去りて歐米を巡遊し歸朝後朝日新聞社專務取締役に就任し現在に及べり。

曩に白耳義に留學し斯學の研鑽を積みて歸朝し、大正八年法學博士の學位を授けられ、曾つて中央法政早稻田東京商科各大學の講師たりしことあり、著書多く就中「財政學」「富と貯蓄」「貯蓄機關論」「日本國民性論」「歐米より故國」歌集「芭蕉の葉陰」等は著名なるものなり。

夫人ふみ子は東京府の人佐々木興一君の令妹にして君との間に一男あり、現に兵庫縣西宮市外苦樂園に住す。

清水義彰君

愛媛銀行取締役
松山土地建物會社監査役

君は愛媛縣の人清水藤三郎君の長男にして明治五年一月を以つて生る。明治二十八年中央大學を卒業するや直ちに地方財界に活躍し、現に前記の外南海電氣、三津濱煉瓦、伊豫電氣鐵道、松山瓦斯各株式會社の重役として知らる。

夫人ヤウ子は愛媛縣の人渡邊滿弘君の長女にして其の間に哲作君、卓三君及び年子、章子等あり、現に松山市湊町四番地に住す。

廣岡惠三君

加島銀行頭取
大同生命保險株式會社長

關西實業界の重鎭廣岡惠三君は子爵一柳末幸君の伯父君にして、明治九年二月を以つて生れ後ち先代信五郎君の養嗣子となる。明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに三井銀行に入り幾許もなく同行を辭し、現に加島銀行頭取たる外廣岡合名會社代表社員、大同生命保險株式會社々長にして尙ほ白木屋呉服店、東洋綿花、神戸瓦斯各株式會社の重役として聲名あり。

夫人カメ子は養父信五郎君の長女にして君との間に喜一君及び多惠子、八重子佐惠子、美惠子等あり、現に大阪市北曾根崎中町一ノ一〇六番地に住し電話長北六七八番なり。

下村正之助君

北海木材株式會社專務取締役
北海ホテル監査役

君は富山縣の人野村五右衞門君の令弟にして明治十一年二月を以つて生れ後ち先代長藏君の養嗣子となる。現に前記の外山田屋信託、丸肥旭川肥料、天鹽水電阿部式電氣時計製作所、上川市場各株式會社の重役たり。

夫人マキ子は北海道の人大山精一君の長女にして君との間に健一君、修二君及びソノ子、セツ子、サダ子等あり、現に北海道旭川市五番通六番地に住す。

四田鋭吉君

岐阜日々新聞社長

君は岐阜縣士族四田重秋君の長男にして明治元年四月を以つて生る。夙に東京專門學校政治經濟科を卒業し、曩に讀賣新聞記者、富山日報、九州日報、北陸タイムス各主事等を歷任し、又支那廣東、福建、江蘇、浙江、湖北、直隸各省及滿洲並に露領西比利亞を視察せしことあり。

然して岐阜縣民多數の輿望を擔つて衆議院議員に當選すること前後三回に及べり、夫人を貞子と稱す、現に東京府下大森町八幡に住す。

廣田精一君

神戸高等工業學校長

正五位廣田精一君は廣島縣士族廣田紋三郎君の二男にして、明治四年十月を以つて生れ先代アキ子の養子となる。明治

二十九年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業するや直ちに獨逸に航し、伯林シーメンス、ハルスケ電氣會社電力部に入社し技術を研鑽すること二ケ年、而して在獨中高田商會の聘に應じ同倫敦支店詰となり、同三十一年歸朝するや電氣部長に推さる。

明治三十八年茨城電氣株式會社創立せらるゝや、其の取締役に擧げられ同四十年私立電機學校を創立し理事長となりしも、大正十年神戸高等工業學校長に任ぜられ以つて現在に至る。

廣瀨實光君

實業家

君は東京府の人廣瀨榮君の二男にして明治七年八月を以つて生る。現時は日本玩具株式會社々長たる外日本陶器、森村商事、坂部商會、南米商事、森村組、ミカド貿易、日本貿易、日本硝子各株式會社の取締役にして且つ東洋陶器株式會社監査役たり。

夫人沽龍子は東京府士族鄭永昌君の長女にして其の間に一男三女あり、現に名古屋市東區撞木町一ノ五番地に住す。

下村晴三郎君

畫家

君は東京府の人下村豐次郎君の三男にして明治六年四月を以つて生る。明治二十七年東京美術學校日本畫科を卒業せり雅號を觀山と稱し、大正三年斯界の泰斗横山大觀等と日本美術院を再興し、爾來文部省に對抗して毎年展覽會を開き、現に其の幹事として且つ日本畫界に令名あり。

夫人をせん子と稱し東京府の人山田鑑士君の四女にして君との間に時春君、英時君、豐君、弘君及び千代子、喜久代子等あり、現に横濱市本牧町一三三九番地に住す。

廣瀨德藏君

衆議院議員

從七位辯護士辨理士廣瀨德藏君は大阪府の人廣瀨種藏君の長男にして明治十一年五月を以つて生る。明治三十四年關西大學法科を卒業し現に辯護士にして大阪市選出衆議院議員たり、尙ほ曩に大阪府會議長、同市參事會員たりしことあり。

夫人を益江子と呼ぶ、現に大阪市北區木幡町六四ノ一番地に住し電話北二五七〇番なり。

白山茂次郎君

白山殖產株式會社取締役

君は兵庫縣の人白山保三郎君の二男にして明治二十三年五月を以つて生る。大正四年慶應義塾法律科を卒業するや身を財界に投じ、現に白山殖產株式會社取締役として知らる。

夫人フサ子との間に弘太郎君、武次郎君、勝三君、邦四郎君及び喜久子等あり現に兵庫縣武庫に住す。

柴山雄三君

正五位勳四等
東京鑛山監督局長

君は滋賀縣の人樋口外吉君の令弟にして、明治十六年一月を以つて生れ、後ち先代重幸君の養嗣子となる。明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、同年直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて、職を官途に奉じ、爾來、農商務省山林事務官、商工局事務官兼農商務省參事官、臨時產業調査局事務官、農商務書記官、農商務省畜產局畜政課長、商工事務官、特許局審判部長等を歷任し昭和二年六月東京鑛山局監督局長に榮轉し以つて現在に及ぶ。

夫人まつ江子は養父重幸君の長女にして君との間に幸雄君、正雄君、武雄君及び峯子、秀子、民子等あり、現に東京市小石川區表町一〇九番地に住し電話小石川六三二〇番たり。

白根松介君

男爵　正四位勳三等
宮內大臣秘書官兼宮內事務官
大臣官房庶務課長兼秘書課長

當家は世々山口藩士にして、祖父多助君は勤王家を以つて聞え、維新後任官して埼玉縣知事に至り、而して先代專一君は其の二男にして、夙に官界に職を奉じて秋田縣大書記官、內務省大書記官、愛媛、愛知各縣知事、內務次官、遞信大臣等を歷任し、明治三十年功に依り特旨を以つて男爵を授けらる。

君は其の二男にして、明治十九年十月を以つて生れ同三十一年襲爵仰せ付けらる。夙に學に厚く、明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業するや官途に職を奉じ、爾來、爲替貯金局書記、帝室會計審査官補、同審査官等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人喜美子は茨城縣の人金塚仙四郎君の長女にして君との間に精一君及び富美子、美穗子等あり、現に東京市麴町區一番町二番地に住し電話九段六一六番たり

日比野寛君

愛知商事株式會社常務取締役

正五位勳四等日比野寛君は愛知縣の人織田文信君の二男にして、慶應二年十一月を以つて生れ後ち日比野くに子の養嗣子となる。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業し、愛知縣立第一中學校長に任じ、曾つては衆議院議員として中央政界に鳴らせしことあり。

斯くて後ち實業界に參じ、現に愛知商事株式會社常務取締役にして且つ本邦體育界に靈瘁すること尠からずマラソン王として知らる。

夫人をふさ子と呼び愛知縣の人山田常重君の三女にして其の間に五男一女ありて弘君、正君、進君、安君、明君及び千代子と呼ぶ、現に愛知縣愛知郡東山村に住し電話東一二一八番なり。

澁谷德三郎君

正七位勳七等
東京市京橋區長

君は宮城縣の出身にして、明治三年三月二十日を以つて同縣黑川郡大松澤村に生る。明治二十二年宮城縣師範學校を卒業するや、直ちに地方教育界に投じ、爾來、明治三十二年に至るまで十年一日の如く縣下各學校に訓導としてはた又名校長として盡瘁すること甚大、遂に同年六月拔擢せられて同縣名取郡視學に擧げられ、後ち栗原郡視學に轉じ、明治三十八年三月辭して上京す。

斯くて、直ちに文部屬に任じ、傍ら日本大學法科に入りて同校正科を卒業し、爾來、文部省普通學務局第一課長、日本大學教務部長囑託、東京高等師範學校講師、埼玉縣女子師範學校長、東京市主事教育課長、東京市學務課長、兼任東京市講師等を歷任す。

然して、大正十一年九月東京市麹町區長に擧げられ、更に本郷區長を經て大正十五年十二月東京市京橋區長に轉じ以つて現在に及ぶ。

現に東京市小石川區林町七十番地に住す。

廣川周造君

魚津銀行取締役
富山縣多額納稅者

君は富山縣の人廣川久松君の長男にして、明治十三年十月を以つて生る。夙に地方財界に活躍し、現に魚津銀行、實業銀行、入善銀行、泊銀行各株式會社取締役にして且つ富山縣多額納稅者たり。

夫人メッエ子は富山縣の人金木三郎君の長女にして君との間に久君及び久榮子文子等あり、富山縣下新川横川に住す。

志賀和多利君

辯護士　鐵道參與官
衆議院議員

君は岩手縣の出身にして、明治七年十月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて上京し、研鑽琢磨、明治三十三年日本大學法科を卒業するや直ちに文官高等試驗及び判檢事登用試驗に登第す。

斯くて、職を官途に奉じて司法官試補檢事代理たりしが、後ち辭して辯護士事務所を開設し一般法律事務を掌り、而して衆議院議員に當選すること前後二回、現に其の任にありて中央政界に重きをなし、昭和二年四月田中内閣成立するや鐵道參與官に任ぜらる。

夫人リセ子は新潟縣の人石山保吉君の二女にして君との間に學而君及びやな子等あり、現に東京市本郷區本郷五ノ十六番地に住し電話小石川四七六〇番たり。

白根竹介君

正五位勳五等
富山縣知事

當家は先々代多助君より其の家名を擧ぐ、同君は夙に埼玉縣令として國家に忠勤すること甚大なりき。

君は先代勝次郎君の長男にして、男爵白根松介君の從兄君に當り、明治十六年五月を以つて生る。明治四十一年東京帝國大學法科大學を卒業するや翌年文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、靜岡縣警視、同事務官補、同磐田郡長、山梨縣理事官、同警察部長、山形縣警察部長、岐阜、京都、東京各府縣内務部長等を歷任し、更に岐阜縣知事等を經て富山縣知事に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人を末賀枝子と稱し君との間に五男三女あり、現に同縣知事官舍に住す。

社本劒次郎君

社本護謨合資會社長

最近我が國に於けるゴム工業は著しき發達を遂げたりと雖も、尙ほ斯業界に無限の進歩改良を加へらるゝは勿論、恐らくは將來ゴム萬能の時代到來すること疑なかるべし。

夙に斯業の將來有望なるに着眼して、專心これが改善發達に盡瘁する我が合資會社社本ゴム工場代表者社本劒次郎君は名古屋の產にして大正五年淺草區福井町に營業を開始し、爾來、多少の消長ありしも業績順調を辿るに至れり。

然して大正十四年十二月現在の地に移轉し、同時に組織を合資會社に變更して自ら同社代表社員として斯業の改善發達に日夜精勵し、君が斯業の蘊蓄と研究的精神とは相俟つてゴム工藝品に優秀なる製品を出し、殊に海水浴帽の製作は君獨特の塗料法を案出し內地に於ける同製品の到底追隨し得ざる優秀品を廣く需用者に提供して多大の好評を博せり。

尙ほ最近特許を得たる列車專用自由輕便枕の如きは從來の空氣枕と全く其の趣きを異にし、使用に際し形体及び使用法を七樣に變化し得るの特色を有し、汽車旅行は勿論家庭用としても最適品にして而も尙ほ該品は浮揚力と防水力とを具備する關係上船中に用ひて航海中の非常用救命具として其の効力絕大なるものにして、今や是等優秀品の製作其他一般ゴム工業品の製作販賣に精勵し、常に三十有余名の從業員を督勵して一ヶ年數十萬圓の製產額を示し、本邦ゴム工業界の白眉を以つて目さゝに至れり。

今や我が工業界は年と共に發展の步調を辿る季に際し、我が社本劒次郎君に俟つべきもの蓋し多々なるべく、斯業の爲め邦家に貢獻すること甚大ならん、東京市下谷區御徒町二ノ十六番地に住す。

廣海惣太郎君

貝塚銀行頭取
泉州物產株式會社監査役

君は大阪府の人廣海惣爺君の長男にして、明治十一年四月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して其の敏腕を斯界に鳴らし、現に貝塚銀行頭取たる外泉州物產、木辰酒造、岸和田煉瓦綿業、泉醬油東洋商工各株式會社重役として知らる。

夫人をノブ子と稱す、現に大阪市泉南貝塚に住し電話十一番たり。

白川義則君

正三位勳一等功三級
陸軍大臣

君は愛媛縣士族先代義信君の令弟にして明治元年十二月を以つて生る。夙に陸軍士官學校及び陸軍大學校を卒業し、累進して大正十四年三月陸軍大將に陞進す

其の間陸軍士官學校教官、守正王附武官、歩兵第二十一聯隊大隊長、人事局課員、歩兵第三十四聯隊長、第十一師團參謀長、中支那派遣隊司令官、歩兵第九旅團長、陸軍省人事局長兼俘虜情報局長官陸軍士官學校長、第十一師團長、第一師團長、陸軍次官兼航空局長官、鐵道會議々員、道路會議々員、馬政委員會議々員陸軍技術會議々長、港灣調査委員、海事委員會委員、中央統計會委員、關東軍司令官等を歷任し、昭和二年四月田中政友會内閣成るや臺閣に列して其の陸軍大臣に親任せらる。

夫人をタマ子と稱し君との間に義正君義直君、元春君、浩君及びキヨ子、ハマ子等あり。

島田七郎右衛門君

高岡新報社監査役
高岡電燈株式會社取締役

君は富山縣の人島田七郎右衛門君の長男にして、明治十六年一月十六日を以つて生る。退役陸軍中尉にして大正十三年十一月北陸に擧行せられたる陸軍特別大演習の際御前講演の光榮に浴す。

現時は前記の外北陸製絹、中越土木、笹川窯業、岡吉商事各株式會社の重役にして且つ福岡町長たり。

夫人壽加子との間に二男三女あり、現に富山縣西礪波福岡に住す。

重松養二君

日進電機株式會社取締役

君は舊鳥取藩士重松貞幹君の二男にして、明治二年二月を以つて生る。明治二十五年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて、三菱合資會社に入りて同社技師として槇峰、生野、佐渡各鑛山を歷勤し同四十年西谷鑛山長となり、大正元年高取鑛山長を經て本社詰を命ぜられ、更に大正五年鑛山部專務理事に榮進、同七年合資會社より分離して三菱鑛業株式會社成立するや擧げられて同社常務取締役に就任す。

然して後ち同社を辭し、現に日新電機株式會社取締役たり。夫人をあや子と稱し君との間に五男四女あり、現に東京市芝區高輪南町五三番地に住し電話高輪二九九番たり。

下村齋次郎君

日米商店常務取締役
中外護謨株式會社取締役

君は兵庫縣の人下村德郎君の長男にして、明治十九年三月を以つて生る。夙に實業界に活躍し、現に前記の外東海鋼業大日本自轉車、帝國蓄電池各株式會社の重役として知らる。

夫人をシン子と稱し君との間に三男一女あり、現に兵庫縣武庫郡御影に住す。

清水泐平君

松尾鑛業株式會社專務取締役

君は東京府の人清水忠助君の三男にして、明治二十年十一月五日を以つて生る明治四十三年早稻田大學商科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて增田貿易株式會社に入社し、上海支店長に擧げられ、大正十三年同社を辭して松尾鑛業株式會社に轉じ、同社常務取締役に推され以つて現在に及ぶ。

夫人君子は京都府士族市川亮明君の長女にして同志社女學校の出身たり、現に東京市牛込區市ヶ谷富久町一一三番地に住し電話牛込五九五三番たり。

下野直太郎君

正四位勳三等
東京商科大學教授

君は岐阜縣の人下野甚助君の長男にして、慶應二年十月を以つて生る。明治二十一年東京高等商業學校を卒業す。

曩に東京高等商業學校教授を勤め且つ東京海上火災保險株式會社の創立に參劃し、又商業學研究の爲め英國に留學せしことあり、現に東京商科大學教授たり。

夫人勢伊子は岡山縣士族岸本繁三郎君の三女にして君との間に一女あり、東京市麹町區富士見町二ノ一番地に現住す。

平川松太郎君

辯護士　特許辯理士
衆議院議員

君は神奈川縣の人先代久八君の長男にして、明治十年一月を以つて生る。明治三十四年中央大學法科を卒業するや直ちに辯護士登用試驗に登第す。

斯くて、辯護士事務所を開設して一般民事法律事務を掌り、現に傍ら衆議院議員たり。

夫人コマ子は神奈川縣の人田村信懋君の令妹にして君との間に憲一君及び和枝子あり、現に神奈川縣足柄下郡小田原に住す。

清水新平君

長江硝子工業株式會社取締役
中國工商株式會社取締役

君は秋田縣の人清水豐作君の二男にして明治二十年三月を以つて生る。明治四十二年東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

現に中日實業株式會社支配人たる外前記各株式會社の重役として知らる。東京市外下澁谷一四三七番地に現住す。

芝義太郎君

雄別炭礦鐵道株式會社取締役

君は愛媛縣士族芝義方君の長男にして明治六年二月八日を以つて生る。夙に實業界に投じ、曾つて龍田炭礦社長、北海道炭礦鐵道取締役たりしことあり。

夫人をムメ子と稱す、東京市外上目黑一七〇一番地に現住す。

志茂成保君

從七位　陸軍二等主計
大正活映株式會社常務取締役

君は舊幕臣星野豐後守の男成一君の長男にして、明治十六年二月を以つて生れ後ち宮城縣士族志茂家の養嗣子となる。

夙に仙臺東北學院文科に學び、次で早稲田大學政治經濟科に入り、明治四十年優秀の成績を以つて卒業するや直ちに實業界に投じ、明治四十四年東洋汽船株式會社に入社し、其の間本邦風土文物を映畫に收めて海外に輸出し、外遊團吸收策に効果を得たるに鑑み專念活映事業に盡瘁し、後ち大正活映株式會社を設立して同社常務取締役に任じ以つて現在に及ぶ。

然して大正十一年松竹キネマ株式會社と提携して各地に常設館を設置し、且つ研勵會を組織して其總務となり舞踊所作及音樂の振興に精勵するを以つて知らる。

夫人をキヨ子と稱し君との間に英保君及び千里子、萬里代子、億代子等あり、現に東京市赤坂區青山南町七ノ二番地に住す。

廣田乙吉君

實業家

君は神奈川縣の人廣田德八君の三男にして、明治六年十月を以つて生る。現に回漕業を營み長福回漕店と稱し傍ら金剛ペイント會社横濱出張所長たり。

夫人ハル子は神奈川縣の人黒川繁松君の二女にして君との間に德富君、隆君、曠君等あり、現に横濱市北仲通三ノ四〇番地に住す。

柴山昌生君

男爵　正四位勳五等

當家は先代矢八君より家名を揚ぐ。矢八君は元帥大勳位東郷平八郎君の從弟君にして、且つ在郷海軍中將東郷吉太郎君の叔父君に當り、夙に海軍に志し明治七年海軍中尉に任じ同三十八年海軍大將に陞進す。

其の間水雷局長、參謀本部海軍部第二局長、横須賀鎮守府參謀長、海門、高千穗各艦長、海軍兵學校長、常備艦隊司令長官、海軍大學校長、吳、佐世保、旅順各鎮守府司令長官等を歷補し、明治四十年日露戰爭の功により特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は其の長男にして、明治十七年八月を以つて生れ大正十三年襲爵仰せ付けらる。

夫人むめ子は東京府士族園田清彥君の令妹にして君との間に一男二女あり、東京市麴町區上六番町一九番地に現住す。

人見吉彥君

帝國製紙株式會社取締役
日本擬革株式會社監査役

君は愛媛縣の人增井喜太郎君の令弟にして、明治十七年五月を以つて生れ、後ち新助君の養嗣子となる。大正二年東京帝國大學工科大學を卒業し現に前記諸會社の重役たり。

夫人良子は養父新助君の長女たり、現に東京市本郷區駒込動坂町三四番地に住し電話小石川一三一四番たり。

芝小路豐俊君

男爵　正四位勳四等功五級

當家は內大臣藤原鎌足の裔從五位豐訓君の分立するところなり、豐訓君は明治二年堂上の格を賜はり芝小路と稱し同八年特旨を以つて華族に列し男爵を賜はる。

君は豐訓君の長男にして、明治十一年七月を以つて生れ同十七年男爵を授けらる。夙に陸軍士官學校に學び現に騎兵第十六聯隊附たり、曩に陸軍大學校馬術教官騎兵第二十五聯隊附たりしことあり。

夫人を鈴子と稱し男爵川田龍吉君の令妹にして君との間に豐英君及び俊子、政子、豐和子等あり、現に千葉縣千葉市津田沼騎兵第十六聯隊官舍に住す。

弘世助太郎君

從七位勳五等
日本生命保險株式會社專務取締役

當家は江州彥根町の素封家にして、先代助三郎君に至り紙商を創めしが後ち國立銀行設立と共に其頭取に擧げられ、爾來、銀行家として名あり。

君は先代助三郎君の長男にして、明治四年十二月を以つて生れ、大正二年家督を相續すると共に父の遺業たる銀行業に從事して地方金融界に聲名あり。

尙ほ傍ら日本生命保險會社に關係し夙に同社專務取締役たる外百三十銀行、關西信託、都ホテル各株式會社の重役として地方財界に重きをなす。

夫人てつ子は滋賀縣の人故市田義一君の長女たり、現に滋賀縣犬上郡彥根町に住す。

志平作兵衞君

株式會社武內工業所取締役

君は東京府の人志平作兵衞君の長男にして、明治十六年十二月を以つて生る。

夙に紀伊國屋と稱して藥種商を營み傍ら前記會社の重役たり。

夫人を喜美子と稱し東京府の人內田喜太郎君の長女たり、現に東京市日本橋區伊勢町二三番地に住す。

東三條實敏君

男爵　從四位

當家は故正一位大勳位公爵三條實美卿の第二子公美君の立つる所なり、公美君明治十五年別に一家を創立し同年華族に列し、同十七年男爵を授けられ後ち姓を東三條と稱し同十九年公美君三條公爵家に入りて其嗣子となるや君其後を承く。

君實は東三條公恭君の三男にして、公爵三條公輝君の從弟君に當り、明治十六年五月を以つて生る同四十一年明治大學法律科を卒業す。

夫人を龍江子と稱し其の間に二男一女あり、現に東京市淺草區船橋町四三番地に住す。

柴岡喜一郎君

從五位勳三等　豫備海軍造船大佐
株式會社横濱ヨット工作所取締役

君は岡山縣士族柴岡文太郎君の令弟にして、明治六年三月を以つて東京に生る明治三十年東京帝國大學工科大學を卒業す。

然して、海軍造船官となり、大正三年十二月造船大佐に進み豫備役に編入せられ後ち浦賀船渠株式會社取締役に推され現に横濱ヨット工作所取締役たり。

夫人榮子は岡山縣士族宮崎有終君の五女にして君との間に二男七女あり、現に横須賀市深田町一〇番地に住し電話横須賀九七五番なり。

廣岡伊兵衛君

京都府多額納稅者

君は京都府の人先代伊三君の長男にして、明治七年九月を以つて生る。現に京都府多額納稅者として直稅貳千七百三十余圓を納む。

夫人をツル子と稱す、現に京都市下京區室町五條上ルに住し電話長下三四〇番たり。

柴田極人君

西脇銀行取締役
太陽生命保險株式會社監査役

君は新潟縣の人柴田登那美君の長男にして、明治九年十月を以つて生れ後ち先代蔦江君の養嗣子となる。

夙に實業界に投じて活躍大いに努め、現に前記の外生氣粘土石炭株式會社監査役たり。

夫人セイ子は新潟縣の人古川九郎治君の四女たり、現に東京市外澁谷町中澁谷九七一番地に住し電話青山一六番なり。

廣瀨久彥君

中央窯業原料株式會社取締役
日本護謨製造株式會社監査役

君は愛知縣士族廣瀨正益君の長男にして、明治十年五月を以つて生る。夙に地方土木建築界に活躍して斯界に名聲を博し、現に前記諸會社の重役にして且つ愛知縣多額納稅者として直接國稅二千八百五十余圓を納む。

夫人いそ子は愛知縣の人石川芝太郎君の令妹にして君との間に二男二女あり。現に名古屋市東區北清水町五ノ二六七番地に住し電話東三〇〇三番たり。

柴田武治君

株式會社米田屋商店社長

君は東京府士族柴田光之助君の三男にして、明治二十一年十二月を以つて生る明治四十二年大倉高等商業學校本科を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に前記會社々長たり。

夫人を鈴子と稱し東京府士族岡崎橋彌君の三女にして君との間に武俊君及び婦美子、豐子等あり、現に東京市京橋區銀座二ノ六番地に住し電話銀座六三三六番なり。

廣瀨慶之助君

茨城縣多額納稅者

君は茨城縣の人山內彥兵衛君の長男にして、慶應元年四月を以つて生れ、明治五年十二月先代庄兵衛君の養嗣子となる現に茨城縣多額納稅者にして直稅四千百五十余圓を納むるを以つて名あり。

夫人レン子は茨城縣の人永野忠兵衛君の令妹にして其の間に二男二女あり、現に茨城縣新治郡高濱町に住す。

鹽川三四郎君

從六位勳五等
北海道拓殖銀行副頭取

君は長野縣の人鹽川幸太君の令弟にして、明治六年四月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや更に大學院に入りて研鑽を積み、後ち職を官途に奉ず。

斯くて大藏大臣秘書官に任じ後ち辭して前大藏大臣渡邊國武君に隨ひ歐米視察の途に上り、更に英國牛津大學に政治經濟學を修め銀行實務を修得せり。

然して歸朝後は日本銀行檢査役、同行祕書役、營業局長、大阪、京都、名古屋各支店長、國庫局長、倫敦代理店監督役調査局長等を歷任し、現に北海道拓殖銀行副頭取たり、曩に日露事件の功に依り勳六等單光旭日章を賜り歐洲戰爭の功に依り勳五等に陞叙す。

夫人千夏子は伯爵渡邊昭君の叔母君に當り跡見高等女學校及學習院の出身にして君との間に三千勝君、佐久雄君、金城君及び桃子、國子等あり、現に東京市外中野町三〇七一番地に住し電話中野七七番なり。

平原庄兵衛君

山梨證券株式會社取締役
甲府電力株式會社取締役

君は山梨縣の人河內四郎君の令弟にして明治十年二月を以つて生れ、同三十三年十一月先代庄兵衛君の養嗣子となる。

現に前記會社の重役にして且つ山梨縣多額納稅者として直接國稅一千九百九十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人との間に四男二女あり、現に甲府市綠町一五番地に住す。

鹽田廣重君

醫學博士　正五位勳四等

君は京都府士族鹽田重威君の長男にして、明治六年十月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學醫學科を卒業するや更に大學院に於て斯學の研鑽を積みぬ。

然して後ち同大學助手となり同三十五年同大學助教授に進み、同四十年私費を以つて海外に留學し歸朝後同四十四年醫學博士の學位を授けらる。

大正三年私費を以つて再び佛國に留學し蘊蓄を積みて歸朝し、現に東京帝國大學醫學部教授兼大學附屬醫院長たり。

夫人を紀久代子と稱し京都府の人齋藤仙也君の長女にして君との間に輝重君、義重君、直重君及び滿壽子、正子、安子等あり、現に東京市本郷區弓町一ノ一〇

番地に住し電話小石川一七一三番なり。

平林斧吉君

信州銀行頭取
長野貯蓄銀行取締役

君は長野縣の人平林茂樹君の二男にして、慶應二年十一月を以つて生る。現に前記銀行會社の重役たり。

夫人さく子は百瀬時三郎君の二女にして君との間に要三君、六彌君、格郎君及び靜子、ぬい子、とみ子等あり、現に長野縣東筑摩郡屬丘村に住す。

鹽崎集成君

江戸ゴム株式會社專務取締役

君は愛媛縣の人鹽崎富太郎君の二男にして、明治二十二年十一月を以つて生る現に江戸ゴム株式會社專務取締役たり。

夫人をウタ子と稱し愛媛縣の人河端銀太郎君の長女にして君との間に公移君、哲三君及び南枝子、桃美子、房子等あり現に東京市外品川町北品川七一八番地に住す。

平林中次郎君

池田商業銀行頭取
池田製糸株式會社常務取締役

君は長野縣の人平林庄太郎君の二男にして、慶應元年十一月を以つて生れ、大正六年四月亡兄庄太郎君の後を繼ぐ。

現に池田商業銀行頭取たる外池田製絲株式會社常務取締役にして且つ北安銀行監査役たり。尙ほ長野縣多額納稅者として直稅參千九百四十余圓を納む。

夫人ふじ子は長野縣の人平林萬四郎君の長女にして君との間に一男あり、現に長野縣北安曇郡池田に住す。

鎭目泰甫君

株式會社啓成社取締役

君は山梨縣の人鎭目五郎左衛門君の長男にして、明治十一年十一月を以つて生る。現に啓成社取締役たり。

夫人いさを子は山梨縣の人矢崎勘盛君の二女にして君との間に五郎君及び茂登子、千代子等あり、現に東京市赤坂區青山高樹町二番地に住し電話青山一七一一番たり。

平沼彌太郎君

名栗水電株式會社長
飯能銀行取締役

君は埼玉縣の人平沼源一郎君の長男にして、明治二十五年六月を以つて生る。現に名栗水電株式會社々長たる外飯能銀行取締役にして且つ埼玉縣多額納稅者として直稅參千八百五十余圓を納む。

夫人トミ子は福岡縣士族鬼一郎君の令妹にして君との間に二男二女あり、現に埼玉縣入間郡名栗村に住す。

松風嘉定君

京都商業會議所議員

君は京都府の人井上園七君の長男にして、明治三年十月を以つて生れ同二十四年七月先代嘉定君の養嗣子となる。

現に松風陶磁製造、日本硬質陶器各株式會社々長たる外大阪電機製造、松風工業日本硬化煉瓦、相互運輸倉庫、內外電球鶴谷商會、山陽炭礦、京都火災保險各株式會社取締役にして且つ內外電熱器株式會社監査役たり。

曩に大正十四年萬國勞働會議に際し本邦資本家代表に擧げられ瑞西に渡航せしことあり。

夫人ナカ子は養父嘉定君の長女にして君との間に二男三女あり、現に京都市下京區松原廣道東入に住し電話長下二八四番なり。

平井準輔君

東京電工株式會社專務取締役
ウルシ工業株式會社取締役

君は岡山縣の人平井準君の令弟にして明治二十年八月を以つて生る。夙に實業界に活躍し、現に東京電工株式會社專務取締役たる外ウルシ工業株式會社取締役たり。

夫人敏代子は和歌山縣の人山崎庄一郎君の令姉たり、現に東京市外淀橋町柏木に住す。

白井五郎君

合資會社三門商會代表社員
東亞製網株式會社取締役

君は福島縣の人白井遠平君の五男にして、明治十七年三月を以つて生る。

現に合資會社三門商會代表社員たる外東亞製網、中澤商事、札幌木材、近藤利兵衛商店、中澤貯蓄銀行各株式會社の重役たり。

夫人スミ子は山形縣の人寺島大浩君の長女にして女子英學塾を卒業し君との間に武彥君、喜久男君、泰四郎君及び愛子等あり、現に神奈川縣鎌倉町鎌倉一八二五番地に住す。

廣瀨清兵衛君

資產家　東京府多額納稅者

君は東京府の人先代清兵衛君の長男にして、明治二年六月を以つて生る。夙に資產家として知られ且つ東京府多額納稅者たり。

夫人きよ子は埼玉縣の人增田錄三郎君の長女にして君との間に二男五女あり、現に東京市赤坂區青山北町七ノ二番地に住し電話青山二五二〇番なり。

志賀和多利君

辯護士　衆議院議員

君は志賀英之進君の長男にして、明治七年十月を以つて岩手縣膽澤郡金ケ崎村に生る。同三十三年日本大學を卒業するや文官高等試驗判檢事登用試驗に合格す斯くて司法官試補檢事代理となり、後ち辭して辯護士を開業し以つて今日に及ぶ、衆議院議員に當選すること二回、現に其職にあり。

夫人リセ子は新潟縣の人石山保吉君の二女にして君との間に一男一女あり、現に東京市本郷區本郷五ノ一六番地に住し電話小石川四七六〇番なり。

平尾雅次郎君

廣島縣多額納稅者

君は廣島縣の人先代雅次郎君の長男にして、明治十九年三月を以つて生る。

現に太田川製鐵、廣島護謨各株式會社常務取締役にして且つ廣島商業會議所議員を勤め、尙ほ廣島縣多額納稅者として直稅貳千百七十余圓を納む。

夫人イト子は廣島縣の人倉田幾藏君の二女にして君との間に四女あり、現に廣島市塚本町一五番地に住し電話特長二〇三番なり。

白波瀨季次郎君

京都府多額納稅者

君は京都府の人白波瀨市兵衛君の長男にして、明治元年二月を以つて生る。現に京都府多額納稅者にして直稅五千余圓を納むるを以つて知らる。

夫人とみ子は京都府の人松田熊吉君の令妹にして君との間に季一君、次郎君、三郎君、四郎君及び福子等あり、現に京都市下京區寺町二條に住し電話上二二九五番たり。

宏　達　彌君

資產家

君は東京府の人宏虎童君の長男にして明治二十六年十月を以つて生る。夙に慶應義塾大學理財科を卒業す。資產家として知らる。

現に東京市麻布區市兵衛町二ノ六番地に住し電話青山一〇一六番なり。

鹽澤虎之助君

地方實業家

君は宮城縣士族鹽澤清廉君の四男にして、明治十年十二月を以つて生る。夙に地方實業界に投じ現に振興商事、東北殖林、東北館、大洋漁業各株式會社の重役にして、且つ宮城縣多額納稅者として直稅貳千十余圓を納む。

夫人とし子は宮城縣士族里見良顯君の長女にして君との間に七男二女あり、現に仙臺市北六番町九四番地に住す。

兵頭正通君

鑛業家

君は東京府士族兵頭正懿君の長男にして、明治八年三月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、爾來、鑛山業に從事し斯界に重きをなす。

夫人艶子は子爵伊達宗定君の令妹たり東京市淺草區今戸町一七番地に現住す。

白井勝治君

三河製絲株式會社取締役

君は愛知縣の人宮安鷹次君の令弟にして、明治四年三月を以つて生れ、後ち白井直次君の養嗣子となる。夙に地方實業界に投じ、現に前記の外蚕絲周旋株式會社の重役たり。

夫人とき子は養父直次君の長女にして君との間に二男あり、現に豊橋市札木町四三番地に住す。

平野豪君

從四位勳五等　辯護士

君は栃木縣士族平野長德君の長男にして、明治四年十一月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學工科大學機械科を卒業す。

斯くて直ちに大阪高等工業學校教授に任じ、同四十年市立大阪高等商業學校教授を兼任し、大正四年辭して神戸製鋼所の顧問となり同六年工業視察の爲め米國に遊び、造詣を深くして歸朝す。

然して大阪製作所を創立して同社々長に任じ、同十年農商務技師に任ぜられ特許局抗告審判官勅任となり、同十四年十二月退職し以つて現在に及ぶ。

夫人を春榮子と稱し和歌山縣の人河合雄輔君の五女たり、現に東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ八番地に住し電話青山四三番なり。

鹽野吉兵衛君

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人鹽野吉兵衛君の長男にして、明治二十二年二月を以つて生れ、後ち前名光太郎を改稱す。現に大阪府多額納稅者にして直稅壹萬三百七十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ヒロ子は大阪府の人和田和八君の令妹にして君との間に太郎君、良之助君及び佐久子等あり、現に大阪市東區道修町三ノ一一番地に住し電話長本局一六八三番たり。

平野哲五郎君

藤倉工業株式會社取締役

君は千葉縣の人平野仁右衛門君の四男にして、明治七年八月を以つて生る。幼にして東京に出で罐詰製造業を習ひ同三十二年斯業研究の爲め英領加奈陀に航す

然して歸朝後再び米國及び中央亞米利加、墨西哥等を視察し同三十四年北海道に於て罐詰業を開始し、專ら海外輸出に從事し傍ら東京にてヒラノ荷札の製造を創始し、大正五年同業組合を設け同組長に推され現に藤倉工業會社の重役たり。

夫人惠以子は東京府の人石井善次郎君の長女たり、現に東京市四谷區愛住町三二番地に住し電話四谷三六八九番なり。

庄晉太郎君

日本煤煙完全燃燒株式會社長
株式會社長門銀行取締役

君は山口縣士族庄俊輔君の長男にして明治三年三月を以つて生る。明治二十四年明治大學を卒業す。

斯くて、地方に歸つて地方產業及び公共事業に盡瘁し、村會議員たること六度縣會議員たること二度、現に山口縣々會議長にして且つ市會議員を勤め尙ほ前記會社の社長及び取締役たる外宇部鐵道、防長林業、日本石灰、德山開港、大日本組網、宇部銀行、東京石灰各株式會社の重役たり。

夫人チトセ子は山口縣士族俵田勘兵衛

君の六女にして君との間に三男四女あり現に山口縣宇部市に住す。

白石多士良君

松原炭礦株式會社長

君は故工學博士代議士白石直治君の長男にして、明治二十年十月を以つて生る明治四十五年東京帝國大學土木科を卒業す。現に松原炭礦株式會社々長たる外小松製作所、東京商業貿易、竹内鑛業、朝鮮農事各株式會社の重役たり。

夫人をさが子と稱し男爵岩村博君の叔母君にして君との間に三男二女あり、現に東京市麻布區飯倉町四ノ二二番地に住し電話青山二六一六番たり。

平田吉郎君

山形縣多額納稅者

君は山形縣士族平田安吉君の長男にして、明治九年一月を以つて生る。現に株式會社鶴岡鐵工所取締役にして且つ山形縣多額納稅者として直稅六千二百七十余圓を納む。

夫人を保子と呼び、山形縣の人中村保次郎君の長女たり、現に山形縣鶴岡市に住す。

島津長丸君

男爵　正四位勳四等

當家は修理大夫島津貴久君の子忠眞君の後なり、忠眞君は豐臣征韓の役に從つて功あり、宮地一萬七千石を食み代々宗家を輔けて國政を執り久治君に至る。

久治君は從一位大勳位久光君の二男にして夙に勤王の志厚く、元治年中藩主の命を受けて自ら兵馬を督して禁闕を警衛し長州の脫兵を擊退して功を奏し、且つ戊辰の役には軍資を自辨して兵を東北に出し軍功顯著なるものあり。

君は其の長男にして公爵島津忠重卿公爵島津忠承卿男爵島津忠備君同隼彥君の從兄君にして、明治四年九月を以つて生れ同五年一月家督を相續し同三十年十月華族に列し男爵を授けらる。現に貴族院議員にして、曩に鹿兒島電氣軌道會社の重役たりしことあり。

夫人ハル子は男爵島津壯之助君の令妹にして東宮妃附女官長たり。現に鹿兒島市淸水町二一番地に住す。

平野豁然君

東洋製靴場株式會社取締役

君は東京府の人平野好君の長男にして明治十四年十一月を以つて生る。現に東洋製靴場株式會社の重役たり。

夫人を萩野子と稱し新潟縣の人鈴木峯映君の令姪にして君との間に二女あり、現に東京市四谷區傳馬町一ノ二三番地に住し電話四谷二一一二番たり。

島德藏君

關西財界の巨頭

君は大阪府の人島德治郎君の長男にして、明治八年四月を以つて生る。

夙に大阪財界に令名を馳せ、現に株式會社上海取引所々長たる外大阪株式取引所、天津取引所、漢口取引所各株式會社理事長及び日本信託銀行、豐國火災保險朝鮮煙草、阪神電氣鐵道、大阪電燈、關西信託、門司築港、大同電力、朝鮮森林鐵道、大阪北港、大同肥料、天津信託、朝鮮電氣工業各株式會社取締役にして、且つ日本郵船、中央毛糸紡績各株式會社監査役たり。

夫人ハナ子は大阪府の人永井源兵衛君の令妹にして君との間に三男一女あり、現に大阪市東區高麗橋五ノ三番地に住し電話本局一五八番なり。

平野勇作君

內外土地株式會社取締役
スマトラ產業株式會社取締役

君は富山縣の人平野太左衛門君の長男にして、明治十七年十月を以つて生る。

現に內外土地株式會社取締役たる外スマトラ產業、大丸商事各株式會社の重役たり。

夫人こと子は富山縣の人吉江幸三郎君の令妹にして君との間に啓一君、勇二君太四郎君、正男君、淸君及び節子等あり現に富山縣東礪波郡福野に住す。

白川資長君

子爵　正四位

當家は華山院の皇子彈正尹淸仁親王の子延信王の末なり。延信王萬壽二年三月神祇伯に任じ、爾來、代々之を繼承し慶長以來八神殿(今の賢所)の事務を掌る。其の子康資を經て從五位上安藝權守顯康に至り姓を源氏と賜ひ白川と稱す。

累世王家として當代に至る迄連綿九百餘年に及び、且つ典例として天皇即位の際同家の女王案帳を勤むるの榮あり、又家に永宣旨の印あり以つて新に神社たるの資格を授くる特權ありといふ。

然して後ち二十四世を經て右近衛權中將子爵資訓君に至る、同四年神祇省の命により賢所を同省神殿へ遷座被仰出慶長以來當家に守護すること四百餘年にして神祇省に其の事務を移せり。

當家には皇典に關する古書極めて多く考古參考資料堆積せりといふ。

君は先代資訓君の長男にして、明治三年十二月を以つて生れ同三十九年家督を相續し爵位を付けらる。明治三十八年東京外國語學校佛語科を卒業し、佛文學に造詣深し。

夫人リウ子は福岡縣士族飯野盛谷君の長女たり、現に東京市外大久保町西大久保四二一番地に住し電話四谷五七番なり

平野與次左衛門君

北海道多額納稅者

君は兵庫縣の人平野與次郎君の長男にして、明治四年二月を以つて生る。現に合資會社大正木工場代表社員にして、且つ北海道多額納稅者として直稅一千三百七十余圓を納む。

現に北海道旭川市ウシシュベツ三ノ一番地に住す。

篠原武君

從五位勳三等　陸軍士官學校教授

君は茨城縣士族先代節君の長男にして明治二年十二月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し以つて現在に及ぶ。

夫人こま子は東京府の人杉浦卯三郎君の令妹たり、現に東京市麹町區三番町七五番地に住す。

日高直次君

住友ビルディング株式會社取締役
株式會社高島組監査役

君は大阪府の出身にして明治八年一月を以つて生る。明治三十三年日本大學を卒業するや直ちに辯護士試驗に合格し、後ち法曹界に活躍すること數年に及ぶ。

然して明治三十八年住友家に入り、大正八年より九年に渉り住友總本店支配人として歐米巡視をなし、同十年住友合資會社組織せらるゝや同社總務部長に擧げられ、現に其の傍ら株式會社住友ビルディング及高島組の重役たり。

夫人をひさ子と稱し大阪府の人加藤榮君の令妹にして君との間に二男二女あり現に大阪市東區谷町二ノ三一番地に住し電話東一二一二番なり。

清水文之輔君

太陽生命保險株式會社事務取締役
生氣嶺粘土石炭株式會社取締役

君は福井縣の人清水九十郎君の長男にして、明治元年一月を以つて生る。明治二十二年第一高等學校英法科を卒業す。

斯くて志を立て米國に航し、ホノルゝに於て米人と共同して法律事務所を設け傍ら邦字新聞を發刊して大いに啓蒙開發に盡瘁す。

然して歸朝後第二高等學校教授、長崎商業會議所書記長、長崎十八銀行元山支店長、元山商業會議所會頭、長崎十八銀行京城支店長等を歷任し、太陽生命保險株式會社の創立に當り其幹部となり、現に同社專務取締役として知られ、尙ほ生氣嶺粘土石炭會社の取締役たり。

夫人エイ子は鹿兒島縣士族渡瀨正衛君の令妹にして君との間に公一君及びアキ子、セン子等あり、現に東京市外澁谷町下澁谷八〇〇番地に住し電話青山三二六二番なり。

樋口誠康君

子爵　正三位勳三等
貴族院議員

當家は藤原鎌足七代の孫權大納言長良の後裔にして、高倉大納言永家の二男入道左中將親具より出で、親具の二男信孝岐れて一家を創立し樋口と稱し夫より九代靜康君に至る。

君は靜康君の四男にして、慶應元年九月を以つて生れ明治十七年子爵を授けらる。明治二十一年陸軍歩兵少尉に任じ同三十年大尉に昇進す、貴族院議員に互選せらるゝこと三回、以つて現在に及ぶ。

現に神奈川縣鎌倉町鎌倉に住す。

島連太郎君

田端護謨株式會社取締役

君は福井縣の人島伴平君の長男にして明治三年三月を以つて生る。三秀舍と稱し印刷業を營み現に前記會社の重役たり

夫人とし子は東京府士族淺利信隣君の二女にして君との間に鹹君、裕君及び美惠子、きり子等あり、現に東京市神田區美土代町二ノ一番地に住し電話大手五七二〇番なり。

廣岡久右衞門君

加島銀行監査役

君は鳥取縣士族三澤糾君の令弟にして明治二十三年一月を以つて生れ、大正三年四月先代久右衞門君の養嗣子となる。大正三年同志社大學經濟科を卒業するや三井銀行本店に勤務し、後ち、米國ハーバート大學大學院銀行科に學び、更にボストン第一國立銀行及紐育メトロポリタン生命保險會社に入りて實務を見學して歸朝し、現に前記の外大同生命保險會社監査役たり。

夫人をイク子と稱し君との間に正莊君及び允子、千鶴子、瑠璃子等あり、現に大阪府住吉天王寺二六五八番地に住し電話南二七四〇番なり。

島田竹三郎君

株式會社府中銀行頭取

君は故衆議院議員綾部惣兵衛君の令弟にして、明治四年三月を以つて生れ、同二十八年先代澤吉君の養嗣子となる。現に府中銀行頭取たる外玉南鐵道、京玉電氣軌道各株式會社の重役たり。

夫人をキン子と稱し養父澤吉君の二女にして君との間に清次郎君、金三郎君、榮之助君等あり、現に東京府豊多摩郡府中に住す。

平間彌五郎君

日東酒造株式會社取締役

君は宮城縣の人平間彌五郎君の長男にして、明治十三年十二月を以つて生れ、後ち前名養之助を改めて襲名す。

夙に地方財界に投じ、現に日東酒造株式會社取締役にして、且つ宮城縣多額納稅者として直稅四千八百二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人をきくよ子と稱し君との間に五男三女あり、宮城縣名取郡岩沼に現住す。

島田新助君

東京揮發油株式會社取締役

君は埼玉縣の人北村幸之助君の令弟にして、明治元年二月を以つて生れ同二十九年四月先代勇之助君の養嗣子となり前名惣兵衛を改稱す。

現に島屋と稱し諸機械荒物商を營み兼て東京揮發油株式會社取締役たり。

夫人をてう子と稱し養父新助君の長女にして君との間に增次郎君、洋三君、邁三君、惠司君及び孝子、愛子、智惠子、健子等あり、現に東京市日本橋區小網町二ノ六番地に住し電話浪花一八〇七番なり。

肥田誠三君

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人肥田俊藏君の長男にして、明治二十一年五月を以つて生る。明治四十三年大阪高等商業學校を卒業す。

然して直ちに關西實業界に投じ、現に虎屋信託、河内紡績各株式會社の重役にして且つ大阪府多額納稅者として直稅四千四百九十余圓を納む。

夫人をキヌ子と稱し奈良縣の人吉川善重郎君の二女にして君との間に顯三君、裕三君及び喜美子等あり、現に大阪市南區安堂寺橋通二ノ三五番地に住し電話船場七九五番なり。

澁谷米太郎君

三菱内燃機株式會社常務取締役

君は山形縣の人澁谷五右衛門君の四男にして、明治十年十二月を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す。

曩に三菱合資會社香港支店長、同神戸支店長及び三菱商事株式會社常務取締役等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人ミサ子は東京府の人山口鋭之助君の長女にして君との間に武彦君、民雄君及び光子、美枝子等あり、現に東京市外入新井町入不斗二七四番地に住し電話大森六五番たり。

樋口達兵衛君

百三十七銀行專務取締役
篠山電燈株式會社取締役

君は兵庫縣多紀郡の門閥家樋口市郎兵衛君の長男にして、慶應三年十二月を以つて生る。

夙に横濱商業學校を經て第三高等學校に學び同校を卒ふるや直ちに實業界に投じ、曩に共同貯蓄銀行を創立し後ち百三十七銀行と合併以來其の專務取締役に擧げられ尙ほ諸會社の重役たり。

夫人とま子は大阪府の人森村三良平君の令妹にして君との間に一男あり、現に兵庫縣多紀郡篠山に住す。

島村友三郎君

大日本製帽株式會社監査役

君は東京府の人先代友三郎君の長男にして、明治十四年七月を以つて生る。現に大日本製帽株式會社監査役たり。

夫人をひと子と稱し東京府の人柿沼由兵衛君の長女にして君との間に一男三女あり、現に東京市神田區東龍閑町九番地に住す。

廣川長八君

新潟縣多額納稅者
三條銀行頭取

君は新潟縣の人廣川長八君の長男にして、明治十九年九月を以つて生る。現に三條銀行頭取たる外新潟硫酸株式會社重役にして且つ新潟縣多額納稅者として直稅二千六百四十余圓を納む。

夫人をセン子と稱し新潟縣の人廣川莊三君の長女にして君との間に一男あり、現に新潟縣南蒲原郡三條に住す。

澁谷權之助君

株式會社佐藤製衡所取締役

君は東京府の人澁谷喜助君の養弟にして、明治十六年一月を以つて生る。現に前記會社の重役たる外帝國自動車、上海印刷各株式會社の重役として知らる。

夫人をいさ子と稱し東京府の人渡邊和久太郎君の養女にして君との間に忠三君濱雄君、義助君等あり、現に東京府北多摩郡吉祥寺二六二七番地に住す。

廣川周造君

富山縣多額納稅者

君は富山縣の人廣川久松君の長男にして、明治十三年十月を以つて生る。現に地方實業界に重きをなし、魚津銀行取締役たる外實業銀行、入善銀行、泊銀行の重役にして尙ほ富山縣多額納稅者として直稅一千三百三十余圓を納む。

夫人をメッエ子と呼び富山縣の人金木三郎君の長女たり、現に富山縣下新川郡横川に住す。

清水竹次郎君

石川縣多額納稅者

君は石川縣の人北本喜兵衛君の三男にして、慶應元年四月を以つて生れ、後ち先代善右衛門君の養嗣子となる。

夙に地方實業界に活躍して其の敏腕を鳴らし、現に羽二重織業を營みて斯界に重きをなし、尙ほ石川縣多額納稅者として直稅二千二百三十余圓を納む。

夫人リウ子は石川縣士族上田忠太郎君の令妹にして君との間に善次郎君、清三郎君、正治君、保治君及び初榮子、タケ子等あり、現に金澤市長川町岸五八番地に住す。

平松藤太郎君

從七位勳六等　陸軍中尉
東京テレヂング商會代表社員

君は東京府の人平松嘉市君の二男にして、明治十一年一月を以つて生る。明治三十二年東京高等工業學校機械科を卒業す。

然して直ちに鐵道作業局に入り同年一年志願兵として入營し、翌年陸軍砲兵少尉任官と共に豫備役に編入せられ、後ち臺灣總督府鐵道部に入り同三十四年辭して外國商館に入り勤續すること十五年、其の間大正元年商業視察の爲め歐米諸國に渡航し偶々歐洲戰亂に際會して歸朝す

斯くて大正四年五月同商館を辭して自ら東京テレヂング商會を興し現に同社業務擔當社員たり、曩に日露戰役に從軍して砲兵中尉に陞進す。

夫人キヌ子は岡山縣の人赤木常太郎君の二女たり、現に東京市麹町區紀尾井町六番地に住し電話四谷五三二八番たり。

島田平右衛門君

六十八銀行取締役

君は大阪府の人土地の豪農小谷力三郎君の二男にして、明治六年九月を以つて生れ、後ち先代平右衛門君の養嗣子となる。

古くよりの素封家にして現に六十八銀

行取締役を勤め尚ほ奈良縣多額納稅者として直稅八百四十余圓を納む。

夫人キク子は大阪府の人島田平四郎君の二女にして君との間に平一君、保君、武之助君、恒之君、平二君及びマサ子、トヨ子、ヌイ子等あり、現に奈良市角振新屋町一番地に住す。

久田益太郎君

帝國土地興業株式會社專務取締役

君は東京府士族久田升美君の長男にして、明治三年一月を以つて生る。夙に鴻池家に仕へ、鴻池銀行副支配人兼東京支店長及び日本信託興業株式會社相談役等を歷勤す。

然して現時は前記會社の專務取締役たる外帝國朝日銀行專務取締役にして且つ原田積善會理事たり。

夫人ツネ子は大阪府の人岩名政吉君の長女にして君との間に三男二女あり、現に東京市日本橋區濱町一ノ二番地に住し電話浪花六八一〇番なり。

繁田武平君

埼玉縣多額納稅者
武州銀行取締役

君は埼玉縣の人繁田滿義君の二男にして、慶應三年二月を以つて生る。夙に龜甲武醬油釀造元として知られ、且つ武州銀行取締役にして尚ほ埼玉縣多額納稅者として直稅八千二百余圓を納む。

夫人とう子は埼玉縣の人高山仁兵衛君の令妹にして君との間に四男一女あり、現に埼玉縣入間郡豐岡に住す。

肥田七郎君

醫學博士　肥田病院長

君は山梨縣の人肥田殿守君の五男にして、明治二年六月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し、大正元年醫學博士の學位を授けらる。現に肥田病院を經營し同院長たり。

夫人八重子は東京府の人守田潤三君の二女にして君との間に千枝子、春江子、茉莉子、菊江子、倭文子等あり、現に東京市日本橋區松島町二七番地に住す。

島田勇次君

商業ビルブローカー銀行常務取締役

君は宮城縣士族高橋景吉君の令弟にして、明治二十一年五月を以つて生れ、後ち先代のお子の入夫となる。明治三十八年大倉高等商業學校專科を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に商業ビルブローカー銀行取締役たり。

夫人のお子は東京府の人島田忠兵衛君の二女にして君との間に勇夫君及び純江子、良江子、房江子等あり、現に神奈川縣鎌倉町に住す。

樋口繁次君

醫學博士　樋口病院長

君は新潟縣の人樋口良助君の令弟にして、明治九年十二月を以つて生る。明治三十二年千葉醫學專門學校を卒業す。然して卒業後は專ら產科婦人科を研究し、同四十四年醫學博士の學位を授けらる。

現に樋口病院を經營して其の院長たる外東京慈惠會大學教授並に慈惠會醫院產科婦人科部長たり。

夫人せい子は男爵高平小五郎君の長女にして君との間に一成君及び多嘉子、爲之子、不二子等あり、現に東京市芝區西久保城山町八番地に住し電話高輪六一二五番なり。

信太儀右衛門君

衆議院議員

當家は菅原道眞公の嫡流にして藩祖佐竹氏と共に古くより秋田に入りて未開の地を開拓し、殊に植林事業に功勞ありしを以つて苗字帶刀を許されたる舊家なり

君は先代鶴治君の長男にして、明治十五年十月を以つて生る。夙に北海道帝國大學農科大學及び早稻田大學等に學び、後ち歸鄉して專心產業立國を主眼として農產開發に盡瘁し、而して幾多民黨の推すがまゝに衆議院議員として中央政界に送られ、尚ほ其の他金岡村長、縣會議員等に擧げられ、斯くて君が公共の爲めに貢獻する蓋し尠少ならざるべし。

夫人をヒサ子と稱し秋田縣の人兒玉要助君の長女にして君との間に一男一女あり、現に秋田縣山本郡金岡村に住す。

東久世通敏君

伯爵　從三位勳五等

當家は中務卿具平親王の子右大臣源師房の裔正二位權大納言通堅の三男參議通廉君の後なり。

夫より數世を經て通禧君に至り明治十七年伯爵を授けらる。通禧君は夙に王政復古の大業を企圖し幕府の忌む所となり三條實美等六卿と難を長州に避け明治元年參與職を仰付けられ、爾來、議定職、神奈川縣知事、外國官副知事、開拓使長官、侍長元老院幹事、同副議長、貴族院副議長、樞密顧問官、同副議長、議定官等を歷任し從一位勳一等に叙せらる。

君は通禧君の二男にして、明治二年十一月を以つて生れ同四十五年襲爵仰せ付けらる。夙に獨逸に留學し曩に御料局技師、帝室林野管理局技師を歷任す。

現に東京市外澁谷町下澁谷豐分一六六番地に住す。

重城敬君

千葉縣多額納稅者

君は千葉縣の人重城伊三郎君の長男にして、慶應二年七月を以つて生る。現に千葉貯蓄銀行取締役たる外千葉縣水產、仁優酒造、木更津酒造各株式會社の重役にして、且つ千葉縣多額納稅者として直稅九百六十余圓を納む。

夫人をせき子と呼び千葉縣の人鮎川清右衛門君の三女たり、現に千葉縣君津郡巖根村に住す。

姫沼久藏君

東京洋傘骨原料株式會社監査役

君は東京府の人川村政藏君の令弟にして、明治十五年三月を以つて生れ、後ち先代喜野君の養嗣子となる。夙に東都財

界に活躍して敏腕を振ひ、現に東京洋傘骨原料會社の重役たり。

夫人をはな子と稱し東京府の人古川貞次郎君の長女にして君との間に二男二女あり、現に東京市本所區長崎町四〇番地に住し電話墨田二九八八番たり。

清水留三郎君

衆議院議員

君は群馬縣の人清水道三郎君の三男にして、明治十六年四月を以つて生る。夙に東京專門學校を卒業するや志を立てゝ海外に航し、ワシントン大學及びミネソタ大學等に學びマスターオブアーツの學位を受け、曩に紐育市に於て貿易業を營みしことあり。

然して歸朝後は產業新聞社々長及び上野新聞專務取締役等として活躍し、大正九年以來衆議院議員に當選し、中央政界に令名を鳴らす。

現に前橋市曲輪に住す。

肥田金一郎君

鄙山土地建物株式會社取締役
只見川水力電氣株式會社取締役

君は東京府の人先代昭作君の長男にして、明治七年七月を以つて生る。現に前記諸會社の重役たり。

夫人をりん子と稱し君との間に三男二女あり、東京市牛込區市ヶ谷甲良町四一番地に現住し電話牛込四一五一番なり。

下元鹿之助君

從七位　衆議院議員
片岡製絲株式會社支配人

君は高知縣士族下元興行君の三男にして、明治八年八月を以つて生る。曩に高知縣技師、高知縣會議員たりしことあり。

現時は片岡製絲株式會社支配人にして曩に衆議院議員に推され、現に憲政會所屬代議士として中央政界に令名あり。

夫人民惠子は高知縣士族下元琢吾君の長女にして君との間に二男三女あり、現に高知縣高岡郡東又村に住す。

日野信次君

日野病院長

君は岐阜縣の人羽根田彌一君の令弟にして、明治十一年三月を以つて生れ、後ち明治四十二年三月日野常太郎君の養嗣子となる。

夙に獨逸に留學し醫學の研鑽を積みて歸朝し現に日野病院長たり。

夫人みち子は養父常太郎君の長女たり現に東京市下谷區龍泉寺町四一四番地に住し電話下谷三七六〇番たり。

柴田忠次郎君

福岡縣多額納稅者

君は福岡縣の人箱島甚作君の三男にして、慶應元年九月を以つて生れ、明治二十四年十月先代宗平君の養嗣子となる。

現に福岡縣多額納稅者として直稅一千八百六十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人をツル子と稱し福岡縣の人松村半三郎君の二女たり、現に福岡市瓦町二五番地に住し電話五五三番なり。

氷見谷久四郎君

丸三釀造株式會社長
中外製菓株式會社專務取締役

君は東京府の人氷見谷直次郎君の二男にして、明治二十六年十一月を以つて生る。夙に實業界に投じて君が敏腕を縱横に振ひ、現に丸三釀造株式會社々長たる外中外製菓株式會社專務取締役として知らる。

夫人ヒデ子は大阪府の人山本久吉君の長女にして君との間に巖君、豐君等あり現に東京市日本橋區濱町二ノ一二番地に住す。

四條隆愛君

侯爵　正三位勳四等
貴族院議員

當家は藤原鎌足曾孫魚名の裔正二位大納言隆季の後なり、隆季に至り姓を四條と稱す、夫より二十一代を經て隆謌君に至る。

隆謌君は弓術に長じ、畏くも明治天皇の御師範役を勤め、又文久年間筑前に落ちし七卿の一人にして、戊辰の役には大總督府參謀として勳功あり陸軍中將に任じ、同十七年勳功に依り特旨を以つて華族に列し侯爵を授けらる。

君は其の九男にして男爵四條隆英君の養父に當り明治十三年六月を以つて生れ明治三十一年十二月襲爵仰せ付けらる。

明治三十三年陸軍士官候補生となり、陸軍騎兵少佐に陞り、大正六年十二月宮內省御用掛を仰せ付けられ主馬寮勤務を命ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人糸子は公爵德川慶光君の叔母君にして君との間に隆德君及び富士子あり、現に東京市外代々幡町代々木八二二番地に住し電話四谷一七七六番たり。

一柳仲次郎君

一柳商會代表社員

君は北海道の人一柳淺右衛門君の二男にして、明治元年十月を以つて生る。

夙に神戸に至り貿易商を營み現に一柳商會代表社員にして、曾つて札幌區會議員、北海道會議員、同議長、札幌商業會議所議員、同副會頭等に擧げられ、大正九年以來衆議院議員に當選すること前後二回に及べり。

夫人テル子は北海道の人笹間多兵衛君の五女にして君との間に二郎君あり、現に兵庫縣武庫郡御影町に住す。

志田鉀太郎君

法學博士　從四位勳四等
實業家

君は千葉縣士族志田知義君の長男にして、明治元年八月を以つて生る。明治二十七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し後ち商法研究の爲め獨逸に留學す。

斯くて、歸朝後は東京高等商業學校教授兼學習院教授、東京帝國大學法科大學教授等を歷任し後ち法學博士の學位を授けらる。

然して辭して實業界に投じ現に第九十八銀行、共濟生命保險、秋田瓦斯各株式

會社取締役にして、且つ東京火災保險、秋田電氣、帝國海上運送火災保險、東洋火災海上再保險各株式會社監査役たり。

夫人を良子と呼び和歌山縣士族畠中彌三郎君の長女にして君との間に一郎君、三郎君、四郎君及び婦美子等あり、現に東京市小石川區小日向臺町三ノ一三番地に住し電話牛込三〇七〇番たり。

廣岡助五郎君

加島屋株式會社長

君は東京府の人先代廣岡助五郎君の長男にして、明治十五年一月を以つて生る。夙に加島屋と稱して清酒問屋を營み尚ほ大日本酒造、共新運輸各株式會社の重役たり。

現に東京市京橋區四日市町二番地に住し電話銀座五〇九四番なり。

信保利平君

株式會社信保商店社長

君は德島縣の人阪東喜八君の令弟にして、慶應二年一月を以つて生れ、後ち先代クニ子の養嗣子となる。夙に關西財界に投じ、現に株式會社信保商店社長として知らる。

夫人をクニ子と呼び大阪府の人信保與次平君の長女にして君との間に三男一女あり、現に大阪市西區九條通一ノ八一番地に住し電話西一八二九番なり。

廣瀨鉞太郎君

共同火災保險株式會社取締役

君は愛媛縣士族廣瀨坦君の長男にして明治十三年十月を以つて生る。明治三十九年京都帝國大學法科大學を卒業す。現に共同火災保險株式會社取締役たり。

夫人文子は石川縣の人横地石太郎君の二女にして君との間に二男二女あり、現に東京市牛込區二十騎町九番地に住し電話牛込一四三七番なり。

椎葉紀義君

北日本礦業株式會社取締役

君は長崎縣士族椎葉主馬造君の長男にして、明治二年十一月を以つて生る。現に北日本礦業株式會社取締役たり。

夫人ヨシ子は長崎縣士族山川端夫君の令妹にして君との間に二男二女あり、現に東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇番地に住し電話青山二五七〇番たり。

久野春之助君

門門汽船株式會社專務取締役

君は山口縣の人久野勝藏君の養嗣子にして、明治十四年八月を以つて生る。現に前記の外梶永鐵工所、下關商事、第百十銀行、下關米穀取引所各株式會社の重役として知らる。

夫人かね子は東京府の人湯淺長吉君の長女にして君との間に保君、四郎君、五郎君、勝文君及び峰子、雪子、華子等あり、現に下關市關後地村一六八四番地に住す。

柴仁三郎君

株式會社柴仁商店取締役

君は兵庫縣の人柴仁兵衛君の長男にして、明治九年五月を以つて生る。夙に貿易商を營み、柴仁商店と稱して斯界に重きをなし、現に同社取締役にして、尚ほ傍ら神戸商業會議所議員たり。

夫人をすて子と稱し滋賀縣の人目賀田三郎平君の三女たり、現に神戸市多聞通六ノ六番地に住し電話長本局二〇八五番なり。

廣木八郎君

株式會社大崎機械製作所社長

君は佐賀縣士族廣木良溫君の令弟にして、明治三年二月を以つて生る。明治二十六年東京高等工業學校を卒業す。

斯くて海軍技手、同技師を經て日本精工株式會社專務取締役兼技師長となり、大正十一年前記會社の專務取締役社長に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人壽子は東京府士族高山信明君の二女にして君との間に作夫君及び壽美子等あり、現に東京市外駒澤村上馬引澤一七一番地に住す。

下條康磨君

從四位勳二等
内閣統計局長兼内閣恩給局長

君は舊松本藩御典醫頭贈從五位下條通春君の長男に當る醫師下條鋼吉君の二男にして、明治十八年一月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業す。

斯くて直ちに文官高等試驗に登第するや職を官途に奉じ、爾來、東京府試補、佐賀縣事務官、内閣書記官、法制局參事官等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人を榮子と呼び岐阜縣の人上松泰造君の二女にして君との間に進一郎君及び八重子、愛子、朝子等あり、現に東京市麴町區下六番町二六番地に住し電話九段一八八〇番たり。

廣谷新太郎君

東洋自動車株式會社常務取締役

君は大阪府の人廣谷新藏君の長男にして、明治十五年四月を以つて生る。現に前記會社の重役たり。

夫人をタツ子と呼び大阪府の人國中五兵衛君の二女たり、現に大阪市北區曾根崎新地一ノ四九番地に住す。

志村保一君

東北桐材株式會社取締役

君は神奈川縣士族志村保和君の長男にして、慶應二年九月を以つて生る。夙に修文館に學び曩に工部省會計局及び鐵道作業局等に勤務せり。

然して後ち横濱銀行、横濱電氣、扇橋製藥、東京輸出メリヤス、北海道炭礦汽船、横濱蠶業銀行、日本植民、八卷志村日本坩堝、横須賀瓦斯電燈、中外貯金銀行、日東油脂、日本亞砒酸工業、壽榮銀行、西武軌道各株式會社の重役に擧げられ現に前記の外池上電氣鐵道、戰友共濟